小井川遺跡Ⅲ

— 新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査報告書 —

2008.3

山梨県教育委員会
山梨県土木部

序

本書は、山梨県埋蔵文化財センターが平成17年度に調査を行った、小井川遺跡（３年次）の発掘調査報告書です。この調査は、山梨県土木部が実施する新山梨環状道路建設に先行して、対象面積3500㎡に及ぶ地域を発掘したものであります。

本遺跡は中央市・（旧田富町）に所在しており甲府盆地南部低位置にあって釜無川・笛吹川の堆積作用によってできた沖積地に立地しております。

このような地理的条件下では遺跡の薄い地域という事になっておりましたが、今回の調査では鎌倉時代の後半の大型五輪石塔や戦国時代の寺院と寺域がほぼ完全に発見されました。鎌倉時代の五輪石塔には、銘文が刻まれていて、本遺跡が中世布施荘の荘域であったことや、その管理者の可能性のある人物も特定されました。

また戦国時代の寺院では、被災された寺院が再建され、方形の壕が掘削され大規模であったことなどが注目されました。

このような成果は、これまでの遺跡の立地を考え直す必要をもたらすと共に、釜無川、笛吹川を中心とした水利の実態をも考慮する必要もでてまいりました。今後の周辺地域の調査研究に期待したいと思います。

最後に、調査にあたってご協力いただいた関係者、関係機関並びに調査・整理作業に従事された方々にお礼申し上げます。

2008年３月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　末木　健

例言・凡例

1　本報告書は、平成17年度に実施した新山梨環状道路建設に伴う発掘調査・中央市布施（旧・中巨摩郡田富町布施）・小井川遺跡の、調査報告書である。

2　本調査は、山梨県環状道路建設に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘を山梨県教育委員会が県土木部より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが実施した。

3　本報告に関わる出土品及び写真、記録図面等は一括して、山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

4　自然科学分析は、株式会社パリノ・サーヴェイに委託した。

5　炭素14年代測定は、株式会社パレオ・ラボに委託した。

7　出土遺物の保存処理業務については、財団法人・山梨文化財研究所に委託した。

8　遺物の写真撮影は、ツカハラ・スタジオの塚原明生氏に委託した。

6　本書の編集及び執筆は、小林広和が行った。

7　遺構実測図は、山本三重子、石川千年、早川みどり、石坂恵理、保坂秋蘭、金子春枝が行った。
遺物実測図、及び本報告に関わる平成18年度整理・トレースは中川美千子、矢野美鈴、新津多恵、清水真弓、山本三重子、石坂恵理、平成19度整理・トレースは　中川美千子、山本三重子、北川洋が行った。

8　発掘調査及び整理作業において、次の機関、各氏によりご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。
中央市教育委員会（旧・田富町教育委員会）
秋山敬、今村直樹、宇佐美孝、岡本直久、小野正敏、数野雅彦、櫛原功一、斉掛貴彦、佐々木満、清雲主運、高橋修、出月洋文、内藤和久、中村忠宗、中山誠二、西川広平、萩原三夫、畑大介、平野修、宮澤公雄、室伏徹　他、　（五十音順・敬称略）

9　本報告書の挿図等に関する指示は以下のとおりである。遺構・遺物の挿図縮尺は基本的に以下のとおりであるが、資料の大きさにより便宜、縮尺を変化させてある。

遺構全体図　1/2000　1/300
遺構配置図　1/300
礎石建物遺構図　1/100
墓類（微細図）　1/20
垂直分布図　1/100　1/200に統一してある

（遺物）かわらけ、陶磁器、石製品、金属、骨、古銭　1/3
木製品（東）紀年銘入地輪、大型壷、石臼　1/6
礎石、五輪塔部材　1/8
大型木製品　1/6（例外的に縮尺を変えてある）

目　次

第１章　発掘調査の経緯と組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　これまでの調査経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第３節　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第４節　発掘調査の組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　第５節　小井川遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第２章　遺跡の自然環境と歴史環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第１節　自然環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　第２節　周辺の遺跡と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第３章　Ⅰ期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第１節　Ⅰ期の遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　　　　　小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第４章　Ⅱ期の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第１節　Ⅱ期の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　第２節　東地区墓群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
　　　　　小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第５章　Ⅲ期の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　第１節　Ⅲ期の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
　　　　　小結・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
第６章　Ⅳ期の遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　第１節　西地区墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　第２節　墓の構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
第７章　出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

　　　　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
附編
放射年代測定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
小井川遺跡の自然科学的分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49

図版目次

第１図　調査区域
第２図　小井川遺跡調査区全体図
第３図　小井川遺跡第３次遺構配置図（全体図）
第４図　第Ⅱ期・遺構配置図（１号礎石建物・２号溝）
第５図　第Ⅲ期・遺構配置図（１）
第６図　第Ⅲ期・遺構配置図（２）
第７図　第Ⅲ期・遺構配置図（３）
第８図　第Ⅱ期・１号礎石建物屋（上）、
　第Ⅲ期・西附属屋（右）・南西隅遺構（左）
第９図　第Ⅲ期・西竈壕（左）
　・１号溝（右）
第１０図　第Ⅲ期・主屋（１）
第１１図　第Ⅲ期・主屋（２）
第１２図　第Ⅲ期・東北附属屋（上）
　・東附属屋（左）
　・東南池の端遺構（右）
第１３図　第Ⅲ期・東竈壕及池状遺構
第１４図　西１～５号墓・東１号墓
第１５図　東２号墓～東５号墓
第１６図　１号炉（上）
　１・２号石組
第１７図　橋状遺構（上）
　樋状遺構（左）
　綱代出土状況（右）
第１８図　東地区・遺物垂直分布図
第１９図　祖母懐茶壺垂直分布図
第２０図　１号礎石建物遺物垂直分布図
第２１図　常滑壺垂直分布図
第２２図　東地区・土器垂直分布図
第２３図　１号礎石建物・遺物垂直分布図
第２４図　第Ⅲ期・主屋西側・土器垂直分布図
第２５図　東地区・木製品・金属垂直分布図
第２６図　硯・砥石・古銭垂直分布図
第２７図　東地区・箸状垂直分布図
第２８図　東地区胡桃垂直分布図
第２９図　五輪塔（火輪）実測図
第３０図　五輪塔（地輪）実測図
第３１図　五輪塔（地輪、火輪）実測図
第３２図　五輪塔（地輪）実測図
第３３図　五輪塔（地輪）実測図
第３４図　墨書石実測図
第３５図　茶臼・石臼実測図
第３６図　五輪塔（空風輪・火輪）実測図
第３７図　五輪塔（火輪）実測図
第３８図　五輪塔（火輪・水輪）実測図
第３９図　五輪塔（水輪）実測図
第４０図　五輪塔（水輪・地輪）実測図
第４１図　五輪塔（地輪）実測図
第４２図　五輪塔（地輪）実測図
第４３図　五輪塔（地輪）実測図
第４４図　五輪塔（地輪）・宝篋印塔（塔身）実測図
第４５図　宝篋印塔（基壇・笠）実測図
第４６図　礎石実測図
第４７図　銭拓本図１
第４８図　銭拓本図２
第４９図　銭拓本図３
第５０図　銭拓本図４
第５１図　銭拓本図５
第５２図　出土遺物（東北下層）実測図
第５３図　出土遺物（東北下層・上層）実測図
第５４図　出土遺物（東北中層）実測図
第５５図　出土遺物（東北中層・上層）実測図
第５６図　出土遺物（東北下層）実測図
第５７図　出土遺物（東北中層）実測図
第５８図　出土遺物（東北中層）実測図
第５９図　出土遺物（東北上層）実測図
第６０図　出土遺物（東北地区）実測図
第６１図　出土遺物（東南下層）実測図
第６２図　出土遺物（東南下層）実測図
第６３図　出土遺物（東南中層上位）実測図
第６４図　出土遺物（東南中層中位・下層）実測図
第６５図　出土遺物（東南下層）実測図
第６６図　出土遺物（東南下層）実測図
第６７図　出土遺物（東南下層・中層）実測図
第６８図　出土遺物（東南中層）実測図
第６９図　出土遺物（東南中層）実測図
第７０図　出土遺物（東南中層）実測図
第７１図　出土遺物（主屋下層・上層）実測図
第７２図　出土遺物（主屋下層・上層）実測図
第７３図　出土遺物（主屋上層）実測図
第７４図　出土遺物（主屋一括・東断面）実測図
第７５図　出土遺物（西地区下層）実測図
第７６図　出土遺物（西地区下層・中層）実測図
第７７図　出土遺物（西地区中層）実測図
第７８図　出土遺物（西地区中層）実測図
第７９図　出土遺物（西地区）実測図
第８０図　出土遺物（東地区）実測図
第８１図　建築関連木製品（東北中層）実測図
第８２図　建築関連木製品（樋）実測図
第８３図　建築関連木製品（主屋連結口）実測図
第８４図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図
第８５図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図
第８６図　建築関連木製品（主屋・南西隅遺構）実測図
第８７図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図

写真図版目次

1 小井川遺跡（第３次）第Ⅲ期全景
小井川遺跡（第３次）第Ⅲ期全景（西方より）
2 小井川遺跡（第３次）第Ⅱ期全景
小井川遺跡（第３次）第Ⅱ期全景（東方より）
3 第Ⅱ期・１号礎石建物（西方より）
第Ⅱ期・１号溝
第Ⅱ期・１号礎石建物（北方より）
第Ⅱ期・１号礎石建物（南方より）
第Ⅲ期・西附属屋（下層）竹欄検出状況
（手前）東北附属屋、（右上）１号礎石建物
東附属屋
4 １号礎石建物遺物出土状況
第Ⅱ期・茶臼出土状況
第Ⅱ期・硯出土状況
第Ⅱ期・茶臼出土状況
粗母壊基壺出土状況
東４号墓検出状況
東１号墓検出状況
第Ⅱ期・五輪塔部材出土状況
5 第Ⅲ期・遺構検出作業風景
第Ⅲ期・建物群検出状況
第Ⅲ期・雨落溝・礎石列
第Ⅲ期・主屋検出状況（東部より）
第Ⅲ期・西附属屋
雨落溝断面
西附属屋・中央礎石（五輪塔部材）
6 第Ⅲ期・池状遺構
池状遺構西端と五輪塔部材出土状況
池状遺構と東側壕
東側壕と五輪塔部材出土状況
第Ⅲ期・西側壕（南方より）
第Ⅲ期・西側壕（北方より）
7 東地区遺物出土状況
東地区遺物出土状況
池状遺構西側・橋
池状遺構
池状遺構西側・橋
池状遺構・五輪塔部材出土状況
池南端・柵状遺構出土状況
柵状遺構（西方より）
8 第Ⅲ期・主屋基壇断面（南北トレンチ）
第Ⅲ期・主屋基壇断面
主屋礎石断面
主屋床束出土状況
主屋床束出土状況
建築部材出土状況
主屋東部石組
主屋縁束出土状況
9 東北部遺物出土状況
東地区五輪塔部材出土状況
東地区遺物出土状況
東北部土器出土状況（上層）
東北部遺物出土状況
木製品出土状況
東附属屋間連通遺構
東附属屋間連通遺構
10 銭出土状況
硯出土状況
箸出土状況
イノシシ牙出土状況
刀子出土状況
毛抜き出土状況
箸出土状況
刀子・土器出土状況
11 木製品出土状況
東附属屋間連通遺構
木器出土状況
切匙出土状況
錐出土状況
網代出土状況
文字経石？出土状況
東地区南端遺物出土状況
12 東２号墓完掘状況
東２号墓検出状況
東地区墓群
東３号墓検出状況
東３号墓完掘状況
東４号墓完掘状況
東５号墓完掘状況
１号甕出土状況
13 西４号墓（左）、西５号墓（右）
西４号墓（左）、西５号墓（右）
西３号墓
西３号墓（底部）
西１号墓
西１号墓（上部）
西２号墓
西２号墓（底部）
14 西南土層
東地区南端部基本土層
東地区基本土層
東側壕断面
東側壕断面
西側壕断面
１号壕断面
西側壕下部土師器出土状況
15 東地区第Ⅲ期・上面遺物出土状況
東地区第Ⅲ期・石列出土状況
16 出土遺物（石製品）
17 出土遺物（石製品）
18 出土遺物（石製品）
19 出土遺物（石製品）
20 出土遺物（土器）
21 出土遺物（土器）
22 出土遺物（土器）
23 出土遺物（土器）
24 出土遺物（土器・陶磁器）
25 出土遺物（陶磁器）
26 出土遺物（硯）
27 出土遺物（紙石）
28 出土遺物（獣角等）
29 出土遺物（木製品）
30 出土遺物（木製品）
31 出土遺物（土器・輸入陶磁器）

第１章　発掘調査の経緯と組織

第１節　これまでの調査経緯

新環状道路通過対象地区の内、諸事情により実行不可能な地区ほぼ中央部を除いた、遺跡有無の確認調査の為15300㎡に対しトレンチ41本を設定し平成14年10月22日から11月７日の間実行し、江戸後半以降の陶磁器を出土する大型Ｖ字溝、桶棺墓の底部を検出し、本調査の必要性を確認するに至った。また、試掘最東端部では、遺物包含層が薄く本調査には至らなかったが、古墳時代後期に属する坏類が出土しており周辺地域にその存在を示唆するものであった。第１次調査は上記の結果を受けて、平成15年９月10日から平成16年１月28日の間に実施した。調査地区には、江戸後期から明治まで存在したといわれる無住職寺である慶勝院の寺域推定地と考えられる地点であった。遺跡の保存状況は良好とは云えず主たる遺構とされる桶棺墓の検出状況では桶樽底部のみが残存する程度であったが、大型溝からは江戸後期の陶磁器を始め土器、少量の仏具等が出土したことから慶勝院跡地としての確認となった。検出された遺構の内容は、溝２本、墓４基である。墓の内訳は、桶棺墓３基、破壊され形状不明なもの１基である。溝は現状・幅７m、深さ２mの大型Ｖ字溝と幅80㎝、深さ40～80㎝の小型溝が検出された。前記したように桶棺墓底部のみしか確認されないという事象は大規模な削平が行われたことを示唆するものであり、当時の地表面は消失して、小規模な庵程度の建築物の痕跡は当然消失しているものとされる。また、大型Ｖ字溝においても、当時の地表面を含めた上部構造は大きく削平されていることが容易に理解され、その掘削時の規模は調査確認時より巾、深さの点において確認数値が１m前後拡長することが推察される。

次いで平成16年３月16日から平成16年３月19日の間においては、平成14年度試掘調査の未調査地域の調査が行われ、その結果、隣接する墓地跡地区で木棺墓、桶棺墓が確認（16年度調査）され、続いて今回の発掘地点より五輪塔部材が検出された。

第２次調査での発掘対象は法星院墓地跡であり平成16年12月６日～平成17年３月24日の間行い、明治初期から昭和初期の墓117基、（木棺墓41基、桶棺墓66基）を検出するに至った。

第２節　調査に至る経緯

今回の発掘調査にかかわる地域は山梨県土木部道路建設課による道路建設工事計画の発表後、山梨県土木部と山梨県教育委員会学術文化財課が遺跡保護の目的による協議を行い、道路建設に先立ち遺跡確認調査を実施することになり、山梨県埋蔵文化財センターに、遺跡確認の為の試掘調査を依頼した。

これを受けて、試掘調査を平成16年３月16日から３月19日まで埋蔵文化財センターが実施した。対象面積は、5780㎡にトレンチ19本が設定され、平成17年度対象地区より、中世様式の五輪塔部材が検出された。以上の経過を通して今回の発掘地点（旧田富町布施地内）が平成17年度発掘予定地区として絞り込まれた。

（経緯及び法的な手続き等の主な概略）

平成16年　３月16日～平成17年３月19日	遺跡確認の為の試掘調査
平成17年　６月２日	文化財保護法第99条１による発掘調査を山梨県教育委員会に提出
平成17年　11月５日	小井川遺跡現地見学会
平成18年　３月14日	埋蔵文化財の発見通知を南甲府警察署に提出
平成18年　３月16日	発掘調査の完了

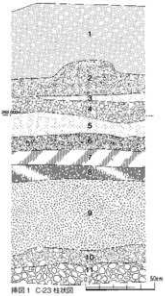
第４節　調査の方法

調査は、試掘結果に基づき新環状道路工事が施工される幅約40m、長さ約90mの範囲の調査区を設定、埋土約１mを重機により取り除き、引き続いて遺構確認面直上層から人力による掘下げを行い、遺構確認調査を行った。確認後は、遺構内を移植鏝、竹箆等により掘り進め、精査に努めた。

遺構配置図等の記録類は、国家座標に基づいて５m方眼のグリットを調査区全体に設け、それを基準とする簡易やり方

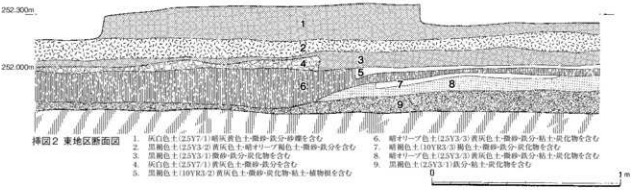
で行い、遺物の取り上げ方法も、同じく各グリットを基準とする簡易やり方で、全点を平面、垂直測量により取り上げた。各測点杭の名称は平成15・16年度に引き続き、東西方向に東から1・2・3・・、南北方向に北からZ・A・B・C・・と番号を付け、南西の角度を起点としてそのグリットを、C20等と呼称する。尚、調査の中心範囲である壕を伴う寺域を囲む座標軸は以下のとおりである。

C20	X43800	Y2175	J20	X43835	Y2175
C32	X43800	Y2110	K32	X43840	Y2110



挿図1 C-23 柱状図

1. 暗灰黄(2.5Y4/2)暗オリーブ灰黄・黄灰・微砂・鉄分を含む混合土
2. 黒褐色(2.5Y3/1)砂・礫・鉄分・炭化物を含む
3. 黒褐色(2.5Y3/1)黄灰色土・鉄分・微砂を含む
4. 黄灰色(2.5Y4/1)黄灰色土・微砂・鉄分を含む
5. 黒褐色(2.5Y3/2)黒褐色土・鉄分・粘土を含む
6. 黄灰色(2.5Y4/1)黄灰色土・鉄分・粘土・炭化物を含む混合土
7. 黒褐色(2.5Y3/1)黒褐色土・鉄分・粘土を含む
8. 黄灰色(2.5Y4/1)黄灰色土・鉄分・粘土・砂・礫を含む混合土
9. オリーブ灰色(10Y4/2)オリーブ黒色土・微砂・粘土・鉄分・砂礫を含む混合土
10. 灰　色(5Y4/1) 粘土質
11. 灰　色(5Y6/1) 灰色土・C+9(1cm~10cm小礫)を含む



挿図2 東地区断面図

1. 灰白色土(2.5Y7/1)暗灰黄色土・微砂・鉄分・砂礫を含む
2. 黒褐色土(2.5Y3/2)黄灰色土・暗オリーブ褐色土・微砂・鉄分を含む
3. 黒褐色土(2.5Y3/1)微砂・鉄分・炭化物を含む
4. 灰白色土(2.5Y7/1)黄灰色土・微砂・鉄分を含む
5. 黒褐色土(10YR3/2)黄灰色土・微砂・炭化物・粘土・植物根を含む
6. 暗オリーブ色土(2.5Y3/3)黄灰色土・微砂・鉄分・粘土・炭化物を含む
7. 暗褐色土(10YR3/3)褐色土・微砂・鉄分・炭化物を含む
8. 暗オリーブ色土(2.5Y3/3)黄灰色土・微砂・鉄分・粘土・炭化物を含む
9. 黒褐色土(2.5Y3/1)鉄分・粘土・炭化物を含む

第3節　基本層序

遺跡は甲府盆地の低位地区に立地することから、堆積土の主成分を微砂利質とする水成堆積土である。

弘治三年以降は釜無川の本流が変化し渇水期以外では周辺の河川に影響を及ぼしたものと考えられ、遺跡内では本流や洪水による影響は認められないが、冠水による微砂利の水平堆積がG23南壁の柱状図（挿図1）に認められる。また各層は単純ではなくその中でさらに細分が可能な要素を含んでいる。挿図2は、東地区造成地区の中央よりやや北寄りの東西の断面図である。2から8層までが15世紀後半代を中心とする遺物が検出された遺物包含層であるが、層の境目では最上面が硬く締められ、腐食した黒色異物が12㎜から5㎝前後認められた。人工的な土層であり9層の地盤まで掘削した後、周辺の土で版築をまねた工法で盛土を行った痕跡が認められる。

第4節　発掘調査の組織

調査主体	山梨県教育委員会
調査機関	山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者	副主幹文化財主事　小林広和　　主査文化財主事　猪股一弘
発掘作業員	今村貞夫、時田薫、河野逸広、斉藤重信、山本三重子、真道みゆき、神沢正孝、望月忠、金丸亨、石川千年、甘利千恵子、早川みどり、石坂恵理、保坂秋蘭、金子春枝、石井弘文、渡辺旭光、原田みゆき、河住ふさ子、深沢徳子、浅野美代子、長谷川恵美子、斉藤真巨、今津武男、根津育美、遠藤実雄、望月明、河住光子、安原敏夫、金子春枝
18・19年度	
報告書作成作業	副主幹文化財主事　小林広和
	作業員　北川洋　中川美千子　山本三重子　新津多恵（18）矢野美鈴（18）清水夏弓（18）　石坂恵理（18）

第５節　小井川遺跡の概要

本遺跡の性格は、鎌倉後期の荘園跡地と、戦国期に属する寺院跡地である。鎌倉期では遺構の検出はなく、中世様式の五輪石塔群のみが出土し、その内に紀年銘が確認された。これらの五輪石塔群はいずれも、原型、原位置を保っておらず各部材により手頃な形状に、破砕・再加工され、礎石や木橋の基礎、池の形状を保つ根石等に用いられていた。転用部材の五輪石塔部材の銘文は以下の通りである。

戊剋二藤布施兵□
　忠光 法名 真顔 六十□□滅　　戊の剋　二藤布施兵衛忠光　法名真顔　六十歳入滅

正和四□六月
廿五日死亡日也　　正和四年６月弐十五日　死亡の日なり　日佛の為に励む　弥陀佛
　日励佛為陀沸

　未之時
延慶三年三月廿九日　　延慶三年三月廿九日未の時、御往生。
　御往生

以上からは、五輪五塔の製作に関る実年代、1305年（延慶三年）、1315（正和四年）が確定された、銘文の戊剋二藤布施兵衛忠光法名真顔六十□□滅」からは、（没した）時、俗名、戒名、没した年齢と死を刻む仏教用語的な「入滅」が刻まれている。

このような形態を有する銘文は、人の死に強く関連する墓碑として五輪塔では13世紀後半を画期として畿内地域を中心として出現（小林・2002）するが、甲斐国では14世紀前半の早い時期に高度な文化事象が伝播していたことになる。特に注目される事項としては在地名・布施の二文字が確認されたことである。布施は摂関家領所である布施荘（磯貝1997・秋山1980）を示すとともに、推定２m前後の大型五輪石塔群の出土によって本遺跡を含む周辺一帯の地域空間が、布施荘跡地としての特定付けが可能なものになったことであり、さらに荘園の預所代としての二藤布施兵衛忠光なる人物が特定され該期における地方豪族の実態の一部が明らかになった。

戦国期（Ⅱ・Ⅲ期）においては被災と再建の過程で中世館に見立てた方形の壕を伴う寺院が成立した。

Ⅱ期の遺構は、礎石建物１棟、溝１本、墓５基が検出された。遺物特に該期の五輪石塔の量の割には遺構が少ないが、このことはグリッドF23・21グリッドJ23、21地区ではⅢ期の２号建物の建設時にあわせ造成が行われたことが原因と考えられる。１号礎石建物の規模は、東西７間×４間、１間＝６尺（約1818mm・１尺=303mm　以下同様）であるが、これらの礎石の配置から、単独１棟の方丈構造を有する大型建物としたが附属屋の存在の可能性も当然考えられる。また遺物からは寺院が想定され火災により消失したものと考えた。大多数の礎石が抜き取られているがその要因は上層建物の建設によるものであり、座りがよい大型石材あるいは形状の整った材はすべて上層のⅢ期の礎石建物に使用されている。

Ⅲ期の遺構は中世以降に一般的に認められる伽藍配置の範疇に属し、方形の壕を巡らして中世館を見立てた寺院と考える。即ち、方丈造の構造を有する主屋を中心に西付属屋、東北付属屋、東附属屋、東南池端遺構、西南隅遺構等が輻輳する。それらは北・及び南の大半では未調査となったが、建物群は方形状の壕により取り囲まれていることが判明し、多くの寺院の部材、仏具関連遺物の出土を観た事により寺院関連遺跡として性格付けられ、その敷地のほぼ全容を明らかにすることが出来たものと考える。

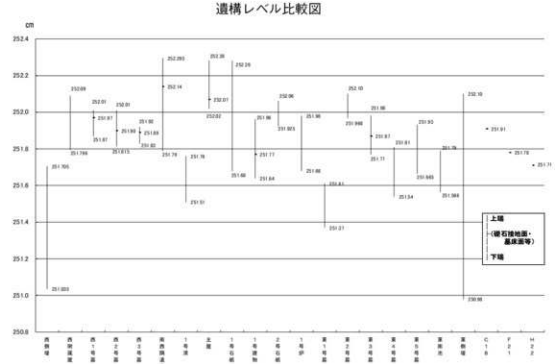
この年代観はⅡ期、Ⅲ期の建物の関係はⅡ期建物の被災からⅢ期の再建を考え、連続制が考えられる中で、建物構造及び出土遺物群の編年観から創建を室町後期の15世紀後半を中心とし、再建を武田信玄の時代1541～1573の間の後年代、さらに寺院廃棄を武田氏滅亡の1582年直後を考えた。

（遺跡年表）

	1119年　元永二年　「中右記」　大井荘に対する割付「本名　布施　」	
	1289年　正応二年　「勘仲記」四月二九日条　東北院領布施荘	
	1305年　嘉元三年　五辻中将忠氏朝臣　八丈絹一七四疋を納める。	
	1310年　未之時延慶三年　三月廿九日 御往生	発掘資料（五輪塔）
	1315年　正和四□六月 拾五日死亡日也 日脇沸□ □陀仏	発掘資料（五輪塔）
	□□□□年　戌亀二藤布施氏□ 忠光法名六十□□滅	発掘資料（五輪塔）
	真顔	
Ⅱ期建物創建	C14・1310―1370・1410年	発掘資料（上層建物・厨増築部材）
	1425年　武田信直	
	C14・1470年　―　1520年	発掘資料（２号組石＋土器）
	1507年　小池図書助	
	1541年　天文10年銘	発掘資料（五輪塔・墨書）
Ⅱ期建物・火災消失	1541年　～	
Ⅲ期建物創建	1573年	
Ⅲ期建物地表面	C14・1520年―1590年　C14・1490年―1650年	発掘資料
Ⅲ期建物廃絶	1582年直後　武田滅亡	

（遺構垂直関連図）

遺構レベル比較図



第２章　遺跡の自然環境と歴史的環境

第１節　自然環境

遺跡の属する中央市は甲府盆地のほぼ中央に位置する。盆地の外縁は、北西に八ヶ岳、南東の富士山を両極として、西は駒ヶ岳・白根山・赤石山脈の山々が標高3000mの壁をなして連なる。東は秩父山脈より続く山々が大菩薩嶺付近まで標高2000m前後で続くが、その南は富士東麓まで標高1500m前後で極端に高い山は見あたらない。

甲府盆地は山梨県の中央部に当たり、盆地内を流れる富士川上流部の釜無川と笛吹川の流れに沿って拡がっている。両河川の合流点の鰍沢町付近より釜無川を北上し韮崎市を過ぎると平坦地は少なくなり、丘陵地帯が河川の両岸に続き多くの支流に分かれて八ヶ岳、駒ヶ岳の麓に到達する。

一方、笛吹川は東北方向に上流部が伸び、多くの支流に分かれながら秩父山地に至るが、平坦地が拡がっているのは塩山市付近までである。このように甲府盆地は二本の主要河川の流域によって形成されるため、盆地中心部は一辺15ｋｍ前後の三角形を呈し、上流部に向かって拡がり、変則的なＹ字状となる。

甲府盆地は日本でも有数の高山に囲まれ、中部高地と称されるように山岳地帯でありながら、平坦地は一辺15Ｋｍ前後の三角形状の拡がりを持ち周辺の丘陵地帯を含めれば盆地として大型ばかりではなく、海浜部の小平野に匹敵する規模を有する。しかし、外縁部に連なる山々があまりにも高く、盆地外部に流れ出す富士川の流域は、両岸に急峻な山々が続き、駿河湾に至るまでの間、ほとんど平坦地を見ることなく続き、甲府盆地の孤立感を一層強くしている。

これより外部に通じるには、富士川を除くと盆地外へ流れ出す河川はなく、他は河川の上流部を遡上し峠越えに拠る以外はない。しかし、盆地の西方は3000m級の山々により完全に通路は遮断され、北・南は山麓を迂回するルートが多くなる。南は富士川沿いに下る他は、笛吹川の支流を遡上し御坂山地に峠を越え、富士北麓を西に迂回すれば富士宮から駿河湾に、東に回れば鎌倉街道で御殿場より沼津あるいは相模平野にいたることができる。北西は釜無川上流部が諏訪湖に続く信州往還で、八ヶ岳山麓を東に回れば佐久盆地に至る。この両者は大きな峠越えはない。北東は笛吹川本流を遡上し、雁坂峠を越える秩父往還か、重川を上り柳沢峠を越え、丹波川を下り青梅に出るルートである。東は日川を遡上し笹子峠を越え桂川の支流・本流・を下れば相模川であり、流れに沿って下れば相模平野、東進すれば多摩川の流域に達することができる。

甲府盆地と外部との交渉は、以上のいずれかのルートが舞台となった事であろう。特に西方よりの文化の波及が問題となる弥生時代以降は、歳内勢力との関係を考慮すれば、盆地南部より駿河湾に至るルートが重視されたことは云うまでもない。このルートは富士川と御坂山地～富士山麓に大別できるが、後者は御坂山地のどの峠越えをするのか、富士山を東西に迂回するかによって、多くの経路が考えられ現在まで多くの説が提示されている。

本遺跡は、中央市（旧田富町）の西側を北から南に向かって流れる釜無川と、町の南側を東から西に向かって流れる笛吹川のほぼ合流点にあり、河川の堆積作用によって形成された沖積地である氾濫原地帯に位置する。遺跡の存在する旧田富町周辺での最も高い標高値を示す地点では、旧町北部の釜無川左岸付近において約265mを示しそれが最高値となる。また、本地域では南下するにあたり次第に高度を下げる地形となっているが、最低値においては約245mに至り比高差は僅か20m程度の数値が計測される（田富町誌・1981）。

遺跡は、上記のように釜無川扇状地の南西端部に占地して、現状はほぼ、平坦地形の標高252mに立地する。このような環境下にある本地域の地形については、特に微高地等の形成要因に限ってみれば、西側を流れる笛吹川の影響力よりも釜無川の流路による作用が顕著に現れているのも当然と考える。

弘治三年（1557年）信玄堤成立以前の釜無川は現代の甲府バイパスの線上にコースをとって落合町付近で笛吹川と合流していたものと考えられている（川崎・1994）。現在においても若草町、田富町には釜無川により分断された町の東西に飛び地が存在することからは現・釜無川の本流は東北部とされるのが妥当とされ小井川遺跡の西側は障害物のない平坦地が想定され西においても旧本流とされる荒川まで無障害で到達する。堤防成立後の本流は下八幡付近では鎌田川の周辺と現・釜無川のすぐ東側に南北併走す西流路（川崎・1994）が考えられている。本遺跡は布施荘跡地でありその性格からは広範

囲な土地が取り込まれていたものと考えられ、東は弘治年以降の間の本流の痕跡を残す鎌田川を超し、上窪遺跡を含んだ荒川の手前までが、西部は加賀美の荘との関係から旧若草町・二本柳遺跡付近までがその範囲と考えられる（挿図4）。

第2節　周辺の遺跡と環境、

本遺跡の周辺一帯は、度重なる釜無川の氾濫作用によると思われる大量の土砂により、旧地表が地中深く埋没して発見し難いことに加え盆地内では、標高の低い最南端部に位置する低地面に占地するなど地形的制約から雨期の際には必然的にかつ頻繁に発生する水害等を被る土地柄であったこと、さらに近世以来現代に至る間において古来からの建築物が地表に残存しない事などから、いつしか中世以前は人間の活動に適さない過酷な環境の下に存在するものと考えられるようになり近年にまで至ってきた。

このような状況下で実施された平成13年度に行われた町内遺跡分布調査では、従来の予想を覆し複数の遺跡が検出された。このことにより周辺の歴史地理的環境を考える上での基礎的情報と地下に埋没する歴史事象の一端を推知することが可能となった。

旧石器時代の遺跡に関しては、該期の活動基盤が洪積世台地にほぼ限定されるため、地質学的条件からその存在は望めず、つづく縄文時代においても埋没する微高地にその存在の可能性が残されない訳でもないが、釜無川氾濫原左岸に立地する低地部では、頻繁に繰り返された洪水とともに運搬された大量な土砂の堆積作用により覆われて深度が大きくなった地点に、その存在を推定するにとどまっている。

仮にそれが存在したとしても地表にその一端（土器片）が出現する可能性は極めて低いものとなって、遺跡の有無の確認の端緒となる機会をも、閉じこめている状況となっている。この要因は、周辺地域全般に云える訳であるが、遺跡確認作業の初期段階の全般に重要な影響を及ぼしているものと思われる。一方、埋設深度、水分を含んだ土壌に覆われた遺跡全体の保存状態は、一般の立地条件の遺跡と比較して良好な残りが確認されるものと思われる。このように前記の過酷な自然現象下に生成した沖積地帯での遺跡の分布状況は、全県的に観てやや希薄として捉えられるが、時代の進行とともに遺跡の密度も増加して地域周辺の重要度が高まった、新興的地域として把握される。

先の分布調査の結果（田富町教育委員会：2002）からは、沖村（16）で表面採集された弥生時代の所産と考えられる高坏の破片が最古段階となっている。微高地と平坦地が入り組んだ立地条件からは居住空間と生産を兼ね備えた、遺跡空間の存在が期待されている。

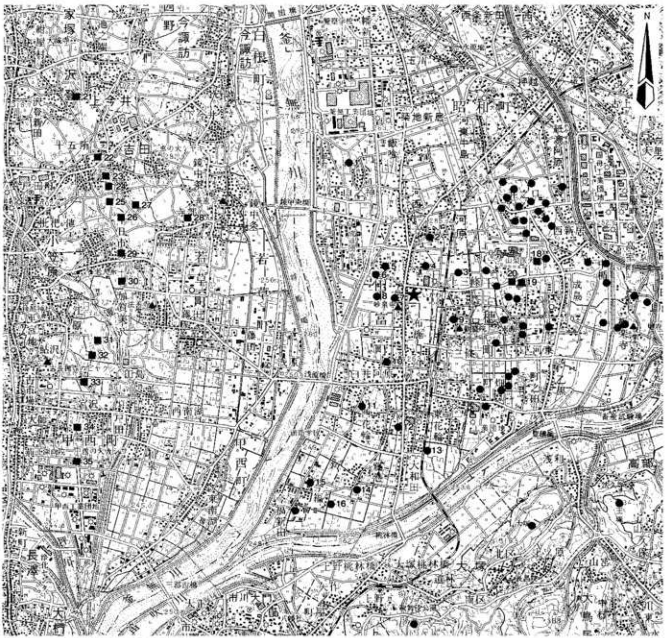
続いて、古墳時代前半では、上新手新田（1）、白井河原上河原（8）、整理地（13）、延里（14）、西花輪村北・村（11）において土器片が採集されている。この時代を象徴とする墳墓群は盆地の東縁辺部に集中することが周知となっていて、遺跡の性格としては上記同様な様相を呈するものと考えられる。

周辺の遺跡構造のあり方から観て（宮沢：2004）、高塚を有しない小規模な円墳等を取り込んだ集落跡が想定されるところである。またこれら遺跡群の内、白井河原上河原、西花輪村北・村遺跡の3遺跡では、やはり土器採集結果からではあるが古代までの継続制が指摘され、長期間にわたる土地利用が想定される。

古墳時代後半、特に6世紀末頃では、小井川遺跡東端部において、平成16年の本センターによる試掘調査、及び内藤和久氏の同地点の表面採集からは赤彩の杯が確認されている。これを受けてさらに包含層の確認の為の再調査が行なわれたが、地表下70cm下の箇所に10～20cm前後の包含層が認められた。しかし、包含層は薄く不安定であることから本格調査には至らなかった経緯がある地点でもある。

周辺には後期古墳時代の象徴ともいえる横穴式古墳が現状及び過去においても、その存在を証明する痕跡や伝承等が皆無であることから、それは想定外とされるが摩滅されない赤彩土器の検出はやはり集落・関連遺構の存在が当地点の近在に想定される。

平安時代では今日までのところ、遺物の採集はなく本遺跡以外は確認はされないが、東方約1ｋｍ付近に上窪、平田宮第2遺跡等、が立地する。



挿図３　小井川遺跡と周辺遺跡　　国土地理院　1/50,000

★ 本遺跡

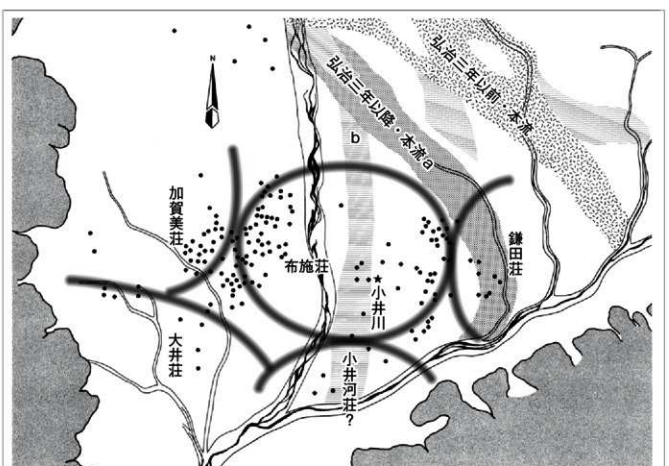
1. 上平新田遺跡
2. 布施村北遺跡
3. 三宮司遺跡
4. 神田遺跡
5. 冷久保遺跡
6. 三井右近丞屋敷跡
7. 小井川遺跡
8. 臼井河原上河原遺跡
9. 竹之花遺跡
10. 古寺家遺跡
11. 西花輪村北村遺跡
12. 西花輪村東遺跡
13. 整理地遺跡
14. 延原遺跡
15. 今福村東遺跡
16. 沖村遺跡
17. 中道下遺跡
18. 上窪Ⅰ次遺跡
19. 上窪Ⅱ次遺跡
20. 平田宮第Ⅱ遺跡
21. 七ツ石遺跡
22. 十五所Ⅰ遺跡
23. 十五所Ⅱ遺跡
24. 村前東Ⅱ遺跡
25. 村前東Ⅰ遺跡
26. 角力場Ⅱ遺跡
27. 前原Ｇ遺跡
28. 寺部村附遺跡
29. 新居道下遺跡
30. 二本柳遺跡
31. 向河原遺跡
32. 油田遺跡
33. 中川田遺跡
34. 大師東丹保遺跡
35. 宮沢中村遺跡

その他中世関連遺跡では、本遺跡を中心に１ｋｍの範囲中に布施村北遺跡　神田遺跡　冷久保遺跡　三井右近丞屋敷跡の５遺跡が収まる。くり返すが新山梨環状道路建設に先立って遺跡確認の為の2004年度試掘調査が実施され、中世から戦国期にかけての所産と考えられる五輪塔の部材が確認されて、それらの出土範囲の拡大と、遺跡空間の存在が期待された。

近世・江戸後期に至っては古寺家、今福、中道下、小井川等が確認されている。特に、今回の調査地区と東側に隣接する小井川遺跡（第１次）では、江戸時代後期に存在したという無住職寺院・慶勝院に付属する墓地跡とその付属施設と考えられる、断面Ｖ字の大型溝が検出された。

慶勝院墓地は明治19年以降に平成16年度の発掘地点に移動されていることから、明治19年以前の慶勝院墓地の一端が検出されるに至った。この発掘地点は、農作業に伴う開墾、住宅開発による造成が急激に行なわれていて地形は変化が著しく、地層は１ｍ強まで攪乱が認められ遺構確認面直上まで自然堆積層は確認されない。　この為、遺物の出土区域はＶ字溝の覆土中に限定され、遺構の発見としては、墓では棺の上部が削平された桶の底部が残存する程度であり、さらに墓以外では、唯一遺物群の出土を観た大規模な掘削作業を必要とするＶ字溝の検出のみにとどまっている。

この他、近世においては、確認されている上記遺跡の他に、古文献、古地図をもとに想定された古代地割、条理制跡が指摘され、今後の調査が期待されている。



挿図４　弘治三年以前・降の釜無川本流と小井川遺跡関連図　（川崎1994原図を改編一部作図）

参考文献
田富町誌編纂委員会　1931　田富町誌
高木勇夫　1989　条理地域の自然地域
川崎剛　1994　釜無川の流路変遷について　武田氏研究　第13号
田富町教育委員会　1995　町内遺跡詳細分布調査報告書
秋山敬　2003　甲斐の荘園
宮沢公夫　2004　寺部村附第６遺跡　南アルプス市埋蔵文化財調査報告書第２集

第３章　小井川Ｉ期の遺構と遺物

第１節　Ｉ期の遺構・遺物　―14 世紀前半期・布施荘関連の五輪石塔―

該期では遺構の検出までには至らなかったが、中世様式の五輪石塔が検出されると共に、そこに紀年銘が確認されたことによって、それらの造立年代及びその歴史的背景がある程度、性格付けられたものと思われる。

これらの五輪石塔は、いずれも、原型、原位置を保っておらず各部材により手頃な形状に破砕・再加工され礎石や木橋の基礎、池の形状を保つ端石？等に用いられていた。このように原位置は勿論、現形等を著しく破壊された石塔であるが、その表面には銘文が比較的良好な状態で検出された。この要因としては転用目的が木橋の基礎、建物の礎石であり、建築物の最下部構造であったことが上げられる。さらに転用部材は、上屋が災害による廃棄あるいは外的要因による移転に伴い廃屋となった後は、地中に埋没し易い条件下にあったことと、さらに埋没後に周囲の環境が変化し水位が上がり五輪石塔部材は水面下となり表面の風化を遅らせるという好結果をもたらしたもので、転用目的により解体され破砕行為を受けたにも関わらず保存良好な石塔表面をもたらした要因は上記の所為からであると考えられる。

東側壕・木橋の基礎（第13図）

出土状況：２号建物の付属施設である壕の東部の北側よりに検出された。壕は現状平均巾２ｍ、深さ１ｍ前後を計測し断面Ｕ字状に掘削されている。五輪石塔部材は北より空輪、地輪と密着して併設され、いずれも逆位に設置されていた。基礎は壕の掘削状況はＵ字を基本としている為薄壁は斜位となる為、２個体分の大型部材が収まる程度に垂直に掘削し五輪石塔部材は２個体の設置上面が平坦に揃えられ安定した状況で設置されている。

この設置状況からは当然建築物の一部として把握され遺構として捉えられるわけで、その目的は性格として壕内部と外部を連絡する渡り的な施設、すなわち木橋の基礎部分が想定される。

建設時期：設置箇所はⅢ期の建物群の壕的要素を持ち、その付属施設とされるところから、16世紀後半以降が考えられる。

転用部材

火輪№１（第29図）本遺跡の五輪塔部材の観察は（磯部：1992）にしたがっている。横57㎝×高さ（38、５）㎝の大型の部類に入る火輪であり、石材には古式の石塔類に多用される凝灰角礫岩を素材として用いている。逆位に転用され、地表に現れていた下端部は風化が著しく削平されていた。形態的特徴では、軒口の上端部と下端部では数値が一致し軒口は垂直となる。上端部の反りでは上端部幅と上端部軒反りの高さの割合が０．094を示し反りは急な下部をしめす。屋だるみの割合では０．062を示し緩やかな屋だるみを示している。

以上からの数値結果からは、火輪制作年代を鎌倉後期に与えることが妥当と考えた。

地輪№２（第　図　）

正面及び両側面の３面に梵字が印刻される、現存横幅43㎝×高さ（38．５）㎝の大型の部類に属する、凝灰角礫岩を素材とした地輪である。逆位に据え付けられ、下端部は打ち欠き削平されている。そのため地表面に接する部分では風化作用が著しく進行している。本例の正面形態は、下部が打ち欠きにより消滅していることから正確な高さは不明であるが現状での縦横比は0.895を示しそれ以上であることから比の数値は１に近い高さの割合を増したものが想定され、制作年代は鎌倉後期の14世紀後半が与えられる。

池状遺構南西岸・木橋の基礎（第32図）

出土状況：東側壕は、南端部で池状遺構となり、その西南端部近くに半裁された五輪石塔の地輪２点が、壕木橋の基礎としての転用材として並んだ状態で設置されている。前記では設置し易いように掘削がなされ、溝底部に認められたが、本例では緩やかな傾斜の池の壁中段を２個体の据え置き空間として掘削するが、基礎材の安定化を図るための楔石として15世紀代の五輪塔（火輪）がその下部に敷設される。また、その西側には、前記壕に繋がる観賞を意識した巾１ｍ前後の溝が設けられ、先の敷設された木橋（五輪石塔・基礎）の方向に伸び、一体として機能が想定されるかの如く木橋が架けられている。

転用部材

地輪№７

現存　高さ41cm×巾28cm×厚さ30cmである。

銘文

戊廼二藤布施兵□　　読み下し

忠光法名真顔六十□□滅　　戊の廼　二藤布施兵衛忠光　法名真顔　六十歳入滅

地輪№6

現存　高さ15.8cm×巾36.5cm×厚さ45.0cmである。

県内では、図の延慶三年銘の地輪に次ぐ年代で最古級の部類にはいり、凝灰角礫岩を素材とする。

銘文

正和四□六月　　読み下し

廿五日死亡日也　　正和四年六月二十五日死亡の日なり□□日佛の為に励む□□弥陀佛

日励佛為

陀沸

銘文の戊廼二藤布施兵衛忠光法名真顔六十歳入滅」からは、（没した）時、俗名、戒名、没した年齢、死を刻む仏教用語的な入滅が刻まれている。このような形態を有する人の死に強く関連する墓碑としての五輪塔は13世紀後半を画期として畿内地域を中心として出現するが（小林・2002）、甲斐国では既に14世紀前半に伝播していたことになる。さらに在地銘である布施の文字が確認されたことによって、今日も字名として残る旧田富町布施の発見であるとともに、本遺跡が1119年元永二年「中右記」　大井荘に対する割付「本名　布施　、1289年正応二年「勘仲記」四月二九日条　東北院領布施荘と記述されていた（磯貝　1997・秋山　1980）摂関家領所の布施荘の跡地を指すものと考えられる。

池状遺構底部・五輪石塔部材（第13図）

南北に設けられた壕の南端は極端に拡がり、円形の池状となり、その東端底にはその形状に沿って人頭大の礫が敷き設されている。火輪№5はその中に検出され中央よりやや北側に出土した。

火輪№5　正面部分に梵字の印刻が認められ、正面・軒口左位部分には鋭利な刃物により叩き込まれた傷痕が断面・細V字に数カ所検出された。破壊を目的としたというより儀礼に伴う目的的行為の結果として捉えたい。巾44.5cm×高さ32cm×厚43.5cmの柔らかい凝灰角礫岩である。製作年代は、14世紀前半代が考えられる。

西附属屋・五輪石塔部材

出土状況は1号建物（主殿）の附属施設に付いての詳述は後記する。ここでの礎石列は、東西に3列、5尺間隔で置かれ南北の間隔は不揃いな部分が多い。石材については河原石、15世紀後半代の五輪石塔の部材が転用され、容量が小さく不安定で揃いも悪い。このことから転ばし根太（大引き）を受け、低く床を張った構造が想定される。長方形部分のほぼ中央に据え付けられ、他の礎石には大きさ等にバラツキがあり、据え方も浅いのに対し、この礎石（31図）は深く慎重かつ丁寧に据えられていて他の礎石の様相とは異ることから転用前の五輪塔（被葬者）に対する何らかの祭祀的な意味が込められているとも考えられる。

未之時

延慶三年三月廿九日　　延慶三年三月廿九日未の時、御往生。

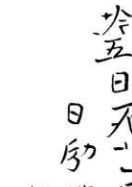
御往生

この地輪№3は本県における最古の年代値を示す例である。銘は石材に印刻した後、漆書しさらに金箔が入念に施されている。正面部分に上記が印刻される、現存横30、4cm×高さ25、7cmの中型の部類にはいる、凝灰角礫岩を素材とする地輪である。本例の正面形態の縦横比は0,895を示していて、初期の地輪正面は横長を呈するものとされ、鎌倉後期平均値の0、85を上まわり高さの比の割合が高くなっている。

渡来磁器：量的には少ないが上記に比較的年代が近く供伴の可能性のある13世紀代～14世紀初頭の遺物を取上げる。4点の内3点は半筒形の青磁、546、557、558である東地区造成地よりの出土である。863は小型破片で稿連弁文の碗である。出土地点は壕の最下部・南地点である。

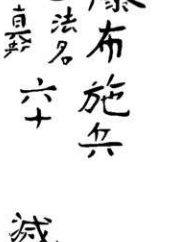
延慶三年三月廿九日　未之時　御往生

延慶三年三月二十九日未の時、御往生



正和四□六月　拾五日死亡日也　□日励佛為　□□□陀佛

正和四年六月、十五日死亡の日なり。□日仏の為に励む。南無阿彌陀仏。



戌剋二藤布施兵□　忠光　法名真顔　六十□□滅

戌の剋、二藤布施の兵衛忠光　法名真顔　六十才入滅。

小結

小井川での五輪石塔の造立年代は、紀年銘五輪石塔の

Ｎｏ１　未之時。延慶三年三月廿九日。御往生。

Ｎｏ２　正和四□六月廿五日死亡日也。□日勘佛為。□陀佛。

にそれぞれ刻まれることより、実年代の1305年（延慶三年）、1315（正和四年）が確定された。

このことから、13世紀後半から14世紀代にかけては供養塔と墓碑が併存して製作されて盛行するが（小林・2002）、本地域も14世紀第１四半期の鎌倉時代の後半には、供養塔と墓碑がほぼ並行して造立されていた訳でこのような趨勢の中に確認されたことになる。なお、前者は甲斐国での紀年銘入り五輪石塔においては最古年代となる。この五輪塔の造立の背景については、「戌廼二藤布施兵衛忠光法名真顔六十□□滅」からは、年・日は残存状況から観て欠損して不明であるが、没した時間、俗名、戒名、年齢が鮮明に刻まれているのが読み取れた。特に俗名を刻むという形態を有する五輪塔は墓碑として意義付られ、忠光自身が造立者という解釈が成り立つものと云えよう。また、在地名・布施の二文字が確認されたことによって、布施は摂関家領所である布施荘を示唆するとともに、推定２ｍ前後の大型五輪石塔群の出土によって本遺跡を含む周辺一帯の地域空間の性格は、布施荘跡地としての特定付けが可能なものになったと考えられる（挿図４）。

これら石塔群の造立時期である14世紀初頭における当荘の預家は、藤原氏の五辻中将忠氏朝臣（嘉元三年・1305年）であり、正安三年、正四位下左中将、徳治三年に従三位に叙せられて公家に列せられた人物（秋山　2003）である。従って布施荘の管理運営にあたっては、本人は直接現地には赴かず、預所代を置き管理運営の任を託すというシステムが確立していてその流れに沿って運営されていたものと思われる。

この預所代については今回の発掘調査結果によって、甲府盆地南西部における中世歴史舞台に本性・俗称を伴って新たに登場した二藤布施兵衛忠光なる人物が有力視される。この人物の素描については、第１に二藤姓であること、第２に預家・藤原忠氏とは一字違いの忠光で「忠」を共有すること、第３に兵衛の前に在地名の布施を俗称として付している。この三項目は、忠光の持つ姓の系統、出身、役職等について的確かつ重要なヒントを与えてくれているものと思われる（注）。

即ち、忠光の二藤姓は藤原系の出自と考えられる事であり前記の忠氏と「忠」の一字を共有することからは、忠光は藤原一族の一員に列せられる可能性も指摘される。仮に藤原氏の一員とすれば、荘司（預所代）として下向してきた族の者と考えられる訳で、在地名である布施を通称に用いて在地化の傾向を示しているという事実からは、中央より布施荘に赴き預所代としての任及び甲斐国での在住年数が長期間に及んでいた物と考えられる。

第二案は、同じく二藤は藤原氏系であり、忠氏の忠を用いることから擬族姓主従関係に近い関係を有する在地の有力豪族として捉える観点である。忠光は自身の通称を「布施兵衛」としていることが特に注目される。このような在地名に兵衛を付して通称とする事例は忠光は在地の人間として解釈することが一般的であると云える。前記にふれた長期に亘る在国年数、大型五輪石塔群の保持、墓碑の他に供養塔における相当な規模の祭祀儀の開催等の条件を考え合わせれば、布施荘周辺一帯に多大な影響力を及ぼす在地有力豪族層としての忠光像が浮かび上がってくる訳で、その可能性は極めて高い確率をもって暗示しているものと云えよう。いずれにせよ、これらの石塔群は布施荘の荘司一族に関わる供養塔、墓碑であることが容易に理解され、中・小の範疇に属すると思われる延慶三年銘・石塔では、印刻の後漆を刻の中に入れ文字をポジ状に施し、さらにその上に金箔を貼る製作工程が看取される。このことからも藤原氏所領の布施荘の預所代としての二藤氏・在地豪族の勢力は、巨大かつ長期に及んだものと考えられ、前記の文書、調査結果から得られた少量の五輪塔部材からは荘司一族の経済力の質の高さと豊かさが垣間みえ、そこからは武力をも併せて保持することも困難なことではなかったものと想定される。このように、中央貴族との直接交渉を持ち、豊かな経済・文化さらに武力をも保有した二藤忠光を筆頭とするその一族の地域周辺に与えた影響力は決して小さくはなかったものと云えよう。（小林）

（注）秋山敬より御教示。

第４章　第Ⅱ期の遺構

検出した主たる遺構は大きく３時期に分けられるが、前章での14世紀前半代の歴史的事象を考慮しⅠ期とし、以下便宜的に下層からⅡ期、Ⅲ期、Ⅳ期と呼称する。

第１節　Ⅱ期の遺構

ここでは、礎石建物１棟、溝１本、墓５基が検出された。遺物特に該期の五輪石塔の出土量の割には遺構の検出が少ないが、このことはグリッドＦ23・21．グリッドＪ23・21地区ではⅢ期の２号建物の建設時にあわせ造成が行われたことが原因と考えられる。

１号溝（第４図・９図）

グリッドＤからグリッドＧにかかり、主軸はグリッド27ラインに沿っているが中央部が東に押し出される箇所を除いては、ほぼ直線状に検出された。掘り込み面は、１号建物上面と一致する８層である。北部は未確認で、現状18ｍが確認され、南端部は27Ｇラインで先細りとなり消失する。巾65㎝の小型なＶ字溝であるが上部は両サイド共浸食され当初の形態を保っておらず、掘削当時は大きく開いたＶ字（巾130㎝）を形成していたものと思われる。堆積状況は掘削後７層が全面的に10から５㎝で覆い、その後６層が溝堆積する。出土遺物の範囲は平面ではＦ･Ｇグリッドに限定され、垂直分布は７層上面において全てが溝底から浮いた状態で出土している。

遺物は、大窯１期の端反皿№720、漆器№722、土器（皿）№777、778、壺№316の一部である。壺№316は、東側地域で集中して検出されるが、一部は本例同様に破片で２号建物下部・北端、西より2.75m付近で検出されその分布は広範囲に及んでいる。

本溝が１号建物の創建と同時に掘削されたとすると、100年以上かけて７層の土層がゆっくり堆積したことになる。この出土状況は７層上面において壺の破壊期、即ち１号建物の廃棄時を反映したものと思われ、№316壺は破砕後東地区に意図的に破片群が一括処理廃棄された様相を呈するが本溝や１号建物西部下位に検出されていることは何を意味するのか課題として残る。

１号礎石建物（第４図・８図）

グリッドＤ22・25、Ｅ22・25におさまり１号溝の東方10ｍに位置する。規模は、現存する礎石間は、東西７間×４間、１間＝６尺（約1818ｍｍ・１尺＝303ｍｍ　以下同様）であるが、南から２間目は１尺のびて７間を計測し、北側では１尺間で縁が存在したか、間延びしている部分が認められた。

礎石の多くは抜き取られ、南面・１、３、４間、東面・１、２間、西面３、４間、北面・２、５、６、７間、中央の東５間であり、40～30㎝の小型石材である。これらの礎石の配置からは、単独１棟の方丈構造を有する大型建物が想定されるが後述の通り礎石抜取りが行われている為、確認された規模以上の可能性も高い、また何らかの附属施設の存在も十分推察される。

上記の結果からは、黒青灰色の水性堆積土上に直に礎石は設置されるが、確認面上に20ｃｍ前後の基壇状の盛土が存在した可能性は考慮に値する。

大多数の礎石が抜き取られているがその要因は上層建物の建設によるものであり、座りがよい大型石材あるいは形状の整った材はすべて上層建物の礎石に活用されている。従って残存する礎石は、いずれも自然石で30～40cm大の比較的小型石材である。この礎石に関して特筆すべき事象としては火災によると思われる加熱を受けた痕跡を多く残している事である。後述する上層建物の礎石では本址より抜き取り再利用している石材にも火熱を受け変色、剥離した痕跡が複数の礎石から認められることからも、そのことを確証付けているものと云える。

柱の上位・加工状況は不明であるが、礎石に乗る下位・部分は丸太材に近い形態の材を使用し、礎石上に立てられたものと考えられる。即ち複数の礎石の中心からずれた周縁部には、火熱を受けた痕跡が共通現象として認められ、その熱作用を受けにくい中央部の立柱箇所には直径20ｃｍ前後の柱痕が礎石中央に円形状に観察される。

以上本建物の機能廃止という問題に関しては、上記した礎石の観察及び主屋おける建築部材、東地区・遺物群の状態が加熱を受け変質していることから観て火災による被害が及ぼした諸条件が機能廃止への直接要因と断定されるのである。

すなわち礎石中央に残る、熱作用によって生じたと考えられる柱痕の存在は、そのことを強烈に裏付けるものであり、柱痕の周囲は火災から派生する強力な熱風の影響により、柱痕を残した礎石表面には、弾け飛んだものと考えられる剥離痕が各個体に何枚にも重複して看取される。さらに本建物の焼け跡から抜取り転用されたと考えられる南西隅遺構の木材の多くが火災の際に生じた焼痕を残していること、東地区の一画に炭化した木材が集中して出土していることなどからは、機能廃止決定要因である火災被害を強く示唆するものである。

下層建物に伴う遺物群は上層・主屋の建設の際にかたづけられ、使用可能な建築部材は南西隅遺構に認められた様に上層・主屋あるいは付属施設に転用されていったと思われる。残りの使用不能な物質は廃棄された後ガレキ類として土と混合され寺域の整地の際に廃棄されている。このため下層・1号建物に残された遺物は意外と少なく、2次焼成を受けた輸入染付磁器、茶臼、砥石、瀬戸・水滴、端反皿、土器等が散見されるのみであった。

第2節　東地区墓群

グリッドC～K、23ライン以東から東側壕までの間を便宜上東地区と呼称した。この地域は後記するが2号建物建築の際に造成を受けたと考えられる地域で、30cm以上に及ぶ土壌層中からは上・下位にかけて多くの遺物接合関係が認められている。下記に示す墓群は造成の際に上部は削平され下部が残存するものであったが、これらの墓は3分類が可能であった。1は、1号墓の土坑に、蔵骨器を埋納するもの。2は、長方形の主体部をもち、底部に多量の木炭を敷き詰めるもの、3は基本的に方形土坑であり、木炭を充填し下部に集石を施すものである。このほかにも墓は存在したものと思われるが、墓坑の底部が上位にあるものは削平されすでに消滅したものと思われ、遺跡内における多くの五輪石塔・部材の存在がそれを跡づけている。

東1号墓（第14図）

グリッドE19北東寄りに位置し東側壕と重複関係にあり、大部分は削平・破壊を受けている。復元に拠る土坑推定規模は長軸91cm×短軸78cm×深さ84cmで、その底部東端に蔵骨器が安置されていた。広口壺を用いた蔵骨器であり上端はすでに破壊欠損している。埋葬時期は、広口壺・№317の年代観からは古瀬戸後Ⅳ期に属することから15世紀後半と考えられる。

東2号墓（第15図）

グリッドD20におさまるが、一部21ラインにのり1号建物の東4mに位置する。Ⅲ期建物群の建設に伴い上部構造が削平され下部の方形土坑のみが残存する。検出状況は上部の土壌を取り除くと平面的に認められる。この各辺は直線を呈し底部は平坦となり棺を納める目的土坑と想定される。方形土坑のギリギリに棺が納まる規格で掘削されていて、土坑壁西南部には棺の一部と思われる板材が検出された。

土坑内部には多量な炭化米を含み火葬中に生じたと考えられる燃え滓の内、木炭のみが厳選され墓の基底部用材として硬く締めつける様に充填されていた。副葬品等遺物は検出されないが試料炭化米のC14カーボン測定からは1540AD（43.2％）―1600ADが求められた。本墓の帰属時期は、2号建物建築時に並行して造成されたと考えられる土壌層の下位に認められること、さらに遺構の垂直関係、前記のC14測定からは1号建物と並行するが、その後半代であると断定した。

東3号墓（第15図）

グリッドG22中心より南東に位置し、東地区墓群の中では2号墓についで上位に存在する。規模は76cm（南北）×77cm（東西）×深さ25cmである。確認時点では、方形プランの中に木炭が硬く締めつけら充填して認められたが、やはり検出状況は2号墓同様墓上面と土壌とが分離し易い状態となっていて墓は平面的に確認されて上部構造が造成により削平され墓の下部遺構のみが残った様相を呈している。木炭は平均10cm前後でほぼ均一な木炭が充填され、

その下部では拳よりやや大きい礫が平面・方形、断面・皿状に認められた。本墓の帰属時期の、伴出遺物は皆無であるが、本遺構の直上を覆う土壌層は２号墓を覆う同一層であること、試料炭化米のＣ14カーボン測定からは1520ＡＤ（55．９％）1590ＡＤが求められたことから１号建物活動期の後半代と断定される。

東４号墓（第15図）

グリッドＧ22のＧライン上やや東寄りに位置し、２号建物建築の際に東側部分の整地を目的とした１号建物の廃棄物を多量に含む混合土を取り除いた後に、平らなプランが現れ、自然堆積層の９層から掘り込んでいるのが看取される。また、この掘り込み面は１号建物と同一面上であると云え、規模は、長軸１ｍ25㎝×短軸１ｍ７㎝×深さ0.22㎝を計測し、４隅が隅丸を呈する長方形に近い形態である。上部は、多量な炭化米を含んだ木炭が粉状に近い状態で５㎝前後均一に敷き詰め、それ以下では拳大の礫を土壌内に充填する。遺物は土器№476、477の２点が炭化物に混入して土坑の東北と東南の位置から出土している。土器№476、477は共に器部の中段が膨らむような特徴を示して土器の年代観からは、15世紀後半代がが与えられ１号建物に近い年代相を示している。帰属時期は、前記の遺物の年代観と試料炭化米のＣ14カーボン年代測定結果から1470ＡＤ（41.９％）1520ＡＤが与えられることより１号建物並行期でも前半代15世紀後半～16世紀前半が求められる。

東５号墓（第15図）

グリッドＨ22の中心より南西よりに位置する。掘り込み面は東４号と同一である。規模は長軸（東西）1.40m×短軸（南北）91㎝×深さ15㎝の平面楕円、断面皿状を呈する。土壌内下部に枕大の礫が東縁に４固体並んで、規則的に配列されているのが観察される。さらにその上には拳より小さめな小礫が集石状に認められ、小礫の間には木炭が僅かに看取され東４号同様に土壌内部に木炭が充填されていた痕跡を残している。

小結

Ⅱ期では、１号礎石建物とそれに伴う墓群と溝１本を検出することができた。ここでは本遺構群の性格と機能を考察する。

１号建物は礎石の抜き取りが行われ残存する礎石の配置からの復元規模は７間×４間が推定されたがそれ以上の可能性も含む大型建物である。出土遺物では、墨書・天文十年銘五輪石塔地輪他多量な五輪石塔部材、木炭と化した宝珠状具、連子窓枠等の寺院関連建築部材、また多量な硯、墨書土器、河原石への墨書行為等は施設の性格を特定付けるものとして有効と思われる。

これらの遺構，遺物から観て、高度な知識と教養を保持していたことが窺え、このような遺跡空間及び遺物からの読み取り可能な行動様式からは、僧侶による修行、特に写経道場的な活用が想定されるのである。

創建年代であるが、建築物の寸法体系（木割法）としては、古代より柱の太さ～柱間寸法を基準に各部の寸法を決めていく方法が一般的であったが、中世以降繁垂木の場合は垂木間隔を基準とする支割法が確立する。しかし疎垂木の場合は相変わらず柱間（柱太さ）が基準になっている。それぞれの特徴として、支割法では柱間寸法は垂木間隔の倍数になるが必ずしも整数にはならない。一方柱間基準の場合には一般的に柱間寸法が割り切れる数になる。

現代では一般に１間＝６尺と考えられているが、古代から中世にかけての単位は、周知のとおり713年の格で唐制となり１尺が29.７㎝に相当するなど、１間＝６尺でない建築例は多々認められ、古相を呈するほど建築物の１間は６尺より大きい物が多くみられる（６尺３寸～６尺５寸）・１間６尺という寸法が統一される時期は地域差もあるが一般的に室町後期から近世の間と考えられている。これらのことをふまえて、山梨県内寺院修理報告書にふれられている甲斐国における寺院建築の柱間寸法をまとめ以下に示す山梨県内文化財指定建物柱間寸法等一覧表の通りとなる。

山梨県内文化財指定建物柱間寸法等一覧表

社寺名	建物名	指定	所在	建立年代		規模	桁行	梁間	構造形式	柱間寸法（尺）
大善寺	本堂	国宝	勝沼町	弘安9年	1286	桁行路	59.458尺	57.434尺	桁行5間・梁間5間、一重、寄棟造、檜皮葺	10.720～13.090
長作観音堂		重文	小菅村長作	鎌倉後期			4945㎜	6925㎜	桁行3間・梁間4間（前面1間庇状）、一重、寄棟造、銅板葺（元檜皮葺）	計画尺＝305.78㎜（1.000尺）として、5.3～5.6尺
清白寺	仏殿	国宝	山梨市三ヶ所	応永22年	1415	墨書	23.9尺	23.9尺	桁行3間・梁間3間、一重裳階付、入母屋造、檜皮葺	4.330～6.480（2.160×2～3）
東光寺	本堂	重文	甲府市東光寺町	室町					桁行3間・梁間3間、一重裳階付、入母屋造、檜皮葺	4.68～7.02（0.585×8～12）
雲峰寺	庫裏	重文	塩山市上萩原	室町後期			60.1尺	30.05尺	桁行10間・梁間4間、一重、切妻造、茅葺	6.01
雲峰寺	本堂	重文	塩山市上萩原	室町後期			39976尺	36.82尺	桁行5間・梁間5間、一重、入母屋造、向拝1間唐破風造、檜皮葺	7.364～10.520（1.052×7～10）
福沢寺	地蔵堂	重文	甲府市湯村	室町末期					桁行4間・梁間3間、一重、寄棟造、銅板葺（茅葺型）	6.000～9.000
清白寺	庫裏	県	山梨市三ヶ所	元禄2～6年	1689～1693	寺伝	17445㎜	13109㎜	桁行9間半・梁間6間半、一重、切妻造、茅葺	6.03
雲峰寺	書院	重文	塩山市上萩原	正徳6年	1716	墨書	48.12尺	30.75尺	桁行8間・梁間5間、一重、寄棟造、茅葺	6.015

これを観るかぎりでは全国の動向に対応して甲斐の建築物も室町後期から1間6尺に移行し固まってきている事が窺え、東光寺、雲峰寺本堂では支割法によっていることが観てとれる。本1号建物は、残存する礎石が少なく、一部礎石間が伸びていて7尺と考えられる箇所も認められるが、ほぼ1間＝6尺で計画されていることから室町後期以降の様相が捉えられる。

また伴出する土器の年代観の詳細は後章でふれるが、武田氏館跡出土土器との共通点が認められ15世紀後半代が考えられ、さらに陶磁器類に関しては古瀬戸、瀬戸・美濃関連遺物及び輸入磁器はいずれも15世紀後半から16世紀前半に限定される。

さらに実年代資料としては、天文十年銘地輪の存在と本建物と同レベルからの掘り込みが認められる石組み造構（1号墓）があり、その底部からは多量の木炭とともに炭化米が検出された。試料としては、炭化米を数点無作為に選出し炭素14年代測定を行った結果、1470ＡＤ―1520ＡＤ年があたえられた。以上の結果は全て15世紀後半周辺に集中していることが判明した訳で、これらの結果を考え合わせると創建年代は、室町時代後半の15世紀後半以前に特定づけられる。

廃絶期については後節でも述べるが、2号建物・縁石に用いられている五輪石塔（地輪）は1号建物に伴う墓と考えられるもので、墨書紀年銘から天文十年（西暦1541年）に造墓にされたことが理解される。従ってその時点では展開期にあたり当然廃絶はそれ以降のこととなる。この要因は火災であることが明確となっていて、2号建物が規模、建物軸等からは1号建物のコピー的要素が垣間見られ、転用建築材の状態、2号建物の建設時期から観ても短期間に上層建物が建設されたものと解釈される訳で、1号建物の廃棄時は限定され、新しく考えても16世紀第3四半期以前が妥当かとされる。

東地区における土壙墓群について3・4・5号を墓と認定した根拠は2号墓の存在がある。檜理絵を目的とする施設では長方形土壙・底部を平坦に造出という特徴の他に、下部に木炭を敷くという行為が顕著である。この木炭が土壙に用いられている内容は火葬墓を想定した場合であるが、その際に生じる燃え滓の内、木炭のみを厳選して用いて、炭化米を多量に含む事、さらにそれらを土壙内部に硬く敷き詰め充填し施設の一部として機能させている事などが一致することである。さらにその下部には、小礫をもちいた集石があり底部構造としての定式化が認められる。現状での規模・深度、特に深度は10から20㎝前後が計測されたのみであり、これらは墓としての構造の要件を満たすものではなく認定までは到底及ぶものではないが、盛り土や石塔を含んだ上部構造を伴う造墓活動が行われたものと思われる。（小林・北川洋）

第５章　Ⅲ期の遺構

該期の遺構群は中世以降に一般的に認められる伽藍配置の範疇に属するものと考える。即ち、方丈形式を有する主屋を中心に西附属屋、東北附属屋、東附属屋、東南池の端遺構、南西隅遺構等が輻輳する。さらに、それらは北・及び南の大半では未調査となったが、建物群は方形状の壕により取り囲まれていることが判明し、多くの寺院関連の部材、仏具関連遺物の出土を観た事により寺院関連遺跡として跡づけられ、その敷地のほぼ全容を明らかにすることが出来たものと考える。

第１節　Ⅲ期の遺構

東地区の造成と出土状況（第５図）

グリッドＤＩ21～24の地区はⅢ期建物群の建築の際に造成を行っている箇所である（以後・東造成地区と呼称）。単に窪地に土砂を埋めるというものではなく、９層の基盤まで削平を行い順次水平に盛り土を行い締めながら作業が行われている、従って各層の上面は特に硬く上部層との境目には上部からの沈殿物とされる腐食した黒色土壌が形成されている。

出土遺物は基本的にはⅡ期の１号建物に伴う遺物群である。３～８層がⅢ期造成層であり、祖母壊茶壺、常滑壺は３層から８層にかけて垂直接合関係を示してこのことを裏付けて、２層はそれ以降の自然体積層ということになる。またⅢ期における地表は３層上面が該当する。東地区造成地は本遺跡内での遺物出土量が最も多い地区であり、ここでの遺物垂直分布は、標高252、４ｍを０ｍとして－35㎝前後にピークが存在するが他は全面に散漫に認められる（全体の出土平面位置については観察表参照）。グリッドＧ・Ｆラインを中心にやや密度が濃くなっているが、その大部分はⅢ期の地表であり平坦面に出土した胡桃、箸の類である。

壕　（第６図、図版第６）

規模は、東西55.82m（内側55、３ｍ）×南北36ｍ以上を計測する。形状は方形区画に近い様相を呈するものと考えられるが、敷地の南部溝の東半分と北部は路線範囲外もしくは安全地帯確保の為未調査となり、全容解明には至らず主要な出入り口は特定されない。

東側では、ほぼ直線に近い状態で南端部は、巾３.９ｍ深さ１.１ｍの楕円を呈する池状となる。その東南端部では、南側を流れる溝との間を樋によって連結している。池の排水は樋の北側に１ｍ未満の排水路が設けられ、東方に流れ出しているものと思われる。附属施設としては、北側部分Ｇラインと南端部池部に端受と考えられる石組が認められる。西側では、小刻みに蛇行して直進する形態であり、巾は２.25～１.96ｍであり、確認時の深さは79～64ｃｍと東壕よりやや浅く確認される。調査区南西端では、直に折れ、８ｍほど進んだ箇所でさらに一段折れ敷地の中央部まで溝は伸びる事が確認された。従って門の位置の確認箇所は中央部以東が想定される。また溝の南への拡張は、北南部に位置する南西隅遺構を意識した掘削作業の基に体現されたものと考える。

主屋　（第６図、10図）

グリッドＤ23、Ｃ27、Ｆ24、Ｆ27の範囲に収まる。基壇の規模は、東西約18m×南北13mを有する大型建物である。中心部は、砂利を主体とする土壌層を版築に近い工法で築き、周囲より平均30㎝程度盛り上げ基壇を形成している。壇上には礎石を桝状に配するが端部には縁束受の礎石が建物西面南端１間から南全面、東面南端１間、北東面２間に設置する。外側では西側を除く南・北・東３面には、雨落ち溝・巾50㎝～60㎝が基壇端部に接して回る（第10図）。

礎石は加工途中と思われる一例を除き30㎝～70㎝大の自然石をそのまま利用して、東西９間×南北６間がほぼ均一に整然と配置されている。また礎石上には芯墨が一部残り、床束も９箇所残っているのが認められたが、いずれも僅かに移動していて各礎石間を正確に計測することは出来なかった。しかし実測図に縦横1818㎜のグリッドを重ねると僅かにバラツキはあるものの、柱間１間＝６尺（１尺＝303㎜）が計画されていたことが看取される。

南側の正面部分に当たる一列目の礎石は、見栄えが良く比較的座りが良い大型品が意図的にもちいられており60～70cmの石材が配置される。また、基壇内部の礎石上には床束が９カ所で直立して検出された（第10図）。使用石材の多くは加熱を受けた痕跡が認められることより、第Ⅱ期１号礎石建物からの抜き取りによる再利用品であることが伺える。縁束受けの礎石には、規格され統一された20cm×10cmの小型方形・切石が一様に用いられ、南側西５間に化粧加工が施された縁束が検出された（図版５左中段）。

東面中央２間には、側柱より２尺２寸５分離れて礎石が並ぶ。さらに、東前南より１間半には東へ張り出して、側柱から２尺２寸５分のところから６尺×９尺に礎石が残る。一方、西面も南より２間目、側柱より２尺離れて一対の礎石が残る。西面の北側２間分ほどに縁石状の石列が残り、それと並行するようにさらに西へ13尺～14尺の位置にも縁石が残る。

主屋の間取りについては礎石の寸法に大小のバラツキが認められることは既に記した。この内、小振りな礎石上に大引き受けの床束が残存していることが確認された。床束が残るということは、通常部屋の中で柱を用いない箇所であり、礎石の大小ともよく符合している。床束が原位置を保っているものと仮定し、礎石の大小を加味して観ると、柱列（壁）の位置が理解され、おおよその間取り即ち、横４列８間取りの前面に入側のつく禅宗系方丈型本堂（客殿形式）が想定可能なものとなる。また、若干の疑問の余地も残るが、仏間に当たる部分の中央には半間間の礎石が位置し須彌壇を置くための床の補強として考えられなくもない。東前面の部屋の内部には、石組が施行され、全体で約１畳大を呈し、西側半分では４カ所に配した支柱石、東半分は小児頭大の礫の敷き詰が認められる。

上部構造については、情報量が少なく推測の域を出ないが、屋根は、遺跡より屋根瓦の出土が皆無であることから、板葺きあるいは茅葺きと考えるのが妥当であろう。床の高さは、床束の長さから２尺から３尺程度が考えられる。このことは近世のものと比べると比較的低いものとなっている。

西附属屋　（第８図）

主屋の西面から、２間目に下屋柱を支えるように一対の礎石が施され、その延長上から、ほぼ直角に鍵の手の様に南へ伸びる礎石遺構とそれを囲む竹列が検出された（第８図：図版第５左下段）。さらにそれらを含んで長方形に竹の列が並び、それに合わせたと思われる掘立柱のピットと柱根が一部に検出された。外郭の竹列は３間×５間を計測するが、５間のうち中３間は１間半（９尺）×２に割られている。

礎石列は、東西に３列、５尺間隔で配置されるが、南北の間隔は不揃いな部分が認められる。また、石材については河原石、五輪石塔の部材が用いられ、全体的に容量が小さく不安定で揃いも悪い。転ばし根太（大引き）を受け、低く床を張った構造が想定される。いずれにせよ竹列配置の主目的は、掘っ立て柱や壁の足下を隠すものと推定される。残存する柱根は、４～５寸の断面・八角形に加工された材を用い、ピット上端では周囲に押さえの石組が残存している。上部構造は、主屋との兼ね合いを考慮すれば茅葺か板葺きの比較的簡素な建物であったことが伺える。

主屋とのつなぎ部分については、回廊状に床がつながっていたかは不明であるが、回廊上には屋根がかかり主屋まで延び、下屋柱とみた一対の礎石はその端と観ることも出来る。しかし、屋根はなく床だけ、また回廊ではなく全く別棟として立っていた可能性もある（復元立面図：参照）。

本建物の性格については、延慶三年銘のある地輪が転用され、礎石群のうち主屋への連続部分を除くと長方形部分のほぼ中央に据え付けられ、他の礎石には大きさ等にバラツキがあり、据え方も浅いのに対し、この礎石は深く慎重かつ丁寧に据えられている感がある。これらのことから、転用前の五輪塔（被葬者）に対する何らかの祭祀的な意味が込められているとも考えられる。この場合寝殿形式における中門廊的なものというより、近世以降に多く見られる位牌堂に近いような建物であった可能性が高い。

東北附属屋　（第12図）

主屋東面・中央２間に下屋柱状の礎石が３カ所施工され、それと並ぶように柱穴が確認された。22尺×17，39尺×17，５尺の範囲で、柱間は一定しないが、梁間（南北）６尺×２，桁行（東西）８尺＋７尺×２（＋７尺×２＋３尺）で下屋が北側に３，５尺、南側に２尺張り出しているものと思われる。また中央より西南寄りには２カ所の

石組が看取された。その一つの中心よりのものは暖房装置の基礎部分として想定され加熱の痕跡を有しないもので、上部に拳大の小石を15cm程度集石し、下部に人頭大の河原石を敷くという２重構造を有する方形集石（長軸99×87cm×深さ34cm）であった（第13図左下段）。西南端のものは人頭大の礫20個前後が長方形状に上面がほぼ平坦に整えられ整然と配列されているのが確認された。

上部構造は、茅葺、板葺の建物が想定され、主屋とは主軸が若干ずれるが軒が重なるように立っていたものと考えられる。

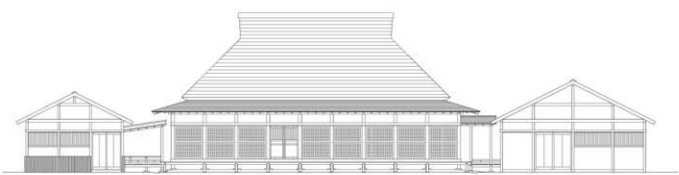
東附属屋　（第12図）

主屋の東面南よりの張り出し部分に続くように東南方向に柱穴と柱根が検出された。桁行（南北）６尺×５、梁間（東西）は中央に7.5尺×２とその両側に６尺、さらに東側には３尺の下屋が付くと考えられる。南側にもう１間あるとも考えられる。床組等も全く不明だが、位置的には厩裏に相当するものとして考えられる。桁行５間の内南２間は土間だったと考えられる。上部構造は、茅葺き、もしくは板葺きが想定される。

主屋・東面張出と東附属屋　（第６図）

主屋の４面に回る縁は当初からのものと考えると、それより大きく出ている西面南より２間目と東面中央の２間も、周囲の溝の残り具合からみて、当初から存在したものと考えられる。一方東面南端の１間半は、縁束石と重複してあることや溝が乱れていることなどから、後に付け加えられたものと考えられる。

しかし、主屋、東北附属屋、との位置関係も不自然で近すぎることや柱筋がずれていることなどから、縁は当初から東へ張り出していたとしても、東北附属屋は、東附属屋よりも遅れて建てられたとも考えられる。



西附属屋・主屋・東附属屋正面復元図

東南池の端遺構（第12図）

敷地東南隅に池状の遺構が存在するが、その西半を跨いで位置する。規模は、柱間２間×４間（６尺×11尺）で礎石が配されている。構造は、柱間が小さいこと池の上に存在することなどから縁台が想定されるが、上屋が付けられたとしても釣殿のような簡易なものが考えられる。

南西隅遺構（第６図）

壕に囲まれた敷地の南西隅付近に位置する。下部には基礎状に石列が並び上部は土台より床板が10cmほど張り出す舞台（縁台）状の木組が看取され、四隅には柱が立って簡易な屋根を支えた可能性も考えられる。また土台に乗る枘穴や板の切り欠きなどから、手すりのようなもの存在が窺える。規模は５尺×12尺である。東北側の部分は消失しているが、西側の土台、縦横の床地下と一部床板が張られた状態であり、火災による痕跡が複数例の材に認められ、下位建物からの転用品であることが推知される。南西隅は、礎石ではなく杭状の木材が深く入っていて上部構造を支えているが、敷地内の最南端の低位置にあたり、さらに壕に近いなど地盤が軟弱であることが起因しているものと思われる。

小結

以上、Ⅲ期における建物群及び遺構の調査結果を記るしてきた訳であるが、本遺構の年代を決定付ける考古資料は、廃絶時において組織的に執り行われた事が跡付けられるように着実かつ手際よい片付け作業がなされたものと考えられ、その結果資料的には豊富とは云えないのが現状であり遺物からの類推可能な資料は、東北側で縁石に使用された地輪と廃棄後、冠水により上位から緩やかに運ばれた砂利等により埋没にパックされそこに含まれる僅かな出土遺物に限定されている。

しかし、建物群を建設する際に直接あるいは間接的に重複関係にある墓群の炭化物、当時の地表面と考えられる木枝等の試料、さらに検出された遺構・建物群と現存する中世所産の建物との比較検討等による方法を組み合わせることが時期確定に最も有効な手法となるものと考える。以下に試料を提示し検討を加えるが、紀年銘とC14測定は実年代の手懸かりとして、1・2号建物の比較検証は建て替に及ぶまでの期間の長短の検証という側面から試みることとする。

主屋の年代を考える手懸かりの中で確実に年代を示す資料は、既に上記で触れている2号建物・北側縁石に再利用されている1号建物の展開期に造墓されたと考えられる天文十年と銘記されている五輪石塔・部材の地輪である。それを転用しているわけであるから、それ以降であることは明白である。

主屋の展開期を示す実年代資料として、東地区における遺構の展開期である地表面と考えられる腐食土壌の上端面において検出された枝木の伐採・試料がある。C14年代測定による結果では、C14・1520—1590年が確認され、ほぼ上記の年代を補完するものとなっている。

東地区は、主屋建築に伴い造成された地区でありそのことは既に触れたが、残存する墓がいずれも下底部であることから墓及び記念碑が建てられ一部墓域を占めていいたことは想像に難くない。これら墓群の下部構造まで削平し造成に及んだ時期を建設時期として見立てることが可能である。

カーボンC14の測定結果東1号墓　C14・1520—1590年、東2号墓　C14・1529—1580年を示す遺構を切り壊す行為が確認された事例でその時期は限定される。

次に主屋を含む建物群は、1号建物の火災により機能が停止した後、造成を行い建造されるわけであるが、その時間は比較的短期の内に建造がなされたことは既にふれた。その根拠の一つとして上げられる例として東附属屋との連絡口に用いられた1号建物からの転用材（大引）の存在がある。表面は斑状に火災による炭化が認められる物で、材の表面における加工痕は顕著に認められ長期に及ぶ野ざらし状態を免れた事を表面・加工痕は物語っていること、さらに大引の下部には束が使用されるがそれも前代の柱頭部を切断し束として利用した事が理解され、そこにも腐食した痕跡が認められない等である。

また1号建物と2号建物（主屋）との比較において規模、規格、位置関係を観ると、いずれも柱間計画、寸法が六尺（約1818㎜）と考えられること、建物の方位（軸線）が一致していること、建物規模が幾分大型化しているか同程度と考えられることが指摘できる。位置関連に注目すると壕と附属屋を含めた全体配置計画から決定付けられたものと考えられるが、重なった部分で観ると1号建物の柱間六尺四方のほぼ中央に2号建物の礎石がくるように配置されている。このことから、1号建物の礎石を抜き取りながら、2号建物の基礎を造成していった状況をも想定されるのである。上記の二項からは、1号建物廃棄からは短期間の内に建造計画が決定され、それは1号建物の再建として意義付けられる。

以上、Ⅲ期の建物群の再建と廃棄年代は16世紀後半から終末の間に与えられた。再建に当たって、現実的に当面の問題として浮かび上がるのがその費用・財の裏付けである。本地域は古くは中央貴族の荘園として、時代が下がるにつれ、甲斐・武田氏による寄進、武田系布施氏の勃興等に観られる様に、一族の影響下に置かれたことは周知とされその庇護下にあったことが推知される。

西暦1573年は、武田信玄の没年にあたりそれ以降付近は経済的、政情にも不安定な状況が発生したものと考えられ、このような火災により直ぐ再建計画がなされ実行される余裕は、1541年以後～1573年前の間が、それ以後より

財力及び政情面から親て妥当と考えた。

建物群の廃棄時期の下限は、西地区における附属屋と墓群との重複関係からは、西地区墓群はC14・1520AD—C14・1590AD・1580ADの値を示し附属屋の層位的に上位を占めていることから、再建・推定年代の（1541年～1573年）から1590年が与えられる。

再建前では、1号建物の1棟と墓群であったのに対し再建後は方形の壕を掘削し東南隅には池を伴う庭園をも配し、さらに建造物は主屋を中心に両側に附属屋を設けるなど前期と比較すると大がかりな中世館として見立てたものとなっていて、この時点では半恒久的な活動拠点を意図した事が窺える。しかし、長くて20年という短期の内に機能が停止され建築部材やその他物質等が運びだされるという強引とも捉えられる状況は内的要因より、外的要因が強く働いた結果として捉えたい。即ち再建推定年代（1541～1573）とC14の最新値1590年の中には武田氏滅亡という重大項目が存在する。武田の庇護の下に15世紀後半から確実に存続し、後半では中世館に見立てた寺院は、西方より進行する織田軍の標的と成り得た条件を揃えていたことが窺え、直接的な破壊行為は免れたものの建築部材は転用材として運び出され寺院の消滅が確定した。その時期は武田勝頼の死亡1582年の直後に置きたい。

尚、弘治三年以前・以降の釜無川本流についてであるが、地理学には門外であり口を挟む余地はないが、本流bについては本遺跡の観点からひとこと付け加えておきたい。以前・本流と以後・本流Aは数キロの差は存在するが、水流の勢いでほぼ同一方向の水路を形成して小井川周辺を遠巻きに流れ笛吹川と合流している。この事実と、本遺跡を含む周辺地域との関係は無縁でないと考える。即ち平安から中世にかけての遺跡が群集する（今村2003～2006）周辺一帯は、集落と水田、畑でありそこには大きな水害による痕跡は認められていないことから周辺一帯は微高地となって周辺より高い位置に存在していたものと理解され、以東を流れる本流Aの流路は肯定される。しかし、本流bについては本遺跡の調査により流路の痕跡は認められないことが判明した。弘治三年（1557）以降としての、bの流路が思案されているが、遺跡（寺院）は1520から1590年前後まで存続しそれ以後でも大きな流路はなく周囲からの冠水により微砂の堆積が廃寺となった後も観察されている。さらに火災からの再建工事がなされ（1541年～1573年・の後半代）寺院の規模が拡大されている事実からは、遺跡の住人達の間における本流bに対する危機感は現代のように治水工事が発達していなかった当時においても感じとれる動きがなく、殆ど存在しないことが読み取れ、仮にbの存在を想定しても極小規模の小河川程度のものが、現代の本流に近い位置に想定されるのである。（小林・北川）

第6章　Ⅳ期の遺構

1号建物廃棄後、冠水が要因と考えられる細砂層が遺跡内全面を覆うように堆積する。それを切るように5基の墓が造墓される。遺跡内における時間的関係は、1号建物より新しく、下限はC14年代測定によりC14・1520AD—C14・1590AD・1580ADの測定結果より下限をとると17世紀初頭前後が与えられる。西1～3号墓は西附属屋と同一軸で東部に一直線でE～G28に検出され、西4・5号墓は3号墓の南東7m、G28南端・東寄りに検出された。

第1節　西地区墓

西1号墓（第14図）

グリッドE28南端やや東寄りに位置する。上部は削平されるが規模、長軸（東西）52cm×短軸41cm×深さ25cm、形状は方形に近い不正形で底部鍋底を呈する土坑である。内部は、炭化米を多量に含んだ黒褐色から黄灰色の木炭混じりの灰が層をなして充填され、底部には小枝が数十本、敷かれているのが確認された。土坑内に遺物は検出されなかったが土坑外壁付近で土器1点が検出された。年代は、出土炭化米のC14カーボン測定結果ではC14・1520AD（55・5％）C14・1590ADが与えられた。

西２号墓（第14図）

グリッドＥ28のＥライン上、やや東寄りに位置する。上部はすでに削平され、現状は長軸（東西）58cm×短軸56cm×深さ24cm、形状は円形に近い不正形で底部鍋底を呈する土坑である。土坑内では多量な炭化米を含んだ木炭と灰が充填され下部ではそれらにシルト質が混合する。検出面において木椀１点検出された。木炭及び灰等を取り除くと、底部には火葬の際に使用されたであろう燃え滓の薪が組んで検出された。

西３号墓（第14図）

グリッドＧ28の中央よりやや北南寄りに位置する。上部はすでに削平され、現状は長軸（東西）55cm×短軸43cm×深さ19cm、形状は円形に近い不正形で底部鍋底を呈する土坑である。土坑内では多量な炭化米を含んだ木炭と灰が充填され下部ではそれらにシルト質が混合する。検出面において木椀１点検出された。木炭及び灰等を取り除くと、底部には火葬の際に使用されたであろう燃え滓の薪が組んで検出された。

西４号墓（第14図）

グリッドＧ28の南東寄りに位置し５号墓の東40cmに位置する。上部はすでに削平され、現状は長軸（東西）61cm×短軸45cm×深さ11cm、形状は方形に近い不正形で底部は平坦と　なる土坑である。底部より５cm程度浮上して拳大の小礫が僅かに隙間を残しながら全面に認められる。遺物及び炭化物等は検出されない。

西５号墓（第14図）

グリッドＧ28の南東寄りに位置し４号墓の西40cmに位置する。上部はすでに削平され、現状での最下部の土坑は長軸（南北）58cm×短軸56cm×深さ19cm、形状は楕円形に近い底部鍋底を呈する土坑である。底部には杉の枝と思われる枝木を全面に敷いてその上に礫をまばらに押さえとして用い、さらにその上部には小児頭大の礫及び燃え滓の薪を用い平坦面を作出しているのが確認された。遺物は、土器№3081点が伴出している。

第２節　墓の構造

墓の上部構造は、東地区に続き西地区の墓においても目的は不明であるが削平を受け、確認された部分は下部の構造に限定されたが、東地区と西地区においては僅かな差異が認められる。東地区の２、３、４、５号での墓の内部は硬く締めつけられ、木炭が充填され下部構造の礫敷に到達する構造となっているが、西地区では木炭は認められるものの灰、燃え滓等が交互に認められ内部の締めつけはほとんど認められず軟弱なものとなっていた。また最下部は礫敷ではなく火葬の際の燃え滓である薪を底部に組んだもの西２．３号や木枝を敷設するものが検出されている。いずれも、中世の通常墓として認識されつつある火葬がなされた墓であり、共通事項としては、木炭の中には多量の炭化米が含まれている。上部は五輪石塔の存在が推定されるが、東地区と西地区との間で、僅かな時間内での墓内部の構造の変容が認められる要因について今後の検討課題とする。（小林・北川）

第７章　出土遺物

本遺跡の最終ステージは、中世館に見立て壕を伴う寺院跡である。一般の遺跡に認められる遺物の出土状況と異なり、再建に伴う造成により遺物の大半は移動を余儀なくされ、東地区の造成地区に集中する。続いて西附属屋周辺に古期の遺物が集中し、廃寺となった後は礎石建物東南部、南部端中央、東北地区に集中して出土する。

五輪塔：Ⅰ期の関連遺物は既に前章で述べているのでⅢ期以前、主にⅡ期に造立されたものを扱う。

空風輪（第36図）表面の摩滅が著しく風の下部は不明瞭であり形状の正確な把握は困難であるといえる。総計４点の出土である。４例の巾と高さの比率は、１.５～１.７であり15世紀後半以降の数値を示している。

火輪（第36・37・38図）総計24点が出土している。屋だるみは、０、７を最小として０、16の数値を示し軒口の外開きは０、８から０、９を中心に示し共に1390～1500年代を示している。

水輪（第38・39・40図）総計25点が出土している。最大は巾24、６㎝のNo.66、最小は巾17.４㎝のNo.50である。上巾を１とした最大幅の割合では１.５以上を占める割合が多数を占める傾向にあり球体の中央部が突出するものである。数値の大きいものはNo.49の２.364で最も大きくNo.65の１.255が最も小さい。室町中期から戦国期では、１.５以上となるという傾向に対応し、本遺跡のⅡ期の編年観と合致する。

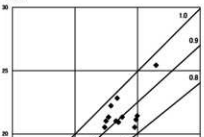


表１　五輪塔・火輪（軒口傾斜）

地輪（第40・41・42・43・44図）総計39点が出土している。最大はNo.４の横29.８×巾28.５㎝、最小はNo.80の14.７×12.３㎝であり大半は25～15㎝に収まり規格・大量生産されたものと考えられる。巾に対する高さの割合では時代が下がるにしたがって高くなると云われる。ここでは７例を除いた残り数値は０.６～０.８におさまり、０.７～０.８に集中する。応永期以降戦国期では０.８となる傾向といわれ、その数値はほぼ一致するものと云えよう。

宝篋印塔（第44・45図）　笠蓋（112、113）、石材は安山岩タイプである。塔身（108、109、110）、石材は安山岩である。四面には墨書あるいは印刻により梵字が認められる。基礎（111）、安山岩である。上面には孔があり、底部では大きく抉る様な加工痕が認められ、煤の付着が確認された。

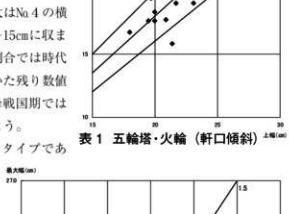


表２　五輪塔・水輪（上面幅－最大幅比）

石製品

茶臼（第35図　11、12、13、14、15）上臼11は摺り目９条が認められる。13とセットの可能性が高い。下臼12は摺り目７～９条単位の８分割である。下臼13は摺り目12条短単位である。この下臼２点は、鍔を含めて一石から彫り出されている。

粉挽臼（第35図　14、15）15上臼、14下臼である。

鉢（第59図）２点が看取された。片口を呈し三脚を有する一石造りの石鉢456である。巾35㎝、高さ11、９㎝を計測する。安山岩。457は口縁部推定径35、６㎝の大型製品で石材は安山岩。

硯：12点の出土があり多くは被災による加熱を受けている。743、744は１号建物下部より出土するが、残り全ては東地区造成区である。形態は、長方形408、410、561、601、602、603、743、744、頭部ドーム409、撥形407、破片562、877である。法量は、巾７、５㎝前後561、601、巾４－５㎝前後602、743、744、巾３、５－４㎝407、408、409、410、562、603、877であり写経用の小型品が最も多く、中には円弧文で水流と見立てた中に鯉を泳がした彫刻を施すものも認められる561。

砥石　411～416、459、563～567、604～611、842、844、846で、総計23点が出土した。石材は、凝灰岩もしくは粘

板岩を使用している。844はグリッドE－2の8西附属屋付近から出土するが、他は拠点を暗示するかのように東地区の造成地に集中する。

一般的にNo.563の短冊形を原型とするものと思われるが、使用頻度が高く原型をとどめるものは少ない。564は角柱で、砥石特有の磨摺痕の他に、正面・側面、背面には、縦軸にほぼ並行に無数の条痕が看取られるが、使用によるものか製作時のものであるのか不明である。しかし磨摺痕は正面1面であり、形態から察するに他の砥石とは使用目的が異なる事が明白である。

経石？：9、10、843が看取された。9砂岩、10花崗岩で共に20㎝大の河原石に悉らく経文が墨書されたものと推察されるものである。文字は解読不能。843は8.2×3.3㎝花崗岩に墨書で経文の一部が認められるものである。

かくらさん軸受：綱を引っ張るロクロの軸受けと考えられている（大輪寺遺跡1990）。ほぼ球形に近い河原石に孔・深さ13㎝が認められる。孔は上部で垂直に下半部では湾曲して丸底となる。680は口径15.5㎝高さ、15.7㎝、878口径16．9㎝高さ17.3㎝で石材は安山岩である。

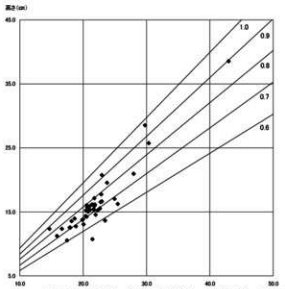


表3 五輪塔・地輪（横幅－高さ比）

建築部材：床梁（土台）888、889、大引887、根太884、886は、いずれも南西隅遺構の床組部材で、一部に床板が釘打ちされた状態で検出された。束753、754、梁881は2号建物（主屋）東南に張り出した礎石上に組み込まれた状態で検出された。束753、754は2段ほどの仕口を持ち、柱頭部を切断・転用した物と考えられるが、渡り廊下部分の手すり受柱の為に施された仕口とも考えられる。縁束751、床束752・755～764は、2号建物（主屋）の礎石上に立った状態で検出された。連子窓枠883は、深さ15㎜の連子子が並ぶ、上枠または下枠である。鴨居885は深さ15㎜の溝が突き止めにされ、玄関大戸のような片引き戸の鴨居と考えられる。火災により大部分は炭化している。

木製品814の西1号墓副葬品以外はすべてグリッド出土で東地区が多い。

宝珠？：（第58図　434）炭化状態で、球状の付け根部分に一部旧表面が残る。須彌壇あるいは建物の高欄部分など仏教関連遺物と思われるが詳細は不明な部分が多い。

木製品

切匙：431、613、617、618　擂り鉢の摺り目あるいは底に詰まったものを取るための道具と云われる。厚さ2㎜前後の薄板を素材として、ナイフの形状をまねたもの、櫂状に線条を施したものがある。長さは6.7㎝～11㎝を計測する。

杓子：569、570、572　569はやや長めの円形を呈し、内面・赤漆、外面・黒漆が施される。飯を盛る部分は緩やかな窪みが認められる。570は平面が玉葱形を呈する大型なものである。内面・赤漆、外面・黒漆が施される。572は、断面平坦な材を用いている。先端部は丸みを設け主部から柄への移行部分は相対的な円弧の加工が認められる。漆は認められない。

漆器：319、320、321、368、513、514、796、797、814、866で外面に黒漆後朱塗りの文様を施す。796は大型で計13㎝、高台4㎝を計測する。321、322は底部には戈子の銘がある。814は西1号墓の副葬である。出土品の多くは炭化したものが存在する。出土状況は、東地区では造成による一括廃棄、西地区では、墓を除くと冠水流の作用が看取され様相が異なる。

箸：総数304点の内、本報告には紙面の関係から66点を意図的に掲載するにとどめた。内容は、一方の端のみを細かく削られた片口箸、両端ともに削られた両口箸、同じ太さの寸胴箸の3種が検出された。特殊例としては648、649の東地区で近接して出土した、形態及び寸法等が近似し一対と考えられる黒漆が施されもの、また、中間が黒漆、両端末においては赤漆の鮮やかな色彩が施される儀礼用箸と思われる674が検出された。また、578のように巾0.9×厚0、9㎝×長30、8㎝の大型製品も認められる。

鞘？869：鞘としたが上部には数mmの小孔が認められ壁等に掛られる飾りの一種かと考えられ、鞘の部分に飾り金具？等が仕込まれていたものと観ることができる。

玩具：430、射的を意図したものと考えられ、ほぼ円形である。墨書で中心に点が描かれ同心円状に円が３重描かれ、中心には矢が刺さった状態が描かれる。

輸入陶磁器：碗、皿が出土している。編年的位置は15世紀後半が与えられ被災による二次焼成が認められる。

染付碗547、555は２点共に胴部は直線的に少し開きながら、直行する口縁部を有する形態であり染付碗Ｄ類の範疇に属する。547外面は唐草文が認められ内面は一重圏である。また焼き接ぎには漆が使用され古式の技法が顕著である。555は被災によると考えられる２次焼成を受け全面に気泡が認められる。１号礎石建物下部から出土している。

染付皿545、556、721は高台をもつ端反皿であり、文様には牡丹唐草が手書きで施文される。口径９～12cm前後を計測する染付皿Ｂ１類（小野1982年）に属する。

古瀬戸：祖母壊茶壺316は破片であるが復元可能であった。口縁部は玉縁状、頸部で内傾し、肩部に横耳が四方に貼り付けられ鉄釉が顕著であり古瀬戸Ⅳ期古に属する。出土地点は、１号建物下部、１号溝に各１点出土した他は全て東地区造成地でありレベルは上位～下位に観られる。

卸皿552は摺り目をつける際斜めに削り込み、一定方向に鋭角の稜を持たせる意図が顕著である。543は篦状工具により線引き状の沈線が集合する。共に古瀬戸Ⅳ期と考える。

瓶子317は上部欠損する。１号墓の蔵骨器で古瀬戸Ⅳ期古である。鉄釉が顕著であり見込みには胎土目痕が３点認められる。天目はいずれも小型破片で鉄釉が顕著である。中碗310、815、碗310である。水滴312は、口径２cm、高さ３、１cmの小型品で鉄釉が顕著であり、小瀬戸Ⅳ期古に属する。

瀬戸美濃：端反皿として分類される311、313、376、377、379、382、386、541、549～551、792、812、839がある。見込みには印花文が顕著である。

反皿315は、口縁は指による摘み痕が８カ所認められ、見込みに印花文が施される。

金属製品

刀子594、595、683、684は,中央よりやや基部寄りに関を設け片刃の刃部と茎に分かれる形態であり長さ22,３cm、幅１,３cm前後を計測する。寸法形態が近似していることから規格品としての性格が与えられる。

鉄鏃444は、五角形の鏃身３cmを有し，茎５cmを計測する計13cmの鉄鏃である。

鉄製火箸は、397寸法17、１×０、６cm、455、寸法21、８cm×０、４cmで形態もよくにていて規格品と考えられる。

鉄釘400、403、404、451、597、598、685、686、687、750、848、849は断面四角を呈し頭部は折り曲げて造られている。

錐は、619、396、443、445、452、453、454、619の総計８点の出土をみた。619は木製の柄が残存するが残りは穂先のみで木製柄は消失している。

毛抜442は、ほぼ完形である。鉄製で対照的にＵ字に折り曲げて造られる。

銭：（第48図～51図）上部からの混入品３点（288一銭、289摩滅不明、寛永通宝１）以外は全て渡来銭である。固まりで出土した例は、162～188の東南地区（G22）と東北地区（F22）があり、他は単独出土である。表４では、鋳造の古い順に示し、表５では数量と時代順の関連を示してある。

骨格類猪牙　鹿角334、436、436、438、588、589、691の計７点で、二股の上部で切断588、二股の直上438、394、先端が切断され付け根まで残存する436がある。いずれも装飾品の部材と思われる。

土器（カワラケ）（第52図）本遺跡の土器は、皿を主体とし三足付碗である。

皿：総数218点を図示した。粗い胎土に金雲母が目立ち、焼成は良好であると云える。また使用による痕跡とは異なる被災により二次焼成を受けた土器の量は少なくない。機能は口縁部から胴部にかけて煤の付着が認められる灯明皿、また付着の認められない例は酒坏等の食器としての用途が与えられている。本遺跡出土の全ての土器製作に関する基本な工程はロクロ成形から回転を伴うナデ調整、回転糸切を基盤とし、形態は皿という器形的制約で底部か

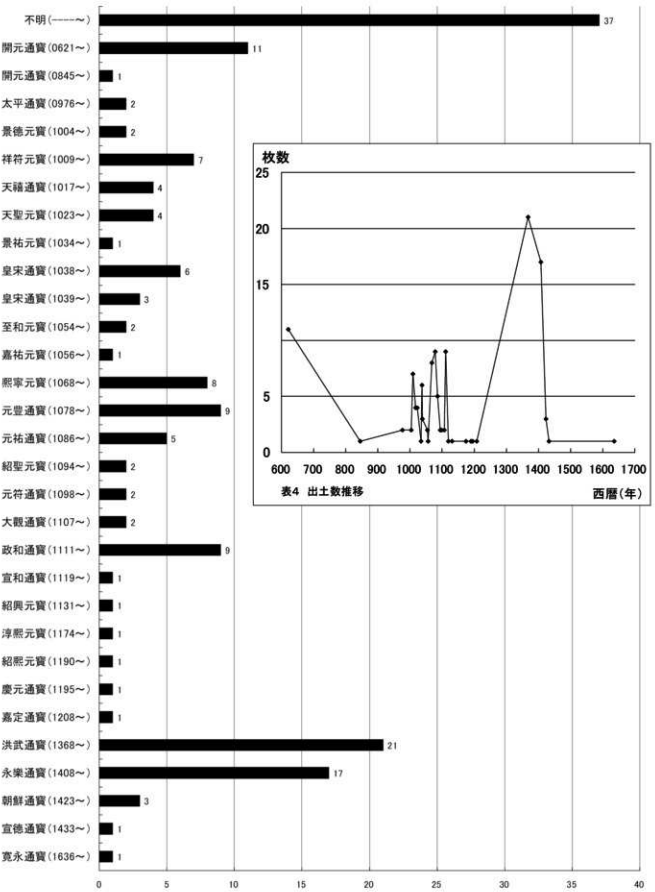


表4　出土数推移

表5　古銭種類(年号)別出土数

ら緩やかに立ち上がるタイプである。器壁は全体的に厚くボッテリ感がありシャープさに欠ける。分類にあたっては層位的事実を最優先したが、一部グループを型式学方法による細分を行った。Ⅰ類からⅤ類を出土量の最も多いⅢ、Ⅵ類に三足付碗、Ⅶ類に鉢、Ⅷ類に内耳鍋をあてた。

Ⅰ類：表２・（76図798～803、）西地区・墓群の周辺から検出したものである。出土層位は西附属屋を微砂利層が覆いそれに包含され、墓群はそれを切る関係となる。この為時間的関係に矛盾も生じるが、ここでは本地区の上流より流出した一群としてとらえることとする。底部より緩やかに立ち上がり口縁部付近から僅かに内湾するが、これは調整の際に内面口縁部直下から親指頭で支え外面は人差し指以降でナデ調整をおこなった結果の所産であり、口縁部直下の内部は緩く浅い横Ｕ字曲線を形成する。このことにより、本類はⅢでありながら坏に近い形状を有することとなる。器面はロクロ成形後、前記の工程による回転を伴うナデ調整痕が横位に全面に認められる。口縁部、内面では使用による煤痕が顕著であり、僧侶の個人名（道清）を含む、経典を想起させる（妙□）、園・の墨書土器でもあることから何らかの儀礼に用いられた後、廃棄された一群と位置付けておく。法量は口径11cmに集中する。時期は、製作技法・形態等から観て15世紀後半以前、即ちⅡ・Ⅲ・Ⅳ類前に考えられ（注）後半は連続するが前半部での上限時期は不明である（表６－２）。

Ⅱ類：（表６－３）・口径と高さのａ類11cm以上―12cm付近・ｂ類９cm以上―11cm以下・ｃ類７cm―８cmにそれぞれピークがある。ナデは回転を伴い内面を親指、外面をそれ以外で挟むように調整される。その為Ⅰ類で認められた内面での口縁部直下の横Ｕ字曲線は消失するが弱いものとなる。一方内面中央部では輪積み？の痕跡を思わせるような隆起が認められる。外面においては単純な微湾曲を示し緩やかに立ち上がるⅢである。

Ⅲ類：製作基盤等はⅡ類と一致するが器壁が直線的に開くものをまとめた。10cmに集中するⅢａ類と８cm前後のⅢｂ類に分けられるが、Ⅱ類に吸収される可能性も残る（表６－４）。

Ⅳ類：体部に輪積痕に似たドーナツ状の稜を形成する一群である。口縁部を中心に回転を伴うナデ調整が口縁部付近に集中して施されるが、稜へのナデは僅かに認められ口縁部ほどではない。しかし、923を含めた複数にはナデ調整が底部まで達しほぼ全面に調整痕が看取されるものも存在するが、それらの器面からは稜が消えかかっているものが見受けられる。このことからはナデ調整の際における指の調整により稜の有無を決定付けることが可能であることから、意図的に稜を残した工程が観てとれるのである（表６－５）。

ａ類12cm―13cm、ｂ類10cmに細分が可能であり出土土器の傾向に拠っていて規格化が進行している。15世紀後半から16世紀後半が考えられる。

Ⅴ類：２号礎石建物の住人が撤退し完全に機能が停止すると、冠水の影響により周辺からは微砂利が運ばれ堆積層となるが、その上面から検出されたものである。主に１号礎石建物・南端中央部、１号礎石建物北東端、１号礎石建物・東部から主に検出された（表６－６）。

ａ類は数量が少なく不明な点が多いが12cm―13cmに集中するものをまとめた。外面は全面に内面は全面のものと下部にナデ調整が認められるものとがある。ｂ類外面は直線的に立ち上がり、内面はドーナツ状の稜を有する。７cm、８cmを中心としたｃ・ｄ類は内湾する器壁で、内側にはドーナツ状の稜を有する。

Ⅵ類：三足付碗でロクロ成型、回転糸切り痕を有し、一形態にまとまる。器壁は厚くボッテリ感が強い。口径は11、６cm～７、７cm、高さ４、７cm～２、８cmでバラツキ感が認められる。（小林・北川）

（注）　甲府市教育委員会　佐々木満氏より教示。

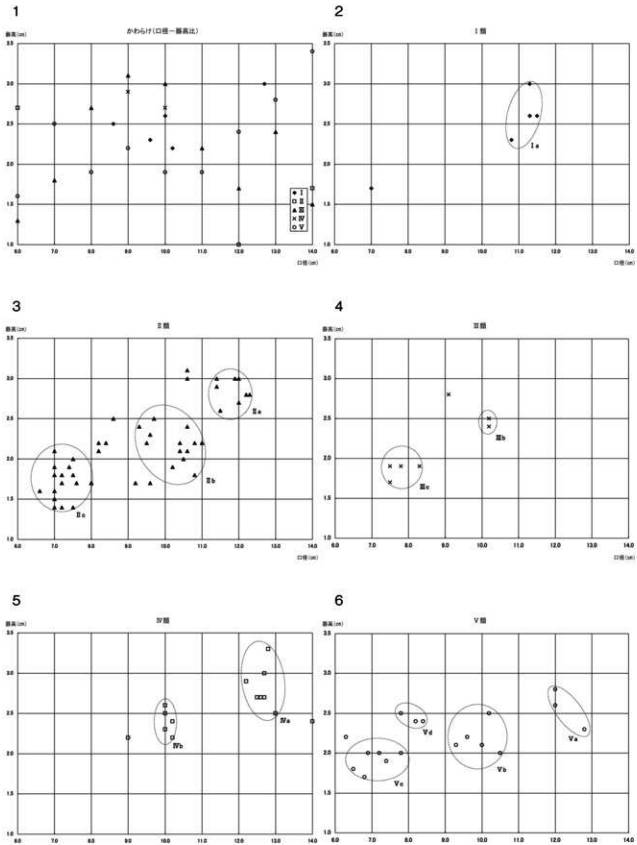
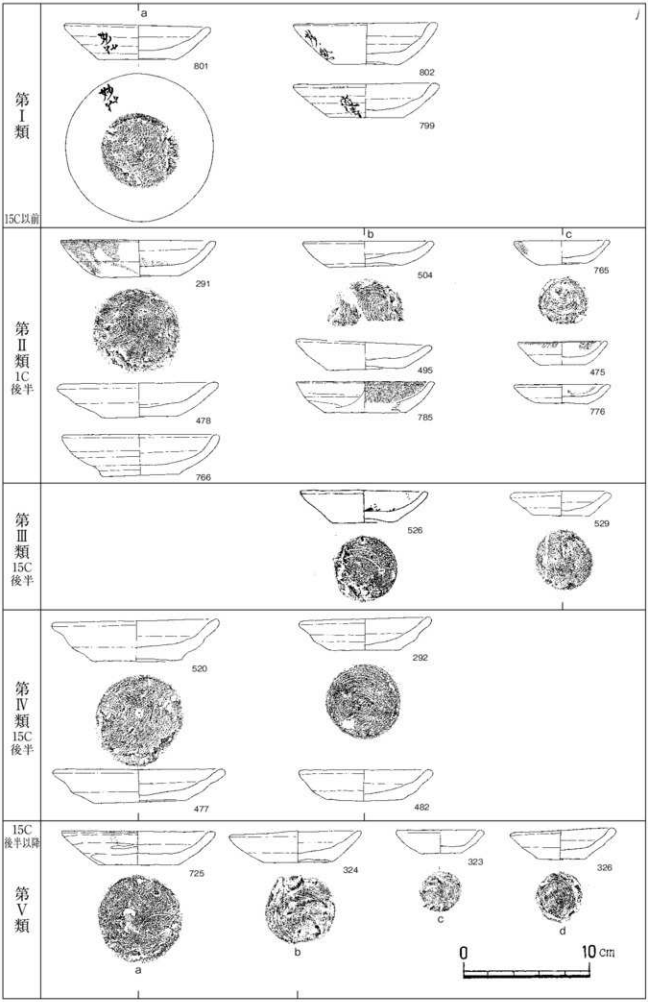


表6　土器分類（器高・口径比）


第Ⅰ類
15C以前
第Ⅱ類
1C
後半
第Ⅲ類
15C
後半
第Ⅳ類
15C
後半
15C
後半以降
第Ⅴ類
a
b
c
801
802
799
291
504
765
495
475
478
785
776
766
526
529
520
292
477
482
725
324
323
326
0
10cm

まとめ

小井川遺跡はこれまで述べてきたとおり、14世紀初頭・鎌倉期の遺構は全く認められないが、礎石の銘文からは遺跡が摂関家領の布施荘跡地であることが確認された。Ⅲ期建物群の再建にともない、これらの関連遺構は消失し、以後は新たな遺構が出現し複雑な内容を提示している。遺物として、Ⅱ期建築部材がⅢ期の建造期に転用材として、Ⅱ期建物の主たる礎石はⅢ期建物の主屋の礎石として用いられてその他遺物の大半は人為的な移動が確認された。

今回は限定された資料の範囲で推定を重ねた部分が多く、今後さらに検討が必要な事は云うまでもないが、以下調査により得られた成果を列記し、今後の課題としたい。

（1）遺跡内での大型五輪石塔の検出と、五輪石塔の表面に

No１　未之時。延慶三年三月廿九日。御往生。

No２　正和四□六月廿五日死亡日也。　□日励佛為。　□□陀佛。

がそれぞれ刻まれることより、遺跡の初期段階の実年代の1305年（延慶三年）、1315（正和四年）が確定された。

また「戊廻二藤布施兵衛忠光法名真顔六十□□滅」からは在地名・布施の二文字が確認され、摂関家領所である布施荘の実在を、今日においても布施の地番を使用する遺跡の内に証明することができた。

当荘の預家は、藤原氏の五辻中将忠氏朝臣（嘉元三年・1305年）であり、該期での各地域に展開する荘園の管理運営にあたっては、預所代を置き管理運営の任を託すというシステムが確立され、その流れに乗って運営されていたものと思われ、この預所代については今回の調査で新たに登場した二藤布施兵衛忠光が有力視される。

在地名に兵衛を付して通称とする人物の出自は在地の人間とすることが一般的であること、忠光は忠氏の一字、忠を取り忠光とし、藤原系の二藤を名乗る背景には中央貴族である忠氏との間に擬族姓主従関係に近い関係が発生し氏姓を授与された人物、在地豪族の可能性が高いことを指摘した。

次に、当荘の範囲は資料が皆無の中で推定しておく、弘治３年（1557年）信玄堤成立以前の釜無川の本流は現代の甲府バイパスの線上にコースをとって落合町付近で笛吹川と合流していたものと考えられている。西地区は現在においても若草町、田富町には釜無川により分断され川の東西に飛び地が存在することからは現・釜無川の本流は先記の東北部とされるのが妥当とされ（川崎剛1994）小井川遺跡の西側は障害物のない平坦地が想定され、併せて東においても旧本流とされる荒川まで無障害で到達する平坦な地域が想定される。布施荘はその性格からは広範囲な土地が取り込まれていたものと考えられ、東端は平安～鎌倉期にかけての平田宮第２遺跡や上窪遺跡を取り込み、1557年以降の本流痕を残すと考えられる鎌田川を超した荒川の手前までが、西端は水田址が検出されている旧若草町付近を想定した。

（2）Ⅱ・Ⅲ期では、主に戦国後期～末期に属する遺構、遺物が検出された。特に遺構面でのⅡ期とⅢ期との間に被災による機能停止と再建復興を関連付けることができた。復興に当たっては規模が拡大され中世館に見立てた方形の壕を伴う寺院が成立したことは既に述べたが、それは短期間で廃寺へと追い込まれる結果となった。その要因と年代決定を発掘資料から以下にまとめる。

Ⅱ期の遺構は、礎石建物１棟、溝１本、墓５基が検出された。遺物特に該期の五輪石塔の量の割には遺構が少ないが、このことはグリッドＦ23・21―グリッドＪ23、21地区ではⅢ期の２号建物の建設時にあわせ造成が行われたことが原因と考えた。１号礎石建物の規模は、東西７間×４間、１間＝６尺（約1818ｍｍ・１尺＝303ｍｍ　以下同様）であるが、これらの礎石の配置から、現状では単独１棟の方丈構造を有する大型建物であるが附属屋の存在も考えられないわけではない。礎石建物及遺物からは寺院が想定され、遺物の多くに焼痕が確認され火災による消失を考えた。

創建年代は、１間６尺という寸法が統一される時期は地域差もあるが一般的に室町後半以降と考えられ、甲斐の建築物も室町後半から１間６尺に移行している事を確認した。本１号建物は、一部礎石間が伸びていて７尺と考えられる箇所も認められるが、ほぼ１間＝６尺で計画されていることから上限は室町後半以降の様相が捉えられる。

また伴出する土器の年代観は武田氏館跡出土土器との共通点が認められ15世紀後半代が考えられ陶磁器類に関しても古瀬戸、瀬戸・美濃関連遺物及び輸入磁器、五輪塔部材はいずれも、15世紀後半から16世紀前半に限定されていることから、創建年代は、室町後期の15世紀後半以前を考えた。

その後火災により１号建物の焼失し再建が行われるが、時期と再建根拠と着工時期の関係は以下の通りとなる。

再建とする根拠は１号建物と２号建物（主屋）との比較において規模、規格、位置関係を観ると、いずれも柱間計画、寸法が６尺（約1818㎜）で同一規格と考えられること、建物の方位（軸線）が一致していること、建物規模が幾分大型化しているか同程度と考えられること、また１号建物の転用材は、主屋と東附属屋との連絡口に用いられた大引881とその下部には束753、754が使用されているが、これらの材の表面における加工痕は新鮮な面が顕著であり、長期に亘る野ざらし状態は認められない事、１・２号建物の重複関係を観ると１号建物の柱間６尺四方のほぼ中央に２号建物の礎石がくるように配置されて、１号建物の礎石を抜き取りながら、２号建物の基礎を造成していった状況をも想定され１号建物廃棄から短期の内に建造計画が決定されたものと思われる。以上からは、焼失から再建への過程が連続的な流れの中で読み取れ、その年代は造墓展開期1541年～東２・３号墓（C14測定1520―1590年）より古く東地区造成直後となる。

２号礎石建物の撤退後に冠水による微砂利が運ばれ堆積層となるが、その上面から検出された土器の編年観からは、15世紀後半以降から終末に位置付けられるものであり古期に属する土器（Ⅱ・Ⅲ類）との時間差は小さいものであり、時間的に遡る余地が残ると共に下限は限定されてくる。このことを解決する背景として信虎時代では雲峰寺1532年をはじめ多くの寺社が創建・移築され活発な様態が読み取れるが、信玄期においても本妻の菩提寺である慈眼寺や善光寺（1558～1564）の移築が行われその活動の勢いは止むことはなかったものと思われ、この趨勢の中で規模拡大を伴う大がかりな再建が行われたものとすれば信玄の生前の1541～1573年の間に考えられなくもない。

寺院消滅については、再建前は方丈型式の１棟に附属屋が伴った形態であったのに対し再建後は方形の壕を掘削し東南隅には池を伴う庭園をも配し、さらに建造物は主屋を中心に両側に附属屋を設けるなど中世館を見立てていて、前期と比較すると半恒久的な文化拠点を意図した事が窺える。しかし、長くて50年という短期の内に機能が停止され建築部材やその他物質等が運びだされるという強引とも捉えられる状況が捉えられた。このことは内的要因より外的要因が強く働いた結果として捉えたい。即ち再建推定年代（1541～1573）とC14の最新値1590年の時間枠の中には武田氏滅亡という重大事件が存在する。武田の庇護の下に15世紀後半から確実に存続し、後半では規模が拡大した寺院は、西方より進行する織田軍の標的と成り得た条件を、揃えていたことが窺え直接的に軍事的破壊行為は免れたものの建築部材は転用材として運び出され寺院の消滅が確定した。その時期は武田勝頼の死亡1582年の直後に置きたい。（小林、北川）

参考文献

小野正敏　1982　15～16世紀の染付碗、皿の分類　貿易陶磁研究　№2
広島考古学研究会　1985　中世遺跡出土の漆器
磯貝正義　1997　大井荘と大井氏　増穂町史・上巻
秋山敬　1980　大井荘について　甲斐路　№37
網野善彦　1991　甲斐の荘園・公家と地頭・御家人　国立民族博物館研究報告　第25集
磯部淳一　1992　群馬県における五輪塔の編年　高崎市史　第2号
藤澤典彦　1993　五輪塔の研究　（財）元興寺文化財研究所
降矢哲夫　佐々木満山　下孝司　2001　山梨県内における中世の土器様相について　中世土器研究論集
小林義孝　2002　五輪塔の造立目的　帝京大学山梨文化財研究所報告　第10集
秋山敬　2003　甲斐の荘園
国宝大善寺本堂修理委員会　1956　国宝大善寺本堂修理報告書
重要文化財観音堂修理工事報告書　1963　観音堂修理委員会
国宝清白寺佛殿修理工事報告書　1958　清白寺保存会
山梨県指定有形文化財清白寺庫裏修理工事報告書　1991　清白寺保存会
重要文化財東光寺本堂修理工事報告書　1982
重要文化財雲峯寺本堂修理工事報告書（第１集）　1956　雲峯寺修理委員会
重要文化財雲峯寺庫裏修理工事報告書（第２集）　1957　同上
重要文化財雲峯寺修理工事報告書　1958　同上
重要文化財藍澤寺地蔵堂修理工事報告書　1957　藍澤寺地蔵堂修理工事委員会
甲府市教育委員会　1985　史跡　武田氏館跡Ⅰ
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　1993　一乗谷朝倉遺跡発掘調査報告書Ⅳ
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　1995　一乗谷朝倉遺跡発掘調査報告書Ⅴ
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館　1999　一乗谷朝倉遺跡発掘調査報告書Ⅶ
福井県教育丁埋蔵文化財センター　2004　福井城跡
南アルプス市教育委員会　2004　寺部村附第6遺跡
玉穂町教育委員会　2003　上窪遺跡
玉穂町教育委員会　2005　上窪遺跡（2次）
玉穂町教育委員会　2006　平田宮第2遺跡
愛知県　2006　愛知県史　窯業２

出土遺物観察表

図版No.	遺物No.	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
29	001	東北	下層	D20	石塔	五輪塔	火輪		37.0	37.0	18.5	孔径4.0−孔深6.0	計測不能	80		凝灰角礫岩				14世紀初頭	上面に孔(丸)あり
30	002	東北	下層	D20	石塔	五輪塔	地輪		43.0	43.0	38.5	孔径22.2−孔深11.0	計測不能	80		凝灰角礫岩		(梵字)		14世紀初頭	四方面に薬研による梵字、上部に孔(丸)あり
31	003	西附属屋	中層	E23	石塔	五輪塔	地輪		30.4	30.0	25.7	孔径13.5−孔深7.0	計測不能	90		凝灰角礫岩		(銘文)		1310年	墨による銘あり(延慶三年…)、上面に孔(丸)あり
31	004	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	地輪		29.8	22.2	29.5		23,000.0	70		凝灰角礫岩				14世紀初頭	上下面に加工痕あり
31	005	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	火輪		(44.3)	(43.3)	32.0	孔径3.0−孔深1.7	計測不能	60		凝灰角礫岩		(梵字)		14世紀初頭	薬研による梵字あり、ノミでキズをつけたような痕跡あり
32	006	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	地輪		(36.3)	(45.0)	(37.0)	孔径14.5−孔深13.0	計測不能	60		凝灰角礫岩		(銘文)		1315年	薬研による銘あり(正和四年…)、上下面に孔(丸)あり、全体に風化・剥離・欠損
32	007	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	地輪		28.2	30.0	41.1		計測不能	60		凝灰角礫岩		(銘文)		14世紀初頭	薬研による銘あり
33	008	主屋	上層	D23	石塔	五輪塔	地輪		21.0	20.9	15.8		計測不能	90		安山岩		(銘文)		1541年	四方面に墨書あり(天文十年…)
34	009	東南	中層の上	I21	石材		硯石?		18.6	19.8	7.8		4,100.0	100		砂岩		(銘文)?			墨書あり(判読不能)
34	010	東南	中層の上	I21	石材		硯石?		14.5	22.8	6.4		2,800.0	100		花崗岩		(銘文)?			墨書あり(判読不能)
35	011	東北	下層	C22	石製品		茶臼	上臼・八分角	(23.0)		13.5	引手孔(2.5)、供給孔2.0	2,900.0	30		安山岩					黒色付着物あり
35	012	東南	中層の上	G21	石製品		茶臼	下臼	(26.8)		11.0			50		安山岩					
35	013	東北	下層	C22	石製品		茶臼	下臼・八分角	(30.0)		14.1	芯棒孔2.2	5,300.0	50		安山岩					黒色付着物あり
35	014	主屋	上層	C22	石製品		石臼	下臼	36.5		20.1	芯棒孔2.0、左右の孔2.4×4.5		60		安山岩					
35	015	西	上層	F28	石製品		石臼	上臼	31.4		(16.8)		6,200.0	40		安山岩					
36	016	東北	−	−	石塔	五輪塔	空風輪		13.6	13.0	23.7		4,700.0	60		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	017	東北	上層	E21	石塔	五輪塔	空風輪		(14.2)	(13.5)	(21.4)		3,000.0	60		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	018	東北	上層	E21	石塔	五輪塔	空風輪		(13.9)	(13.4)	(22.7)		4,300.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	019	東南	中層の上	I22	石塔	五輪塔	空風輪		14.5	(13.4)	22.3		5,000.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	020	東北	上層	F22	石塔	五輪塔	火輪		(20.9)	(20.8)	11.0		5,200.0	50		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	全体が風化、著しく磨耗
36	021	東北	上層	E22	石塔	五輪塔	火輪		20.0	20.7	9.5		3,800.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	022	東北	上層	F22	石塔	五輪塔	火輪		23.1	23.7	11.0		7,100.0	50		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	全体が風化、著しく磨耗
36	023	東北	上層	F23	石塔	五輪塔	火輪		26.5	27.5	16.5		15,000.0	90		デイサイト				15世紀後半〜16世紀前半	
36	024	東北	上層	F21	石塔	五輪塔	火輪		19.7	19.7	8.4		4,300.0	90		デイサイト				15世紀後半〜16世紀前半	
36	025	東北	上層	F23	石塔	五輪塔	火輪		19.5	20.3	11.3		3,200.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	026	東北	上層	F23	石塔	五輪塔	火輪		21.5	(23.0)	9.9		6,800.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
36	027	東南	中層の上	I22	石塔	五輪塔	火輪		21.4	21.0	9.7		3,300.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	煤付着
37	028	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	火輪		22.9	20.3	13.4		11,000.0	80		デイサイト				15世紀後半〜16世紀前半	
37	029	東南	中層の上	H22	石塔	五輪塔	火輪		22.4	23.2	13.1		7,500.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	030	東南	中層の上	I22	石塔	五輪塔	火輪		23.3	23.3	11.5		7,700.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	煤付着、錆付着
37	031	主屋	下層	F26	石塔	五輪塔	火輪		23.4	24.7	13.4		7,650.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	032	主屋	下層	G26	石塔	五輪塔	火輪		25.0	25.0	10.0		8,200.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	033	主屋	下層	G26	石塔	五輪塔	火輪		22.7	22.8	10.0		6,100.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	034	1号建物	下層	E24	石塔	五輪塔	火輪		20.0	19.8	7.5		4,400.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	035	1号建物	下層	E24	石塔	五輪塔	火輪		20.9	21.5	10.0		3,650.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	全体が磨耗、煤付着
37	036	西	上層	D27	石塔	五輪塔	火輪		24.9	24.2	14.1		10,000.0	80		凝灰角礫岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	037	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		24.8	(22.0)	12.0		7,200.0	60		安山岩		(梵字)		15世紀後半〜16世紀前半	墨書による梵字が薄く残る
37	038	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		(23.7)	21.5	12.3		7,000.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
37	039	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		23.8	22.7	11.5		7,700.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	全体が磨耗
38	040	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		18.0	17.7	8.0		3,450.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	041	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		22.5	22.6	8.9		5,100.0	50		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	042	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		23.3	23.7	(8.6)		5,100.0	40		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	上半分欠損
38	043	一括	−	−	石塔	五輪塔	火輪		(20.5)	(14.2)	10.4	孔径2.7−孔深2.7	3,000.0	40		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	上面に孔(四角)あり
38	044	東北	−	−	石塔	五輪塔	水輪		18.9	18.5	12.9	上径11.8−下径11.8	3,500.0	100		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	045	南西隅溝	下層	J28	石塔	五輪塔	水輪		19.6	19.4	11.5	上径13.3−下径12.6	3,600.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	046	東南	中層の上	H22	石塔	五輪塔	水輪		21.4	21.6	13.0	上径14.7−下径(13.5)	7,100.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	047	南西隅溝	下層	J28	石塔	五輪塔	水輪		19.3	19.1	14.1	上径10.3−下径10.6	5,800.0	100		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	048	東北	上層	F21	石塔	五輪塔	水輪		21.0	21.0	12.7	孔径4.6−孔深2.2	6,850.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	上面に孔(丸)あり、錆付着
38	049	東南	下層	I21	石塔	五輪塔	水輪		20.1	20.0	12.0	上径12.0−下径8.5	5,450.0	100		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	050	東北	上層	F22	石塔	五輪塔	水輪		17.4	16.8	12.4	上径11.1−下径11.1	4,500.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
38	051	東北	上層	F21	石塔	五輪塔	水輪		19.4	18.3	12.9	上径(13.5)−下径12.4	5,500.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	052	東北	上層	F23	石塔	五輪塔	水輪		21.3	21.0	(10.5)	上径 −下径13.0	5,400.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	053	東北	上層	H22	石塔	五輪塔	水輪		23.2	23.2	16.0	上径13.3−下径11.3	8,600.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	煤付着
39	054	東南	中層の上	H22	石塔	五輪塔	水輪		23.7	24.3	14.2	上径16.5−下径17.2	9,000.0	80		凝灰角礫岩		(梵字)		15世紀後半〜16世紀前半	墨書による梵字のあとが薄く残る
39	055	東南	中層の上	H21	石塔	五輪塔	水輪		19.4	20.0	14.7	上径11.9−下径	6,000.0	60		安山岩		(梵字)		15世紀後半〜16世紀前半	墨書による梵字のあとが薄く残る、加工痕あり
39	056	東北	上層	E23	石塔	五輪塔	水輪		20.7	21.0	13.5	上径12.6−下径11.4	6,820.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	057	東南	中層の上	H22	石塔	五輪塔	水輪		21.5	20.8	13.5	上径12.6−下径12.0	7,500.0	100		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	058	西	上層	D27	石塔	五輪塔	水輪		22.4	22.3	14.5	上径14.5−下径11.8	8,500.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	059	東南	中層の上	G23	石塔	五輪塔	水輪		(18.2)	19.6	(13.0)	上径(14.0)−下径(11.1)	5,650.0	70		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
39	060	西	上層	D27	石塔	五輪塔	水輪		22.7	22.0	13.4	上径14.2−下径13.5	8,500.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	煤付着
39	061	西一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		21.8	21.6	13.1	上径14.9−下径14.5	8,000.0	90		安山岩		(梵字)		15世紀後半〜16世紀前半	墨書による梵字のあとが薄く残る(八方向)
39	062	西一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		17.9	17.8	11.0	上径12.0−下径12.0	4,100.0	100		デイサイト				15世紀後半〜16世紀前半	
39	063	一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		19.3	19.8	13.0	上径10.8−下径12.0	5,900.0	70		安山岩		(梵字)		15世紀後半〜16世紀前半	墨書による梵字が薄く残る、煤付着
40	064	一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		18.8	18.4	11.4	上径12.3−下径(12.0)	4,800.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	加工痕あり
40	065	一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		22.6	21.1	(12.8)	上径 −下径16.0	5,700.0	60		凝灰角礫岩				15世紀後半〜16世紀前半	
40	066	西一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		24.6	24.0	15.7	上径18.2−下径18.4	10,000.0	60		凝灰角礫岩				15世紀後半〜16世紀前半	
40	067	一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		20.6	20.5	13.5	上径13.0−下径13.4	6,800.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	加工痕あり
40	068	一括	−	−	石塔	五輪塔	水輪		17.8	18.4	12.9	上径11.5−下径11.8	3,500.0	90		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	
40	069	主屋	上層	F24	石塔	五輪塔	地輪		19.9	20.0	13.7		9,000.0	80		安山岩				15世紀後半〜16世紀前半	全体に薄くサビ付着
40	070	東北	上層	F21	石塔	五輪塔	地輪		21.7	22.2	15.3		12,000.0	80		安山岩		(銘文・梵字)?		16世紀前半	四方面に墨書のあと(判読不能)、下部整成痕、煤付着、底部に加工痕あり
40	071	東北	上層	F22	石塔	五輪塔	地輪		22.3	23.1	15.2		13,000.0	100						16世紀前半	底部に加工痕あり

図版No	遺物No	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
48	178	東南	中層の上	G22	古銭			○○○寳	(銭径)2.45	(郭内径)2.00	(厚)0.12	孔0.81							—	—	摩滅
48	179	東南	中層の上	G22	古銭			元○通寳	(銭径)2.36	(郭内径)1.99	(厚)0.07	孔0.73							—	—	摩滅
48	180	東南	中層の上	G22	古銭			○祐○寳	(銭径)2.43	—	(厚)0.10	孔0.79							—	—	摩滅
48	181	東南	中層の上	G22	古銭			○○○寳	(銭径)2.34	(郭内径)1.87	(厚)0.13	孔0.67							—	—	摩滅
48	182	東南	中層の上	G22	古銭			○○○○	(銭径)2.33	(郭内径)1.96	(厚)0.10	孔0.65							—	—	摩滅
48	183	東南	中層の上	G22	古銭			○○通寳	(銭径)2.24	—	(厚)0.11	孔0.65							—	—	摩滅
48	184	東南	中層の上	G22	古銭			○元○寳	(銭径)2.35	—	(厚)0.07	孔0.72							—	—	摩滅
48	185	東南	中層の上	G22	古銭			○祐○寳	(銭径)2.36	(郭内径)1.79	(厚)0.11	孔0.64							—	—	摩滅
48	186	東南	中層の上	G22	古銭			○○○寳	(銭径)2.35	—	(厚)0.11	孔0.68							—	—	摩滅
48	187	東南	中層の上	G22	古銭			○平○寳	(銭径)2.37	(郭内径)1.81	(厚)0.09	孔0.60							—	—	摩滅
48	188	東南	中層の上	G22	古銭			○祐○寳	(銭径)2.40	—	(厚)0.12	孔0.67							—	—	摩滅
48	189	東南	—	G22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.44	(郭内径)2.09	(厚)0.13	孔0.65							明	1408年~	
48	190	東南	中層の上	G22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.33	(郭内径)2.00	(厚)0.15	孔0.64							明	1368年~	
48	191	東南	中層の上	G22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.35	(郭内径)2.00	(厚)0.14	孔0.64							明	1368年~	
48	192	東南	中層の上	G22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.35	(郭内径)2.00	(厚)0.13	孔0.64							明	1368年~	
48	193	東南	下層	G22	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.83	(厚)0.08	孔0.74							北宋	1038年~	
48	194	東南	下層	G22	古銭			太平通寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.86	(厚)0.11	孔0.65							北宋	976年~	
48	195	東南	中層の上	G22	古銭			不明	(銭径)2.21	—	(厚)0.09	孔0.73							—	—	摩滅
48	196	東南	下層	G22	古銭			慶元通寳	(銭径)2.39	—	(厚)0.11	孔0.74							南宋	1195年~	摩滅
48	197	東南	中層の上	G22	古銭			不明	—	—	(厚)0.11	—							—	—	1/2欠損
48	198	東南	—	G22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.21	(郭内径)1.89	(厚)0.09	孔0.67							明	1368年~	
48	199	東南	—	G22	古銭			天聖元寳	(銭径)2.46	(郭内径)1.98	(厚)0.12	孔0.72							北宋	1023年~	
48	200	東北	下層	D22	古銭			嘉定通寳	(銭径)2.41	(郭内径)2.05	(厚)0.12	孔0.67						「(背面)	南宋	1208年~	背文不明
48	201	東北	—	C22	古銭			○○元寳	(銭径)2.39	—	(厚)0.09	孔0.64							—	—	摩滅
49	202	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.54	(郭内径)2.09	(厚)0.12	孔0.58							明	1408年~	
49	203	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.48	(郭内径)2.14	(厚)0.13	孔0.63							明	1408年~	
49	204	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.47	(郭内径)2.09	(厚)0.11	孔0.59							明	1408年~	
49	205	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.43	(郭内径)1.91	(厚)0.12	孔0.62							明	1408年~	
49	206	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.51	(郭内径)2.08	(厚)0.12	孔0.64							明	1408年~	
49	207	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.47	(郭内径)2.03	(厚)0.15	孔0.60							明	1408年~	
49	208	東北	上層	F22	古銭			開元通寳	(銭径)2.35	(郭内径)1.92	(厚)0.12	孔0.69							唐	621年~	
49	209	東北	上層	F22	古銭			開元通寳	(銭径)2.33	(郭内径)2.00	(厚)0.12	孔0.70						「(背面)	唐	621年~	背文不明，摩滅
49	210	東北	上層	F22	古銭			開元通寳	(銭径)2.42	(郭内径)2.11	(厚)0.11	孔0.89							唐	621年~	
49	211	東北	上層	F22	古銭			開元通寳	(銭径)2.39	(郭内径)1.84	(厚)0.10	孔0.68							唐	621年~	
49	212	東北	上層	F22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.31	(郭内径)1.98	(厚)0.14	孔0.61							明	1368年~	
49	213	東北	上層	F22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.34	(郭内径)2.02	(厚)0.14	孔0.61							明	1368年~	摩滅
49	214	東北	上層	F22	古銭			天聖元寳	(銭径)2.42	(郭内径)2.06	(厚)0.11	孔0.78							北宋	1023年~	摩滅
49	215	東北	上層	F22	古銭			天聖元寳	(銭径)2.47	(郭内径)2.08	(厚)0.13	孔0.71							北宋	1023年~	
49	216	東北	上層	F22	古銭			天禧通寳	(銭径)2.42	(郭内径)1.82	(厚)0.10	孔0.67							北宋	1017年~	
49	217	東北	上層	F22	古銭			天禧通寳	(銭径)2.34	(郭内径)1.80	(厚)0.09	孔0.63							北宋	1057年~	摩滅
49	218	東北	上層	F22	古銭			熙寧元寳	(銭径)2.35	(郭内径)1.96	(厚)0.17	孔0.61							北宋	1068年~	
49	219	東北	上層	F22	古銭			熙寧元寳	(銭径)2.33	(郭内径)1.84	(厚)0.13	孔0.68							北宋	1068年~	
49	220	東北	上層	F22	古銭			元豊通寳	(銭径)2.43	(郭内径)1.97	(厚)0.10	孔0.71							北宋	1078年~	
49	221	東北	上層	F22	古銭			元豊通寳	(銭径)2.42	(郭内径)1.82	(厚)0.15	孔0.63							北宋	1078年~	
49	222	東北	上層	F22	古銭			政和通寳	(銭径)2.43	(郭内径)2.16	(厚)0.11	孔0.67							北宋	1111年~	
49	223	東北	上層	F22	古銭			政和通寳	(銭径)2.36	—	(厚)0.14	孔0.68							北宋	1111年~	摩滅
49	224	東北	上層	F22	古銭			政和通寳	(銭径)2.38	(郭内径)2.13	(厚)0.13	孔0.70							北宋	1111年~	
49	225	東北	上層	F22	古銭			宣徳通寳	(銭径)2.31	(郭内径)2.06	(厚)0.14	孔0.58							明	1433年~	
49	226	東北	上層	F22	古銭			景祐元寳	(銭径)2.46	(郭内径)2.06	(厚)0.12	孔0.69							北宋	1034年~	
49	227	東北	上層	F22	古銭			大観通寳	(銭径)2.44	(郭内径)2.11	(厚)0.12	孔0.69							北宋	1107年~	
49	228	東北	上層	F22	古銭			元符通寳	(銭径)2.42	(郭内径)1.96	(厚)0.12	孔0.70							北宋	1098年~	
49	229	東北	上層	F22	古銭			紹興元寳	(銭径)2.43	—	(厚)0.08	孔0.74							南宋	1131年~	摩滅
49	230	東北	上層	F22	古銭			景徳元寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.95	(厚)0.09	孔0.62							北宋	1004年~	ひび割れ
49	231	東北	上層	F22	古銭			淳熙元寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.82	(厚)0.10	孔0.70						離?(背面)	南宋	1174年~	
49	232	東北	上層	F22	古銭			不明	(銭径)2.38	—	(厚)0.13	孔0.77							—	—	ひび割れ，摩滅
49	233	東北	上層	F22	古銭			不明	(銭径)2.40	—	(厚)0.14	孔0.64							—	—	摩滅
49	234	東北	上層	F22	古銭			不明	(銭径)2.39	—	(厚)0.10	孔0.61							—	—	摩滅
49	235	東北	上層	F22	古銭			○○○寳	(銭径)2.38	(郭内径)2.07	(厚)0.15	孔0.72							—	—	摩滅
49	236	東北	上層	F22	古銭			元○○寳	(銭径)2.39	—	(厚)0.09	孔0.65							—	—	摩滅
49	237	東北	上層	F22	古銭			元○○寳	(銭径)2.40	—	(厚)0.10	孔0.72							—	—	摩滅
49	238	東北	上層	F22	古銭			不明	(銭径)2.43	—	(厚)0.10	孔0.71							—	—	摩滅
49	239	東北	上層	F22	古銭			○○○寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.90	(厚)0.12	孔0.71							—	—	摩滅
49	240	東北	上層	F22	古銭			朝鮮通寳	(銭径)2.38	(郭内径)2.00	(厚)0.11	孔0.60							朝鮮	1423年~	
49	241	東北	上層	F22	古銭			元豊通寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.89	(厚)0.16	孔0.75							北宋	1078年~	
50	242	東北	下層	F22	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.44	(郭内径)2.03	(厚)0.12	孔0.73							北宋	1038年~	
50	243	東北	上層	F22	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.42	(郭内径)1.74	(厚)0.10	孔0.70							北宋	1038年~	
50	244	東北	下層	F22	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.49	(郭内径)1.95	(厚)0.11	孔0.77							北宋	1038年~	摩滅
50	245	東北	中層	F22	古銭			洪武通寳	(銭径)2.30	(郭内径)1.90	(厚)0.15	孔0.64							明	1368年~	
50	246	東北	上層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.52	(郭内径)2.07	(厚)0.14	孔0.60							明	1408年~	
50	247	東北	下層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.40	(郭内径)2.02	(厚)0.10	孔0.62							明	1408年~	
50	248	東北	下層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.41	(郭内径)2.06	(厚)0.10	孔0.62							明	1408年~	
50	249	東北	下層	F22	古銭			永楽通寳	(銭径)2.45	(郭内径)2.00	(厚)0.12	孔0.62							明	1408年~	
50	250	東北	上層	F22	古銭			元祐通寳	(銭径)2.31	(郭内径)1.97	(厚)0.10	孔0.71							北宋	1086年~	
50	251	東北	下層	F22	古銭			至和元寳	(銭径)2.35	(郭内径)2.01	(厚)0.13	孔0.65							北宋	1054年~	
50	252	東北	下層	F22	古銭			不明	(銭径)2.47	(郭内径)1.97	(厚)0.11	孔0.72							—	—	摩滅
50	253	東北	下層	F22	古銭			紹熙元寳	(銭径)2.30	(郭内径)2.00	(厚)0.09	孔0.63						「(背面)	南宋	1190年~	
50	254	東北	上層	F22	古銭			不明	(銭径)2.44	—	(厚)0.11	孔0.73							—	—	摩滅
50	255	東北	—	F22	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.50	(郭内径)1.92	(厚)0.12	孔0.75							北宋	1038年~	
50	256	東北	—	F21	古銭			政和通寳	(銭径)2.37	(郭内径)2.11	(厚)0.11	孔0.64							北宋	1111年~	
50	257	東北	—	F21	古銭			永楽通寳	(銭径)2.40	(郭内径)2.05	(厚)0.10	孔0.63							明	1408年~	
50	258	東北	—	F21	古銭			元豊通寳	(銭径)2.34	—	(厚)0.11	孔0.70							北宋	1078年~	
50	259	東北	—	F21	古銭			熙寧元寳	(銭径)2.39	—	(厚)0.14	孔0.70							北宋	1068年~	
50	260	東北	上層	E21	古銭			永楽通寳	(銭径)2.46	(郭内径)2.17	(厚)0.12	孔0.61							明	1408年~	
50	261	東北	上層	F21	古銭			寛永通寳	(銭径)2.30	(郭内径)1.90	(厚)0.11	孔0.64							日本	1636年~	ひび割れ
50	262	東南	上層	G23	古銭			皇宋通寳	(銭径)2.27	(郭内径)1.84	(厚)0.08	孔0.72							北宋	1038年~	
50	263	東北	下層	E24	古銭			開元通寳	(銭径)2.39	(郭内径)2.00	(厚)0.10	孔0.72						上月または上下月?(背面)	唐	621年~	
50	264	東北	中層	E24	古銭			○元通寳	(銭径)2.44	(郭内径)2.09	(厚)0.11	—							—	—	1/4欠損
50	265	東北	下層	E22	古銭			不明	(銭径)2.36	—	(厚)0.09	孔0.61							—	—	摩滅
50	266	東南	下層	H22	古銭			元豊通寳	(銭径)2.45	(郭内径)1.93	(厚)0.11	孔0.76							北宋	1078年~	東1号溝内
50	267	東南	下層	H22	古銭			天禧通寳	(銭径)2.46	(郭内径)1.96	(厚)0.11	孔0.67							北宋	1017年~	
50	268	東南	下層	H22	古銭			不明	(銭径)2.30	—	(厚)0.07	孔0.77							—	—	摩滅
50	269	東北	下層	D28	古銭			永楽通寳	(銭径)2.40	—	(厚)0.12	孔0.61							明	1408年~	摩滅
50	270	東南	下層	H24	古銭			不明	(銭径)2.29	—	(厚)0.10	孔0.68							—	—	摩滅
50	271	東南	下層	H23	古銭			不明	(銭径)2.29	—	(厚)0.09	孔0.69							—	—	摩滅
50	272	東南	下層	H23	古銭			不明	(銭径)2.28	—	(厚)0.10	孔0.63							—	—	摩滅
50	273	東南	中層の上	H23	古銭			開元通寳	(銭径)2.49	(郭内径)2.05	(厚)0.14	孔0.70						上月(背面)	唐	621年~	ひび割れ
50	274	東北	下層	D23	古銭			政和通寳	(銭径)2.42	(郭内径)2.08	(厚)0.11	孔0.66							北宋	1111年~	
50	275	東北	下層	D23	古銭			天聖元寳	(銭径)2.52	(郭内径)2.12	(厚)0.12	孔0.74							北宋	1023年~	
50	276	東北	上層	E23	古銭			元祐通寳	(銭径)2.37	(郭内径)1.96	(厚)0.12	孔0.75							北宋	1086年~	摩滅
50	277	東南	下層	E23	古銭			景徳元寳	(銭径)2.40	(郭内径)1.89	(厚)0.12	孔0.63							北宋	1004年~	
50	278	[illegible]	下層	D24	古銭			熙寧元寳	(銭径)2.41	(郭内径)2.02	(厚)0.14	孔0.68							北宋	1068年~	
50	279	東北	下層	D24	古銭			祥○通○	(銭径)2.49	—	(厚)0.13	孔0.55							—	—	割れ
50	280	1号溝内	下層	E27	古銭			元豊通寳	(銭径)2.36	(郭内径)1.88	(厚)0.12	孔0.72							北宋	1078年~	
50	281	東北	—	E27	古銭			嘉祐元寳	(銭径)2.45	(郭内径)1.95	(厚)0.10	孔0.68							北宋	1056年~	
51	282	—	—	西一括	古銭			不明	(銭径)2.34	—	(厚)0.11	孔0.69							—	—	
51	283	—	—	一括	古銭			熙寧元寳	(銭径)2.34	(郭内径)1.95	(厚)0.14	孔0.74							北宋	1068年~	
51	284	—	—	一括	古銭			祥符元寳	(銭径)2.18	(郭内径)1.89	(厚)0.10	孔0.68							北宋	1009年~	
51	285	—	—	一括	古銭			永楽通寳	(銭径)2.42	(郭内径)2.04	(厚)0.10	孔0.60							明	1408年~	
51	286	—	—	一括	古銭			洪武通寳	(銭径)2.39	(郭内径)1.92	(厚)0.15	孔0.60							明	1368年~	
51	287	—	—	一括	古銭			洪武通寳	(銭径)2.33	(郭内径)2.09	(厚)0.10	孔0.72							明	1368年~	
51	288	—	—	西一括	古銭			一銭	(銭径)2.30	—	(厚)0.13	—							日本	大正5~昭和13	桐一銭青銅貨
51	289	—	—	一括	古銭			不明	(銭径)2.79	—	(厚)0.17	—							—	—	摩滅
52	290	東北	下層	E22	土器	皿	灯明皿	Ⅱb	10.8	6.0	2.2			70	明黄褐 10YR6/6	白色粒子・金雲母	回転糸切底，ロクロ			15世紀前半	内面煤付着
52	291	東北	下層	E23	土器	皿	灯明皿	Ⅱa	12.2	6.0	2.8			80	褐灰 7.5YR6/1	金雲母	回転糸切底，ロクロ			15世紀前半	内外面共に黒色付着物あり
52	292	東北	下層	F21	土器	皿		Ⅳb	10.8	5.5	2.6			90	橙 7.5YR6/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底，ロクロ			15世紀前半	
52	293	東北	下層	E22	土器	皿		Ⅳb	10.2	5.8	2.2			100	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底，ロクロ			15世紀前半	

図版No.	遺物No.	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値（cm）※（　）は残存寸法				重量	残存率	色調	胎土・石材	成形	文字・墨印	推定産地	推定年代	備考
									口径／横	底径／縦	器高／厚	その他	(g)	(%)							
32	294	東北	下層	E23-F23	土器	皿		Ⅳa	12.7	7.5	3.0			90	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	295	東北	下層	F23	土器	皿		Ⅱ	8.6	5.3	2.5			100	橙5YR6/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	外面煤付着
32	296	東北	下層	E24	土器	皿		Ⅱb	9.6	5.8	2.3			100	橙 7.5YR6/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	内面煤付着
32	297	東北	下層	D21	土器	皿			(7.8)	4.4	1.9			30	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	298	東北	下層	F22	土器	皿		Ⅲb	10.6	6.0	2.1			20	にぶい褐 7.5YR6/3	黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	299	東北	下層	E23	土器	皿		Ⅱ	9.7	5.5	2.3			100	橙 7.5YR7/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	内面底部煤付着
32	300	東北	下層	E22	土器	皿			(12.4)	(7.0)	2.4			20	にぶい黄橙 10YR7/2	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	301	東北	下層	E21	土器	皿			(10.0)	(6.5)	2.0			50	明黄褐 10YR7/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	302	東北	下層	E22・F23	土器	皿			(11.4)	(5.6)	2.7			40	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	303	東北	下層	D22	土器	皿			(8.0)	(3.6)	(1.9)			50	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	304	東北	下層	E22	土器	皿			7.4	－	(1.4)			10	灰黄 2.5Y6/2	黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	305	東北	下層	D22	土器	鉢	香炉	Ⅵ（三足）	7.4	5.4	3.6			100	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	306	東北	下層	F23	土器	鉢	香炉	Ⅵ（三足）	8.2	6.8	4.1			50	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	307	東北	下層	E23	土器	鉢	香炉	Ⅵ（三足）	(11.6)	(7.4)	(3.6)			50	灰黄 2.5Y7/2	赤・白色砂礫	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	外面黒く塗装されている
32	308	東北	下層	F23・24	土器	皿			－	5.0	1.0			20	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	
32	309	東北	下層	D21・22	土器	鉢	香炉	Ⅵ（三足）	(9.0)	(7.0)	4.1			30	にぶい黄橙 10YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半	内外面共にヘラ状工具痕あり
32	310	東北	下層	D23・28	陶器	椀		天目形	－	(4.2)	(4.4)			20		灰白	腰下～高台内無釉		瀬戸系	15世紀後半	古瀬戸
32	311	東北	下層	D22	陶器	皿	小皿	端反皿	(12.0)	－	(2.5)			20					瀬戸・美濃	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，貫入あり
32	312	東北	下層	D22	陶器	水注	水滴	水注形	2.0	2.1	3.1	胴最大幅4.6		100			底部内面無釉，口縁部施釉，回転糸切痕			15世紀後半	古瀬戸，鉄釉
32	313	東北	下層	D22	陶器	皿	小皿	端反皿	(11.2)	(5.8)	2.7			30			全面施釉		瀬戸・美濃	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，焼成痕あり（つや消）
32	314	東北	下層	E22	陶器	蓋			－		(2.4)	つまみ幅2.5		20		灰白	内面無釉			平安	灰釉
53	315	東北	下層	D22	陶器	皿	小皿	反皿	10.6	5.8	2.4			70			全面施釉		瀬戸・美濃	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，見込に型押（印花文），高台内に溶着痕あり
53	316	東北	下層	D22・23・24・E21・22・23・24・F21・22・23・G21・22・26・H22・I23・J23	陶器	壺	大壺	四耳壺・瓶形	(12.5)	(34.0)	(43.0)			40			錆釉塗り，底部～胴の一部塗りなし，内面輪つみ痕，指頭痕あり		瀬戸系	15世紀後半	古瀬戸（後期），鉄釉，用途葉茶壺
53	317	東北	下層	E20	陶器	壺	広口壺		－	10.0	(11.5)			50		灰白	底部無釉，回転糸切痕		瀬戸系	15世紀後半	古瀬戸（後4期新），鉄釉，見込に胎土目痕3点あり
53	318	東北	下層	F22	須恵器	蓋			(16.8)	－	(1.5)			10		灰				平安	
53	319	東北	下層	E23	漆器	蓋			13.0	－	(2.4)	－									内面漆は剥離，黒色の漆が若干残る，外面黒漆に朱漆の文様あり
53	320	東北	下層	E23	漆器	椀			(8.2)	(6.8)	(1.8)	高台高さ1.7						双子			内面朱漆，見込み部を残して炭化，外面黒漆，底部朱漆で銘あり
53	321	東北	下層	E23	漆器	椀			－	－	(1.7)	－						双子			外面黒漆，内面炭化，底部朱漆で銘あり
53	322	東北	上層	E23	土器	皿		Ⅴc	6.8	3.6	1.7			100	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母・石英	回転糸切痕，ロクロ	秀		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり
53	323	東北	上層	E23	土器	皿		Ⅴc	6.5	3.0	1.8			100	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色砂礫	回転糸切痕，ロクロ	道		15世紀後半～16世紀前半	内面墨書あり
53	324	東北	上層	E23	土器	皿		Ⅴb	10.2	5.4	2.5			100	橙 7.5YR6/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	秀		15世紀後半～16世紀前半	内面墨書あり
53	325	東北	上層	E23	土器	皿		Ⅴ	6.3	3.2	2.2			100	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	松		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり
53	326	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅴd	7.6	3.7	2.5			100	橙 7.5YR7/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
53	327	東北	上層	E23	土器	皿		Ⅴc	6.5	3.5	1.8			80	にぶい橙 7.5YR7/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	香		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり
53	328	東北	上層	F22	土器	皿			(9.3)	4.3	2.5			40	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	香		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり
53	329	東北	上層	F22	土器	皿		Ⅴc	6.9	4.0	2.0			100	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
53	330	東北	中層	E23	土器	皿			－	(4.8)	(1.0)			10	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子	回転糸切痕，ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり（判読不能）
54	331	東北	中層	E23	土器	皿			12.0	6.0	2.5			100	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面ともに白色粉状付着物，線状付着物あり
54	332	東北	中層	E23	土器	皿	灯明皿	Ⅲc	7.8	4.1	1.9			100	にぶい赤褐 2.5YR5/3	赤・白・黒色粒子	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面ともに煤付着
54	333	東北	中層	E22	土器	皿	灯明皿	Ⅲc	7.5	3.7	1.7			70	にぶい黄橙 10YR6/3	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面一部煤付着
54	334	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅱa（円Ⅴ）	11.4	5.8	3.0			90	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	底部墨書あり（判読不能）
54	335	東北	中層	F22	土器	皿			(7.2)	(4.4)	1.3			40	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	336	東北	中層	F23	土器	皿		Ⅱb	10.8	6.5	1.8			40	にぶい黄橙 10YR6/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	337	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅳa	12.5	6.8	2.7			70	にぶい褐 7.5YR6/3	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着
54	338	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅱ	10.6	6.1	3.1			40	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	339	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅱa	11.9	6.0	3.0			100	にぶい黄橙 10YR7/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	340	東北	中層	F23	土器	皿		Ⅱ	8.4	5.0	2.2			80	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	341	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅲc	8.0	4.4	1.7			100	にぶい黄橙 10YR7/2	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面ヘラ状工具によるロクロナデあり
54	342	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅲb	9.3	5.0	2.4			100	橙 7.5YR6/6	赤・白・黒色粒子	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁部ゆがみ大，外面工具痕あり
54	343	東北	中層	F23	土器	皿			7.4	4.0	1.3			50	にぶい褐 7.5YR5/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	344	東北	中層	F21	土器	皿	灯明皿	Ⅲc	7.0	4.3	2.1			100	にぶい黄褐 10YR5/4	赤・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	345	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅲc	7.0	4.0	1.4			100	にぶい橙 7.5YR7/4	赤・白・黒色粒子	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁部変形
54	346	東北	中層	E21	土器	皿			(7.0)	(4.0)	1.7			30	にぶい黄橙 10YR7/2	金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着，白色付着物あり
54	347	東北	中層	E23	土器	皿			(7.5)	(4.8)	1.4			30	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	348	東北	中層	F21	土器	皿		Ⅳ	14.0	8.0	2.4			25	にぶい橙 7.5YR7/4	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	349	東北	中層	F22	土器	皿			(13.0)	(7.0)	2.5			40	橙 7.5YR6/6	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	350	東北	中層	E23	土器	皿		Ⅲc	7.4	4.3	1.9			80	にぶい橙 7.5YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	351	東北	中層	F21	土器	皿			(10.8)	(6.0)	3.0			20	橙5YR6/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	352	東北	中層	F23	土器	皿			(8.8)	4.0	1.9			30	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	353	東北	中層	F22	土器	皿			(10.0)	(6.0)	2.0			20	にぶい黄橙 10YR7/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	354	東北	中層	F23	土器	皿			(7.6)	(4.6)	1.7			40	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	

図版No	遺物No	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
54	355	東北	中層	E23	土器	皿			(7.0)	(4.4)	1.7			20	にぶい褐7.5YR5/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着
54	356	東北	中層	E22	土器	皿			12.0	—	—			細片	明赤褐5YR5/6	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁部ヘラ成形
54	357	東北	中層	E23	土器	皿			—	6.0	—			20	にぶい橙7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	358	東北	中層	E23	土器	皿			—	(4.5)	(1.4)			30	にぶい黄橙10YR7/3	赤・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
54	359	東北	中層	F23	土器	皿			(7.0)	(4.0)	(1.5)			20	にぶい黄橙10YR6/4	赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面ヘラ状工具によるナデあり
54	360	東北	中層	E22	土器	鉢	香炉	Ⅵ(三足)	—	(6.8)	(3.5)			20	にぶい橙7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫	回転糸切痕、ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	見込部わずかに磨滅あり，口縁部から底部まで煤付着
55	361	東北	中層	E22	陶器	皿			—	(5.8)	(1.7)			20			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	灰釉，見込に型押（印花文），高台内に溶着痕，貫入あり
55	362	東北	下層	D23	陶器	碗	中碗	天目形	(11.8)	—	(3.9)			10		灰白			瀬戸系		鉄釉
55	363	東北	中層	E22	陶器	壺	大壺	甕形	(11.6)	—	(12.0)			10		灰褐	口縁折返し		常滑	15世紀前半	
55	364	東北	中層	E22	磁器	碗	中碗	丸形	—	(3.8)	(3.3)			10		灰白	畳付無釉		肥前系	17世紀	近世，高台見込，染付透明釉，外面文様，内面に錆付着
55	365	東北	上層	F22	土器	皿		Va	12.8	7.0	2.3			70	にぶい橙7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面ヘラ状工具によるナデあり
55	366	東北	上層	E23	土器	皿			(12.0)	7.0	2.3			50	にぶい橙7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面ヘラ状工具によるナデあり
55	367	東北	上層	E23	土器	皿		Vd	8.2	4.0	2.4			100	にぶい橙7.5YR7/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
55	368	東北	上層	F21	漆器	椀			—	—	(1.3)	—						花子			内面朱漆，外面黒漆，底部に朱漆で銘あり，一部炭化
55	369	東北	上層	E23	土器	皿			(11.6)	(5.4)	2.6			60	にぶい橙7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
55	370	東北	上層	D23	土器	皿		Vd	8.4	4.1	2.4			80	にぶい黄橙10YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	全体に変形
55	371	東北	上層	E22	土器	皿		Ve	7.6	4.0	2.0			90	にぶい黄橙10YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面ヘラ状工具によるロクロナデあり
55	372	東北	上層	D24	土器	皿		Vc	7.3	4.5	2.0			100	明黄褐10YR7/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
55	373	東北	上層	E22	土器	皿			(9.6)	(6.0)	2.2			30	にぶい黄橙10YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
55	374	東北	上層	E23	土器	皿			(11.6)	—	(2.1)			10	にぶい黄橙10YR6/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に黒白色の付着物あり
55	375	東北	上層	E23	土器	皿			(11.4)	—	(2.4)			30	にぶい褐7.5YR5/3	赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
55	376	東北	上層	F22	陶器	皿	小皿	端反皿	—	5.8	(1.4)			20			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，高台内の溶着痕の上に黒色の付着物3点，貫入あり，見込に型押（印花文）
55	377	東北	上層	E22・F22	陶器	皿	小皿	端反皿	(10.0)	5.2	2.3			30					瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，高台内溶着痕，見込に白釉で花形の文様あり（印花文）
55	378	東北	上層	F21	陶器	蓋			4.3	—	1.4	つまみ径1.8		100			つまみ上部回転糸切痕，無釉		瀬戸系	14世紀後半～15世紀前半	灰釉
55	379	東北	上層	E19	陶器	皿	五寸皿	端反皿	(15.2)	(9.0)	3.3			40			見込部釉剥ぎ，他は施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，焼成痕あり（見込），高台内溶着痕あり
55	380	東北	上層	E23	陶器	瓶			—	—	(2.5)			10			櫛描痕		瀬戸系	15世紀前半	古瀬戸，灰釉，外面ケシ掻き波状紋，内面口縁部施釉
55	381	東北	上層	E25	磁器	蓋	中碗蓋		(10.0)	—	(2.0)			10		白				18世紀前半	近世，外面絵文様，内面・蓋裏，見込に一重圏あり
55	382	東北	—	F22	陶器	皿	小皿	端反皿	(9.0)	—	(2.2)			10					瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，貫入あり
56	383	東北	—	—	土器	鍋		深め	(32.0)	—	(15.7)										
56	384	東北	—	—	陶器	鉢	香炉	浅鉢形	(9.8)	—	(4.7)			20			内面無釉		瀬戸系		[illegible]，灰釉
56	385	東北	—	—	陶器	皿	小皿		(10.7)	—	(1.6)			10					美濃系	16世紀前半	志野焼
56	386	東北	—	—	陶器	皿	五寸皿	端反皿	(15.0)	(9.0)	3.2			30		灰白	見込部ドーナツ状に釉剥ぎ		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯Ⅰ，灰釉，見込部煤付着，貫入，焼成痕あり（見込），高台内に溶着痕
56	387	東北	—	—	磁器	碗	中碗	丸形	(9.6)	(4.0)	5.0			20		灰白	畳付無釉，砂付着			18世紀前半	近世，こんにゃく印，透明釉，外面文様丸に桐文あり
56	388	東北	—	—	磁器	皿	小皿		—	—	(1.5)			細片		白					近世，口紅，変形小皿－菊皿か？
56	389	東北	下層	E23	木製品	ヘラ状製品	不明	ナイフ形	1.6	15.3	0.6										
56	390	東北	下層	E23	木製品	板	墨書板		3.3	14.5	1.5							—			片面墨書あり（判読不能）
56	391	東北	下層	E23	木製品	板	墨書板		2.0	(10.6)	0.5										両面墨書あり（判読不能）
56	392	東北	下層	E23	木製品	六角板	不明		6.1	12.9	0.8										六角形の板状，中央に円形の彫り込み，針穴痕あり
56	393	東北	下層	E23	木材	角棒	不明		3.8	22.3	3.0										
56	394	東北	下層	E23	骨角	鹿角			3.2	16.3	2.0		43.0								
56	395	東北	下層	D23	骨角	馬歯			2.7	6.2	1.6		20.0								
56	396	東北	下層	D23	金属(鉄)		釘		0.6	(5.1)	0.7		2.9								
56	397	東北	下層	D22	金属(鉄)		火箸		0.6	(17.1)	0.4		6.3								
56	398	東北	下層	E23	金属(鉄)		刀子		1.5	(13.6)	0.4		9.4								
56	399	東北	下層	E23	金属(鉄)		刀子		1.5	(13.3)	0.3		10.7								
56	400	東北	下層	D23	金属(鉄)		針		1.5	8.2	0.6		7.8								
56	401	東北	下層	F22	金属(鉄)		不明		1.3	6.5	0.2		3.9								板状
56	402	東北	下層	E23	金属(鉄)		釘		0.4	(6.2)	0.5		1.3								
56	403	東北	下層	D23	金属(鉄)		針		0.8	3.2	0.5		1.5								
56	404	東北	下層	F21	金属(鉄)		針		0.7	2.7	0.4		2.1								
56	405	東北	下層	F21	金属(鉄)		不明		0.8	3.6	0.2		0.9								
56	406	東北	下層	D22	石製品		磨石		10.3	14.6	8.5		777.0			軽石					磨り痕あり
57	407	東北	中層	F23	石製品		硯		3.4	6.3	1.4		47.0	100		粘板岩					粘板岩，側面裏面にカンナ痕，全体に墨付着
57	408	東北	中層	F22	石製品		硯		2.6	7.1	0.9		32.0	100		粘板岩					粘板岩，表面裏面にカンナ痕あり
57	409	東北	中層	E23	石製品		硯		2.6	(6.3)	1.0		29.6	80		粘板岩					粘板岩，内面海に研磨痕，裏面に線条痕，墨付着
57	410	東北	中層	E23	石製品		硯		3.0	(10.1)	1.5		76.0	90		粘板岩					粘板岩，裏面にカンナ痕，表面に墨付着，角が面取りされている
57	411	東北	中層	E23	石製品		砥石		3.0	9.0	1.8		32.0			凝灰岩					
57	412	東北	中層	F22	石製品		砥石		3.7	(6.3)	0.6		24.0			粘板岩					
57	413	東北	中層	E23	石製品		砥石		3.6	(6.4)	1.1		43.0			粘板岩					
57	414	東北	中層	F22	石製品		砥石		3.3	(7.5)	(0.5)		16.0			粘板岩					
57	415	東北	中層	E20	石製品		砥石		3.0	(7.3)	(0.6)		17.0			粘板岩					
57	416	東北	中層	E23	石製品		砥石		3.4	(7.4)	3.4		199.0			凝灰岩					
57	417	東北	中層	F22	木製品	箸状製品			0.7	26.1	0.4										
57	418	東北	中層	F23	木製品	箸状製品			0.6	27.3	0.3										
57	419	東北	中層	F22	木製品	箸状製品			0.5	24.9	0.4										
57	420	東北	中層	F22	木製品	箸状製品			0.7	24.1	0.4										
57	421	東北	中層	E22	木製品	箸状製品			0.7	(22.6)	0.7										両端炭化
57	422	東北	中層	F23	木製品	箸状製品			0.6	19.4	0.3										
57	423	東北	中層	F23	木製品	箸状製品			0.5	21.3	0.5										
57	424	東北	中層	F22	木製品	箸状製品			0.6	(20.8)	0.4										
57	425	東北	中層	F23	木製品	箸状製品			0.4	(19.7)	0.3										
57	426	東北	中層	F23	木製品	箸状製品			0.6	(13.4)	0.6										
57	427	東北	中層	E23	木製品	箸状製品			1.6	(16.6)	1.2										
57	428	東北	中層	F23	木製品		曲げ物底板		(4.2)	(11.5)	0.7										2箇所に円孔あり
57	429	東北	中層	F22	木片				9.0	8.7	1.9										
57	430	東北	中層	F22	木製品		的(?)(?)		7.5	7.5	1.0										円盤形，中央に黒墨で3重の円が描かれている
57	431	東北	中層	F22	木製品	ヘラ状製品	[illegible]	さじ形	2.5	(15.2)	0.3										
57	432	東北	中層	F23	木製品	ヘラ状製品		ナイフ形	2.5	21.9	2.3										
58	433	東北	中層	F22	漆器	椀			5.3	25.0	0.9										両面に黒漆，白色付着物あり
58	434	東北	中層	F23	木製品	宝珠			6.0	14.3	4.8										全体に炭化
58	435	東北	中層	F22	漆器	椀			4.8	22.8	0.8										両面に黒漆，白色付着物あり
58	436	東北	中層	F22	骨角	鹿角			11.2	20.1	5.5		238.0								
58	437	東北	中層	F22	骨角	鹿角			13.7	16.3	6.8		150.0								
58	438	東北	中層	F23	骨角	鹿角			4.2	17.1	2.1		54.0								
58	439	東北	中層	F23	骨角	猪の牙			2.1	11.6	1.5		39.0								
58	440	東北	中層	F22	金属(鉄)		釘		0.4	(13.5)	0.3		3.8								
58	441	東北	上層	F22	金属(鉄)		刀子		1.3	20.9	0.3		16.9								
58	442	東北	中層	F22	金属(鉄)		毛抜き		1.3	9.2	0.4		13.7								
58	443	東北	中層	F20	金属(鉄)		釘		0.4	(4.4)	0.4		1.4								
58	444	東北	上層	F22	金属(鉄)		鉄鏃		1.3	7.9	1.0		8.7								
58	445	東北	中層	F22	金属(鉄)		釘		0.4	(4.0)	0.3		0.4								

図版No	遺物No	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
63	521	東南	中層の上	H23	土器	皿		IIc	6.6	3.9	1.6			90	橙 7.5YR6/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	522	東南	中層の上	G22	土器	皿		IIa	11.4	6.0	2.9			90	橙5YR6/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	外面煤付着
63	523	東南	中層の上	G21	土器	皿		IVa	12.6	7.0	2.7			100	にぶい橙 2.5YR6/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	524	東南	中層の上	H23	土器	皿		IVb	10.0	5.4	2.3			100	明黄褐 10YR7/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	525	東南	中層の上	G23	土器	皿	灯明皿	IIc	7.0	4.2	1.6			80	にぶい橙 7.5YR6/4	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	内外面共に油煙付着
63	526	東南	中層の上	H22	土器	皿		IIIb	10.2	4.9	2.5			70	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	内面一部煤付着、外面底部煤付着
63	527	東南	中層の上	G23	土器	皿		IIIc	8.3	4.5	1.9			80	にぶい橙 7.5YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	528	東南	中層の上	H20	土器	皿		IV	9.0	4.8	2.2			100	橙 7.5YR6/6	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	529	東南	中層の上	G22	土器	皿		IIIc	7.5	4.4	1.9			100	明黄褐 10YR7/6	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	530	東南	中層の上	H23	土器	皿		IIc	7.0	3.4	1.9			70	浅黄橙 7.5YR7/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	531	東南	中層の上	H23	土器	皿		IIIb	10.2	5.2	2.4			30	にぶい黄橙 2.5YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	口縁一部煤付着
63	532	東南	中層の上	G22	土器	皿		III	9.1	4.7	2.8			80	明黄褐 2.5YR7/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	533	東南	中層の上	G22	土器	鉢	香炉?	VI(三足?)	9.0	5.8	3.4			40	淡橙 10R6/6	黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	534	東南	中層の上	G22	土器	皿			7.0	4.0	1.8			90	灰黄褐 10YR6/2	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	535	東南	中層の上	I22	土器	皿			(11.2)	(6.2)	2.2			30	灰黄褐 10YR6/2	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	536	東南	中層の上	H22	土器	皿			(10.0)	(5.0)	2.5			20	灰黄褐 10YR6/2	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	537	東南	中層の中	E23	土器	皿			–	(8.6)	(2.0)			30	にぶい黄 2.5Y6/3	赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	538	東南	中層の上	H23	土器	鉢	香炉	VI(三足)	8.0	6.0	4.2			100	にぶい橙 2.5YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀前半～16世紀前半	
63	539	東南	中層の上	G22	土製品		[illegible]		1.9	3.3	0.8			100	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子・金雲母	ヘラナデ				
63	540	東南	中層の上	H22	土製品	円盤	めんこ(泥面子)?		2.5	2.3	0.5			100	にぶい褐 7.5YR6/3	白・黒色砂礫・金雲母				15世紀前半～16世紀前半	
64	541	東南	中層の中	G21	陶器	皿	小皿	端反皿	11.8	2.8	6.5			60		灰白	全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀前半～16世紀前半	大窯I、灰釉、見込に型押(印花文)、高台内の溶着痕の上に朱色の付着物3点、焼継(漆)、貫入あり
64	542	東南	中層の中	I22	陶器	皿	–		–	6.2	(1.3)			20		灰白	全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀前半～16世紀前半	大窯I、灰釉、見込に型押(印花文)、高台内の溶着痕の上に朱色の付着物3点、貫入あり
64	543	東南	中層の中	H22	陶器	皿	卸皿		–	–	(4.0)			10			底部無釉		瀬戸系	15世紀前半	古瀬戸、灰釉
64	544	東南	中層の中	F25·G25·H25	陶器	壺	大壺	四耳	(12.4)	12.6	34.0			40			叩目痕あり		常滑	13世紀	自然釉(青白色)
64	545	東南	中層の中	G22	磁器	皿	小皿	端反皿	(13.0)	(7.5)	2.5			10		白	畳付無釉		華南(中国)	15世紀前半	染付手描、外面唐草文、内面口縁一重圏、見込二重圏・手描文、焼継あり
64	546	東南	中層の中	G22·H22	磁器	鉢	香炉	半筒形,青磁	(9.7)	–	(7.1)			20		灰白			華南(中国)	13世紀	
64	547	東南	中層の中	G22	磁器	碗	大碗	丸形	(12.0)	–	(4.3)			20		白			華南(中国)	15世紀前半	手描、外面唐草文、内面一重圏あり
64	548	東南	中層の中	G22	磁器	碗	小碗	半筒形	(6.2)	–	(4.9)			10		白			肥前系	17世紀前半～18世紀初頭	染付、手描、外面雲文、内面四方襷文あり
64	549	東南	下層	G23	陶器	皿	小皿	端反皿	(11.2)	(6.0)	2.7			40			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀前半～16世紀前半	大窯I、灰釉
64	550	東南	下層	G22	陶器	皿	小皿	端反皿	(11.5)	5.4	2.2			40			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀前半～16世紀前半	大窯I、貫入あり
64	551	東南	下層	I22	陶器	皿	小皿	端反皿	(9.0)	(5.0)	2.3			40			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀前半～16世紀前半	大窯I、灰釉、焼継あり(漆)、貫入あり
64	552	東南	下層	G23	陶器	皿	卸皿		–	6.4	(1.6)			20						15世紀前半	古瀬戸
64	553	東南	下層	G23	陶器	瓶	–		–	4.6	(3.9)			細片			外面施釉・内面無釉			15世紀前半	古瀬戸、内面焼成痕あり
64	554	東南	下層	G22	陶器	水注	土瓶	丸形	(10.0)	–	(5.0)			20			内面無釉		山梨県須玉町	近世～近代	江戸、小倉焼、鉄釉、外面ケシ描文あり
64	555	1号建物	下層	D24	磁器	碗	大碗		(12.6)	–	(5.2)			10		白			華南(中国)	15世紀前半	染付、手描、外面唐草文、内面一重圏、見込二重圏、焼成痕あり(発泡)
64	556	東南	下層	J22	磁器	皿	小皿	端反皿	(10.6)	(5.2)	2.5			10		白	畳付無釉		華南(中国)	15世紀前半	染付、手描、外面唐草文、内面一重圏、見込二重圏-手描文あり
64	557	東南	下層	G22	磁器	鉢	香炉	半筒形,青磁	(8.7)	–	(3.3)			20		白			華南(中国)	13世紀～14世紀	焼成痕あり(発泡)
64	558	東南	下層	H23	磁器	鉢	香炉	半筒形,青磁	(8.4)	–	(3.2)			10		白	内面無釉		華南(中国)	13世紀～14世紀	焼成痕あり(発泡)
64	559	東南	–	–	磁器	碗	大碗	青磁	(12.0)	–	(3.1)			細片		白			華南(中国)	15世紀前半	鎬蓮弁文
64	560	東南	–	–	須恵器	–			–	(8.0)	(1.4)			20						奈良	
65	561	東南	下層	E23·H22	石製品		硯		7.6	16.5	2.1		203.0	30		粘板岩					灰赤色、樹・山・波の彫刻あり
65	562	東南	下層	I22	石製品		硯		(3.5)	(3.0)	1.0		15.0	細片		粘板岩					塗料付着
65	563	東南	下層	I22	石製品		砥石		(4.7)	(12.6)	2.2		192.0			凝灰岩					両側面に焼成痕あり
65	564	東南	下層	H22	石製品		砥石		3.3	15.6	2.2		201.0			粘板岩					
65	565	東南	下層	H22	石製品		砥石		3.2	8.6	1.9		86.0			凝灰岩					
65	566	東南	下層	H22	石製品		砥石		4.3	8.0	3.3		104.0			凝灰岩					
65	567	東南	下層	H22	石製品		砥石		(3.0)	(3.3)	(0.3)		6.0			粘板岩					
65	568	東南	下層	I21	木				4.0	9.4	0.6										
65	569	東南	下層	H22	木製品		しゃもじ		9.4	(14.7)	0.3										朱漆
65	570	東南	下層	I22	木製品		しゃもじ		10.8	(16.7)	0.9										朱漆、裏面に加工痕あり
65	571	東南	下層	H22	木製品		墨書板		4.8	23.7	0.5							—			墨書あり(判読不能)、端部に孔あり(釘孔?)
65	572	東南	下層	J21	木製品		しゃもじ		9.3	(16.4)	0.7										
65	573	東南	下層	I22	木製品		墨書板		7.0	12.1	0.6							—			墨書あり(判読不能)
65	574	東南	下層	I21	漆器	蓋			(9.5)	(23.9)	1.8	—									黒漆が表面に若干残る、一部炭化
65	575	東南	下層	I22	木材	建築部材?	不明		19.8	10.8	3.3										三角形
65	576	東南	下層	I23	木				9.0	9.0	1.6										
66	577	東南	下層	I22	木製品		行灯の把手?		4.5	29.2	1.8										
66	578	東南	下層	I20	木製品	箸状製品			0.9	30.8	0.8										
66	579	東南	下層	G22	木材				8.4	25.9	6.3										
66	580	東南	下層	G22	木材		不明		(7.9)	(19.9)	2.7										
66	581	東南	下層	I21	木製品	桶	表面の一部?	漆塗り	3.3	(18.9)	0.9										黒漆
66	582	東南	下層	I21	木				6.2	11.8	0.9										
66	583	東南	下層	I23	木製品	円盤	栓?		2.4	2.3	0.3										
66	584	東南	下層	J20·21	木製品		曲物底		(17.0)	25.0	1.3										表全体に炭化
66	585	東南	下層	I21	木製品		曲物底		(14.3)	37.5	1.8										
66	586	東南	下層	I22	木製品		曲物		10.9	(27.7)	1.2										
66	587	東南	下層	I23	木製品		曲物		6.5	(19.3)	1.2										
67	588	東南	下層	G23	骨角	鹿角			2.0	9.2	1.6		14.0								
67	589	東南	下層	G22	骨角	鹿角			1.6	7.5	1.3		11.0								
67	590	東南	下層	H22	金属(鉄)		不明		3.4	9.4	0.6		18.8								環状
67	591	東南	下層	H21	金属(鉄)		刀子		1.3	14.3	0.3		10.3								
67	592	東南	下層	H22	金属(鉄)		刀子		1.4	(12.1)	0.3		12.4								
67	593	東南	下層	J23	金属(鉄)		刀子		1.5	(12.6)	0.3		12.5								
67	594	東南	下層	H22	金属(鉄)		刀子		1.4	21.4	0.3		23.7								
67	595	東南	下層	H23	金属(鉄)		刀子		1.1	21.0	0.3		19.4								
67	596	東南	下層	G23	土製品	円盤	めんこ(泥面子)?		3.0	0.6	3.0			100	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母					
67	597	東南	下層	H22	金属(鉄)		釘		1.1	6.3	0.5		3.5								
67	598	東南	下層	I22	金属(鉄)		釘		1.1	4.4	0.9		4.4								
67	599	東南	下層	G22	金属(鉄)		不明		4.0	3.7	1.0		12.4								環状
67	600	東南	下層	G23	石製品		磨石		4.3	6.1	3.7		51.0			安山岩					磨り痕あり
67	601	東南	中層の上	I22	石製品		硯		(7.6)	(13.3)	(3.0)		118.0	細片		粘板岩					内外面剥離、側面に黒色塗料付着、内面に線条痕あり
67	602	東南	中層の上	I22	石製品		硯		4.1	(8.1)	1.3		32.0	40		粘板岩					
67	603	東南	中層の上	I22	石製品		硯		(2.7)	(7.5)	(0.6)		15.0	細片		粘板岩					外面線条痕、黒色塗料あり
67	604	東南	中層の上	G22	石製品		砥石		3.4	9.5	2.4		119.0			凝灰岩					
67	605	東南	中層の上	G23	石製品		砥石		2.8	10.2	(0.8)		17.0			粘板岩					
67	606	東南	中層の上	G22	石製品		砥石		3.3	(7.3)	2.0		59.0			凝灰岩					煤付着
67	607	東南	中層の上	H22	石製品		砥石		3.9	(9.8)	2.4		106.0			凝灰岩					

図版No.	遺物No.	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/幅	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字/刻印	推定産地	推定年代	備考
67	608	東南	中層の上	G22	石製品		砥石		2.4	(7.2)	2.7		65.0			凝灰岩					
67	609	東南	中層の上	H22	石製品		砥石		3.9	7.0	2.2		58.0			凝灰岩					
67	610	東南	中層の上	H21	石製品		砥石		3.6	8.7	1.6		72.0			凝灰岩					
67	611	東南	中層の上	G22	石製品		砥石		3.2	(6.3)	(0.9)		27.0			粘板岩					
67	612	東南	中層の上	G23	木製品		墨書板		1.1	8.8	0.5							—			墨書あり（判読不能）
67	613	東南	中層の中	G22	木製品	ヘラ状製品	切匙	ナイフ形	2.2	(11.3)	0.2										付着物あり
67	614	東南	中層の中	G23	木材	木片			6.8	14.0	6.5										
67	615	東南	中層の上	G22	木製品		栓		(3.9)	3.9	1.8										
67	616	東南	中層の中	H22	木製品		櫛の柄？		1.6	9.2	1.6										
68	617	東南	下層	I23	木製品	ヘラ状製品	切匙	ナイフ形	3.2	20.9	0.3										
68	618	東南	中層の上	G22	木製品	ヘラ状製品	切匙	ナイフ形	2.2	14.8	0.3										
68	619	東南	中層の上	G21	木製品		楔		1.7	(12.8)	1.3										金属（鉄）の錆着付
68	620	東南	中層の上	I21	木製品	蓋			13.7	15.2	0.7										
68	621	東南	中層の中	G22	木製品		曲物底板？		(4.0)	13.6	0.7										2箇所に円孔あり
68	622	東南	中層の上	I21	木材	角材	不明		1.7	17.9	1.2										円孔あり
68	623	東南	中層の中	I22	木材	建築部材？	小屋束？		7.6	21.7	6.8										
68	624	東南	中層の中	G22	木製品	ヘラ状製品			1.6	13.8	2.8										
68	625	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品	串？		0.9	(31.1)	0.8										一部炭化
68	626	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.9	30.3	0.8										
68	627	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.9	29.0	0.5										
68	628	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			1.0	29.0	0.8										
68	629	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.7	29.0	0.6										
68	630	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.7	29.1	0.6										
68	631	東南	中層の中	I22	木製品	箸状製品			0.7	27.3	0.6										
68	632	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.6	25.8	0.6										
68	633	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.6	26.1	0.6										
68	634	東南	中層の中	H22	木製品	箸状製品			0.7	24.3	0.5										
68	635	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.8	24.5	0.6										
68	636	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.7	23.8	0.5										
68	637	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.6	24.5	0.5										一部炭化
68	638	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	21.3	0.6										
68	639	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.6	25.4	0.4										
69	640	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.6	23.9	0.6										
69	641	東南	中層の中	H22	木製品	箸状製品			0.6	23.8	0.6										
69	642	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.7	23.2	0.5										
69	643	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.6	24.4	0.6										
69	644	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.8	22.9	0.4										
69	645	東南	中層の中	H22	木製品	箸状製品			0.4	22.5	0.4										
69	646	東南	中層の中	H23	木製品	箸状製品			0.6	23.0	0.5										
69	647	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.6	24.0	0.5										
69	648	東南	中層の中	H22	漆器	箸状製品	箸		0.7	22.7	0.7										全面に黒色漆塗
69	649	東南	中層の中	H22	漆器	箸状製品	箸		0.7	(22.3)	0.7										全面に黒色漆塗
69	650	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.6	27.0	0.4										
69	651	東南	中層の中	I22	木製品	箸状製品			0.7	27.0	0.3										
69	652	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.4	22.7	0.3										
69	653	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.4	20.5	0.4										
69	654	東南	中層の中	H22	木製品	箸状製品			0.6	20.0	0.4										
69	655	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.4	(23.3)	0.7										
69	656	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			1.1	28.0	0.5										
69	657	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.7	20.5	0.6										一部炭化
69	658	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	24.0	0.6										
69	659	東南	中層の中	I22	木製品	箸状製品			0.7	23.2	0.5										
69	660	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.5	(22.5)	0.6										
69	661	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.6	25.2	0.5										一部炭化
69	662	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	24.6	0.5										
69	663	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.8	22.5	0.4										
69	664	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.6	20.4	0.4										
69	665	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.7	(21.6)	0.4										一部炭化
69	666	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.8	(23.4)	0.3										
69	667	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	23.7	0.5										
69	668	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.8	(24.6)	0.6										
69	669	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			0.8	(27.1)	0.4										
69	670	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.7	(27.8)	0.6										
69	671	東南	中層の中	G23	木製品	箸状製品			1.1	19.6	0.8										
69	672	東南	中層の中	I23	木製品	箸状製品			0.5	18.0	0.5										
69	673	東南	中層の中	H22	木製品	箸状製品			0.8	(16.9)	0.8										孔あり
69	674	東南	中層の中	H22	漆器	箸状製品	箸		0.7	(16.5)	0.7										朱漆と黒漆の二色使い
69	675	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	19.6	0.4										
69	676	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品	串？		1.0	19.9	0.4										
69	677	東南	中層の中	G22	木製品	箸状製品			0.5	(12.2)	0.5										
70	678	東南	中層の中	H22	金属（銅）		不明		4.5	7.3	0.3		35.9								
70	679	東南	中層の上	I22	金属（銅）		不明		1.7	4.5	0.3		4.9								板状
70	680	東南	中層の上	G21	石製品		かぐらさん軸受石？		15.5	—	15.7	最大幅25.5、くぼみ深さ12.9	10,000.0			安山岩					
70	681	東南	中層の上	G23	石製品		不明		16.4	14.9	8.2		2,782.0			花崗岩					
70	682	東南	中層の上	G23	石製品		不明		12.8	13.2	6.1		1,439.0			砂岩					
70	683	東南	中層の上	G23	金属（鉄）		刀子		1.3	22.3	0.3		23.5								
70	684	東南	中層の上	G23	金属（鉄）		刀子		1.2	20.4	0.2		12.8								
70	685	東南	中層の上	G22	金属（鉄）		釘		0.7	4.2	0.5		1.4								
70	686	東南	中層の上	G22	金属（鉄）		釘		1.0	3.6	0.6		0.7								
70	687	東南	中層の上	G22	金属（鉄）		釘		0.5	3.3	0.4		0.7								
70	688	東南	中層の上	G23	金属（鉄）		不明		1.0	2.7	0.6		2.4								板状
70	689	東南	—	H22	金属（鉄）		不明		0.6	5.8	0.5		11.6								
70	690	東南	—	H22	金属（鉄）		不明		0.5	7.0	0.5		1.6								
70	691	東南	—	—	骨角	鹿角			1.6	4.6	1.5		5.0								
70	692	東	—	—	土器	皿			—	—	1.1			10	にぶい橙 7.5YR6/4	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ	[illegible]		15世紀後半～16世紀前半	底部に墨書による銘あり
70	693	東	—	—	土器	皿			—	(4.0)	1.2			細片	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子・赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切痕、ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	内面見込部墨書による銘あり
70	694	東	—	—	土器	皿			7.0	4.5	1.4			100	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	695	東南	—	G21	土器	皿			10.0	5.0	2.0			80	にぶい橙 7.5YR7/4	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	696	東	—	—	土器	皿			—	(9.5)	2.8			10	にぶい橙 7.5YR6/4	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	697	東	—	—	土器	皿	灯明皿		(10.8)	(3.0)	2.4			20	にぶい橙 7.5YR6/4	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面油煙付着物あり
70	698	東	—	—	土器	皿	灯明皿		(9.6)	(5.0)	2.4			20	にぶい橙 2.5YR6/3	金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着、外面体部下半黒変
70	699	東	—	—	土器	皿			8.0	4.4	1.8			10	橙 7.5YR7/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	700	東	—	—	土器	皿			7.2	3.5	2.0			100	にぶい橙 7.5YR6/4	白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	701	東	—	—	土器	皿			(11.2)	(6.2)	2.7			20	にぶい赤褐 5YR5/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	702	東	—	—	土器	皿			(9.8)	(2.0)	2.5			10	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	703	東	—	—	土器	皿			(10.0)	—	(1.6)			20		金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面ともに炭化
70	704	東	—	—	土器	皿			(14.3)	—	(2.8)				灰黄褐 10YR6/2	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	705	東	—	—	土師器	坏			—	(7.0)	(2.5)			細片	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・赤・白色砂礫	回転糸切痕、ヘラナデ			平安	内面暗文あり
70	706	東	—	—	土器	皿			9.8	—	(2.3)			10	にぶい橙 2.5YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	707	東	—	—	土器	鍋			—	—	(2.2)			細片	灰褐 7.5YR6/2	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面煤付着
70	708	東	—	—	土器	鉢	香炉？	足（三足）	(7.7)	(4.8)	4.7				にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白色砂礫・石英	回転糸切痕、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
70	709	東	—	—	土製品		不明		3.7	3.7	1.1			100	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・黒色粒子・金雲母	ヘラナデ			15世紀後半～16世紀前半	円盤形、中央に孔あり
70	710	東	—	—	磁器	碗	—		—	—	(2.5)			細片		白					近世、手描、外面草花文
71	711	1号建物	下層	D23	土器	皿			(10.5)	(6.5)	1.9			40	にぶい黄橙 10YR6/3	赤色砂礫・白・黒色粒子	回転糸切痕、ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	内面黒変、底部墨書による銘あり

図版No	遺物No	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
71	712	主屋	下層	F27	土器	皿			(12.2)	(6.8)	2.5			60	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			16世紀前半	
71	713	1号建物	下層	D23	土器	皿			(12.0)	7.0	2.8			40	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面全体に煤付着
71	714	1号建物	下層	D24	土器	皿			(7.8)	4.2	2.0			40	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	715	1号建物	下層	D23-24	土器	皿			7.0	4.2	1.6			80	にぶい橙 7.5YR7/4	赤・白色粒子・金・黒雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	716	1号建物	下層	D24	土器	皿			(13.0)	–	(2.5)			10	橙5YR6/6	赤・白色粒子・金雲母	ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に全面煤付着
71	717	1号建物	下層	D23	土器	皿	灯明皿		–	(6.4)	(1.5)			10	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に全面煤付着
71	718	1号建物	下層	D24	土器	皿			(8.0)	(5.6)	2.0			40	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	内面摩滅、底部に墨書あり
71	719	1号建物	下層	D25	土器	鉢	香炉	Ⅵ(三足)	–	(9.0)	(2.8)			10	赤灰2.5YR5/1	白色粒子・金雲母	回転糸切のちヘラナデ			15世紀後半～16世紀前半	
71	720	主屋	下層	F27	陶器	碗	–		–	5.8	(1.4)			20			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	天目Ⅰ、灰釉、見込に型押(印花文)、高台内露胎痕、焼成痕(つや消し、見返)、煤付着
71	721	1号建物	下層	D24	磁器	皿	小皿	端反皿	(9.6)	(6.0)	2.3			30			染付施釉		景徳鎮(中国)	15世紀前半	染付、手描、透明釉、外面唐草文、内面一重圏、見込二重圏・十字文あり
71	722	主屋	下層	F27	漆器	皿			(11.6)	(7.2)	(2.1)	高台高さ0.7									内面朱漆、外面黒漆に朱漆の文様がわずかに残る
71	723	主屋	上層	E26	土器	皿			6.8	3.5	2.1			100	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ	[illegible]		15世紀後半～16世紀前半	外面墨書による銘あり
71	724	主屋	上層	F24	土器	皿		Va	12.0	5.5	2.8			80	暗灰黄 2.5YR5/2	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	焼きむらあり
71	725	主屋	上層	F24	土器	皿		Va	12.0	6.4	2.6			100	にぶい黄橙 10YR7/4	赤色粒子・赤・白・黒色砂礫	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着
71	726	主屋	上層	E24	土器	皿			12.4	5.5	2.6			40	にぶい赤褐 5YR5/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	727	主屋	上層	D23	土器	皿			(9.0)	(4.2)	2.0			50	橙 7.5YR6/6	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面白色の付着物あり
71	728	主屋	上層	F25	土器	皿		Vb	9.3	5.4	2.1			60	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面焼きむらあり
71	729	主屋	上層	F25	土器	皿		Vb	10.0	5.6	2.1			90	にぶい黄褐 10YR5/3	赤・白・黒粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	730	主屋	上層	D27	土器	皿			(10.8)	6.0	2.0			70	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面煤付着
71	731	主屋	上層	D22	土器	皿			(8.4)	4.2	2.3			60	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	732	主屋	上層	F25	土器	皿		Vb	10.5	6.6	2.0			100	にぶい黄橙 10YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	733	主屋	上層	F25	土器	皿		Vb	9.6	4.8	2.2			100	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白色粒子・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	734	主屋	上層	D24	土器	皿			9.8	5.7	1.9			100	にぶい黄橙 10YR7/4	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面煤付着
71	735	主屋	上層	F25	土器	皿		Vc	7.4	4.0	1.9			100	橙 7.5YR7/6	赤・白・黒色砂礫・赤色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	736	主屋	上層	F25	土器	皿			6.8	4.7	1.5			100	にぶい黄橙 10YR6/4	赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	737	主屋	上層	C24	土器	皿			7.4	4.5	1.4			100	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白・黒色砂礫・赤色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	738	主屋	上層	E24	土器	皿			(12.3)	(6.2)	2.8			20	にぶい黄橙 10YR6/4	赤・黒・白色砂礫・金雲母(多)	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	739	主屋	上層	C24	土器	皿			6.8	4.0	1.7			90	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
71	740	1号建物	上層	C25	陶器	碗	–		–	(6.8)	(2.0)			20						平安	灰釉
71	741	主屋	上層	E26	陶器	碗	–		–	(6.0)	(1.6)			10							灰釉
71	742	西側城壁	上層	G28	土器	鉢	擂鉢	片口形	31.6	17.2	10.2			90			ロクロ		山梨		内面刷毛の抜け跡あり、内面櫛目間の数あり(八方向)
72	743	1号建物	下層	D25	石製品		硯		5.2	(5.7)	(1.2)		42.0	10		粘板岩					上部側面にカンナ痕、黒墨の痕、角が面取りされている
72	744	1号建物	下層	D24	石製品		硯		(4.2)	(3.8)	1.3		21.8	20		粘板岩					裏面にカンナ痕、角が面取りされている
72	745	1号建物	下層	D25	木製品		栓蓋?		1.8	(2.7)	0.5										墨書あり
72	746	1号建物	下層	D24	金属(銅)		不明		1.3	3.8	1.0		5.6								
72	747	1号建物	下層	E24	金属(銅)		不明		1.4	2.0	0.7		4.6								
72	748	1号建物	下層	E24	金属(鉄)		鋲		0.5	(5.5)	0.5		21.8								
72	749	主屋	–	D25-E23	陶器	壺	大壺		(12.8)	–	(5.6)			10					常滑	15世紀？	
72	750	主屋	–	D25	金属(鉄)		釘		1.0	7.6	0.5		4.7								
72-74	751	主屋	上層	F26	木材	建築部材	縁束		10.8	31.0	7.8										
72-74	752	主屋	上層	E24	木材	建築部材	床束		10.8	19.3	13.0										
72-74	753	主屋	上層	F24	木材	建築部材	束		10.6	25.8	11.7										柱の頭部を二次使用
72-74	754	主屋	上層	F24	木材	建築部材	束		11.0	25.6	10.7										柱の頭部を二次使用
73-74	755	主屋	上層	E25	木材	建築部材	床束		12.1	22.2	12.2										
73-74	756	主屋	上層	E24	木材	建築部材	床束		9.3	(21.9)	8.8										
73-74	757	主屋	上層	D25	木材	建築部材	床束		13.3	18.7	11.7										
73-74	758	主屋	上層	E26	木材	建築部材	床束		12.8	20.8	10.5										
73-74	759	主屋	上層	E25	木材	建築部材	床束		9.8	19.7	10.0										
73-74	760	主屋	上層	E26	木材	建築部材	床束		12.7	20.0	10.0										
73-74	761	主屋	上層	E25	木材	建築部材	床束		10.7	20.7	9.0										
73-74	762	主屋	上層	E25	木材	建築部材	床束		11.4	14.0	11.0										
74	763	主屋	–	–	木材	建築部材	床束		10.1	17.1	12.1										
74	764	主屋	–	–	木材	建築部材	床束		11.0	15.1	13.5										
75	765	西	下層	E28	土器	皿		Ⅱc	7.5	3.7	1.8			100	にぶい黄橙 10YR7/4	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ	圏		15世紀後半～16世紀前半	内面墨書による銘あり、口縁部煤付着
75	766	西	下層	G28	土器	皿		Ⅱa	12.0	6.0	3.0			80	橙5YR6/6	赤色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面一部煤付着
75	767	西	下層	E28	土器	皿			(11.7)	6.0	2.9			60	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面若干煤付着
75	768	西	下層	E27-G27	土器	皿		Ⅱb	11.0	5.6	2.2			40	にぶい橙 5YR7/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	769	西	下層	E27	土器	皿			(11.6)	(6.0)	2.5			40	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・赤色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	770	西	下層	E28	土器	皿		Ⅱ	9.2	5.4	1.7			60	明赤褐 5YR5/6	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	ロクロナデ、一部ヘラナデ、底部にかけ整形痕あり
75	771	西	下層	D26	土器	皿	灯明皿	Ⅱb	10.4	5.6	2.2			80	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面帯状に煤付着
75	772	西	下層	E28	土器	皿			(6.6)	(3.9)	1.7			40	にぶい黄橙 10YR6/4	白・黒色砂礫・赤色粒子	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	773	西	下層	D27	土器	皿	灯明皿	Ⅱc	7.2	4.4	1.7			80	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面見込部乳白色付着物あり
75	774	西	下層	E29	土器	皿		Ⅱ	6.2	4.0	2.2			20	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に一部煤付着
75	775	西	下層	F25	土器	皿			(7.6)	(5.2)	1.9			40	にぶい黄橙 10YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	776	西	下層	D29	土器	皿	灯明皿	Ⅱc	7.2	4.0	1.4			70	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着
75	777	西	下層	F27	土器	皿	灯明皿	Ⅱc	7.6	4.6	1.7			40	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・白・黒色粒子	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁一部煤付着
75	778	西	下層	G27	土器	皿		Ⅱc	7.0	4.0	1.5			60	にぶい黄橙 10YR7/3	黒色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁一部黒変
75	779	西	下層	E29	土器	皿			(7.4)	(4.4)	1.7			40	橙 7.5YR7/6	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	780	西	下層	E29	土器	皿			(12.0)	(6.6)	2.4			30	にぶい橙 5YR6/3	白色砂礫・金雲母	回転糸切底、ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面焼きむらあり

図版No.	遺物No.	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法 口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	重量(g)	残存率(%)	色調	胎土・石材	成形	文字・墨印	推定産地	推定年代	備考
75	781	西	下層	E26	土器	皿		II	10.6	5.8	3.0			10	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面一部黒斑痕？あり
75	782	西	下層	H29	土器	皿			(9.8)	5.0	2.4			30	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	783	西	下層	E29	土器	皿			(12.2)	(6.7)	2.4			20	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面ヘラ状工具によるナデ
75	784	西	下層	F28	土器	皿			(12.2)	(6.0)	2.1			30	灰黄褐 10YR6/2	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	785	西	下層	E24	土器	皿	灯明皿	IIb	10.6	6.4	2.4			20	にぶい褐 7.5YR6/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁～内面全体に煤付着
75	786	西	下層	E28	土器	皿			(9.6)	(6.2)	2.3			30	にぶい橙 10YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	787	西	下層	E27	土器	皿	灯明皿	IIb	9.5	(5.2)	2.2			40	にぶい褐 7.5YR6/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面一部煤付着
75	788	西	下層	F28	土器	皿	灯明皿		(11.8)	–	(2.7)			30	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面煤付着，わずかに縦方向ヘラナデ
75	789	西	下層	F28	土師器	坏			–	(5.0)	(1.6)			20	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子	糸切りのちヘラナデ			平安	内面暗文，底部ヘラ整形
75	790	西	下層	F29	土器	皿			11.4	–	–			10	にぶい黄褐 10YR5/3	赤・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	791	西	下層	D28	土器	鉢		VI（三足）	(8.0)	(6.2)	4.2			40	灰N5/0	白色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			16世紀前半	脚部付近ヘラ状工具によるナデ
75	792	西	下層	F28	陶器	皿	灯明皿	端反皿	8.5	5.2	2.2			100			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯I，灰釉，畳付内面重ね焼痕あり，口縁部底部に煤付着
75	793	西	下層	D28	土器	皿			–	5.5	1.5			40	にぶい橙 2.5YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
75	794	西	下層	G25	陶器	甕	小甕	胴丸形	(15.0)	–	(6.0)			20			内外面共灰釉		山梨	江戸	小倉焼，内外面共に自然釉が一部付着
76	795	西	下層	G29	磁器	皿	小皿	丸形,白磁	(9.8)	3.8	3.0			50			腰下部～高台内無釉，高台4箇所に切り込み		南方（中国）	15世紀後半	重ね焼の為底部4箇所に釉付着，見込に4の溶着痕，内面口縁部付着物あり
76	796	西	下層	D29	漆器	椀			(16.0)	4.0	(9.0)	高台高さ2.7									内外面黒漆に朱漆の文様あり
76	797	西	下層	E28	漆器	椀			–	(9.0)	(3.0)	高台高さ3.9									内面朱漆，外面黒漆，高台内に朱の鶴の痕跡がわずかに残る，高台部のみ
76	798	西	中層	D28	土器	皿	灯明皿	I	7.0	4.0	1.7			90	橙 7.5YR7/6	金雲母	回転糸切痕，ロクロ	日		15世紀前半	内面に墨書あり，内外面に付着物あり
76	799	西	中層	E28	土器	皿	灯明皿	Ia	11.3	5.8	2.6			100	にぶい褐 7.5YR5/4	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	道清		15世紀前半	外面に墨書あり，内外面に白色付着物，煤付着
76	800	西	中層	F28	土器	皿	灯明皿	Ia	11.3	5.8	3.0			100	灰褐 7.5YR6/2	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	香		15世紀前半	底部に墨書あり，内外面に乳白色の付着物，煤付着
76	801	西	中層	F28	土器	皿		Ia	11.5	6.0	2.6			100	にぶい褐 7.5YR6/3	金雲母	回転糸切痕，ロクロ	林＿		15世紀前半	外面に墨書あり，内外面全体に煤付着
76	802	西	中層	E29	土器	皿		Ia	10.8	5.0	2.3			80	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	林＿		15世紀前半	外面に墨書あり
76	803	西	中層	F28	土器	皿			(10.8)	–	(2.2)			10	にぶい橙 7.5YR6/4	金雲母	回転糸切痕，ロクロ	満		15世紀前半	内面に墨書あり
77	804	西	中層	G28	土器	皿	灯明皿		10.1	6.0	2.4			90	にぶい橙 7.5YR7/4	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	内面に乳白色の付着物あり
77	805	西	中層	F27	土器	皿			12.0	5.0	2.8			100	橙5YR7/6	赤色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	内外面煤付着
77	806	西	中層	F28	土器	皿			(9.5)	6.0	2.0			50	にぶい褐 7.5YR6/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	
77	807	西	中層	E28	土器	皿			10.2	5.0	2.1			80	にぶい橙 7.5YR7/4	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	煤付着
77	808	西	中層	E28	土器	皿			9.5	5.6	2.6			50	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	
77	809	西	中層	E28	土器	皿			7.1	4.6	1.5			100	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	
77	810	西	中層	F28	土器	皿			(10.3)	(5.0)	3.0			20	にぶい橙 5YR6/4	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	
77	811	西	中層	E28	土器	皿			–	(4.6)	(1.6)			30	にぶい橙 7.5YR7/4	金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀	内外面煤付着
77	812	西	中層	E28・F28	陶器	皿	小皿	端反皿	(11.6)	6.2	2.9			30			全面施釉		瀬戸・美濃系	15世紀後半～16世紀前半	大窯I，灰釉，畳付内面重ね焼痕3ヶ所あり
77	813	西	–	G27	土器	皿			(8.8)	–	(2.0)			破片	にぶい黄橙 10YR6/4	赤色粒子・白・黒色砂礫・金雲母	ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
77	814	西	–	E28	漆器	椀			(12.1)	6.0	(5.2)	高台高さ1.7									内面朱漆，外面黒漆に朱漆の文様あり
77	815	西	–	G27	陶器	椀	中碗	天目形	(11.4)	4.2	6.3			30			腰下部～高台内無釉		瀬戸系	15世紀後半	古瀬戸，鉄釉
77	816	西	–	H28	漆器	椀			(15.4)	(6.8)	(3.9)	高台高さ0.9									内面朱漆，外面黒漆に朱漆の文様あり
77	817	西	–	E32	漆器	椀			(15.7)	8.0	8.0	高台高さ0.9									内面朱漆，外面黒漆に朱漆の文様あり
77	818	西	–	H28	漆器	椀			–	(7.4)	(2.4)	高台高さ2.4									漆は剥離，高台部のみ
77	819	西	–	–	土師器	坏			(11.6)	–	(3.7)			破片	にぶい褐 7.5YR6/3	赤色粒子・赤・黒色砂礫	回転糸切痕，ロクロ	檜		平安	内面に暗文，外面に墨書あり
77	820	西	–	–	土器	皿			(10.0)	5.0	2.7			60	にぶい橙 7.5YR7/4	金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に煤付着
77	821	西	–	–	土器	皿			(9.0)	(5.0)	1.7			30	にぶい黄橙 10YR6/3	赤・白・黒色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ	—		15世紀後半～16世紀前半	内面に墨書あり
77	822	西	–	–	土器	皿	灯明皿		8.2	6.4	1.8			40	浅黄 2.5Y7/3	白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に煤付着
77	823	西	–	–	土器	皿			(10.0)	5.3	2.3			60	にぶい黄橙 10YR6/3	赤色粒子・赤・白色砂礫・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
77	824	西	–	–	土器	皿			7.6	4.0	1.3			30	にぶい橙 5YR7/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
78	825	西	–	–	土器	皿	灯明皿		(11.8)	–	(2.3)			10	にぶい橙 7.5YR6/4	金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内面油煙付着物あり
78	826	西	–	–	土器	皿	灯明皿		11.4	6.0	2.4			20	にぶい褐 7.5YR6/3	白・黒色粒子金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	内外面共に煤付着
78	827	西	–	–	土器	皿			12.6	7.2	2.6			40	にぶい橙 5YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面下部ヘラ状痕あり，内外面口縁付近黒変
78	828	西	–	–	土器	皿			(10.2)	(6.0)	2.4			20	にぶい黄橙 10YR6/3		回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	煤付着
78	829	西	–	–	土器	皿			8.0	5.2	2.2			30	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
78	830	西	–	–	土器	皿			7.6	4.4	1.8			10	にぶい黄橙 10YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
78	831	西	–	–	土器	皿			7.4	4.0	1.7			10	にぶい橙 5YR7/3	白・黒色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
78	832	西	–	–	土器	皿			(9.5)	(5.8)	2.3			20	にぶい橙 7.5YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	
78	833	西	–	–	土器	皿			(10.0)	(6.0)	2.0			20	にぶい黄橙 10YR6/3	白・黒色砂礫	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	口縁部付近一部黒変
78	834	西	–	–	土器	皿			–	6.2	–			10	にぶい橙 5YR7/3	赤・白色粒子・金雲母	回転糸切痕，ロクロ			15世紀後半～16世紀前半	外面一部煤付着
78	835	西	–	–	土師器	坏			(10.8)	–	(2.7)			10	にぶい橙 7.5YR6/4	赤色粒子・赤・白色砂礫・金雲母				平安	内面に暗文
78	836	西	–	–	土師器	坏			–	(4.5)	(0.8)			破片	にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子	底部ヘラ成形			平安	内面に暗文わずかに残る
78	837	西	–	–	土師器	坏			–	(5.0)	(1.4)			破片	外面褐灰色 7.5YR4/1，内面にぶい橙 7.5YR6/4	赤・白・黒色粒子	外面底部ヘラ成形			平安	内面に暗文
78	838	西	–	–	陶器	水注	汽車土瓶		(7.0)	–	(2.9)			10			内面無釉，把手貼付		美濃系	近世	志野焼，長石釉
78	839	西	–	–	陶器	皿	小皿	端反皿	(11.6)	(6.0)	2.9			15			腰下部～高台内無釉		瀬戸系	16世紀～17世紀	志野焼，灰釉
78	840	西	–	–	陶器	皿	—		–	(6.4)	(3.5)			10			腰下部～高台内無釉		瀬戸系		灰釉
78	841	西	–	–	磁器	椀	中碗	丸形,青磁	(11.3)	(5.2)	(7.5)			30			高台内無釉		南方（中国）	15世紀後半	焼成痕（発泡）あり，鎬蓮弁文

図版No.	遺物No.	出土地区	出土層	グリッド	分類1	分類2	分類3	分類4	計測値(cm) ※( )は残存寸法				重量	残存率	色調	胎土・石材	成形	文字・刻印	推定産地	推定年代	備考
									口径/横	底径/縦	器高/厚	その他	(g)	(%)							
78	842	東南	下層	H24	石製品		砥石		(3.2)	(7.4)	(1.6)		47.0			粘板岩					
78	843	東南	下層	H23	石製品		砥石		3.0	7.1	1.2		47.0			花崗岩					墨書あり
78	844	西	下層	I28	石製品		砥石		3.3	(8.2)	1.0		41.0			粘板岩					
78	845	西	中層	F28	金属(鉄)		釘		0.5	2.9	0.3		0.4								
78	846	西	—	—	石製品		砥石		3.2	3.1	2.1		38.0			粘板岩					
78	847	西	—	—	石製品		磨石		5.9	6.7	3.3		147.0			安山岩					擦り痕あり
78	848	西	—	—	金属(鉄)		釘		0.9	3.0	0.5		1.5								
78	849	西	—	—	金属(鉄)		釘		0.9	5.0	0.9		3.1								
79	850	西	—	—	木製品	蓋			7.5	6.2	0.9										
79	851	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.8	22.6	2.0										
79	852	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		3.4	22.1	2.2										
79	853	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.9	20.0	2.5										
79	854	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.4	23.6	2.8										
79	855	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.1	20.2	2.5										
79	856	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.0	20.3	1.4										
79	857	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.0	16.6	2.1										
79	858	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		3.7	16.6	2.9										
79	859	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		4.0	14.6	2.0										
79	860	西	—	—	木材	建築部材	楔(矢)		3.1	14.6	1.8										
79	861	西	—	E28	木製品		桶板		(8.5)	55.6	1.3										釘穴痕あり
80	862	—	—	—	陶器	碗	—	天目型	—	(4.5)	(3.2)			20			腰下部無釉				鉄釉
80	863	—	—	—	磁器	碗		青磁	—	—	(2.4)			破片					南宋(中国)	13世紀	鎬蓮弁文
80	864	—	—	—	漆器	椀			(12.1)	7.0	4.5	高台高さ1.8									内外面共黒漆
80	865	—	—	—	木製品		不明		11.4	19.6	3.5										
80	866	—	—	—	木材	建築部材?	不明		5.2	21.0	3.2										
80	867	—	—	—	木製品		農具の一部?		8.1	24.2	0.7										釘穴痕あり
80	868	—	—	—	木製品		不明		9.0	29.3	3.2										
80	869	—	—	—	木製品		刃物の柄?		4.6	16.3	1.8										
80	870	—	—	—	木製品		木釘?		1.1	4.7	0.5										
80	871	—	—	—	木製品		不明		2.3	3.1	0.7										一部炭化
80	872	—	—	—	金属(鉄)		釘		0.9	4.1	0.7		0.5								
80	873	—	—	—	金属(鉄)		釘		0.9	3.8	0.6		2.7								
80	874	—	—	—	金属(銅)		不明		2.1	2.2	1.0		9.7								
80	875	—	—	—	金属(銅)		不明		0.7	1.2	0.4		2.1								
80	876	—	—	—	骨角	馬歯			1.7	3.5	1.9		9.0								
80	877	—	—	—	石製品		硯		3.3	(6.2)	(0.5)		17.0	破片		粘板岩					側面一部に黒色塗料，内面線条痕あり
80	878	—	—	—	石製品		かくらさん軸受石?		16.9	12.0	17.3	最大幅27.0，くぼみ深さ13.2	10,000.0	100		安山岩					
81	879	東北	中層	E23	木材	建築部材	不明		15.0	83.0	8.0										
82	880	東南	下層	J20	木製品		樋		23.7	118.0	3.3										
83	881	主屋	上層	G24	木材	建築部材	根太受		15.0	275.0	7.5										一部炭化，加工痕あり
83	882	主屋	上層	F24	木材	杭	不明		3.0	214.0	3.0										加工痕あり
84	883	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	障子溝鴨居?		9.0	163.0	5.0										
84	884	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	根太		7.6	74.2	7.0										
85	885	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	大戸敷居?		9.5	88.5	6.0										一部炭化
85	886	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	根太		7.8	71.0	6.0										
86	887	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	大引		7.8	140.5	7.8										
86	888	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	床梁		16.0	370.0	15.0										一部炭化
87	889	南西隅遺構	下層	J28	木材	建築部材	床梁		8.0	99.0	6.0										

放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ

1．はじめに

山梨県中巨摩郡・小井川遺跡より検出された試料８点について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。試料採取は佐々木、試料調整は山形、瀬谷、Lomtatidze、Jorjoliani、測定は小林、丹生、伊藤、測定に用いた種実の写真撮影は新山が担当し、本文は佐々木、伊藤が作成した。

2．　試料と方法

測定試料の情報、調整データは表１のとおりである。試料の時期はいずれも中世の16世紀代と考えられており、遺構の切り合い関係から新旧２時期あることが想定されている。測定した８点のうち、１・２・３・６・７が下層の建物に伴う遺構から出土した遺物、４・５・８が上層の建物に伴う遺構から出土した遺物と考えられている。

試料は試料番号１から６（PLD-6473～6478）までが遺構内もしくは板の下から出土した炭化イネ胚乳で、これらは他の種実と共に一括で取り上げられ、山梨考古博物館によって水洗選別されていたものである（写真１）。種実は上・中・下層と区別されて洗浄されていたが、なるべく下層から状態が良く大きめの炭化イネ胚乳を３～４点抽出し、うち１点を測定試料とした。

試料番号７（PLD-6479）は柱材を転用した床材の一部で、最外年輪が遺存していない生の角材である。残存部で最も外側の年輪から試料を採取した。

試料番号８（PLD-6480）は密集して出土した芯持丸木の枝材で、枝材の最外年輪から試料を採取した。

試料は調整後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

表1　測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6473	遺構：東３号意 遺物 No：一括 その他：試料番号１	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6474	遺構：東４号意 遺物 No：一括 層位：下層 その他：試料番号２	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6475	位置：東地区 遺構：２号意 遺物 No：一括 層位：下層 その他：試料番号３	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6476	位置：西地区 遺構：１号意 遺物 No：一括 層位：中層 その他：試料番号４	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6477	位置：西地区 遺構：２号意 遺物 No：一括 層位：下層 その他：試料番号５	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6478	位置：G494 遺物 No：板の下の黒色層 層位：下層 その他：試料番号６	試料の種類：炭化物・種実（イネ胚乳） 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6479	遺構：主殿 遺物 No：床材（角材） その他：試料番号７	試料の種類：生試料・材 試料の性状：最外以外部位不明 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6480	位置：南西地区 遺物 No：枝 層位：中上面 その他：試料番号８	試料の種類：生試料・材 試料の性状：最外年輪 状態：dry カビ：無	超音波蒸溜洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 （塩酸 1.2N、水酸化ナトリウム 1N、塩酸 1.2N）	PaleoLabo： NEC 製コンパクト AMS・1.5SDH

3．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行った^{14}C年代、^{13}C年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図１に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal3.10（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に２σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

表2　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP±1σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP±1σ)
			1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲	
PLD-6473	-26.08±0.11	315±15	1520AD(55.9%)1590AD 1620AD(12.3%)1640AD	1490AD(95.4%)1650AD	316±17
PLD-6474	-23.57±0.11	355±15	1470AD(41.9%)1520AD 1590AD(26.3%)1620AD	1460AD(48.2%)1530AD 1550AD(47.2%)1640AD	355±16
PLD-6475	-25.34±0.11	330±15	1510AD(10.8%)1530AD 1540AD(43.2%)1600AD 1610AD(14.2%)1640AD	1480AD(95.4%)1640AD	328±16
PLD-6476	-24.08±0.16	315±20	1520AD(55.5%)1590AD 1620AD(12.7%)1640AD	1490AD(95.4%)1650AD	317±18
PLD-6477	-24.10±0.17	310±15	1520AD(54.2%)1580AD 1630AD(14.0%)1650AD	1510AD(72.8%)1600AD 1610AD(22.6%)1650AD	308±16
PLD-6478	-24.26±0.12	290±15	1520AD(38.7%)1560AD 1630AD(29.5%)1650AD	1520AD(59.4%)1600AD 1620AD(36.0%)1660AD	289±17
PLD-6479	-24.20±0.13	595±15	1315AD(55.3%)1355AD 1385AD(12.9%)1400AD	1300AD(72.4%)1370AD 1380AD(23.0%)1410AD	593±17
PLD-6480	-21.73±0.11	315±15	1520AD(56.2%)1590AD 1620AD(12.0%)1640AD	1490AD(95.4%)1650AD	317±17

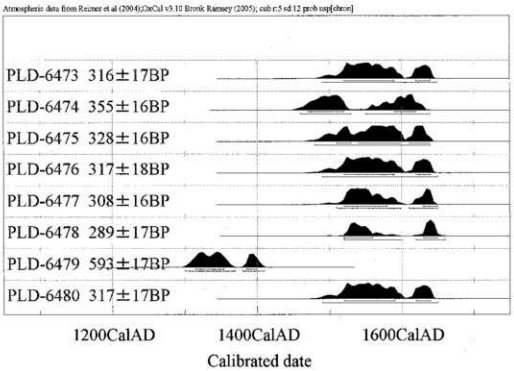


図2　暦年較正マルチプロット図

4．考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

古い年代値が得られたのは試料番号7（PLD-6479）で、得られた年代は^{14}C年代値で593 ± 15yrBP、1 σ（68.2%の確率）の暦年代範囲では1315-1355calAD（55.3%）、1385-1400calAD（12.9%）、2 σ（95.4%の確率）の暦年代範囲では1300-1370calAD（72.4%）、1380-1410calAD（23.0%）の年代範囲を示した。1 σでは14世紀代、2 σでは14世紀から15世紀初頭までの年代範囲で、14世紀代の確率が高かった。この試料は、主殿の床材であるが、焼失した下層の建物の柱材を転用し、床材としたものと考えられている。測定試料は木材の伐採年代である最外年輪が不明のため、ある程度の古木効果により古い年代が出ていることも考慮しなければならないが、測定結果は遺構構築年代の16世紀代より古い年代値であることから、遺構より古材を使用していることを考慮する必要がある。

その他の年代値は比較的まとまっており、^{14}C年代値で290-355 ± 15-20yrBP、1 σの暦年代範囲で1470-1650calAD、2 σの暦年代範囲で1460-1650calADの年代範囲であった。いずれも^{14}Cの誤差範囲は小さいが、暦年較正を行うと年代範囲が広くなる理由として、1500年代半ばに暦年較正曲線が一端上昇する箇所により年代範囲は大きく2分され（図1、2）、暦年代範囲が広くなることがあげられる。そのため、得られた試料は15世紀中葉から17世紀中葉の範囲内の年代を示した。年代範囲からは上層と下層の明確な区別はできなかった。

佐々木由香・小林紘一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・新山雅広

参考文献

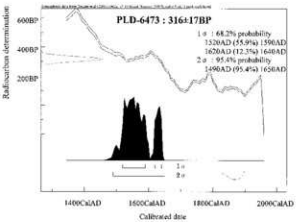
Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, Radiocarbon, 37, 425-430.

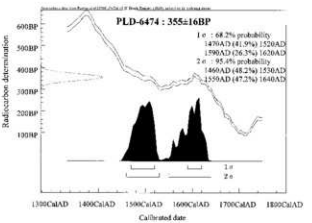
Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43, 355-363.

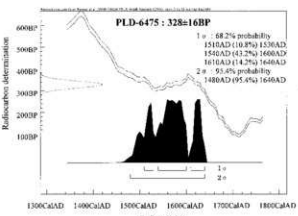
中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の 14C 年代, 3-20.

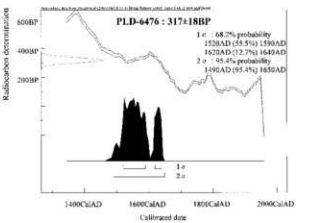
Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) INTCAL04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26 cal kyr BP, Radiocarbon, 46, 1029-1058.

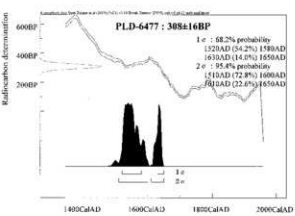
写真1　炭化イネ胚乳(試料番号1～6)スケールは1mm

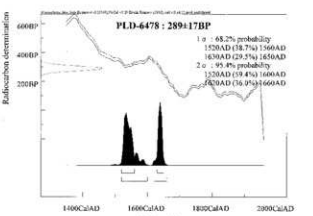

PLD-6473 : 316±17BP
1σ : 68.2% probability
1320AD (55.9%) 1590AD
1620AD (12.3%) 1640AD
2σ : 95.4% probability
1490AD (95.4%) 1650AD
Radiocarbon determination
Calibrated date

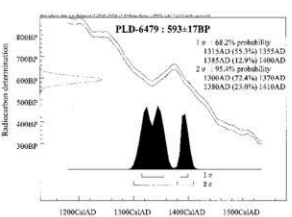

PLD-6474 : 355±16BP
1σ : 68.2% probability
1470AD (41.9%) 1520AD
1590AD (26.3%) 1620AD
2σ : 95.4% probability
1460AD (48.2%) 1530AD
1550AD (47.2%) 1640AD
Radiocarbon determination
Calibrated date

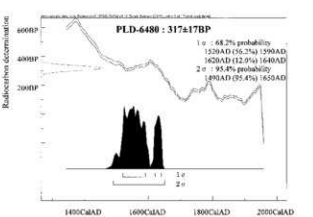

PLD-6475 : 328±16BP
1σ : 68.2% probability
1510AD (10.8%) 1530AD
1540AD (43.2%) 1600AD
1610AD (14.2%) 1640AD
2σ : 95.4% probability
1480AD (95.4%) 1640AD
Radiocarbon determination
Calibrated date


PLD-6476 : 317±18BP
1σ : 68.2% probability
1520AD (55.5%) 1590AD
1620AD (12.7%) 1640AD
2σ : 95.4% probability
1490AD (95.4%) 1650AD
Radiocarbon determination
Calibrated date


PLD-6477 : 308±16BP
1σ : 68.2% probability
1520AD (54.2%) 1580AD
1630AD (14.0%) 1650AD
2σ : 95.4% probability
1510AD (72.8%) 1600AD
1610AD (22.6%) 1650AD
Radiocarbon determination
Calibrated date


PLD-6478 : 289±17BP
1σ : 68.2% probability
1520AD (38.7%) 1560AD
1630AD (29.5%) 1650AD
2σ : 95.4% probability
1520AD (39.4%) 1600AD
1620AD (56.0%) 1660AD
Radiocarbon determination
Calibrated date


PLD-6479 : 593±17BP
1σ : 68.2% probability
1315AD (55.3%) 1355AD
1385AD (12.9%) 1400AD
2σ : 95.4% probability
1300AD (72.4%) 1370AD
1380AD (23.0%) 1410AD
Radiocarbon determination
Calibrated date


PLD-6480 : 317±17BP
1σ : 68.2% probability
1520AD (56.2%) 1590AD
1620AD (12.0%) 1640AD
2σ : 95.4% probability
1490AD (95.4%) 1650AD
Radiocarbon determination
Calibrated date

小井川遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県中央市（旧田富町）布施に所在する小井川遺跡は、甲府盆地中西部の釜無川土石流扇状地（今泉・町田・松田，2006）上に立地している。本遺跡の発掘調査では、中世の布施庄に関連する銘文が刻まれた五輪塔が出土したほか、16世紀代の大型建物跡等が確認されている（小林・猪股，2006）。なお、大型建物跡の南東側から検出された付属屋と考えられる建物跡周辺からは、多くの炭化物や植物遺体が確認されたことから、これらの植物片の抽出を目的として、各地点から採取された土壌の水洗選別も実施されている。

本報告では、上記した水洗選別により回収された種実遺体を対象に調査を行い、種実遺体の種類構成や周辺植生、当時の植物利用について検討する。

1．試料

試料は、発掘調査時に採取された土壌の水洗選別により回収された炭化物を含む微細植物片159試料である。これらの試料は、それぞれ土壌試料の採取された地点毎（G494(種群 種)、G494東側板の下(種 炭)、G494西側(種群 種)、東側２号竈、G520-521(炭化物内 種)、２号竈(種)）に分類・整理されている。また、各試料は、複数の微細植物片が認められる。

以上の試料について、便宜上、通し番号(仮No.1～159)を付し、個々の番号毎に種実同定を実施する。試料の詳細は、結果と共に表２に記す。

2．分析方法

各試料の観察及び概査の結果、複数の分類群・個数が多量認められる試料や、水洗選別及び分類後の残渣と考えられる土壌や植物微細片等が多量認められる試料が確認された。そのため、本分析を実施するにあたり、調査担当者と協議を行い、規定の式数を最小抽出数とし、調査目的や試料の状況に応じて以下の方法にて調査を行っている。なお、結果に示した大型植物遺体の検出量の評価については、各地点・遺構における土壌の採取方法や土壌分析量、水洗方法に関わる情報を考慮し、検討することが望まれる。

各試料を粒径4mm、2mm、1mm、0.5mmに篩別し、シャーレに移して双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実や葉等の大型植物遺体を、ピンセットを用いて抽出する。また、植物微細片が多量混在する試料は、試料の量に応じて、粒径1mmまたは2mm以上を分析対象とし、土壌を主体とする試料は分析対象外としている。

抽出された大型植物遺体を、双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。針葉の破片は先端部と基部の個数を数える。ヒノキの枝条は、十字対生の４枚の葉を１対として対の数を数える。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。多量或いは塊状などで検出された分類群は、容量（重量）を表示する。分析後の種実遺体は種類毎に容器に入れ、抽出後の分析残渣は袋に戻して保管する。

3．結果

大型植物遺体分類群一覧を表１に、結果を表２に、試料別検出状況を表３に示す。

（1）試料別検出状況

159試料からは、裸子植物５分類群182個、被子植物63分類群計25889個（+181cc）の種実や葉等の大型植物遺体、種類・部位の特定に至らなかった不明種実が98個確認された。

栽培植物は、スモモ２個、モモ１個、カキノキ４個、イネの胚乳8187個（+29cc）、穎1615個（+145cc）、ヒエ－キビ近似種362個、オオムギ6982個、コムギ287個、ムギ類185個、ソバ680個（+7cc）、マメ類685個、ワタ類?427個、シソ属（エゴマを含む）77個、メロン類386個、ヒョウタン類３個、トウガン８個と、栽培種の可能性があるナス科5438個の計25329個（+181cc）と全検出個数の約97%を占める。以下に、各試料の大型植物遺体の検出状況を記す。

1）G494（仮No.1～８）

栽培植物は、イネ胚乳３個・穎146個、ヒエ－キビ近似種７個、シソ属３個、ナス科4341個、メロン類21個の計4521個が検出された。ナス科が多く、G494 下から3622個、同 中から522個、同 上から197個確認された。

この他に、木本３分類群（マツ属複維管束亜属、ケヤキ、キブシ）10個、草本９分類群（エノコログサ属、ホタルイ属、カヤツリグサ科、サナエタデ近似種、ヒエ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、クサネム近似種、アカネ科）33個が検出された。

2）G494東側板の下（仮No.9～40）

栽培植物は、スモモ１個、モモ１個、カキノキ４個、イネ胚乳444個・穎202個、ヒエ－キビ近似種32個、オオムギ6418個、コムギ282個、ムギ類101個、ソバ12個、マメ類607個、ワタ類?217個、シソ属10個、ナス科85個、メロン類312個、トウガン５個の計8733個が検出された。オオムギが多く、G494 東側板の下 中から3584個、同 上から2154個、同 下から552個確認された。

この他に、木本15分類群（マツ属複維管束亜属、マツ属、スギ、オニグルミ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属、シイ属、ブナ、ケヤキ、イヌザンショウ属、サンショウ属、カエデ属、モチノキ属、ブドウ属、ミズキ）235個、草本３分類群（トウダイグサ属、アカネ科、スズメウリ）16個が検出された。針葉樹のスギの葉が多い（157個）。

3）G494西側（仮No.41～73）

栽培植物は、スモモ１個、イネ胚乳５個・穎324個（+）、ヒエ－キビ近似種41個、オオムギ１個、ソバ13個、ワタ類?1個、シソ属60個、ナス科984個、メロン類45個、ヒョウタン類２個、トウガン３個の計1480（+）個が検出された。ナス科が多く、G449 西側 下から594個、同 中から324個確認された。

この他に、木本４分類群（マツ属複維管束亜属、オニグルミ、コナラ属、サンショウ属）14個、草本11分類群（エノコログサ属、ホタルイ属、サナエタデ近似種、タデ属、アカザ科、ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、エノキグサ、オミナエシ属、タカサブロウ）62個が検出された。

4）東側２号畝（仮No.74～90）

栽培植物は、イネ胚乳609個+塊状炭化物4cc（0.48g）・穎204個+75cc（5.78g）、ヒエ－キビ近似種32個、オオムギ303個、ムギ類58個、ソバ594個+7cc（0.77g）、マメ類56個、ワタ類?5個、ナス科23個、メロン類３個の計1887個（+86cc）が検出された。東側２号畝 中から は、イネ胚乳・穎とソバの果皮片が多量確認された。

この他に、木本８分類群（マツ属、オニグルミ、イヌシデ、ブナ、クワ属、イヌザンショウ属、サンショウ属、ドクウツギ）62個、草本３分類群（イネ科、ミゾソバ近似種、タデ属）４個が検出された。

表１．大型植物遺体分類群一覧

木本	草本
裸子植物亜門	被子植物亜門
マツ属複維管束亜属	単子葉植物綱
マツ属	●イネ
スギ	エノコログサ属
ヒノキ	●ヒエ－キビ近似種
ヒノキ科	●オオムギ
被子植物亜門	●ムギ類
双子葉植物綱	●コムギ
離弁花亜綱	イネ科
オニグルミ	ホタルイ属
アサダ	カヤツリグサ科
サワシバ	双子葉植物綱
クマシデ	離弁花亜綱
イヌシデ	ギシギシ属
アカシデ	サナエタデ近似種
コナラ属コナラ亜属	ミゾソバ近似種
コナラ属	タデ属
シイ属	●ソバ
クリ	アカザ科
ブナ	ヒユ科
ケヤキ	ナデシコ科
クワ属	キンポウゲ属
マタタビ属	キケマン属
●スモモ	●マメ類
●モモ	クサネム近似種
キイチゴ属	エノキグサ
キハダ	トウダイグサ属
イヌザンショウ属	●ワタ類？
サンショウ属	スミレ属
ドクウツギ	合弁花亜綱
カエデ属	●シソ属
モチノキ属	シソ科
ブドウ属	●ナス科
キブシ	アカネ科
ミズキ	オミナエシ属
合弁花亜綱	スズメウリ
●カキノキ	●メロン類
ハクウンボク	●ヒョウタン類
	●トウガン
	タカサブロウ
	キク科

●：栽培植物

5）G520-521（仮No.91～98）

栽培植物は、イネ胚乳1656個+塊状炭化物25cc（5.01g）・穎302個、ヒエ－キビ近似種５個、オオムギ81個、ムギ類３個、マメ類18個、ナス科４個の計2069個（+25cc）が検出された。イネ胚乳が多く、G520-521 下から864個、同中から651個、同 上から141個+塊状炭化物25cc（5.01g）が確認された。

この他に、木本のサンショウ属５個、草本のアカネ科11個が検出された。

6）２号炉（No.99～159）

栽培植物は、イネ胚乳5470個・穎437個+70cc（8.92g）、ヒエ－キビ近似種245個、オオムギ179個、コムギ５個、ムギ類23個、ソバ61個、マメ類４個、ワタ類?204個、シソ属４個、ナス科１個の計6639個+70ccが検出された。イネ胚乳・穎が多く、２号炉 下から胚乳3835個、同 中から胚乳1635個・穎232個+70cc（8.92g）が確認された。

この他に、木本20分類群（マツ属、ヒノキ、ヒノキ科、オニグルミ、アサダ、サワシバ、クマシデ、イヌシデ、アカシデ、クリ、ブナ、マタタビ属、キイチゴ属、キハダ、イヌザンショウ属、サンショウ属、カエデ属、ブドウ属、キブシ、ハクウンボク）75個、草本14分類群（イネ科、ホタルイ属、ギシギシ属、タデ属、アカザ科、ヒユ科、キケマン属、エノキグサ属、トウダイグサ属、スミレ属、シソ科、アカネ科、タカサブロウ、キク科）33個が検出された。

（2）大型植物遺体の記載

本分析で検出された大型植物遺体の状態は不良であり、水洗後の乾燥処理のため表面組織が壊れている個体が多く認められた。また、カキノキ、イネの胚乳と穎の一部、ヒエ－キビ近似種の胚乳と果実の一部、オオムギ、コムギ、ムギ類、ソバの一部、マメ類、ワタ類?の一部、シソ属の一部、ナス科の一部、メロン類の一部、ヒョウタン類の一部、オニグルミの一部、コナラ属コナラ亜属の一部、コナラ属の一部、シイ属、ブドウ属の一部、ギシギシ属には炭化が認められたほか、多量のイネ胚乳が密集固結した塊状炭化物も確認された。

なお、炭化の有無は、元々黒く硬い内果皮や種皮をもつ分類群（キハダ、イヌザンショウ属、サンショウ属、エノキグサ等）も含まれるなど厳密な判別は困難である。そのため、元来の色調とは明らかに異なる黒色個体を炭化としている。また、イネ、ヒエ－キビ近似種、ソバには、褐色を呈す果皮内部の胚乳は黒く炭化しているなど、色調による判別が困難な個体も含まれるため、これらは炭化含と一括している。

以下に、大型植物遺体の形態的特徴を、栽培植物とその他（針葉樹、広葉樹、草本、種類が特定される可能性のある不明種実）の順に記す。

＜栽培植物＞

・スモモ（Prunus salicina Lindley）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。灰褐色、長さ1.4cm、幅1.1cm、厚さ8mm程度のレンズ状広楕円体。基部は丸く鱗点がある。１本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ（Prunus persica Batsch）　バラ科サクラ属

核（内果皮）が検出された。灰褐色、広楕円体でやや偏平。長さ2.4cm、幅1.7cm、厚さ1.5cm程度で、頂部が尖る個体や丸みを帯びた個体など複数の形状がみられる。基部は切形で中央部に湾入した鱗がある。１本の明瞭な縦の縫合線上が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って半分に割れた破片や、齧歯類（ネズミなど）による食痕と考えられる円形の孔をもつ個体がみられる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。表面が磨耗した個体もみられる。

・カキノキ（Diospyros kaki Thunb.）　カキノキ科

種子が検出された。炭化しており黒色、非対称な倒皮針形で偏平。長さ0.9-1.1cm、幅4-8mm、厚さ1-1.5mm程度。基部が嘴状にやや尖る。背面は曲線状、腹面は直線状で稜をなす。種皮は薄く硬く、表面は粗面。

・イネ（Oryza sativa L.）　イネ科イネ属

胚乳と穎（果）が検出された。穎（果）は淡-灰褐色、胚乳と一部の穎は炭化しており黒色。長楕円形でやや偏平。胚乳は長さ4-5.5mm、幅2.5-3.5mm、厚さ1.5mm程度。多量の胚乳が密集固結した塊状炭化物もみられる（仮No.77，91，92）。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部があり、発芽個体もみられる（仮No.144）。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。穎が付着する個体もみられる。胚乳を包む穎（果）は長さ6-7.5mm、幅3-4mm、厚さ2mm程度。基部に斜切状円柱形の特徴的な果実序柄がある。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・ヒエ－キビ近似種（Echinochloa cf. utilis Ohwi et Yabuno－Panicum cf. miliaceum L.）　イネ科ヒエ属－キビ属

胚乳と果実が確認された。淡-灰褐色、胚乳と一部の果実は炭化しており黒色。狭卵-半偏球体で背面は丸みがあり腹面はやや平ら。胚乳は長さ2-2.5mm、幅1.5-2mm、厚さ1mm程度。胚乳は基部正中線上に幅広い胚の凹みがある。表面はやや平滑。胚乳を包む果実は長さ3-3.5mm、幅2mm、厚さ1mm程度。果皮表面は平滑で、微細な縦長の網目模様が縦列する。

ヒエ、キビの同定は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察で判別可能とされるが（松谷，1980;2000など）、実体顕微鏡下での観察による厳密な判別は難しく、周辺域に生育していた可能性がある他のイネ科野生種との厳密な区別も困難である。ただし、今回は、まとまった検出量と炭化個体が確認されたことから、栽培種に由来する可能性が高いと判断し、ヒエ－キビ近似種までの判別にとどめている。

・オオムギ（Hordeum valgale L.）　イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、紡錘状長楕円体で両端は尖る。長さ5-6.5mm、径2.8-3.5mm程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。表面に果皮（穎）が付着した個体もみられ、穎果の長さは7.5-8mm程度。

・コムギ（Triticum aestivum L.）　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、楕円体。長さ3-4.5mm、径2.5-3.5mm程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体をムギ類としている。

・ソバ（Fagopyrum esculentum Moench）　タデ科ソバ属

果実が検出された。灰褐色、炭化個体は黒色。三稜状広卵体。長さ5.5-6mm、径4-5mm程度。三稜と頂部は鋭く尖り、面の部分は凹む。三稜に沿って割れた破片もみられる。基部は切形で果皮とは別組織の萼片が残る個体もみられる。果皮表面はやや平滑。

・マメ類（Leguminosae）　マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色、長楕円体。長さ3.5-6mm、径2.8-3mm程度と、大きさが異なる複数の種を一括している。子葉の合わせ目上に長楕円形で縁が隆起する細長い臍がある。種皮表面はやや平滑で光沢がある。

遺跡等から出土する炭化マメ類は、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている（吉崎，1992）。ただし、野生種との雑種も多いため、形態のみから現在の特定の種類に比定することは難しいとも考えられている（南木，1991;南木・中川，2000など）。最近では、DNA分析による判別が開発されつつある（矢野，2002）。今回検出された種子には、子葉内面の幼痕や初生葉は確認されないため、現時点では形態のみによる種類の特定は控えている。

・ワタ類?（Gossypium spp.?）　アオイ科ワタ属

種子に近似する個体が確認された。灰褐色、炭化個体は黒色。長さ6-7mm、径4-4.5mm程度の広卵体でやや偏平。頂部は鈍形、基部は種皮が伸びて臍部突起の精となる。種皮は厚さ0.4mm程度で断面は柵状。表面には綿毛（基毛）が密生するが、磨耗欠損した個体が多く、粗面。頂部と基部付近に短毛が残存する個体がみられる。種子内部に納まる子葉は長さ4.5mm、径3.5mm程度の倒卵体で幾重にも折り畳まれている。

笠原・湯浅（2001;2002）は、兵庫県西岡本遺跡の水車遺構出土炭化種実について、走査型電子顕微鏡下観察による綿種子特有の綿毛と、種皮横断面の特徴的な長い柵状細胞の確認、および現生標本との対照により、綿種子と同定している。綿は重要な栽培植物であるため、本遺跡から確認された近似個体についても、走査型電子顕微鏡下観察

および現生標本との対照による確認が望まれる。

・シソ属（Perilla）　シソ科

果実が検出された。灰褐色、炭化個体は黒色。倒広卵体。径1.6-2.4mm程度と、エゴマ（Perilla frutescens （L.） Britt. var. japonica Hara）と思われる大型個体を含む。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

・ナス科（Solanaceae）

種子が検出された。灰褐色、歪な腎臓形で偏平。径3mm程度と大型であることから、栽培種に由来する可能性がある。基部のくびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。

・メロン類（Cucumis melo L.）　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡-灰褐色、炭化個体は黒色。狭倒皮針形で偏平。長さ5.5-8.7mm、幅2.3-4mm、厚さ1-1.5mm程度と、藤下（1984）の基準による小型の雑草メロン型（長さ6.0mm以下）、中粒のマクワ・シロウリ型（長さ6.1-8.0mm）、大粒のモモルディカメロン型（長さ8.1mm以上）が確認される。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・ヒョウタン類（Lagenaria siceraria Standl.）　ウリ科ヒョウタン属

種子が検出された。灰褐色、基部のみ炭化し黒色を呈す個体（仮No.132）もみられる。長さ1-1.3cm、幅5-6mm、厚さ1.5mm程度の倒広皮針形。頂部は切形で角張り、基部は切形で臍と発芽口がある。種皮表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜に２本の縫線がある。

・トウガン（Benincasa hispida （Thunb. ex Murray） Cogn.）　ウリ科トウガン属

種子が検出された。灰褐色、長さ1cm、幅6mm、厚さ1.5mm程度の倒卵形。基部は切形で楕円形の臍がある。種子両面の全周の縁には段差があり薄くなる。種皮は厚くやや堅く、表面は粗面。

＜針葉樹＞

・マツ属複維管束亜属（Pinus subgen. Diploxylon）　マツ科

針葉の破片が検出された。灰褐色、破片の長さは7.5mm以下、径0.8mm程度の針形で２葉性。横断面は半円形で、中心部に２つの維管束がある。

・マツ属（Pinus）　マツ科

種子が検出された。灰褐色、長さ4.5-5mm、幅2.3-2.8mm、厚さ1.5mm程度の非対称倒狭卵体。側面は稜をなし、頂部や基部はやや尖る。頂部に付く倒三角形で膜質の翼を欠損する。種皮は木質で表面は粗面。

・スギ（Cryptomeria japonica （L. f.） D.）　スギ科スギ属

葉が検出された。灰-黒褐色、長さ3.5-5mm、径0.5-1mm程度の枝側に歪曲する鎌状針形で断面は菱形。基部は次第に細まり、枝条に流れる。枝条の破片は長さ1-2cm程度。

・ヒノキ（Chamaecyparis obtusa （Sieb. et Zucc.） Endlicher）　ヒノキ科ヒノキ属

枝条が検出された。灰褐色、４枚の鱗片状の葉が十字対生して茎を包む。長さ2.8mm、幅2mm程度。葉は長さ2.5mm程度、側部は楕円形で先は内曲し、面部は菱形で鈍頭-鋭尖頭。

・ヒノキ科（Cupressaceae）

種子が検出された。灰褐色、長さ2.5mm、幅1.5mm、厚さ1mm程度のやや偏平な狭卵体。頂部に短い突起があり、両側に膜状の翼がつく。種皮はやや平滑で、表面には数個の細長い樹脂腺がある。

＜広葉樹＞

・オニグルミ（Juglans mandshurica Maxim. subsp. sieboldiana （Maxim.） Kitamura）　クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。灰褐色、炭化個体は黒色。長さ2.5-3.5cm、径2.5-3cm程度の広卵体で頂部は尖る。１本の明瞭な縦の縫合線があり、縫合線上に沿って半分に割れた個体や、齧歯類（ネズミなど）による食痕と考えられる円形の孔が開いた個体（仮No.13）がみられる。また、側部が黒く炭化した個体（仮No.13）がみられる。核は木質、硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い彫紋が走り、ごつごつしている。内面は平滑で、縫合線に沿って半

分に割れた面の正中線両側には子葉が入る２つの大きな窪みがある。

・アサダ（Ostrya japonica Sarg.）　カバノキ科アサダ属

果実が検出された。灰褐色、長さ6mm、幅3mm、厚さ1.5mm程度の偏平な皮針状狭卵体で頂部は尖る。果皮両面にはそれぞれ10本程度の縦隆条が配列する。

・サワシバ（Carpinus cordata Blume）　カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。灰褐色、長さ4mm、幅2.8mm、厚さ1mm程度の偏平な卵状長楕円体。頂部には6-10個の歯牙があり、花柱は短い。線形で２個の柱頭は欠損する。果皮両面にはそれぞれ5-6個の縦隆条が配列する。

・クマシデ（Carpinus japonica Blume）　カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。灰褐色、長さ4mm、幅2.5mm、厚さ1.3mm程度の偏平な狭卵体で頂部は尖る。果皮表面はやや平滑で、10本程度の縦隆条が配列する。

・イヌシデ（Carpinus tschonoskii maxim.）　カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。灰褐色、長さ4.5mm、幅4mm、厚さ1.5mm程度の偏平な広卵体で頂部はやや尖る。果皮表面はやや平滑で、両面に各６本程度の縦隆条が配列する。

・アカシデ（Carpinus laxiflora（Sieb. et Zucc.）Blume）　カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。灰褐色、長さ2.7-3.2mm、幅2mm、厚さ1mm程度の偏平な広卵体で頂部はやや尖る。果皮表面はやや平滑で、両面に各６本程度の縦隆条が配列する。なお、イヌシデとの判別が難しい大きさの個体を、イヌシデ−アカシデとしている。

・コナラ属コナラ亜属（Quercus subgen. Quercus）　ブナ科

殻斗と効果が検出された。椀状で表面には狭卵形の鱗片が覆瓦状に配列する。殻斗は灰褐色、炭化個体は黒色。高さ5.5mm、径9mmcm程度。幼果は炭化しており黒色、径3.5-5mm程度、頂部に３花柱が残存する個体がみられる。花柱は短く太く、柱頭の先端部は内側から舌状に開く。

・コナラ属（Quercus）　ブナ科

果実の破片と子葉が検出された。果実破片は灰褐色、炭化個体は黒色。基部の着点部で、径4mm程度の円形。表面には維管束の穴が輪状に並ぶ。子葉は炭化しており黒色、長さ1.1-1.3cm、径5.5-7mm程度の卵状楕円体。子葉の合わせ目に沿って縦半分に割れた破片もみられる。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には径1mm程度の孔（主根）がある。

・シイ属（Castanopsis）　ブナ科

果実が検出された。炭化しており黒色、径5-6mm程度の広卵体で頂部は尖る。基部を占める着点は円状不定形。果皮は薄く、表面には細く浅い溝が縦列する。子葉の合わせ目に沿って縦半分に割れた破片もみられる。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上頂部には径1mm程度の孔（主根）がある。

・クリ（Castanea crenata Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

果実の破片が検出された。黒褐色。完形ならば径2-3cm程度の三角状広卵体で、一側面は偏平で反対面はわずかに丸みがある。検出された破片は、表面の縦筋模様に沿って割れており、大きさ2cm以下。果皮表面は平滑で、ごく浅く微細な縦筋がある。内面には灰褐色の内果皮（渋皮）がある。基部の全面を占める着点は、灰褐色で粗く不規則な粒状紋様がある。

・ブナ（Fagus crenata Blume）　ブナ科ブナ属

果実を包む殻斗の破片が検出された。長さ1.9cm、径1.1cm程度の卵状楕円体。縦に４裂した１片は長さ1.9cm、幅1mm、厚さ2-3mm程度の卵状楕円形。外面は刺状突起が密布するが、質が柔らかいため突起頂部を欠損する。内面はやや平滑で微細な縦筋がある。

・ケヤキ（Zelkova serrata（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

果実と葉が検出された。灰褐色、果実は径3.5-4mm程度の歪んだ心状倒広卵体で背面方向に湾曲する。花柱が嘴状

突起状に残る。基部に円形の臍があり、褐色の繊維が放射状に発達する。葉は長さ2.5-3cm、幅1.1cm程度の卵形で、先端は鋭尖形、基部は左右非対称な鈍形。鋸歯は大型で、基部がふくらみ先端は鋭尖形。２次脈は12本程度、葉縁で先端側へカーブし、鋸歯へ入る。質は薄い。

・クワ属（Morus）　クワ科

種子が検出された。灰褐色、長さ1.8mm、径1.5mm程度の三角状広倒卵体。一側面は狭倒卵形で、他方は稜になりやや薄い。一辺が鋭利で、基部に爪状の突起を持つ。表面には微細な網目模様がありざらつく。

・マタタビ属（Actinidia）　マタタビ科

種子が検出された。黒褐色、長さ2mm、幅1.3mm程度の両凸レンズ状楕円体。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表面には円-楕円形の凹点が密布し網目模様をなすことから、横長楕円形の網目模様をなすシマサルナシ（Actinidia rufa （Sieb. et Zucc.） Planchon ex Miq.）とは区別される。

・キイチゴ属（Rubus）　バラ科

核（内果皮）が検出された。形態上差異のある複数種を一括した。灰褐色、長さ2mm、幅1.5mm、厚さ0.7mm程度の半円形-三日月形。腹面方向にやや湾曲する。表面には大きな凹みが分布し網目模様をなす。

・キハダ（Phellodendron ammrense Ruprecht）　ミカン科キハダ属

核（内果皮）が検出された。黒褐色、長さ4.5mm、幅3mm、厚さ1.5mm程度の半横広卵形でやや偏平。種皮は硬く、表面には浅く微細な網目模様が縦列する。

・イヌザンショウ属（Fagara）　ミカン科

核（内果皮）が検出された。黒褐色、長さ3-3.5mm、幅3mm、厚さ1.5mm程度の非対称広倒卵体でやや偏平。腹面正中線上に広線形の臍がある。内果皮は厚く硬く、表面にやや深く大きな網目模様がある。

・サンショウ属（Zanthoxylum）　ミカン科

核（内果皮）が検出された。黒褐色、長さ4.5mm、幅3.5mm、厚さ1.5mm程度の倒卵体でやや偏平。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。内果皮は厚く硬く、表面には浅く細かな網目模様がみられる。表面に黒色で薄い果皮が付着する個体もみられる。

・ドクウツギ（Coriaria japonica Asa Gray）　ドクウツギ科ドクウツギ属

核が検出された。暗灰褐色、長さ2mm、幅4mm、厚さ1.5mm程度の偏平な半横卵体。背面は横狭卵形で、正中線上に１個の隆条がある。側面は各数個の葉脈状の横隆条がある。

・カエデ属（Acer）　カエデ科

果実が検出された。灰褐色、長さ3.5mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度の広卵体。頂部につく非対称倒三角形の翼を含めた長さは1.1cm程度。翼果の角度は鈍角。果実基部は切形で２翼果の合着面は平ら。果皮両面の正中線上に鈍稜がある。表面には葉脈状の隆条模様がある。

・モチノキ属（Ilex）　モチノキ科

核が検出された。灰褐色、長さ4.5mm、径2.5mm程度の３稜状倒卵体。背面は丸みがあり、腹面の正中線上は稜をなす。横断面は扇形。表面には3-5個の縦隆条からなる葉脈状網目模様がある。

・ブドウ属（Vitis）　ブドウ科

種子が検出された。灰-黒褐色、炭化個体は黒色。長さ4-5mm、径3-3.7mm程度の広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。

・キブシ（Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.）　キブシ科キブシ属

種子が検出された。黄褐色、長さ1.8mm、径1.5mm程度の三角状広倒卵体。一側面観は狭倒卵形で、他方は稜になり薄くなる。表面は平滑で光沢があり、内部に微細な粒状の網目模様が密布する。

・ミズキ（Cornus controversa Hemsley）　ミズキ科ミズキ属

核（内果皮）が検出された。淡灰褐色、径4mm程度の偏球体。基部に大きく深い孔がある。内果皮は厚く硬く、

表面には一周する１本のやや幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。

・ハクウンボク（Styrax obassia Sieb. et Zucc.）　エゴノキ科エゴノキ属

種子が検出された。黒褐色、長さ1.3cm、径7.5mm程度の紡錘状卵体。頂部はやや尖り、頂部から基部にかけて３本程度の縦溝と縦隆条がある。基部に斜切形、灰褐色で粗面の着点がある。種皮は厚く硬く、断面は柵状。表面にはエゴノキ（Styrax japonica Sieb. et Zucc.）よりも微細な粒状網目模様がある。

＜草本＞

・エノコログサ属（Setaria）　イネ科

果実が検出された。黄灰褐色、長さ2.8mm、径1.5mm程度の狭卵-半偏球体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面には横方向に目立つ網目模様が配列する。

・イネ科（Gramineae）

果実が確認された。イネ、ヒエ－キビ近似種、オオムギ、コムギなどの栽培種や、エノコログサ属以外の形態上差異のある複数種を一括した。果実は淡-茶褐色、長さ2-3mm、径1-2mm程度の狭卵-半偏球体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面は平滑で微細な縦長の網目模様が縦列する。表面に毛が密生する個体もみられる。

・ホタルイ属（Scirpus）　カヤツリグサ科

果実が検出された。黒褐色、長さ2-2.3mm、径1.8mm程度の片凸レンズ状の広倒卵体で頂部は尖る。背面正中線上は鈍稜。基部は切形で、剌針状の花被片が伸びる個体がみられる。果皮表面は光沢があり、不規則な波状の横皺状模様が発達する。

・カヤツリグサ科（Cyperaceae）

果実が検出された。黒褐色、長さ2.2mm、径1.8mm程度の広倒卵体で頂部は尖る。基部は切形。背面正中線上は鈍稜。果皮表面はやや平滑。

・ギシギシ属（Rumex）　タデ科

果実が検出された。暗灰褐色、長さ2.5mm、径1.5mm程度の三稜状広卵体。三稜は鋭く明瞭。頂部は尖り、基部は切形で果皮とは別組織の萼片が残る。果皮表面はやや平滑。

・サナエタデ近似種（Polygonum cf. lapathifolium L.）　タデ科タデ属

果実が検出された。黒褐色、径2-2.5mm程度の円形で偏平な二面体。両面中央はやや凹む。頂部はやや尖り、２花柱が残存する個体もみられる。基部には灰褐色の萼があり、先が２つに分かれ反りかえる花被の脈が伸びる。果実表面は平滑で光沢がある。

・ミゾソバ近似種（Polygonum cf. thunbergii Sieb. et Zucc.）　タデ科タデ属

果実が検出された。灰褐色、長さ4.8mm、径2.5mm程度の三稜状広卵体。頂部は尖り、基部は切形で果皮とは別組織の萼が残る。果皮は薄く柔らかく、表面は微細な網目模様が発達しざらつく。

・タデ属（Polygonum）　タデ科

果実が検出された。サナエタデ近似種、ミゾソバ近似種以外の形態上差異のある複数の種を一括した。黒褐色、長さ2mm、径1.3mm程度の丸みのある三稜状卵体で、基部に灰褐色の萼片があり、果皮表面はやや平滑で光沢がある、イヌタデ（Polygonum longisetum De Bruyn）に似る個体や、径2mm程度の背面正中線上に鈍稜のある広卵体で頂部は尖り、表面には明瞭な網目模様が発達しざらつく個体などがみられる。

・アカザ科（Chenopodiaceae）

種子が検出された。黒色、径1.3mm程度の円盤状でやや偏平。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。

・ヒユ科（Amaranthaceae）

種子が検出された。黒色、径1.3mm程度の円盤状で偏平、縁は稜状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が配列し、光沢がある。

・ナデシコ科（Caryophyllaceae）

種子が検出された。淡-茶褐色、径1mm程度の腎状円形でやや偏平。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く柔らかい。種皮表面には瘤-針状突起が臍から同心円状に配列する。

・キンポウゲ属（Ranunculus）　キンポウゲ科

果実が検出された。灰黄褐色、長さ3mm、幅2mm、厚さ0.5mm程度の偏平な非対称広倒卵形。頂部や基部はやや尖る。果皮は薄くスポンジ状で表面はざらつく。

・ケケマン属（Coryda r is）　ケシ科

種子が検出された。黒褐色、径1.7mm程度の腎臓状円形で両凸レンズ形。基部は切形でやや突出し、長方形の臍がある。種皮表面は平滑で光沢が強く、微細な縦長の網目模様が臍を取り囲むように同心円状に配列する。

・クサネム近似種（Aeschynomene cf. indica L.）　マメ科クサネム属

果実（豆果）の破片が検出された。灰褐色、完形ならば長さ3.5cm程度、幅5-6mm、厚さ1mm程度の偏平な非対称広線形で頂部と基部は伸びる。縁に筋があり、腹面方向にやや湾曲する。破片は、6-8個程度の短軸方向の節に沿って分離した1片で、長さ7mm、幅5mm程度の偏平な長方形、一端は斜切形。果皮表面は粗面。

・エノキグサ（Acalypha australis L.）　トウダイグサ科エノキグサ属

種子が検出された。黒褐色、長さ1.6-1.8mm、径1-1.3mm程度の倒卵体。基部はやや尖り、Y字状の筋がある。種皮は薄く硬く、表面には細かい粒状の凹みが密布しざらつく。

・トウダイグサ属（Euphorbia）　トウダイグサ科

種子が検出された。黒褐色、長さ1.8mm、径1.5mm程度の倒卵体。腹面正中線上に隆条がある。臍は基部の嘴状突起の先端にある。種皮表面には5-6角形の凹みによる大型網目模様がある。

・スミレ属（Viola）　スミレ科

種子が検出された。淡灰褐色、長さ1.5mm、径1.2mm程度の広倒卵体。基部は尖りやや湾曲する。頂部は円形の臍点がある。表面には縦方向に走る1本の縫合線がある。種皮は薄く、表面は細かい縦長の網目模様が配列する。

・シソ科（Labiatae）

果実が検出された。灰-黒褐色、径1.8-2mm程度の倒広卵体。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は粗面。

・アカネ科（Rubiaceae）

核が検出された。黒褐色、長さ1mm、径1.5-2mm程度の偏球体。腹面中央に径0.5mm程度の楕円形の深い孔がある。表面には微細な網目模様が発達する。

・オミナエシ属（Patrinia）　オミナエシ科

果実が検出された。灰褐色、長さ1.7mm、幅1.3mm程度の卵体でやや偏平。腹面の正中線上に隆条があり、その上部は突起し孔がある。背面はやや平らで縁は翼状。表面には微細な網目模様がある。

・カラスウリ（Trichosanthes cucumeroides （Ser.） Maxim.）　ウリ科カラスウリ属

種子が検出された。灰褐色、長さ8mm、幅9mm、厚さ3mm程度のやや偏平な横楕円体。正中線は幅4.5mm程度の帯状に隆起し、基部に臍がある。種皮表面は粗面。

・スズメウリ（Melothria japonica （Thunb.） Maxim.）　ウリ科スズメウリ属

種子が検出された。灰褐色、長さ6.5mm、幅4mm、厚さ0.5mm程度の倒卵形。縁は肥厚せず、両面中央には倒卵形の浅い凹みがある。基部は斜切形で臍と発芽口がある。種皮表面は微細な網目模様が縦列する。

・タカサブロウ（Eclipta prostrata （L.） L.）　キク科タカサブロウ属

果実が検出された。灰褐色、長さ2.2mm、径1mm程度の狭倒皮針体。両端は切形、表面はスポンジ状で、背腹両面には瘤状突起が分布する。両縁に翼があり、水に浮きやすい。

・キク科（Compositae）

果実が検出された。淡灰褐色、長さ1mm、径0.3mm程度の線状長楕円体。頂部は切形で円形の臍があり、冠毛が伸びる。冠毛を含めた長さは3.2mm程度。果皮表面には微細な網目模様が縦列し、毛が密生する。

＜不明種実＞

・不明種実A

灰褐色、長さ2.2-2.2mm、径2mm程度の楕円体。基部にY字状の稜がある。表面には縦隆条が数本配列し、粗い網目模様がある。

・不明種実B

淡-灰褐色、長さ1.8、径1.6mm程度の三角状広倒卵体。一側面観は狭倒卵形で、他方は稜になり薄くなる。腹面正中線上基部に斜切形の臍がある。表面は粗面。

4．考察

（1）栽培植物

栽培植物は、大型植物遺体分類群の全検出個体数25987個（+181cc）の約97%（25329個）と、極めて高い割合を示した。種類構成は、スモモ２個、モモ１個、カキノキ４個、イネの胚乳8187個（+29cc）、穎1615個（+145cc）、ヒエ－キビ近似種362個、オオムギ6982個、コムギ287個、ムギ類185個、ソバ680個（+7cc）、マメ類685個、ワタ類？427個、シソ属（エゴマを含む）77個、メロン類386個、ヒョウタン類３個、トウガン８個、栽培種の可能性があるナス科5438個と、イネ胚乳、オオムギ、ナス科が多く検出され、次いで、ヒエ-キビ近似種、ソバ、マメ類、ワタ類？、メロン類が多い傾向が認められた。

このうち、スモモ、モモ、カキノキは、観賞用の他、果実が食用、薬用等に広く利用される。イネ、ヒエ－キビ近似種、オオムギ、コムギ、ムギ類は胚乳、ソバ、マメ類は種子が食用される。ワタ類は種子が繊維や油料に利用される。管見の限りでは、山梨県内における綿の出土例は認められていないことから、本分析結果で検出された近似個体については、走査型電子顕微鏡下観察および現生標本との対照による確認・検証が望まれる。シソ属（エゴマを含む）は、種子が食用や油料に利用される。メロン類は、果実が食用とされるが、雑草メロン型、マクワ･シロウリ型、モモルディカメロン型に該当する種子（藤下，1984）が確認されたことから、複数の品種が利用されていた可能性がある。ヒョウタン類は果実が食用や容器等に、トウガンは果実が食用に利用される。また、大型種子が検出されたナス科は、野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培など、種実や種実以外の部位の利用形態も考えられる（青葉，1991など）が、現段階では種類の細分化に至っておらず、詳細な検討については今後の課題である。これらの栽培植物（およびその可能性がある種類）が多量に検出されたことから、当該期の周辺域における栽培の可能性や本遺跡における利用が窺われ、炭化した個体が多数認められたことから、何らかの要因で被熱した状況や廃棄等の人為的行為も推定される。

各地点の栽培植物の種類構成は、それぞれ異なる特徴を示している。G494やG494西側では未炭化のナス科が多く検出される一方、G494東側板の下では、炭化したオオムギ、コムギなどのムギ類やマメ類、ワタ類？や、未炭化のメロン類が多く検出され、ナス科やメロン類には炭化個体が確認される。東側２号墓では、炭化したイネ胚乳・穎とソバの果皮片が多く、メロン類にも炭化個体が確認される。G520-521ではイネの炭化した胚乳が多く、２号炉では、発芽個体を含むイネ胚乳・穎や、ヒエ－キビ近似種、ワタ類？が多く、シソ属、ヒョウタン類には炭化した個体が確認される。以上の種類構成の特徴や栽培植物の検出状況から、建物跡内の施設との関連性も想定されるが、この点については、発掘調査所見と合わせ評価・検討することが望まれる。

（2）周辺植生

上記した栽培植物と不明種実を除く分類群は、針葉樹５分類群（マツ属複維管束亜属、マツ属、スギ、ヒノキ、ヒノキ科）、広葉樹25分類群（オニグルミ、アサダ、サワシバ、クマシデ、イヌシデ、アカシデ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属、シイ属、クリ、ブナ、ケヤキ、クワ属、マタタビ属、キイチゴ属、キハダ、イヌザンショウ属、サンショウ属、ドクウツギ、カエデ属、モチノキ属、ブドウ属、キブシ、ミズキ、ハクウンボク）、草本23分類群（エノコログサ属、イネ科、ホタルイ属、カヤツリグサ科、ギシギシ属、サナエタデ近似種、ミゾソバ近似種、タ

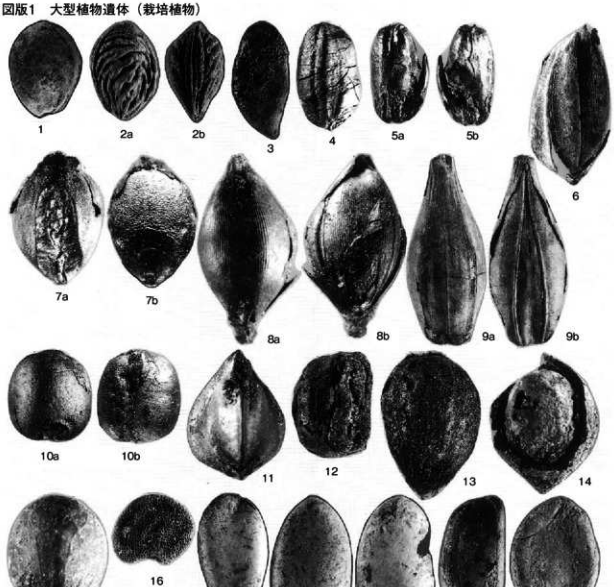
デ属、アカザ科、ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、キケマン属、クサネム近似種、エノキグサ、トウダイグサ属、スミレ属、シソ科、アカネ科、オミナエシ属、スズメウリ、タカサブロウ、キク科）が確認された。

針葉樹は、植林（植栽）や二次林等に由来する可能性や、供給域に比較的近い山地・丘陵等に生育していたものに由来すると推定される。広葉樹では、ブナ等の冷温帯に分布する落葉広葉樹や暖温帯に分布する落葉広葉樹、常緑広葉樹のシイ属等は、現在の遺跡周辺にも生育する種類であり、これらは後背の山地・丘陵に生育していたと考えられる。また、オニグルミやケヤキ、ミズキ等は湿地林・河畔林を形成する分類群である。サワシバ、クマシデ、イヌシデ、アカシデなどのシデ類、クリ、クワ属、キハダ、イヌザンショウ属、サンショウ属等の高木やキイチゴ属やドクウツギ等の低木、マタタビ属やブドウ属などの藤本等は、伐採地や崩壊地、林縁などの明るく開けた場所に先駆的に侵入する樹種である。これらは、周辺の河川沿いの低地や人里と林地の境界、後背の森林との境界付近を中心に生育していたものに由来すると推定される。

草本類は、明るく開けた場所に生育する人里植物に属する分類群が多く確認されたことから、遺跡内や周辺城の草地等に生育していたものに由来すると考えられる。さらに、水生植物を含むホタルイ属や、湿った場所に生育するミゾソバ近似種、クサネム近似種、スズメウリ、タカサブロウなどが認められたことから、周辺域には水湿地の存在も推定される。

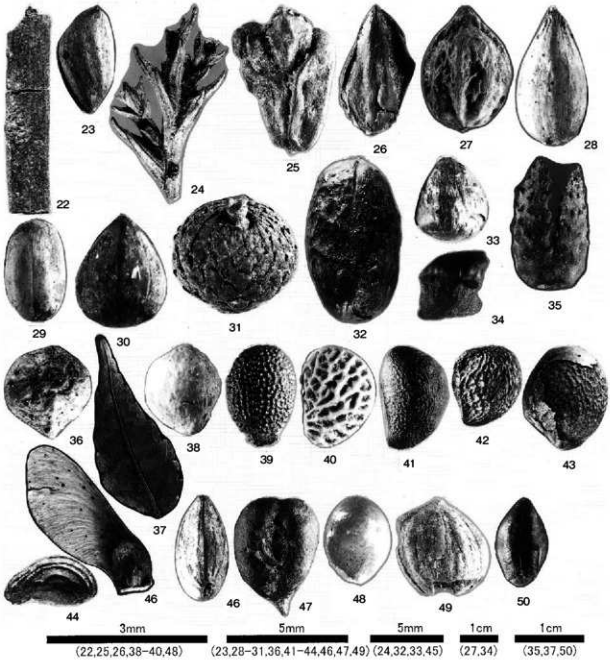
また、これらの自生していたと考えられる分類群のうち、オニグルミ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属、シイ属、クリ、ブナ等の堅果類は、子葉の食用や長期保存が可能であり、クワ属、マタタビ属、キイチゴ属、ブドウ属等は果実が食用可能な種を含む。東側２号墓と２号炉から確認されたオニグルミや、G494東側板の下から確認されたコナラ属コナラ亜属、コナラ属、シイ属、G494東側板の下と２号炉から確認されたブドウ属には炭化した個体が認められたことから、被熱の影響が指摘される。また、上記したように多量の炭化した栽培植物と共伴する状況から、これらの栽培植物とともに利用されていた可能性もある。

図版1　大型植物遺体（栽培植物）



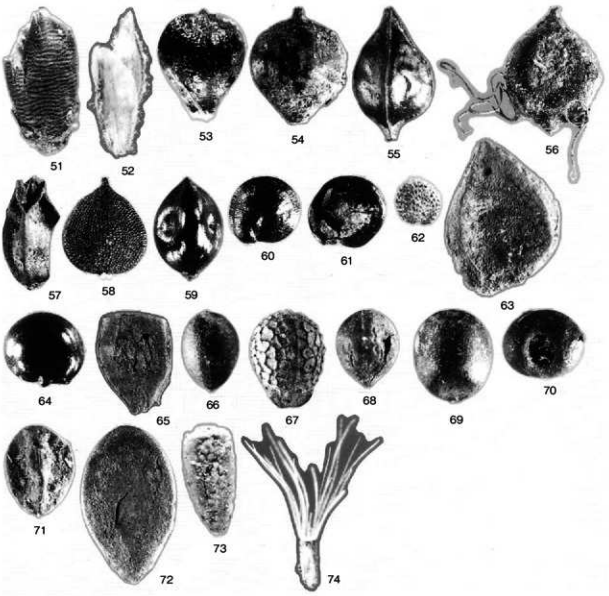
1．スモモ 核(G494東側板の下;上 13)
2．モモ 核(G494東側板の下;上 13)
3．カキノキ 種子(G494東側板の下;上 12)
4．イネ 胚乳(2号炉;下 144)
5．イネ 胚乳(発芽個体)(2号炉;下 144)
6．イネ 籾(東側2号墓;中 80)
7．ヒエーキビ近似種 胚乳(2号炉;下 120)
8．ヒエーキビ近似種 果実(2号炉;下 120)
9．オオムギ 胚乳・籾(G494東側板の下;中 22)
10．コムギ 胚乳(G494東側板の下;中 21)
11．ソバ 果実(東側2号墓;中 82)
12．マメ類 種子(G494東側板の下;中 21)
13．ワタ類? 種子(2号炉;中 110)
14．ワタ類? 種子(G494東側板の下;中 18)
15．シソ属 果実(G494西側;下 48)
16．ナス科 種子(G494;下 7)
17．メロン類 種子(雑草メロン型)(G494東側板の下;中 17)
18．メロン類 種子(マクワ・シロウリ型)(G494東側板の下;中 17)
19．メロン類 種子(モモルディカメロン型)(G494東側板の下;中 17)
20．ヒョウタン類 種子(2号炉;中 132)
21．トウガン 種子(G494西側;1-2上 51)

図版2　大型植物遺体（木本）



22．マツ属複維管束亜属 葉(G494;中 6)
23．マツ属 種子(東側2号墓;下 84)
24．スギ 葉(G494東側板の下;上 28)
25．ヒノキ 枝条(2号炉;中 112)
26．ヒノキ科 種子(2号炉;中 112)
27．オニグルミ 核(G494東側板の下;上 13)
28．アサダ 果実(2号炉;中 107)
29．サワシバ 果実(2号炉;中 133)
30．イヌシデ 果実(2号炉;下 154)
31．コナラ属コナラ亜属 幼果(G494東側板の下;中 21)
32．コナラ属 子葉(G494東側板の下; 30)
33．シイ属 果実(G494東側板の下;中 21)
34．クリ 果実(2号炉;上 102)
35．ブナ 殻斗(東側2号墓;上 76)
36．ケヤキ 果実(G494;上 2)
37．ケヤキ 葉(G494;上 3)
38．クワ属 種子(東側2号墓;下 84)
39．マタタビ属 種子(2号炉;下 150)
40．キイチゴ属 核(2号炉;下 150)
41．キハダ 核(2号炉;下 155)
42．イヌザンショウ属 核(2号炉;下 152)
43．サンショウ属 核(東側2号墓;中 79)
44．ドクウツギ 核(東側2号墓;下 84)
45．カエデ属 果実(G494東側板の下;下 35)
46．モチノキ属 核(G494東側板の下;上 11)
47．ブドウ属 種子(2号炉;中 137)
48．キブシ 種子(2号炉;下 151)
49．ミズキ 核(G494東側板の下;上 11)
50．ハクウンボク 種子(2号炉;上 126)

図版3　大型植物遺体（草本）



51．エノコログサ属 果実(G494;下 7)
52．イネ科 果実(2号炉;中 112)
53．ホタルイ属 果実(G494西側;1-2下 67)
54．カヤツリグサ科 果実(G494;下 7)
55．ギシギシ属 果実(2号炉;下 120)
56．サナエタデ近似種 果実(G494;上 3)
57．ミゾソバ近似種 果実(東側2号墓;中 79)
58．タデ属 果実(2号炉;下 150)
59．タデ属 果実(2号炉;下 153)
60．アカザ科 種子(2号炉;下 153)
61．ヒユ科 種子(G494西側;1-2下 67)
62．ナデシコ科 種子(G494;下 7)
63．キンポウゲ属 果実(G494西側;下 48)
64．キケマン属 種子(2号炉;下 153)
65．クサネム近似種 果実(G494;中 4)
66．エノキグサ 種子(2号炉;下 150)
67．トウダイグサ属 種子(2号炉;下 150)
68．スミレ属 種子(2号炉;下 120)
69．シソ科 果実(2号炉;下 150)
70．アカネ科 核(G494東側板の下;下 36)
71．オミナエシ属 果実(G494西側;下 49)
72．スズメウリ 種子(G494東側板の下;中 16)
73．タカサブロウ 果実(G494西側;下 49)
74．キク科 果実(2号炉;中 112)

引用文献

青葉　高，1991，野菜の日本史,八坂書房，317p.
藤下典之，1984，出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法,古文化財の自然科学的研究，古文化財編集委員会編，同朋舎，638-654.
今泉俊文・町田　博・松田時彦，2006，甲府盆地とその周辺,日本の地形５中部，町田　博・松田時彦・海津正倫・小泉武栄編，東京大学出版会，65-70.
石川茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑,石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.
笠原安夫・藤沢浅，2001，西岡本遺跡の水車遺構から出土した炭化綿種子の同定,神戸市灘区西岡本遺跡，六甲山麓遺跡調査会編，209-219.
笠原安夫・藤沢浅，2002，西岡本遺跡の水車遺構から出土した炭化綿種子,東大阪市文化財協会ニュースVol.5，No.4,財団法人東大阪市文化財協会，7-10.
小林広和・猪股一弘，2006，小井川遺跡,2005年度下半期遺跡調査発表会要旨，山梨県埋蔵文化財センター，8-9.
松谷　暁子，1980，十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について,浦幌町郷土博物館報告，第16号，203-211.
松谷　暁子，2000，植物遺残の識別と保存について,Ouroboros，東京大学総合研究博物館ニュース，Volume5,Number1，8-10.
南木睦彦，1991，栽培植物，古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ，石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編，雄山閣，165-174.
南木睦彦・中川治美，2000，大型植物遺体,琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2　栗津湖底遺跡　自然流路（栗津湖底遺跡Ⅲ），滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会，49-112.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志，2000，日本植物種子図鑑,東北大学出版会，642p.
矢野　梓，2002，遺跡から出土した小型豆のＤＮＡ分析，DNA考古学Newsletter3.
吉崎昌一，1992，古代雑穀の検出,月刊考古学ジャーナル，No.355，2-14.

表2.　大型植物遺体分析結果(1)

試料名	層位	区分	仮No.	スモモ 核 完形	モモ 核 完形	カキノキ 種子 炭化	イネ 胚乳 炭化	イネ 穎 炭化含	キビ近似種 胚乳 炭化	ヒエ 果実 炭化含	オオムギ 穎・胚乳 炭化	ムギ類 胚乳 炭化	コムギ 胚乳 炭化	ソバ 果実 完形	ソバ 果実 完形 炭化	ソバ 果実 破片 炭化含	マメ類 種子 完形 炭化	マメ類 種子 破片 炭化	ワタ類? 種子	ワタ類? 種子 炭化	シソ属 果実	シソ属 果実 炭化	ナス科 種子	ナス科 種子 炭化	メロン類 種子	メロン類 種子 炭化	ヒョウタン類 種子	トウガン 種子	マツ属複維管束亜属 葉 破片	マツ属 種子	スギ 葉	ヒノキ 枝条	ヒノキ科 種子
分類群				栽培植物																									針葉樹				
G494 種群 種	上		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	108	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		3	-	-	-	1	33	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		5	-	-	-	1	5	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	442	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		6	-	-	-	1	95	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80	-	1	-	-	-	3	-	-	-	-
	下		7	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3622	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G494 東側板の下 種 炭	上		9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	-	-	-	-	-
	上	種	11	-	-	-	-	37	1	-	1	-	5	1	-	-	2	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	上	種	12	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	13	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		葉・木の皮	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	上	炭	15	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		16	-	-	-	4	56	-	1	8	-	1	-	-	-	4	3	10	-	1	-	14	-	20	-	-	1	-	-	2	-	-
	中		17	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	163	-	-	-	-	2	-	-	-
	中	種	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	20	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	24	-	-
	中	種	21	-	-	2	13	3	1	14	376	6	94	-	5	-	334	13	-	97	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-
	中	種	22	-	-	-	199	17	-	1	3199	40	61	-	-	-	23	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	-	-
	中	葉	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	虫	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	炭	25	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	27	-	-	-	76	14	-	2	2144	29	61	-	2	-	47	8	-	25	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	13	-	-
	上	種	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	48	-	-
		種	29	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	20	-	-	1	-	-	-	-	-
		種	30	-	-	-	-	-	-	-	28	-	5	-	-	-	76	5	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	下	種	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	33	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-
	下	種	35	-	-	-	3	49	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	63	-	103	-	-	-	-	1	2	-	-
	下	種	36	-	-	-	143	10	6	4	550	24	49	-	3	-	72	10	-	1	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	8	-	-
	下	虫	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭	38	-	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	1-2	種	39	-	-	-	2	6	-	-	90	-	2	-	-	-	5	-	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-3		40	-	-	-	2	4	-	-	9	1	-	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
G494西側 種群 種	上	種	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	43	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		46	-	-	-	1	71	-	3	1	-	-	10	-	-	-	-	-	-	6	-	324	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-
	中		47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	48	-	-	-	-	21	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	-	584	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	もみがら	49	-	-	-	-	>150	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2上	種	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-
	1-2上	モミガラ	52	-	-	-	-	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	56	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	炭	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	65	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	71	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	モミガラ	72	-	-	-	-	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	炭	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

試料名	層位	区分	仮No.	オニグルミ 核 破片	オニグルミ 核 破片 炭化	アサダ 果実	サワシバ 果実	クマシデ 果実	イヌシデ 果実	イヌシデ－アカシデ 果実	アカシデ 果実	コナラ属コナラ亜属 殻斗	コナラ属コナラ亜属 殻斗 炭化	コナラ属コナラ亜属 幼果 炭化	コナラ属 果実 破片	コナラ属 果実 破片 炭化	コナラ属 子葉 完形 炭化	コナラ属 子葉 破片 炭化	シイ属 果実 炭化	クリ 果実 破片	ブナ 殻斗 破片	ケヤキ 果実	ケヤキ 葉	クワ属 種子	マタタビ属 種子	キイチゴ属 核	キハダ 核	イヌザンショウ属 核	サンショウ属 核	ドクウツギ 核	カエデ属 果実	モチノキ属 核	ブドウ属 種子	ブドウ属 種子 炭化	キブシ 種子	ミズキ 核	ハクウンボク 種子
分類群				広葉樹																																	
G494 種群 種	上		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	下		8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G494 東側板の下 種 炭	上		9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	-
	上	種	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	13	4	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		葉・木の皮	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	炭	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		16	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	3	-	-	1	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	葉	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	虫	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	炭	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
	上	種	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		種	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		種	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
	下	種	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	虫	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2	種	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-3		40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G494西側 種群 種	上	種	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	42	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上		44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		46	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	中		47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	48	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	もみがら	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2上	種	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2上	モミガラ	52	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	種	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2中	炭	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	種	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	モミガラ	72	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	1-2下	炭	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

試料名	層位	区分	仮No.	エノコログサ属 果実	イネ科 果実	ホタルイ属 果実	カヤツリグサ科 果実	ギシギシ属 果実 炭化	サナエタデ近似種 果実	ミゾソバ近似種 果実	タデ属 果実	アカザ科 種子	ヒユ科 種子	ナデシコ科 種子	キンポウゲ属 果実	キケマン属 種子	クサネム近似種 果実 破片	エノキグサ 種子	トウダイグサ属 種子	スミレ属 種子	シソ科 果実	アカネ科 核	オミナエシ属 果実	スズメウリ 種子	タカサブロウ 果実	キク科 果実	不明種実	不明種実 炭化	備考
分類群				草本																									
G494 種群 種	上		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,マクワ·シロウリ型
	上		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上		3	-	-	1	-	-	6	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	75gのうち径1mm以上(21g)を対象
	中		4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中		5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中		6	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26.1gのうち径1mm以上(21.1g)を対象
	下		7	1	-	5	1	-	4	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	下		8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	分析対象外(全115g)
G494 東側板の下 種 炭	上		9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	空袋,種実無し
	上	種	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	種	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	全分析,不明炭化果実
	上	種	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	種	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミ1個食痕,1個側部炭化
		葉・木の皮	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	炭	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中		16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	全分析
	中		17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	種	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	種	19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	種	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	種	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	4	全分析,不明B1個,不明炭化果実4個
	中	種	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	葉	23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	中	虫	24	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中	炭	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中		26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	種	27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	種	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
		種	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
		種	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	全分析,不明炭化果実2個(3裂型)
	下	種	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	空袋,種実無し
	下	種	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	空袋,種実無し
	下	種	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	下	種	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	下	種	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	全分析,不明A
	下	種	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	-	-	1	1	全分析,不明A1個
	下	虫	37	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	下	炭	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2	種	39	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-3		40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
G494西側 種群 種	上	種	41	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,雑草メロン型1個
	上	種	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上	種	43	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	上		44	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	分析対象外
	中		45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,雑草メロン型2個
	中		46	-	-	4	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	中		47	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	分析対象外
	下	種	48	1	-	11	-	-	3	-	1	6	3	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析,雑草メロン型1個,不明B1個
	下	もみがら	49	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	径1mm以上対象
	下		50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	分析対象外
	1-2上	種	51	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2上	モミガラ	52	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	径1mm以上対象
	1-2中	種	53	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	54	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,基部着点部
	1-2中	種	55	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	56	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	57	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	58	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	1-2中	種	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	種	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2中	炭	62	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	1-2下	種	63	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	1-2下	種	64	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	65	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	67	-	-	12	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	68	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
	1-2下	種	69	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	種	71	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	モミガラ	72	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
	1-2下	炭	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し

表2.　大型植物遺体分析結果(2)

試料名	層	種別	個No.	栽培植物 スモモ 核 完形	モモ 核 完形	カキノキ 種子 炭化	イネ 胚乳 炭化	イネ 穎 炭化含	キビ近似種 胚乳 炭化	ヒエー 果実 炭化含	オオムギ 胚乳・穎 炭化	ムギ類 胚乳 炭化	コムギ 胚乳 炭化	ソバ 果実 完形	ソバ 果実 完形 炭化	ソバ 果実 破片 炭化含	マメ類 種子 完形 炭化	マメ類 種子 破片 炭化	ワタ類? 種子	ワタ類? 種子 炭化	シソ属 果実	シソ属 果実 炭化	ナス科 種子	ナス科 種子 炭化	メロン類 種子	メロン類 種子 炭化	ヒョウタン類 種子	トウガン 種子	針葉樹 マツ属複維管束亜属 葉 破片	マツ属 種子	スギ 葉	ヒノキ 枝条	ヒノキ科 種子	広葉樹 オニグルミ 核 破片	オニグルミ 核 破片 炭化	アサダ 果実	サワシバ 果実	クマシデ 果実	イヌシデ 果実	イヌシデ-アカシデ 果実	アカシデ 果実
東側2号墓	上	種	74	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	5	-	-	-	-	-	-
	上	種	75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	炭化物	77	-	-	-	塊4cc (0.48g) +14	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	79	-	-	-	82	3	-	12	1	1	-	-	3	-	-	-	-	2	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	モミガラ	80	-	-	-	107	75cc (5.78g)	-	5	-	-	-	-	1	7cc (0.77g)	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
	中	米	81	-	-	-	49	101	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種 ソバ	82	-	-	-	23	28	-	1	1	-	-	-	4	581	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種 炭化物	83	-	-	-	32	6	-	-	218	49	-	-	-	-	12	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
	下	種	85	-	-	-	73	2	-	11	23	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	虫	86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭化物 種	87	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭化物 種	88	-	-	-	19	2	2	-	26	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭化物内 種	89	-	-	-	51	3	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		炭化物内 種	90	-	-	-	156	51	-	-	32	-	-	-	-	-	29	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
G520-521 炭化物内種	上	種	91	-	-	-	塊20cc (3.36g) +139	56	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	炭	92	-	-	-	塊5cc (1.65g) +2	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	93	-	-	-	513	178	-	-	59	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	94	-	-	-	108	4	1	-	1	2	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	炭	95	-	-	-	30	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	96	-	-	-	17	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	97	-	-	-	753	5	-	1	10	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭	98	-	-	-	94	54	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2号炉 種	上	種	99	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	くるみ	101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	-	-	-	-	-	-
	上	くり	102	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	もみがら	103	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	実	104	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	105	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	106	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	107	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
	中	種	108	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	109	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	110	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	105	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	米	111	-	-	-	769	167	-	-	1	-	2	-	1	-	1	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	もみがら	112	-	-	-	675	70cc (8.92g)	17	17	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	炭	113	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	114	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	115	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	116	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	117	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	118	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	119	-	-	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	120	-	-	-	26	-	52	50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	モミガラ	121	-	-	-	8	147	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	炭	122	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	米	123	-	-	-	1807	30	5	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	種	124	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	杉の種	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	どんぐり	126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	クルミ	127	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
	上	クリ	128	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	実	129	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	上	竹	130	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	131	-	-	-	4	61	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	132	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
	中	種	134	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	135	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	136	-	-	-	182	4	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	137	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	138	-	-	-	1	-	-	-	107	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中	種	139	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	140	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	141	-	-	-	6	-	34	10	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	142	-	-	-	-	-	1	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	種	143	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	米	144	-	-	-	1953	23	10	24	8	15	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	もみがら	145	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下	とげ	146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		147	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		149	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		150	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		151	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		152	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		153	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		154	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	2	1	2	2
	下		155	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		156	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		157	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		158	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	下		159	-	-	-	2	1	-	-	58	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

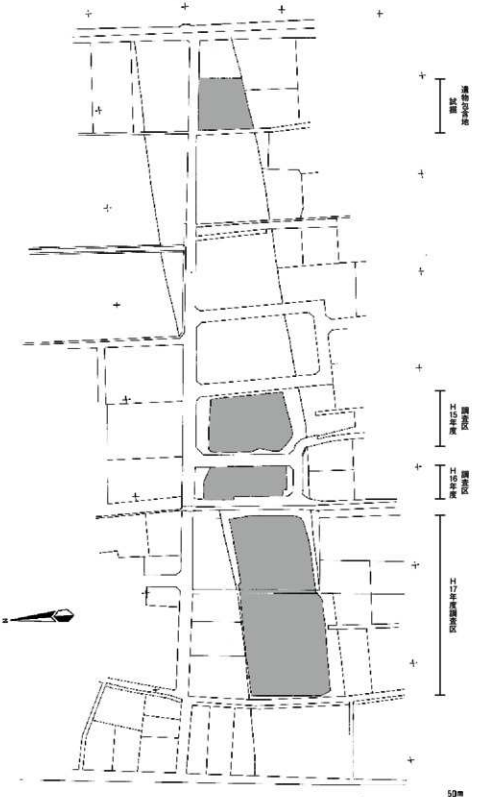
個No.	コナラ属コナラ亜属 殻斗	コナラ属コナラ亜属 殻斗 炭化	コナラ属コナラ亜属 幼果 炭化	コナラ属 果実	コナラ属 果実 破片 炭化	コナラ属 子葉 完形 炭化	コナラ属 子葉 破片 炭化	シイ属 果実 炭化	クリ 果実 破片	ブナ 殻斗 破片	ケヤキ 果実	ケヤキ 葉	クワ属 種子	マタタビ属 種子	キイチゴ属 核	キハダ 核	イヌザンショウ属 核	サンショウ属 核	ドクウツギ 核	カエデ属 果実	モチノキ属 核	ブドウ属 種子	ブドウ属 種子 炭化	キブシ 種子	ミズキ 核	ハクウンボク 種子	草本 エノコログサ属 果実	イネ科 果実	ホタルイ属 果実	カヤツリグサ科 果実	ギシギシ属 果実 炭化	サナエタデ近似種 果実	ミゾソバ近似種 果実	タデ属 果実	アカザ科 種子	ヒユ科 種子	ナデシコ科 種子	キンポウゲ属 果実	キケマン属 種子	クサネム近似種 果実 破片	エノキグサ 種子	トウダイグサ属 種子	スミレ属 種子	シソ科 果実	アカネ科 核	オミナエシ属 果実	スズメウリ 種子	タカサブロウ 果実	キク科 果実	不明種実	不明種実 炭化	備考
74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	オニグルミは共に1個体未満
75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1個体未満,一部炭化
76	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	ブナは4個体分
77	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
79	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56.84gのうち 径2mm以上(13.24g)を対象
81	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イネ穎付着個体多数
82	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
83	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,マメ類2種以上
84	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	17	-	全分析,不明A16個,不明B1個
85	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
86	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
87	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
89	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
90	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
91	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
92	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
93	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
94	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
95	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
96	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	-	全分析
97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
98	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	全分析,微細片多い
99	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
102	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
104	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
105	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
106	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
107	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
108	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
109	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
110	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
111	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
112	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	27.15gのうち 径1mm以上(13.8g)を対象
113	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
114	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	不明A
115	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
116	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
117	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
118	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
119	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
120	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析,不明A
121	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
122	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
123	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
124	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
126	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
127	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
128	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
129	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
130	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
131	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
132	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	全分析,ヒョウタン類一部炭化
133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析,不明A
134	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
135	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
136	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
137	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
138	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
139	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
140	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
141	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析,不明A
142	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
143	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
144	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,イネ胚乳3個発芽
145	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
146	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
147	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
148	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
149	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
150	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	2	4	-	2	1	-	-	-	-	44	-	全分析,不明A38個+不明B6個
151	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析,不明B
152	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
153	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,イヌタデ近似
154	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	全分析
155	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
156	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
157	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析,種実無し
158	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	全分析
159	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	全分析

表3. 試料別検出状況

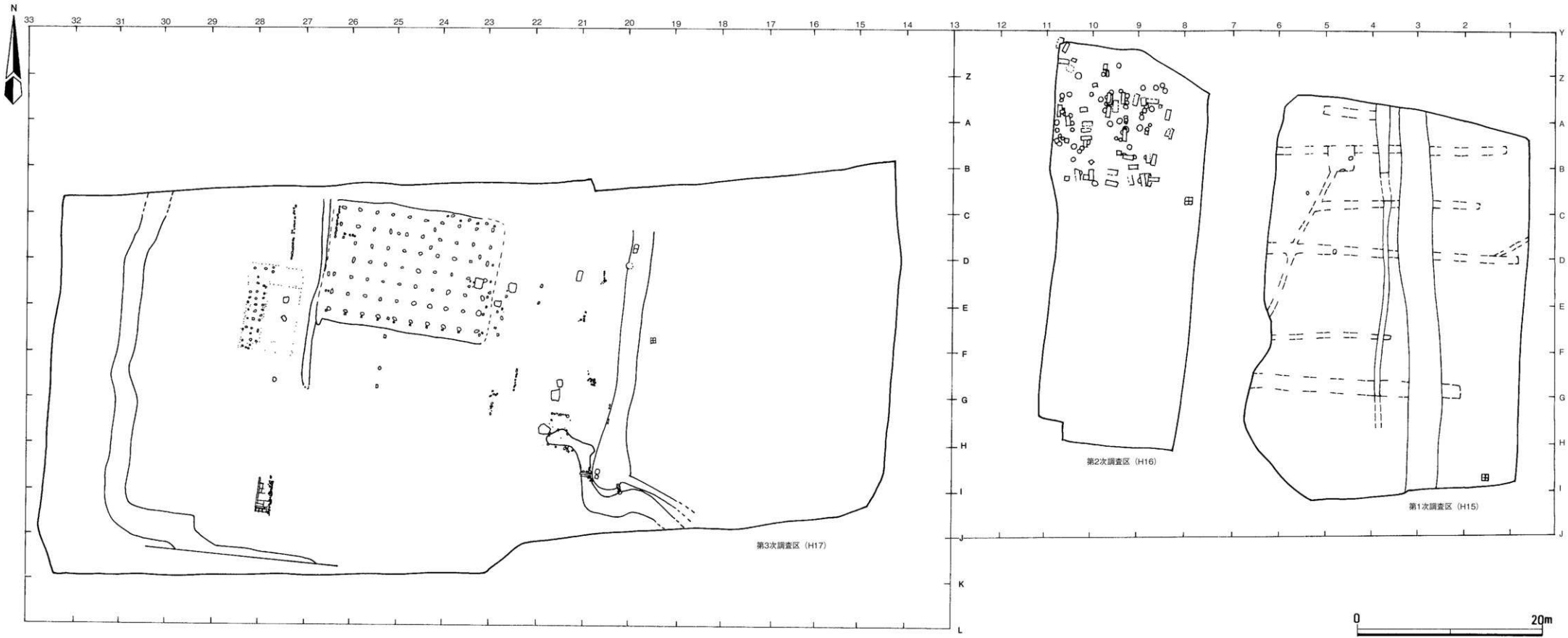
分類群		栽培植物																						草本																						
試料名		スモモ	モモ	カキノキ	イネ 胚乳	イネ 穎	ヒエ-キビ近似種	オオムギ	ムギ類	コムギ	ソバ		マメ類	ワタ類?		シソ属		ナス科		メロン類		ヒョウタン類	トウガン	エノコログサ属	イネ科	ホタルイ属	カヤツリグサ科	ギシギシ属	サナエタデ近似種	ミゾソバ近似種	タデ属	アカザ科	ヒユ科	ナデシコ科	キンポウゲ属	キケマン属	クサネム近似種	エノキグサ	トウダイグサ属	スミレ属	シソ科	アカネ科	オミナエシ属	スズメウリ	タカサブロウ	キク科
	状態			炭化	炭化	炭化含	炭化含	炭化	炭化	炭化		炭化含	炭化		炭化		炭化		炭化		炭化							炭化																		
G494 種群 種	上	–	–	–	1	33	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	197	–	3	–	–	–	–	–	1	–	–	6	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–
	中	–	–	–	2	100	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	522	–	18	–	–	–	1	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	下	–	–	–	–	13	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	3622	–	–	–	–	–	1	–	5	1	–	4	–	–	–	2	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
G494 東板の下 種 炭	上	1	1	2	76	51	3	2154	30	67	1	2	57	–	25	–	–	4	–	2	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
	中	–	–	2	216	80	17	3584	46	158	1	5	380	30	102	1	–	16	–	185	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	1	–	–
	下	–	–	–	148	60	12	552	24	49	–	3	82	–	1	9	–	63	1	103	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	13	–	–	–	–
	1-2	–	–	–	2	6	–	90	–	2	–	–	5	–	16	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	1-3	–	–	–	2	4	–	9	1	–	–	–	2	–	1	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	–	1	–	29	–	6	–	–	81	–	42	–	–	1	–	20	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
G494 西 種群 種	上	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	7	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	中	–	–	–	1	71	3	1	–	–	10	–	–	–	–	6	–	324	–	22	–	–	–	–	–	4	–	–	1	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	下	–	–	–	–	>171	28	–	–	–	–	–	–	–	–	45	–	594	–	1	–	–	–	1	–	13	–	–	3	–	1	7	3	1	1	–	–	1	–	–	–	–	1	–	1	–
	1-2上	–	–	–	–	54	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	2	3	–	–	2	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	1-2中	–	–	–	4	–	–	–	–	–	2	–	–	1	–	–	–	4	–	14	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	1-2下	–	–	–	–	28	10	–	–	–	1	–	–	–	–	9	–	61	–	1	–	–	–	–	–	12	–	–	–	–	–	–	6	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
東 2号墓	上	–	–	–	塊4cc+17	8	–	1	–	–	–	–	3	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	中	–	–	–	293	75cc+138	18	221	50	–	–	7cc+589	12	–	4	–	–	2	–	1	2	–	–	–	2	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	下	–	–	–	143	7	14	49	8	–	–	5	1	–	–	–	–	21	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
		–	–	–	156	51	–	32	–	–	–	–	40	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
G520-521 炭化物内 種	上	–	–	–	塊25cc+141	60	–	10	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	中	–	–	–	651	182	1	61	3	–	–	–	6	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	下	–	–	–	864	60	4	10	–	–	–	–	12	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	11	–	–	–	–
2号炉 種	上	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	中	–	–	–	1635	70cc+232	41	112	8	3	–	61	1	–	178	–	1	–	–	4	–	1	–	–	1	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1
	下	–	–	–	3835	204	204	67	15	2	–	–	2	–	22	1	2	1	–	1	–	–	–	–	–	1	–	1	–	–	4	10	1	–	–	1	–	2	4	1	2	1	–	–	–	–

分類群		針葉樹					広葉樹																																
試料名		マツ属複維管束亜属	マツ属	スギ	ヒノキ	ヒノキ科	オニグルミ		アサダ	サワシバ	クマシデ	イヌシデ	イヌシデ-アカシデ	アカシデ	コナラ属コナラ亜属		コナラ属 果実		コナラ属 子葉	シイ属	クリ	ブナ	ケヤキ 果実	ケヤキ 葉	クワ属	マタタビ属	キイチゴ属	キハダ	イヌザンショウ属	サンショウ属	ドクウツギ	カエデ属	モチノキ属	ブドウ属		キブシ	ミズキ	ハクウンボク	
	状態							炭化								炭化		炭化	炭化	炭化															炭化				仮No.
G494 種群 種	上	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1-3
	中	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4-6
	下	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	7-8
G494 東板の下 種 炭	上	1	–	62	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	1	3	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	–	1	–	1	–	9-13,15,27,28
	中	–	2	72	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	11	–	1	2	6	–	–	–	3	–	–	–	–	1	15	–	–	–	–	–	–	–	–	16-26
	下	–	1	20	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	1	–	–	–	–	–	–	31-38
	1-2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	39
	1-3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	40
		–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	9	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	14,29,30
G494 西 種群 種	上	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	41-44
	中	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	45-47
	下	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	48-50
	1-2上	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	51-52
	1-2中	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–	–	–	–	–	–	53-62
	1-2下	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	63-73
東 2号墓	上	–	–	–	–	–	8	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	16	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	74-77
	中	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	22	–	–	–	–	–	–	–	–	78-83
	下	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	84-89
		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	90
G520-521 炭化物内 種	上	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	91,92
	中	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–	–	–	–	–	93-95
	下	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	96-98
2号炉 種	上	–	–	–	–	–	4	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	10	3	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	99-104,124-130
	中	–	2	–	1	1	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	1	3	1	–	–	105-113,131-139
	下	–	10	–	–	–	–	–	–	–	2	1	2	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	7	5	3	1	–	2	–	1	–	3	–	–	114-123,140-159

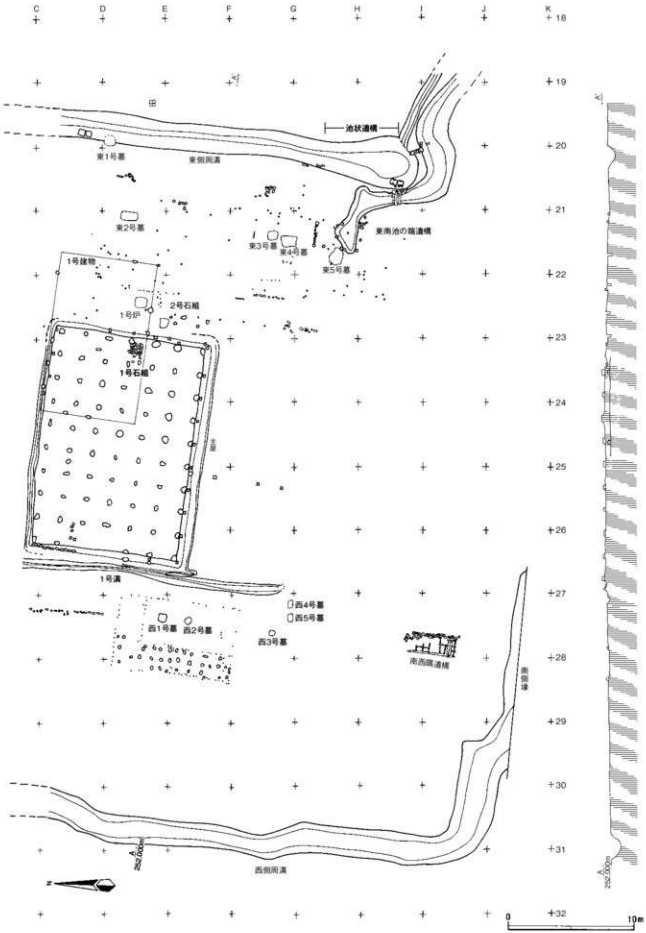
1)表中の数字は個数を示す。
2)＞数字：破片を含み数字以上の個体数を含むもの
3)塊状炭化物(塊)や多量の破片については容量(重量)を示す。



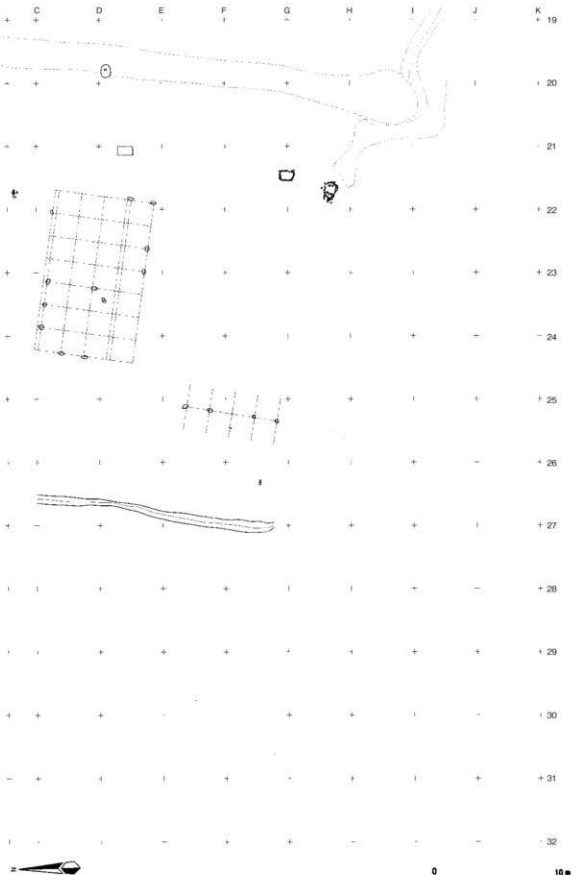
第１図　調査区域



第２図　小井川遺跡調査区全体図



第３図　小井川遺跡第３次遺構配置図（全体図）

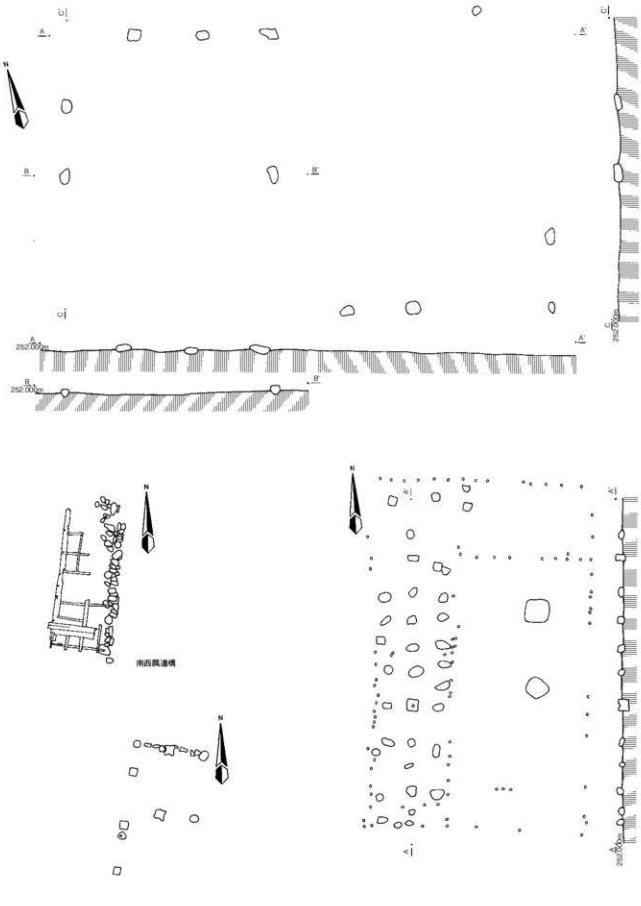


第４図　第Ⅱ期・遺構配置図（１号礎石建物・２号溝）

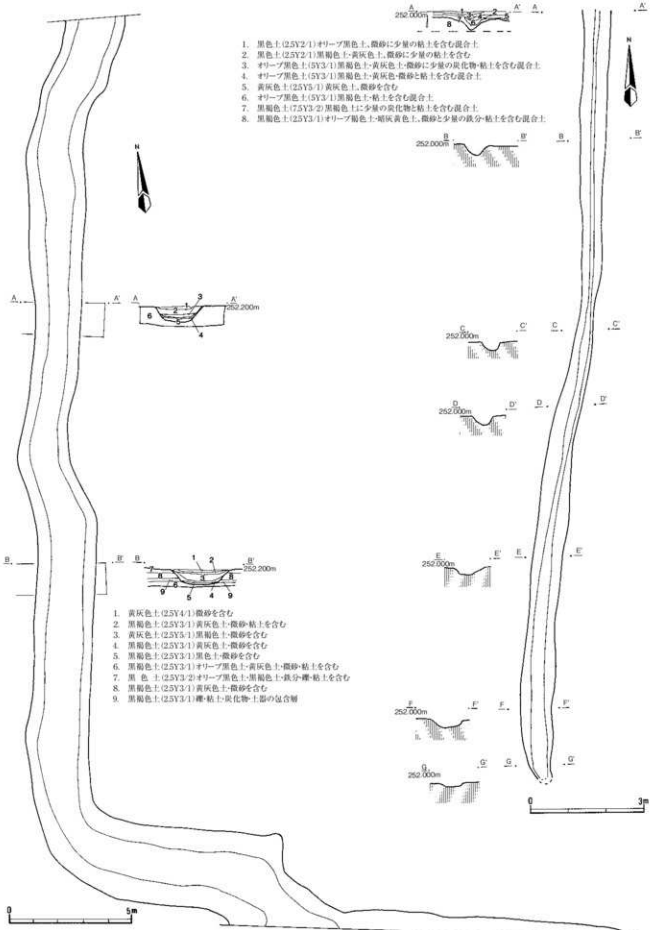
第５図　第Ⅲ期・遺構配置図（1）

第６図　第Ⅲ期・遺構配置図(2)

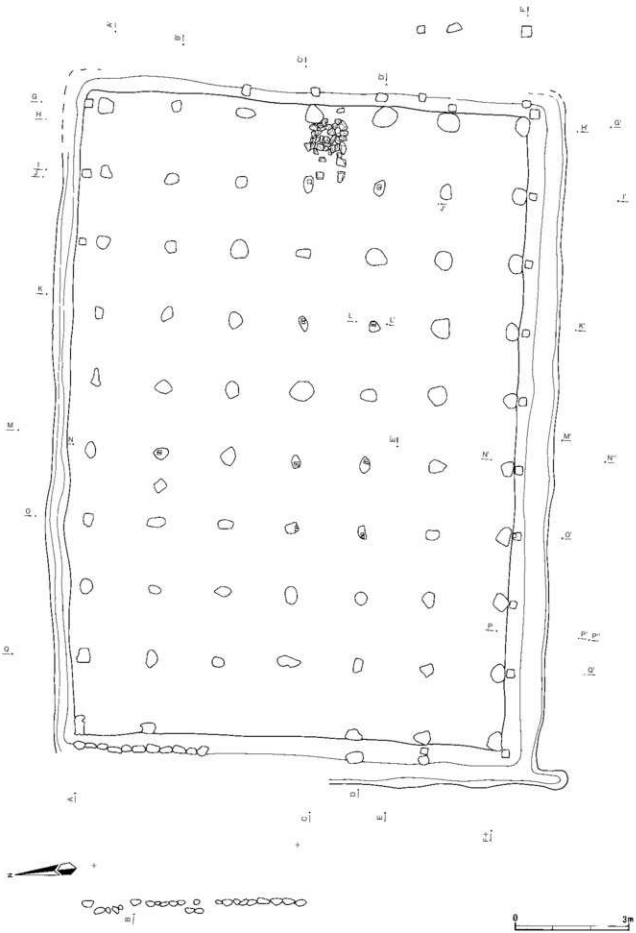
第７図　第Ⅲ期・遺構配置図（3）



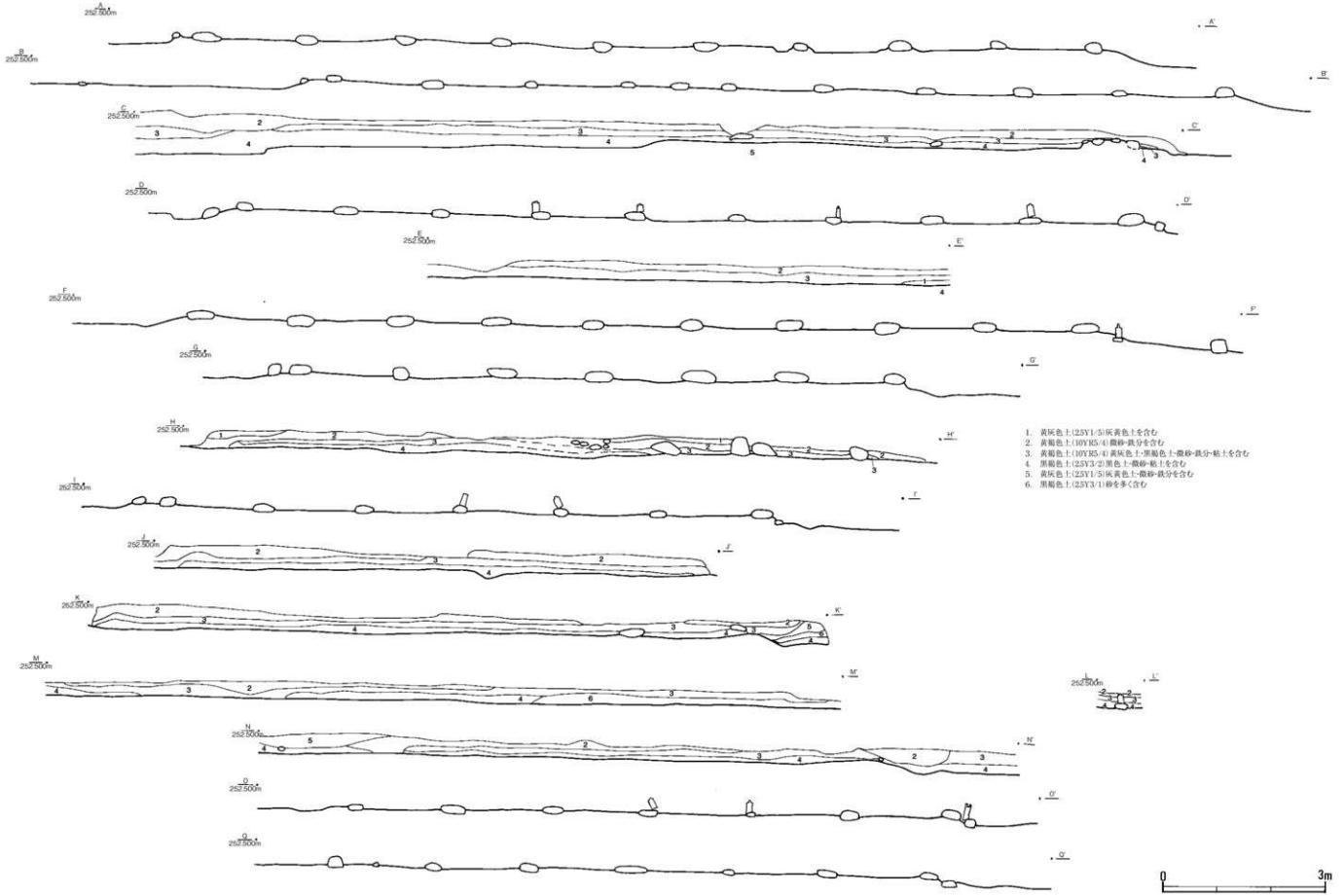
第８図　第Ⅱ期・１号礎石建物屋（上），第Ⅲ期・西附属屋（右）・南西隅遺構（左）



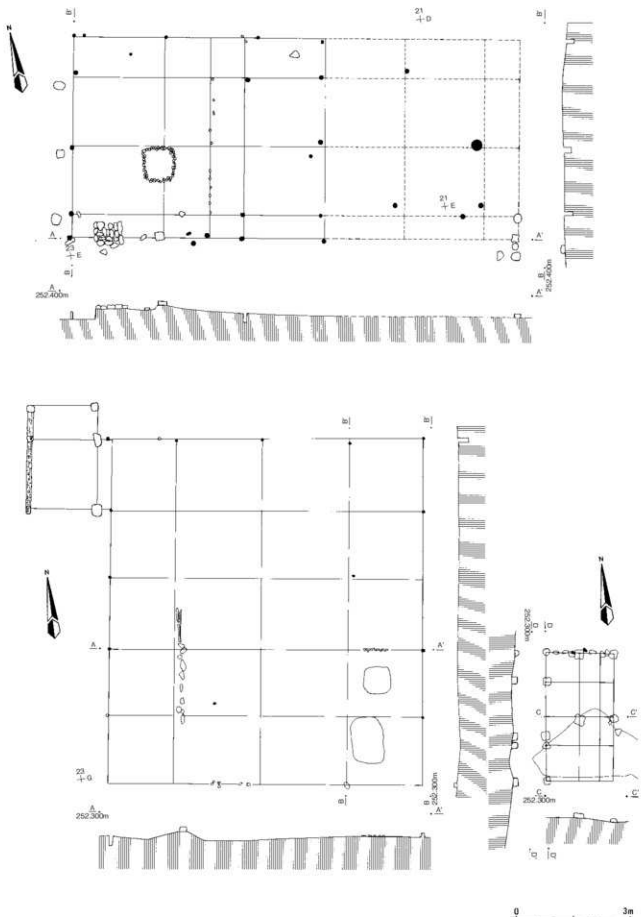
第９図　第Ⅲ期　西側壕（左）・１号溝（右）



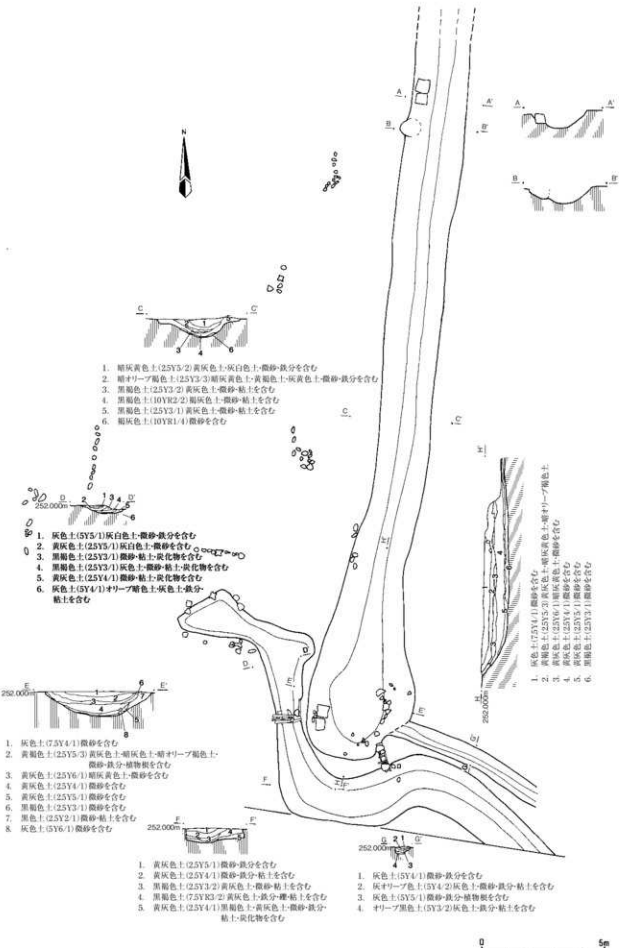
第10図　第Ⅲ期・主屋（1）


A 252.500m
A'
B 252.500m
B'
C 252.500m
C'
D 252.500m
D'
E 252.500m
E'
F 252.500m
F'
G 252.500m
G'
H 252.500m
H'
I 252.500m
I'
J 252.500m
J'
K 252.500m
K'
L 252.500m
L'
M 252.500m
M'
N 252.500m
N'
O 252.500m
O'
P 252.500m
P'
1. 黄灰色土(2.5Y1/5)灰黄色土を含む
2. 黄褐色土(10YR5/4)微砂・鉄分を含む
3. 黄褐色土(10YR5/4)黄灰色土・黒褐色土・微砂・鉄分・粘土を含む
4. 黒褐色土(2.5Y3/2)黒色土・微砂・粘土を含む
5. 黄灰色土(2.5Y1/5)灰黄色土・微砂・鉄分を含む
6. 黒褐色土(2.5Y3/1)砂を多く含む
0
3m

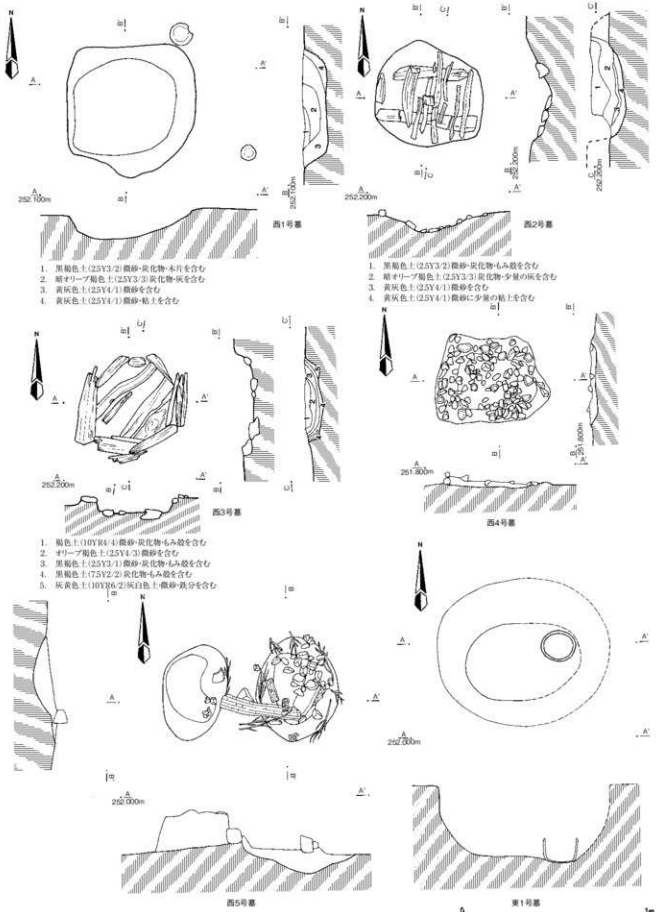
第11図　第Ⅲ期・主屋（2）



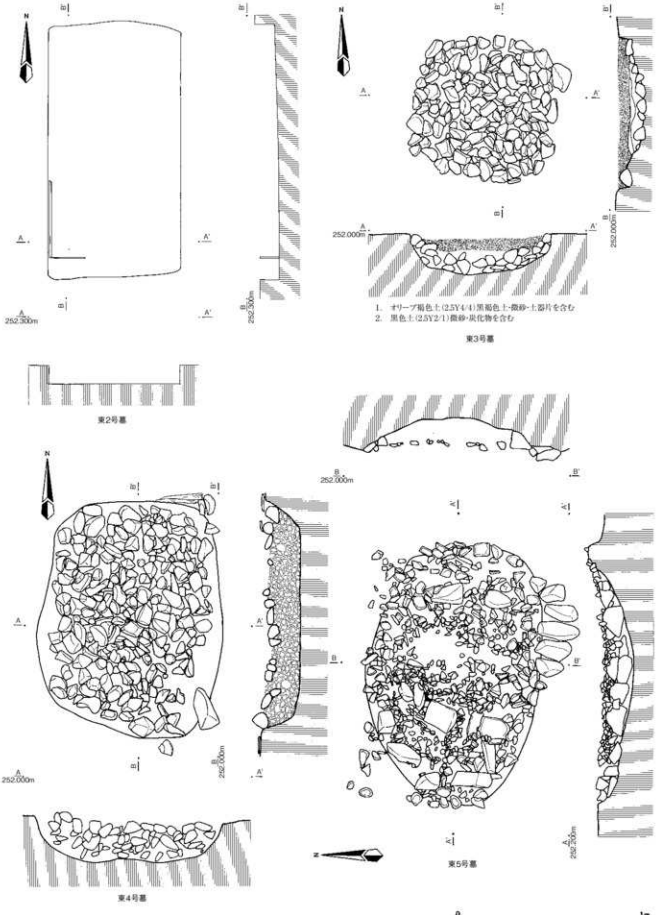
第12図　第Ⅲ期・東北附属屋（上）・東附属屋（左）・東南池の端遺構（右）



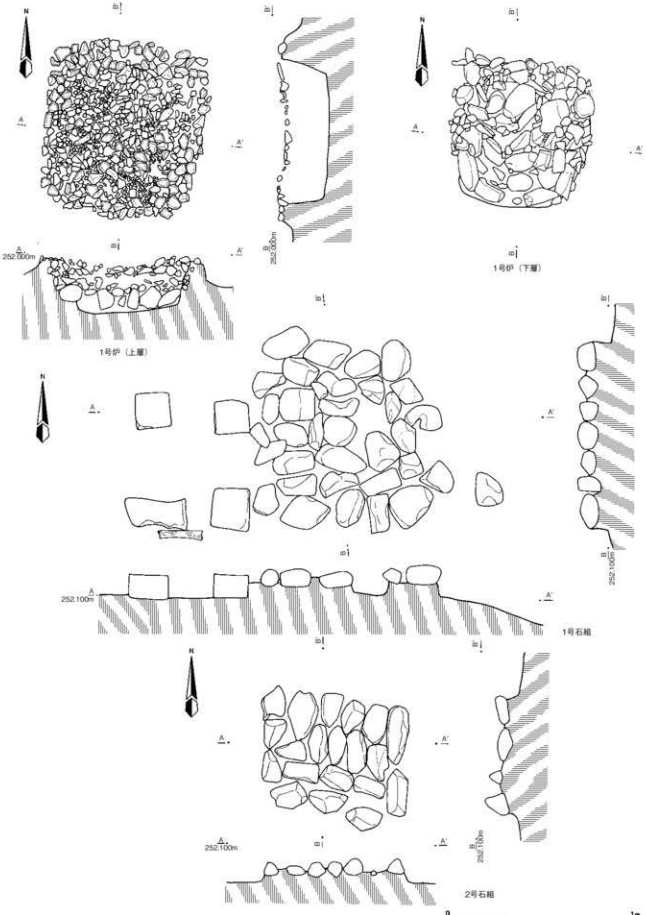
第 13 図　第Ⅲ期・東側縁及池状遺構



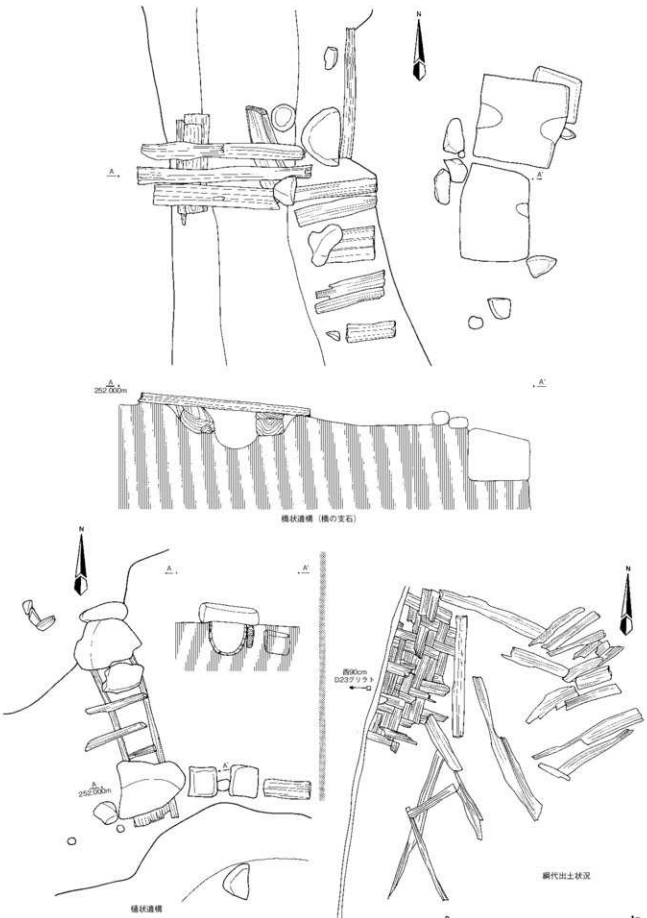
第14図　西1～5号墓・東1号墓



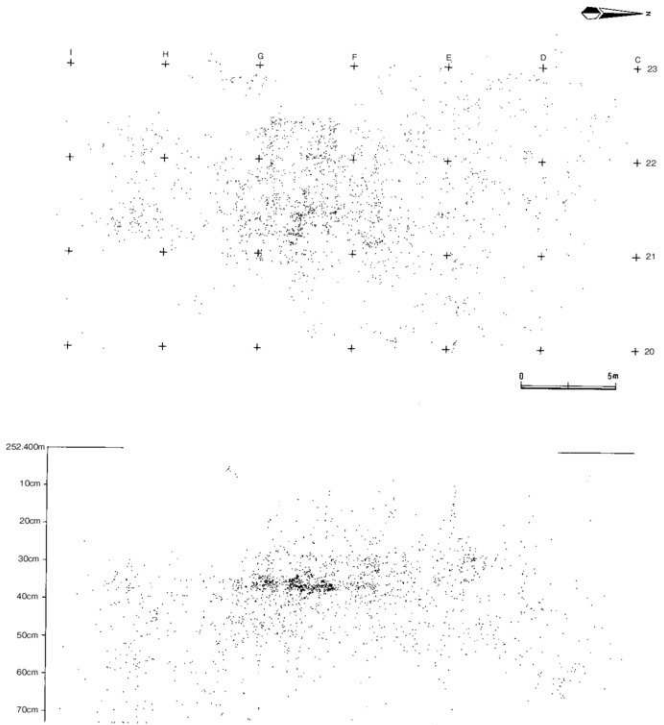
第15図　東2号墓～東5号墓



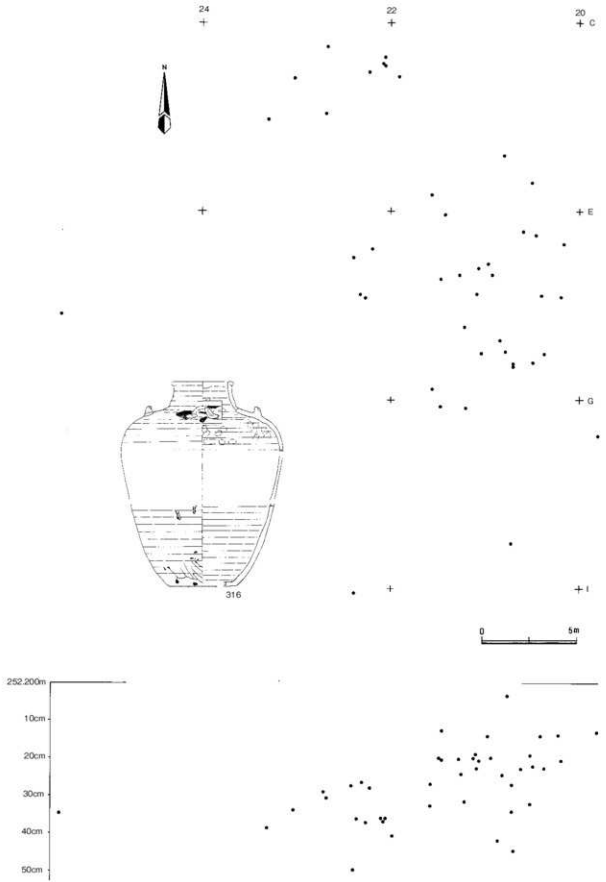
第16図　1号炉（上）1号・2号石組



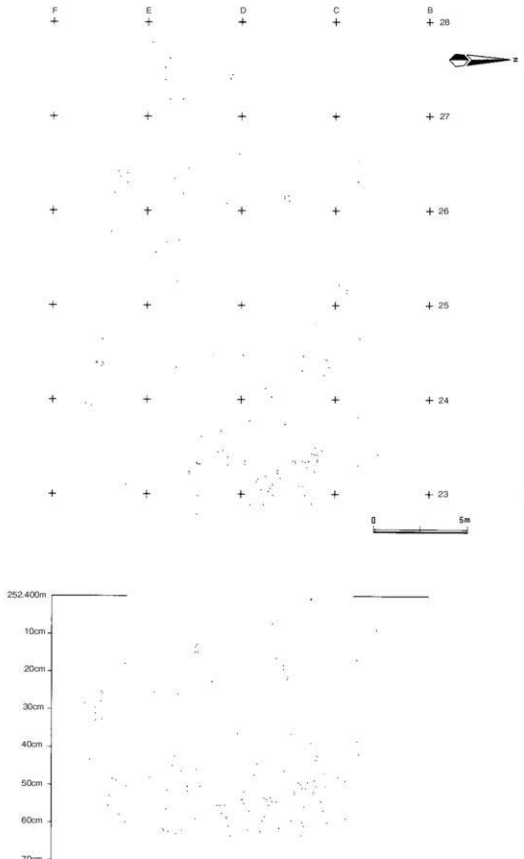
第 17 図　橋状遺構（上）樋状遺構（左）綱代出土状況（右）



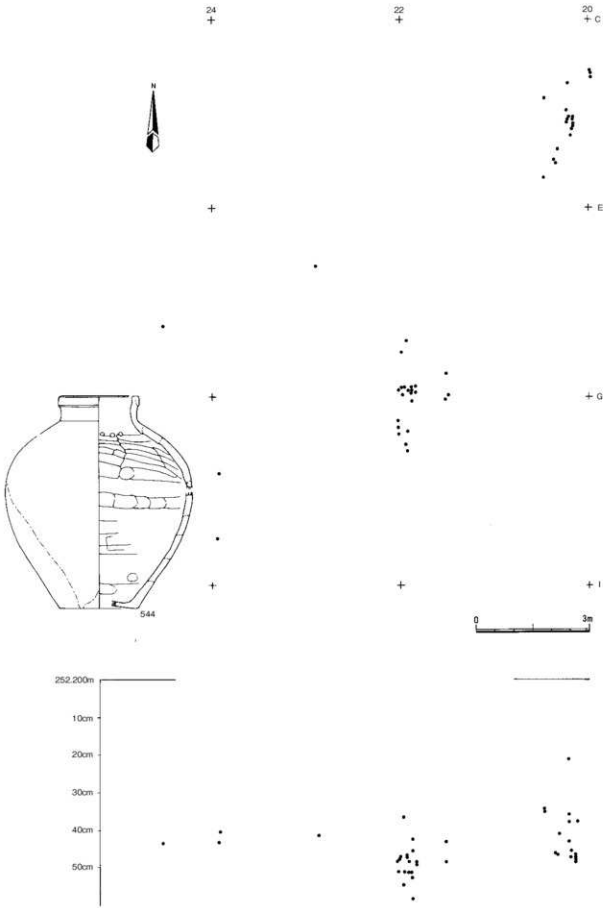
第 18 図　東地区・遺物垂直分布図



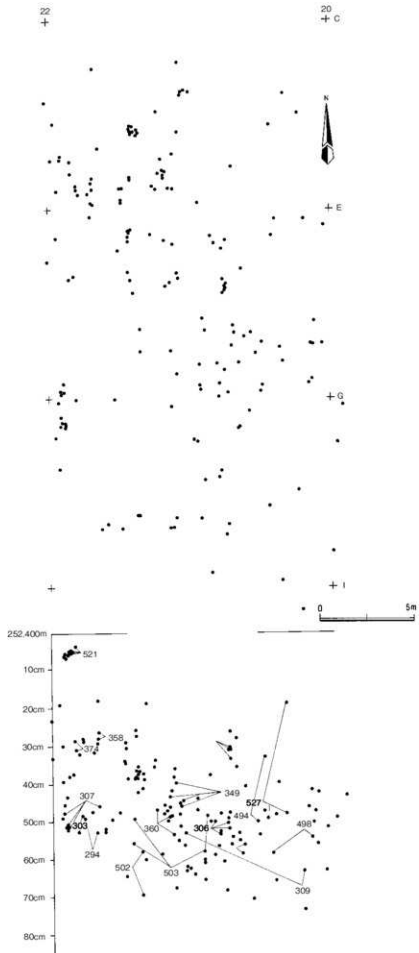
第19回　祖母懐茶壺出土遺物垂直分布図



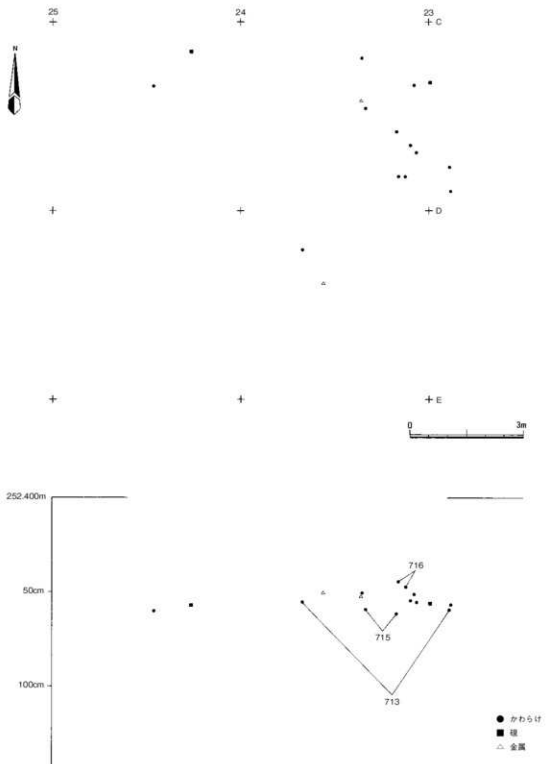
第 20 図　1 号礎石建物遺物垂直分布図



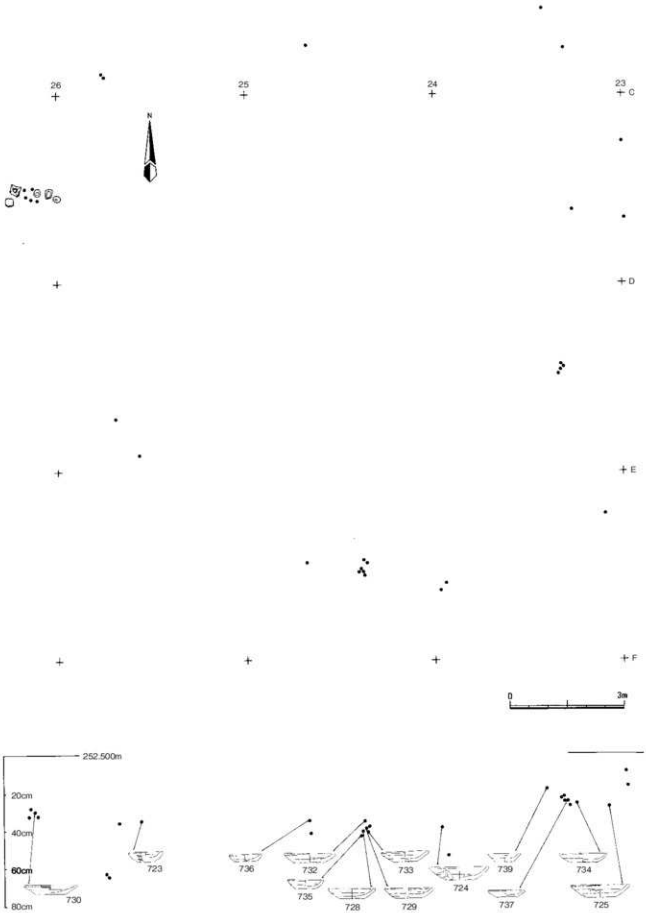
第 21 図　常滑垂直分布図



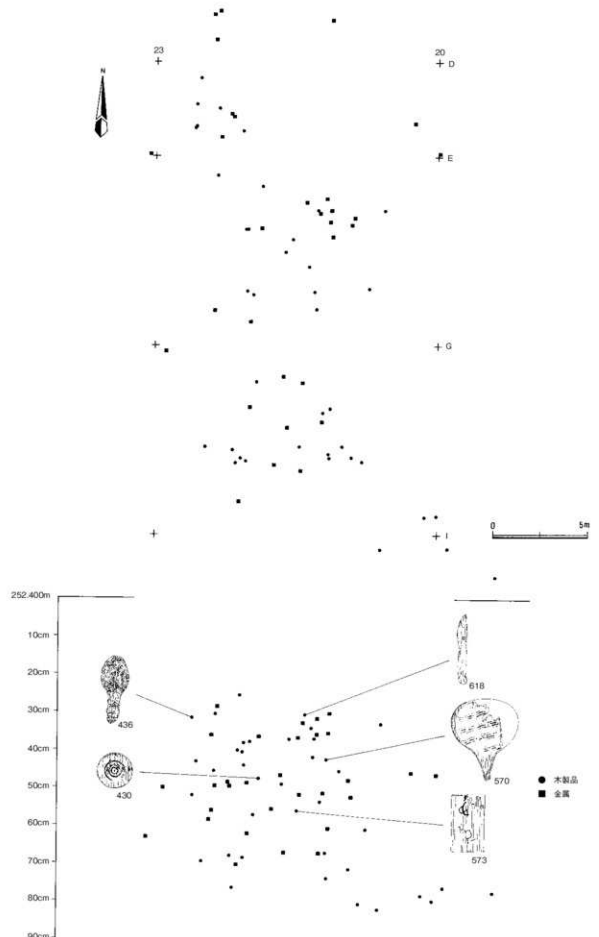
第 22 図　東地区・土器垂直分布図



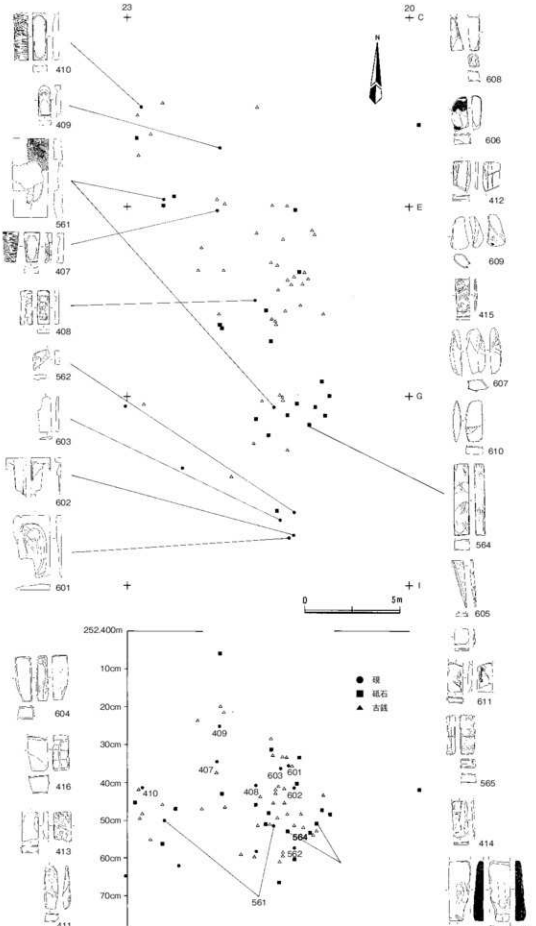
第23図　1号礎石建物・遺物垂直分布図



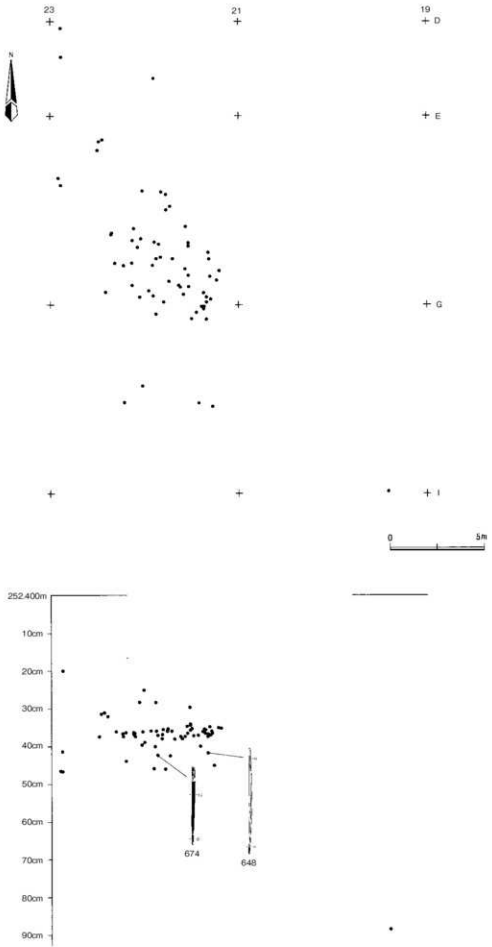
第 24 図　第Ⅲ期・主屋西側・土器垂直分布図



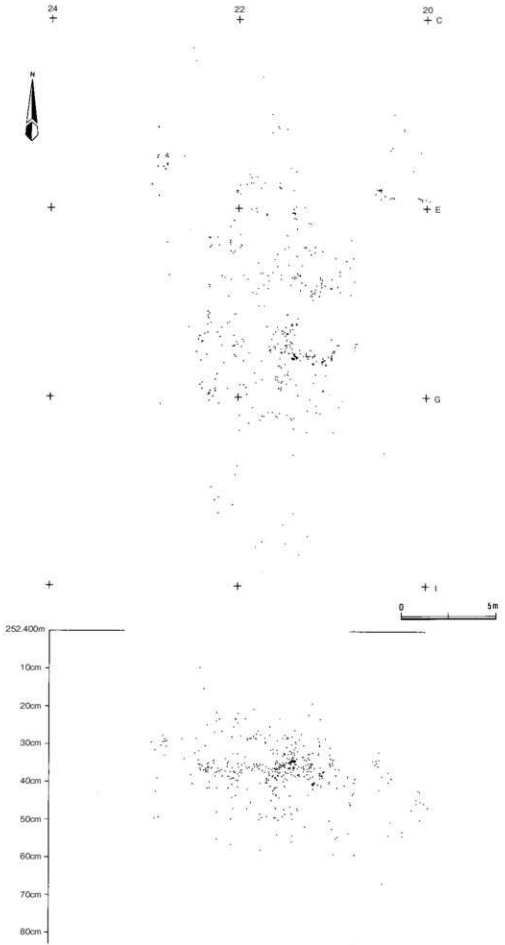
第 25 図　東地区・木製品・金属垂直分布図



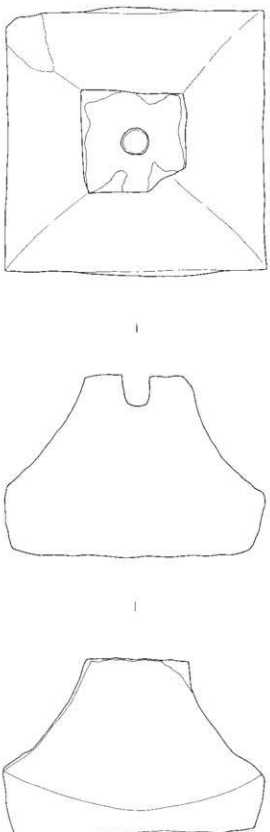
第 26 図　硯・砥石・古銭垂直分布図



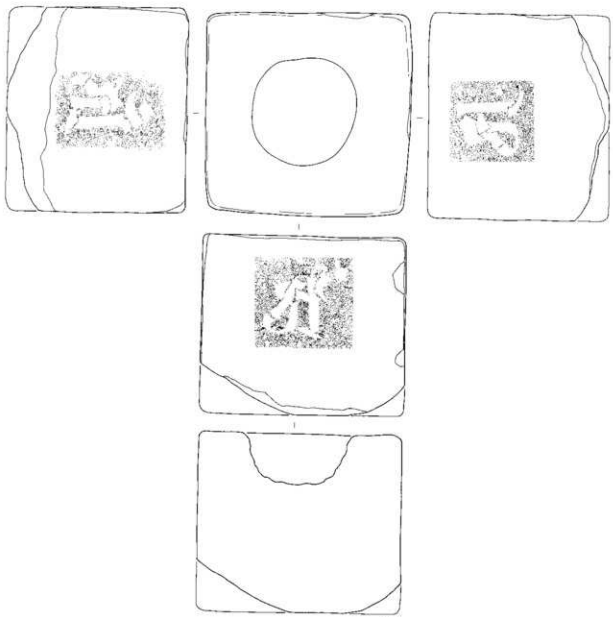
第 27 図　東地区・箸状垂直分布図



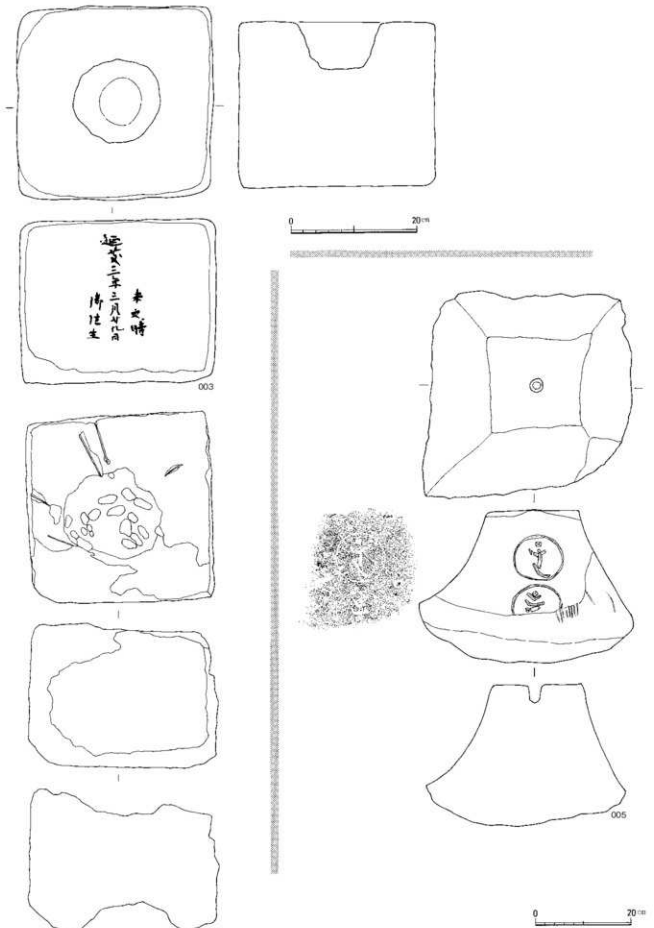
第 28 図　東地区・胡桃垂直分布図



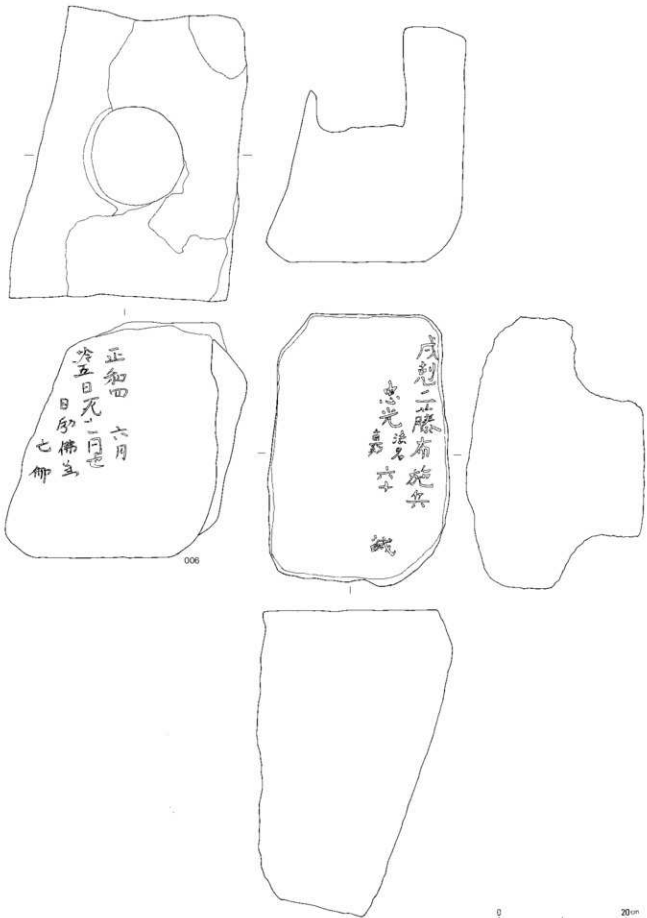
第 29 図　五輪塔（火輪）実測図



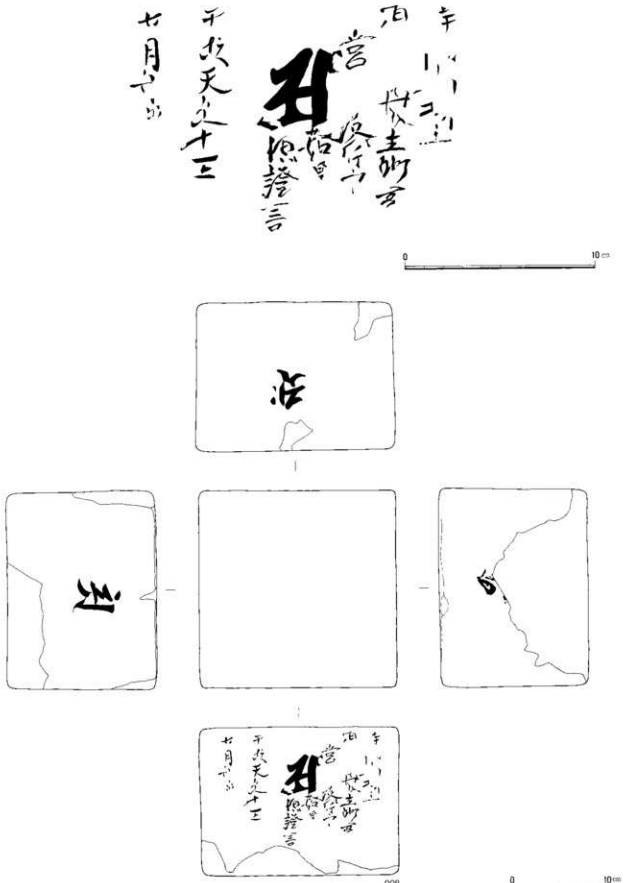
第 30 図　五輪塔（地輪）実測図



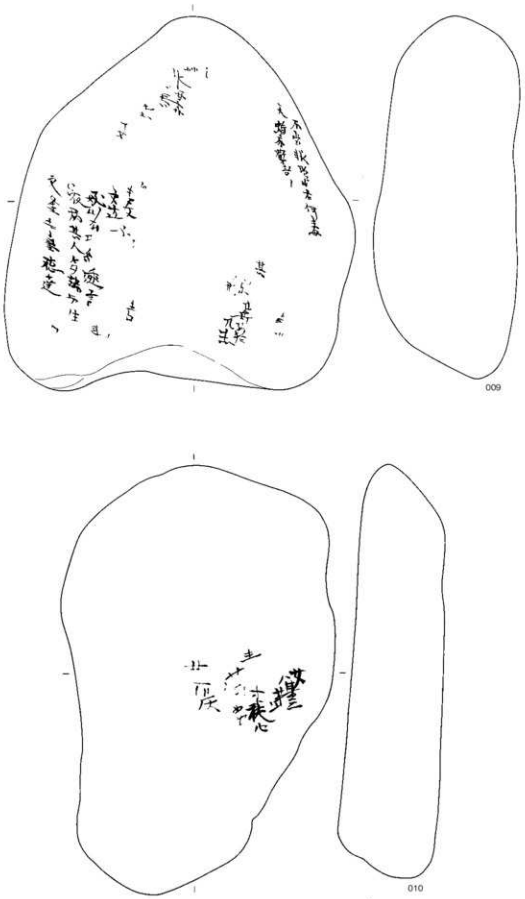
第 31 図　五輪塔（地輪・火輪）実測図



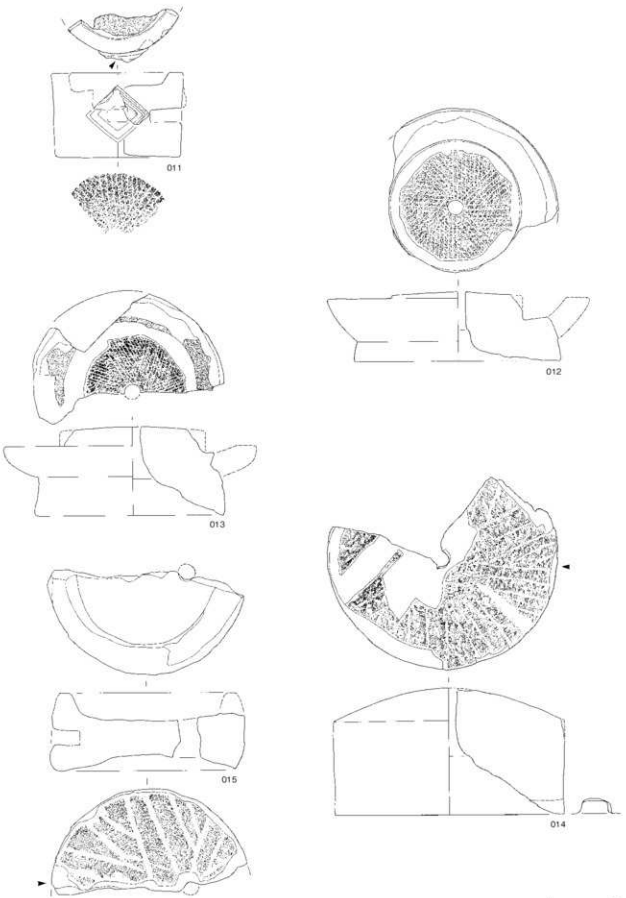
第 32 図　五輪塔（地輪）実測図



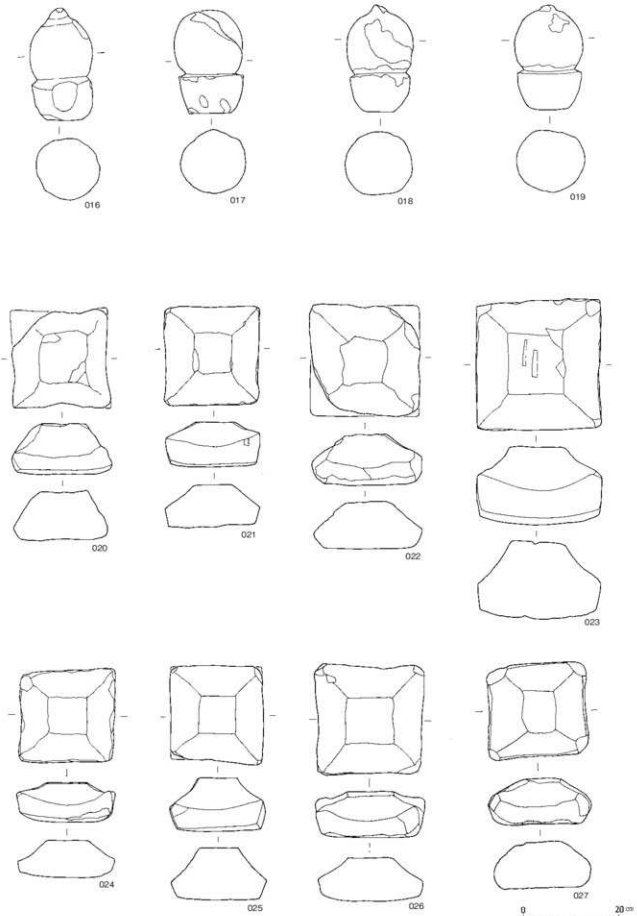
第 33 図　五輪塔（地輪）実測図



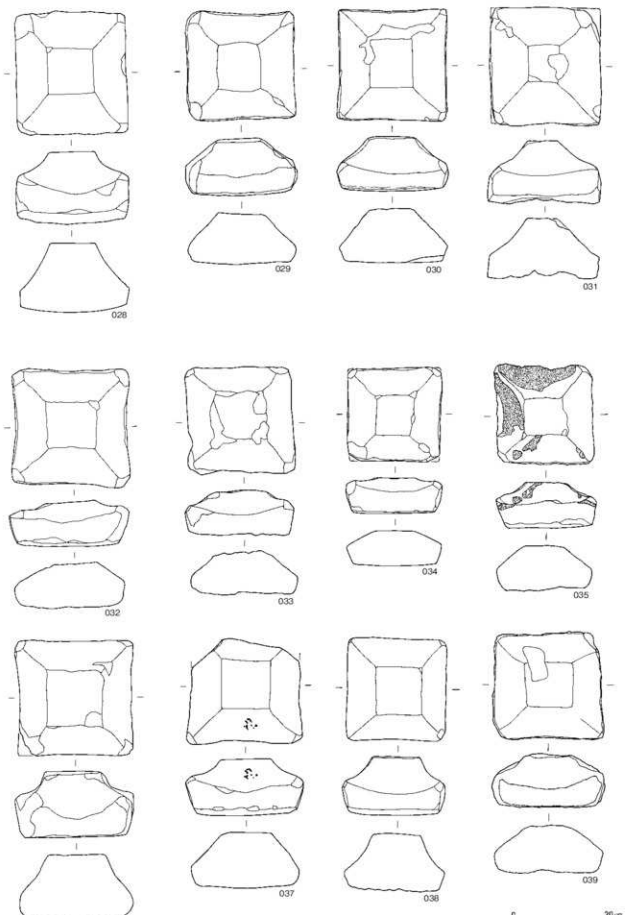
第 34 図　墨書石実測図



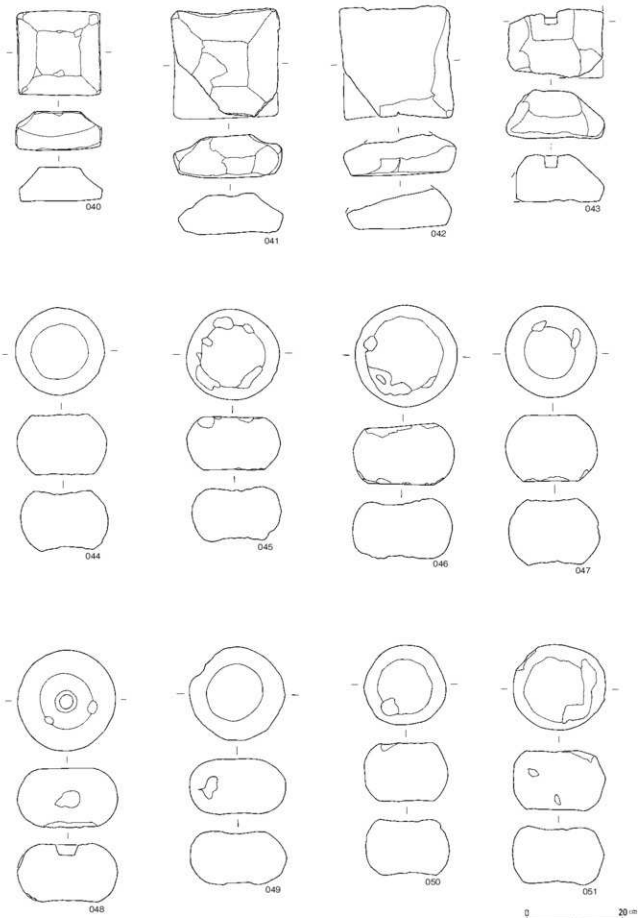
第 35 図　茶臼・石臼実測図



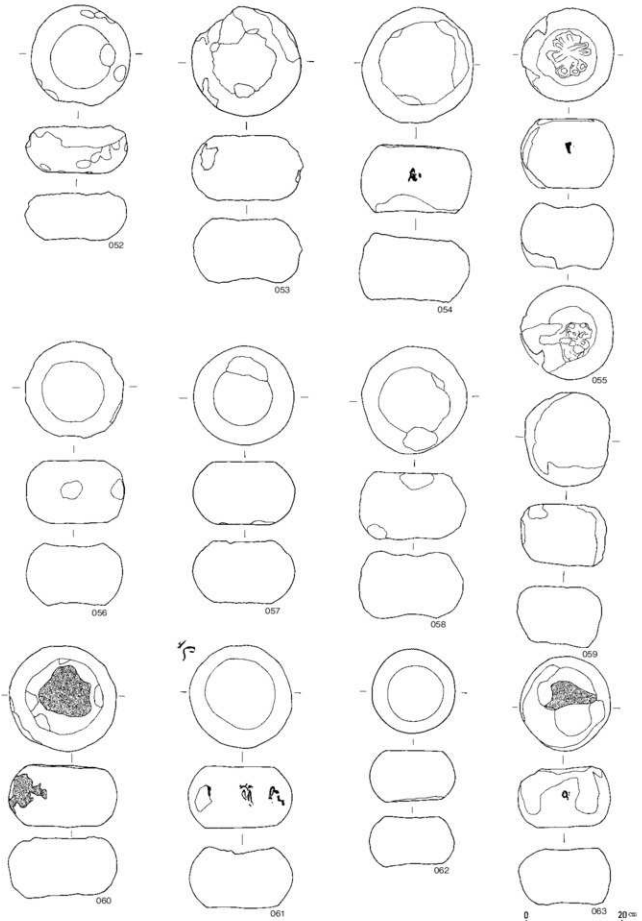
第 36 図　五輪塔（空風輪・火輪）実測図



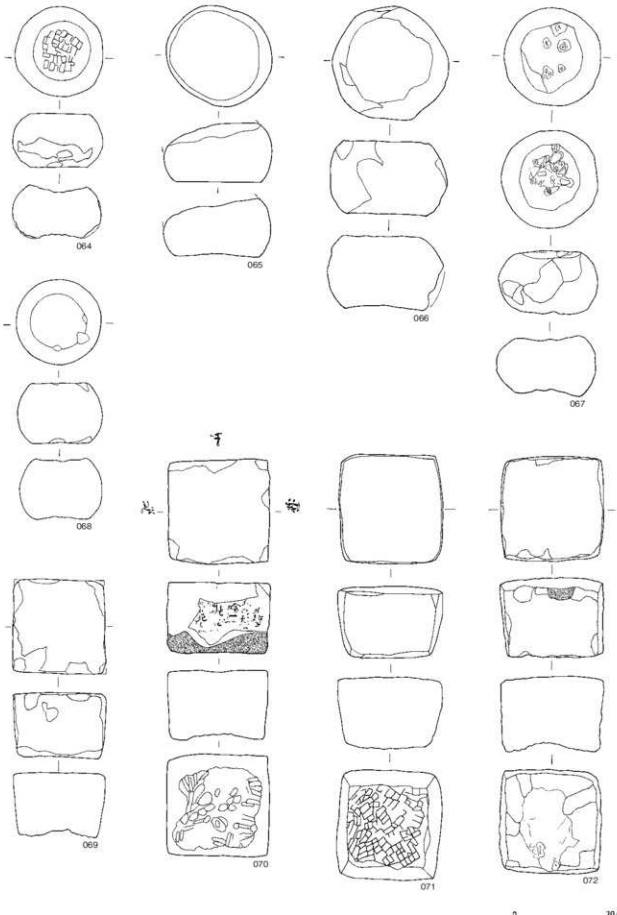
第 37 図　五輪塔（火輪）実測図



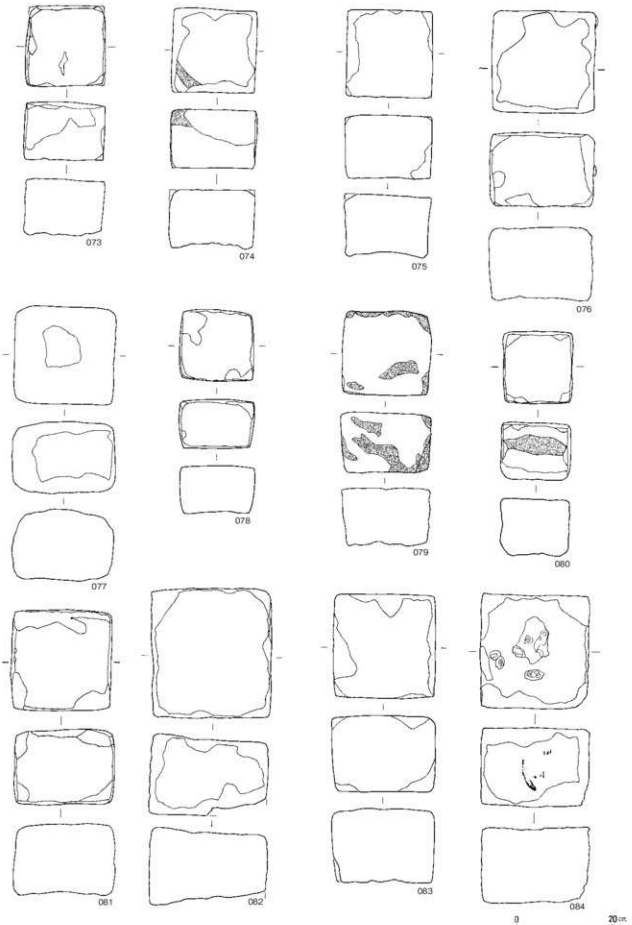
第 38 図　五輪塔（火輪・水輪）実測図



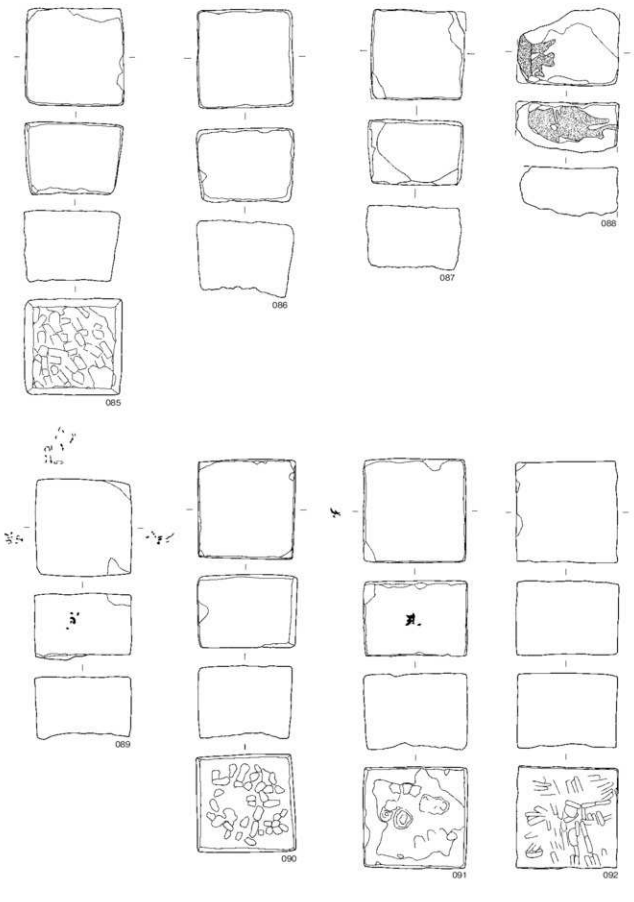
第 39 図　五輪塔（水輪）実測図



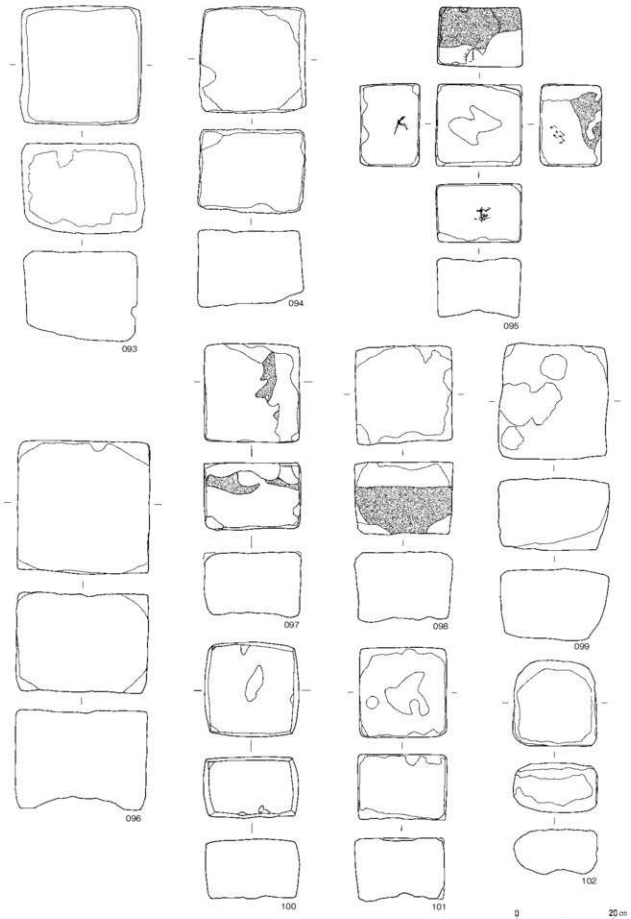
第 40 図　五輪塔（水輪・地輪）実測図



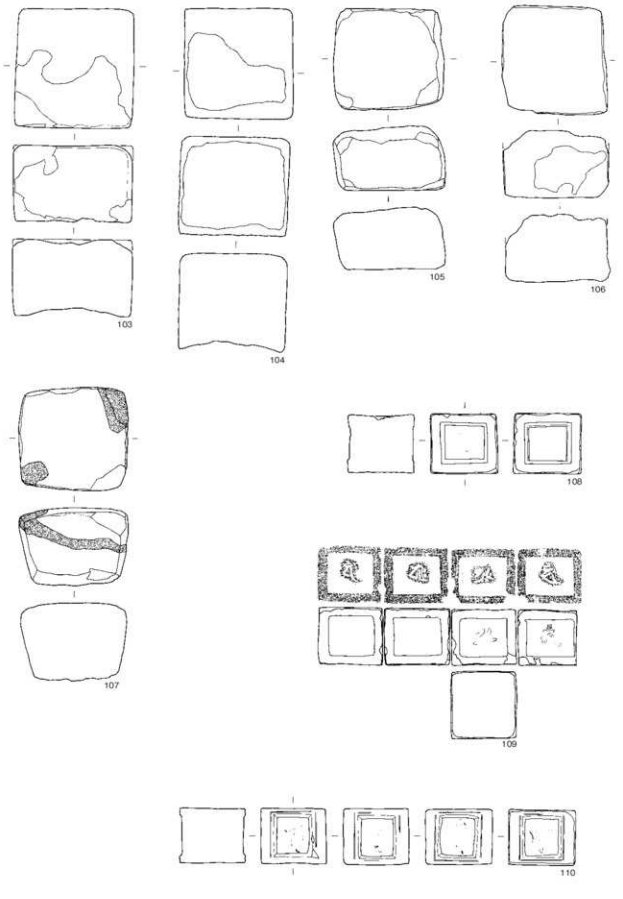
第 41 図　五輪塔（地輪）実測図



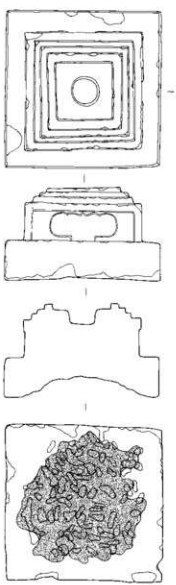
第 42 図　五輪塔（地輪）実測図



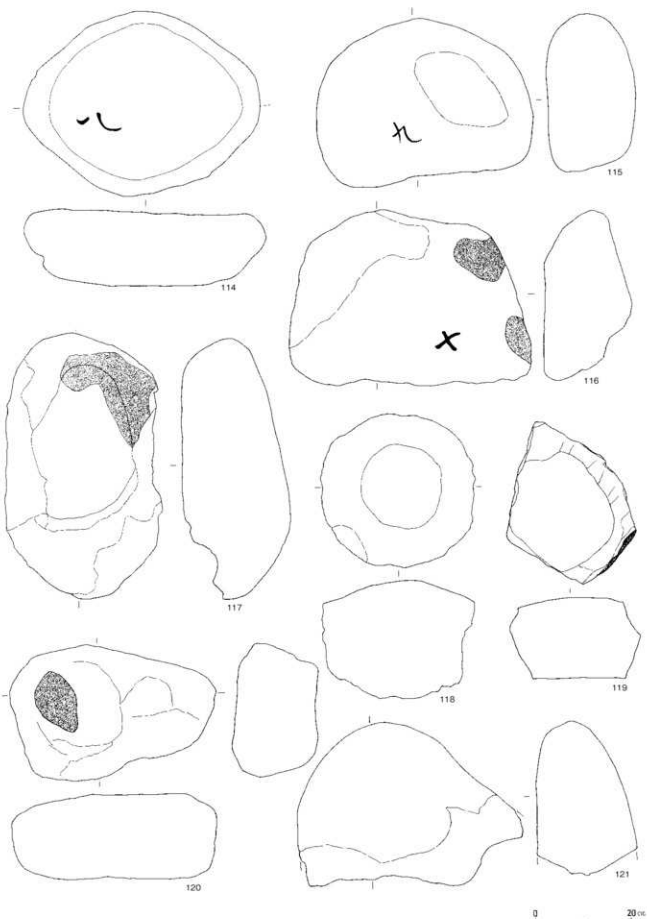
第 43 図　五輪塔（地輪）実測図



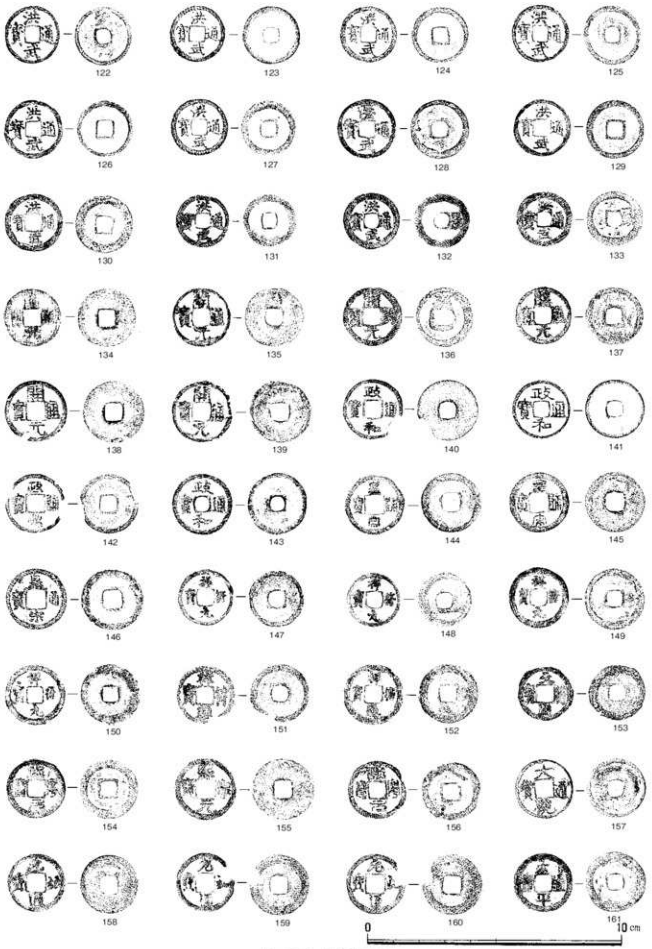
第 44 図　五輪塔（地輪）・宝篋印塔（塔身）実測図



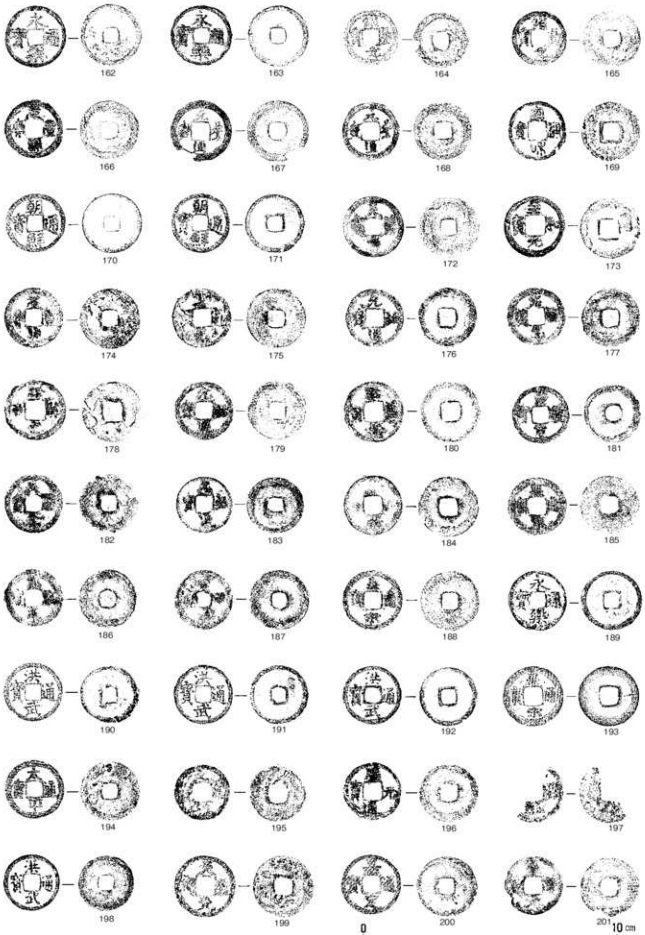
第 45 図　宝篋印塔（基壇・笠）実測図



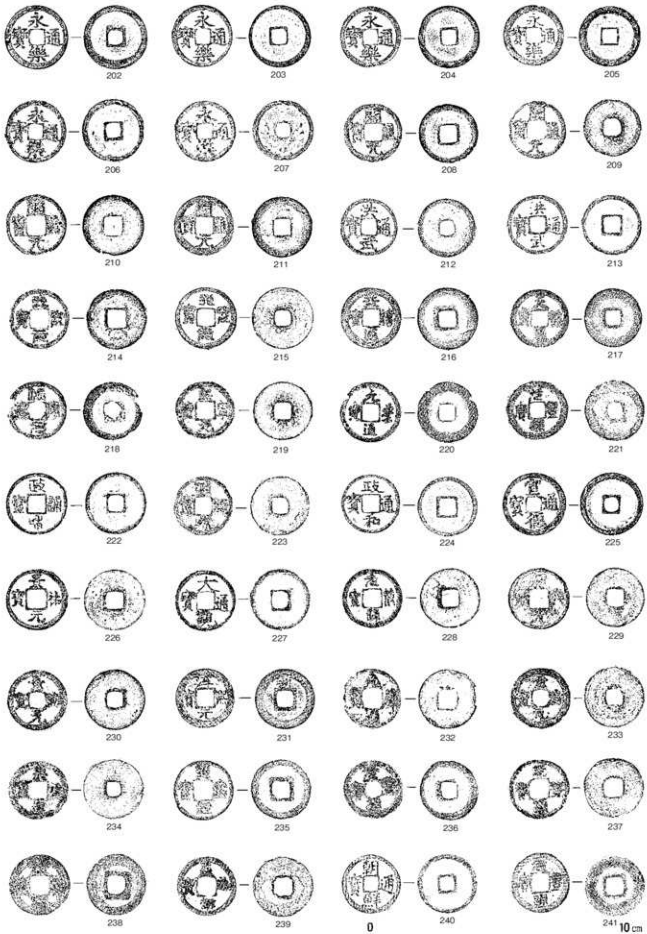
第 46 図　礎石実測図


122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
0
10 cm

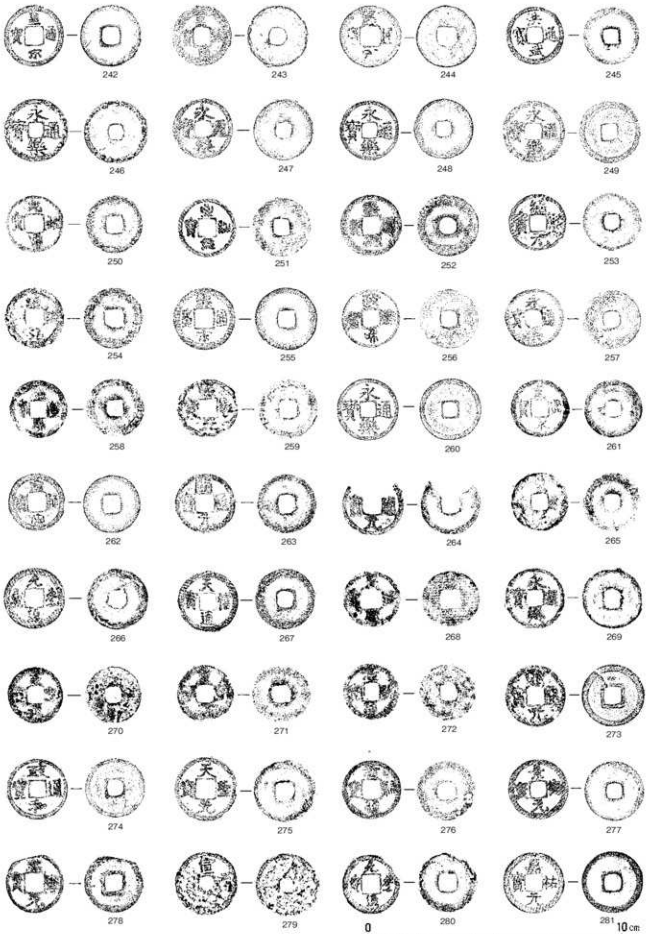
第 47 図　銭拓本図 1


162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
0
10 cm

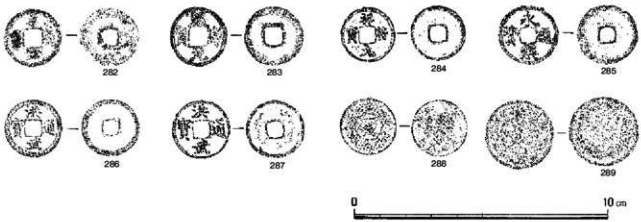
第 48 図　銭拓本図 2


202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
0
10 cm

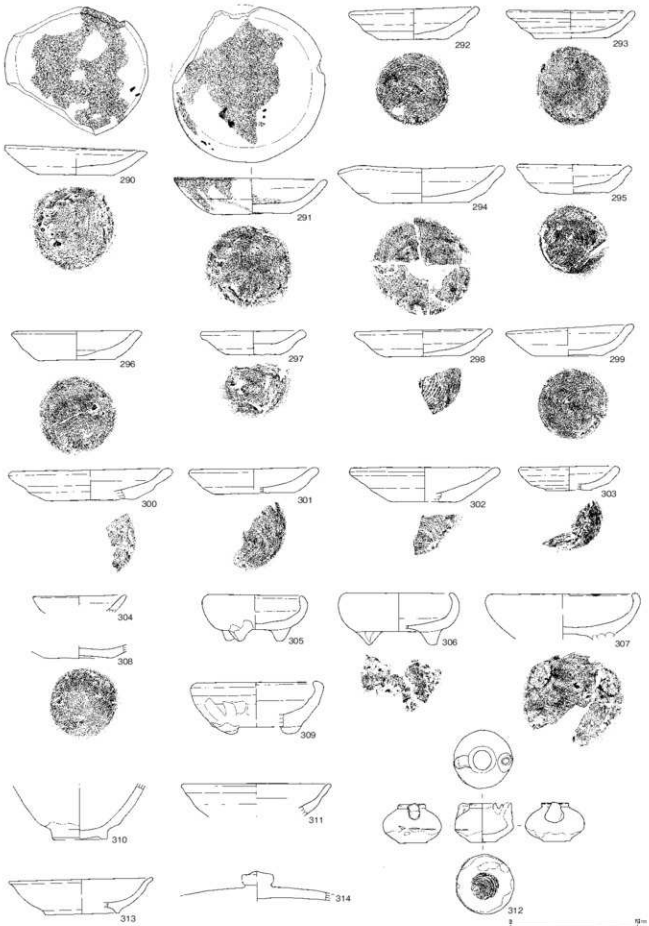
第 49 図　銭拓本図 3


242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
0
10cm

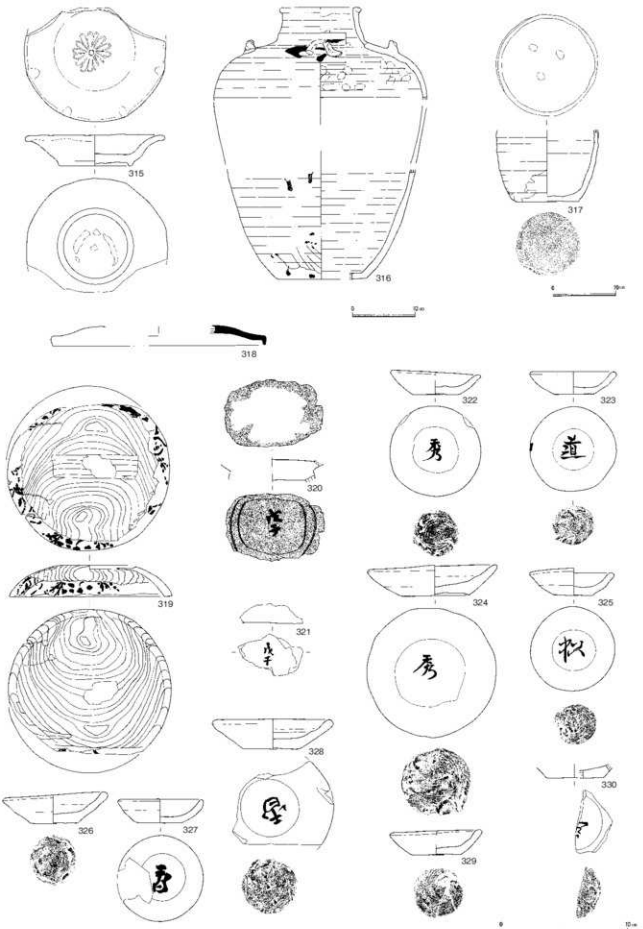
第 50 図　銭拓本図 4



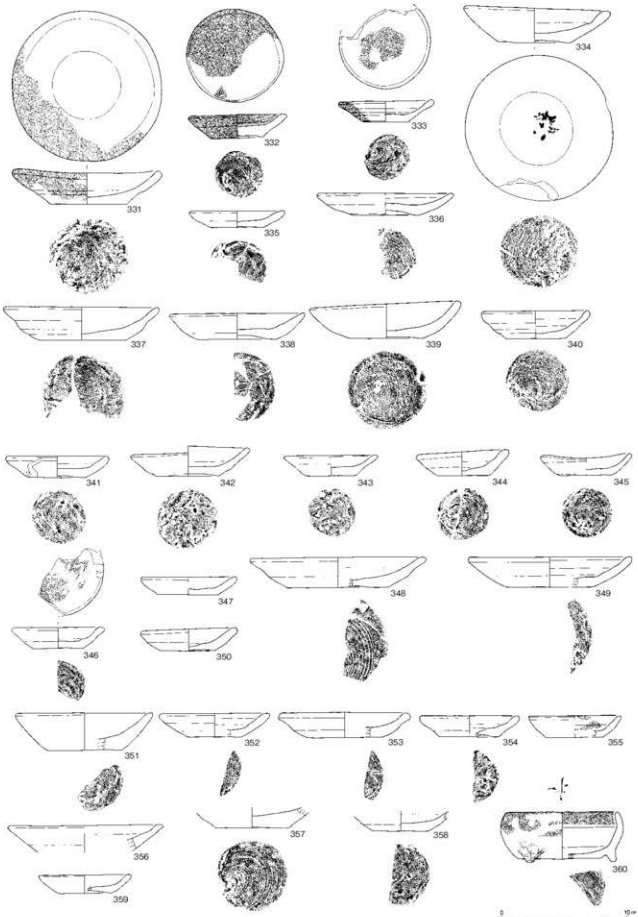
第 51　銭拓本図 5



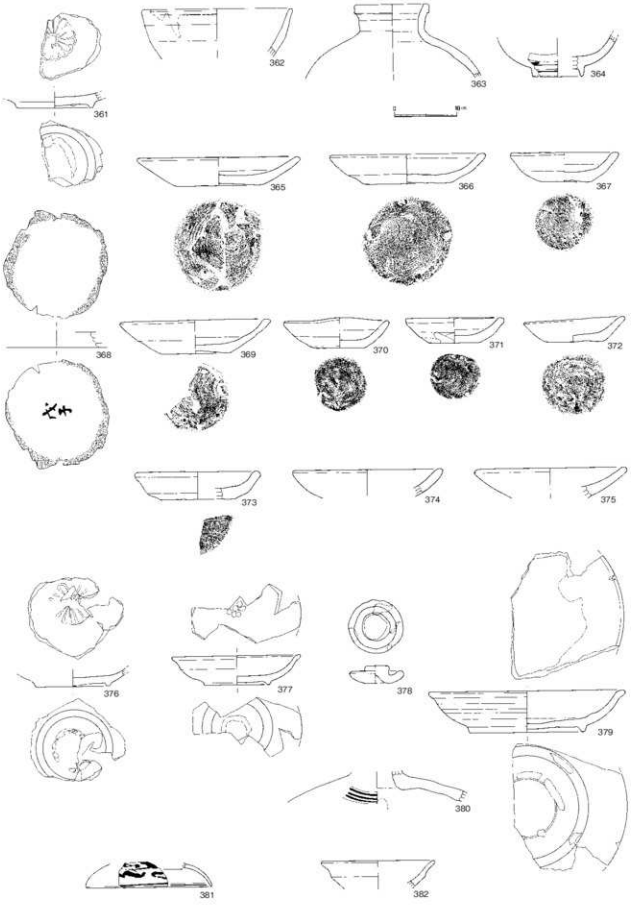
第 52 図　出土遺物（東北下層）実測図



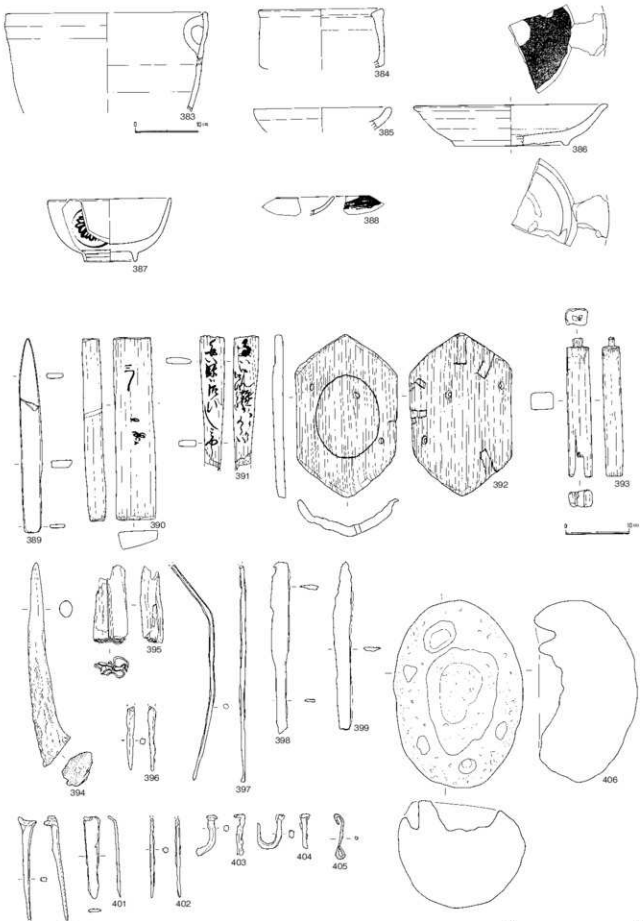
第 53 図　出土遺物（東北下層・上層）実測図



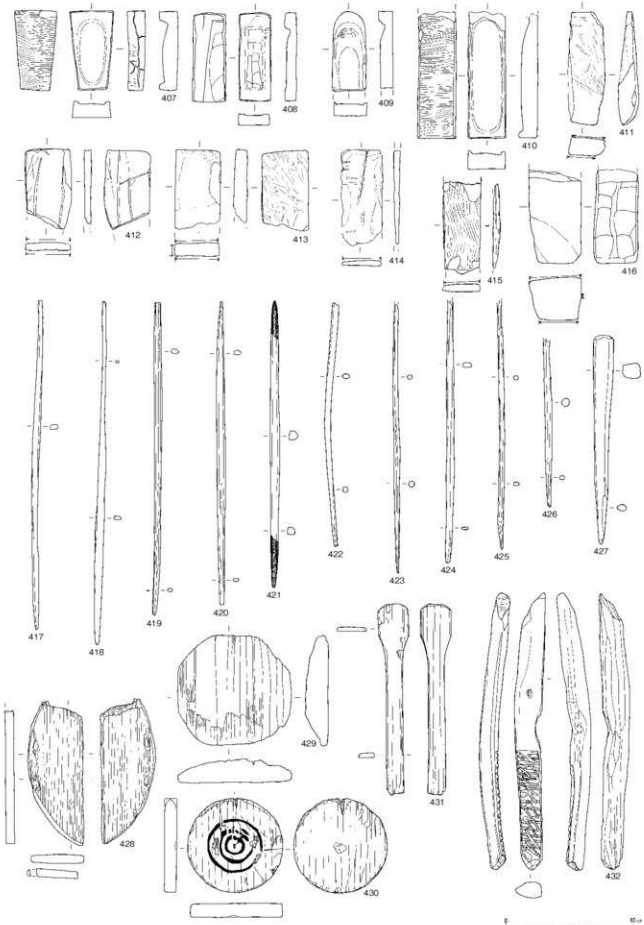
第 54 図　出土遺物（東北中層）実測図



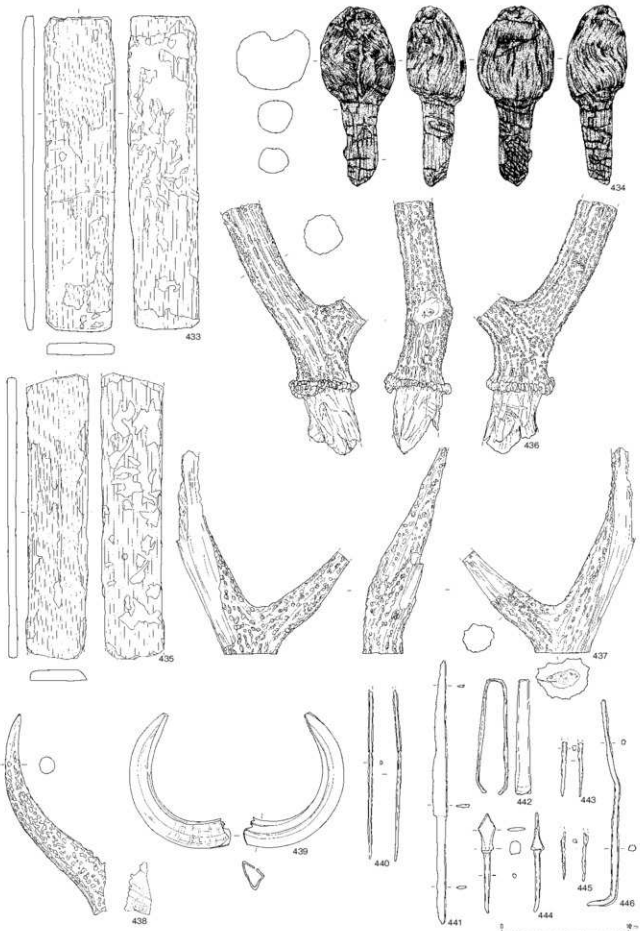
第 55 図　出土遺物（東北中層・上層）実測図



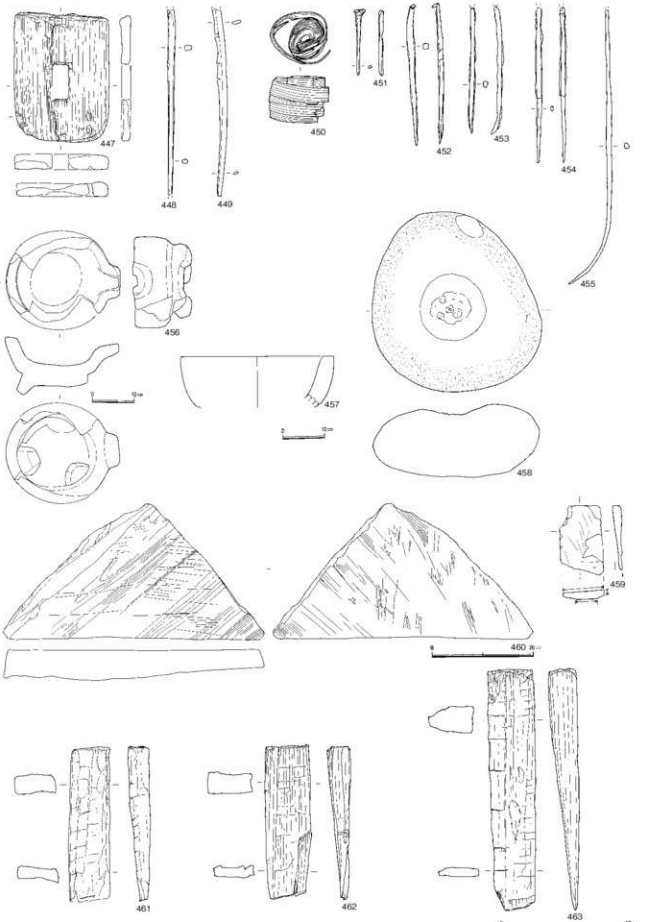
第 56 図　出土遺物（東北下層）実測図



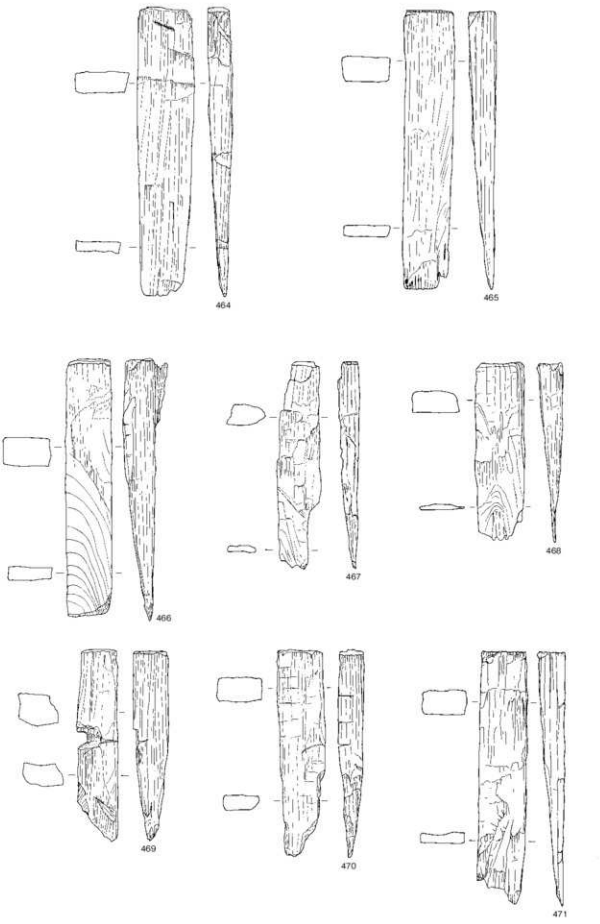
第 57 図　出土遺物（東北中層）実測図



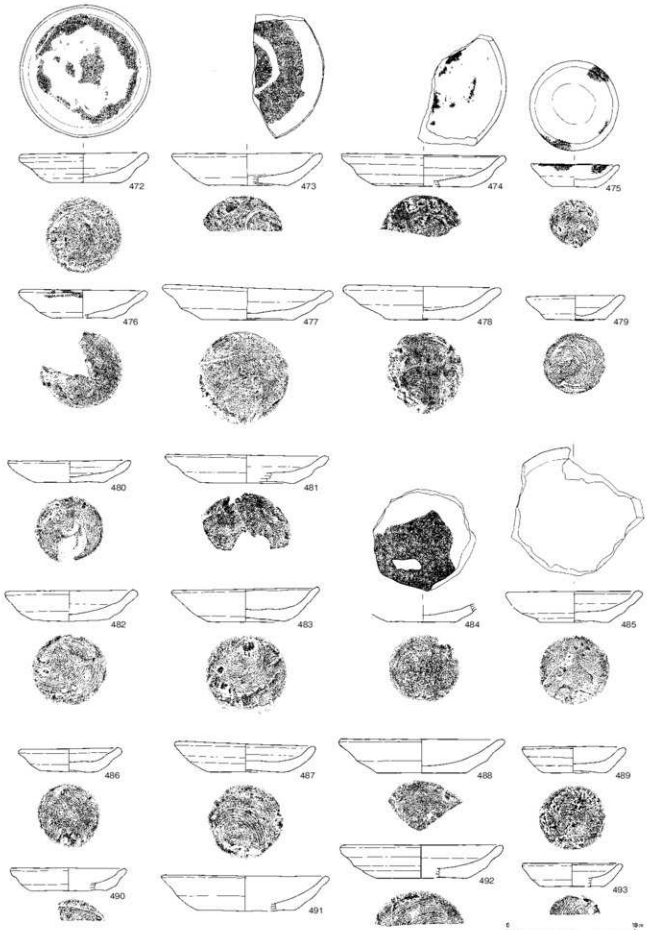
第 58 図　出土遺物（東北中層）実測図



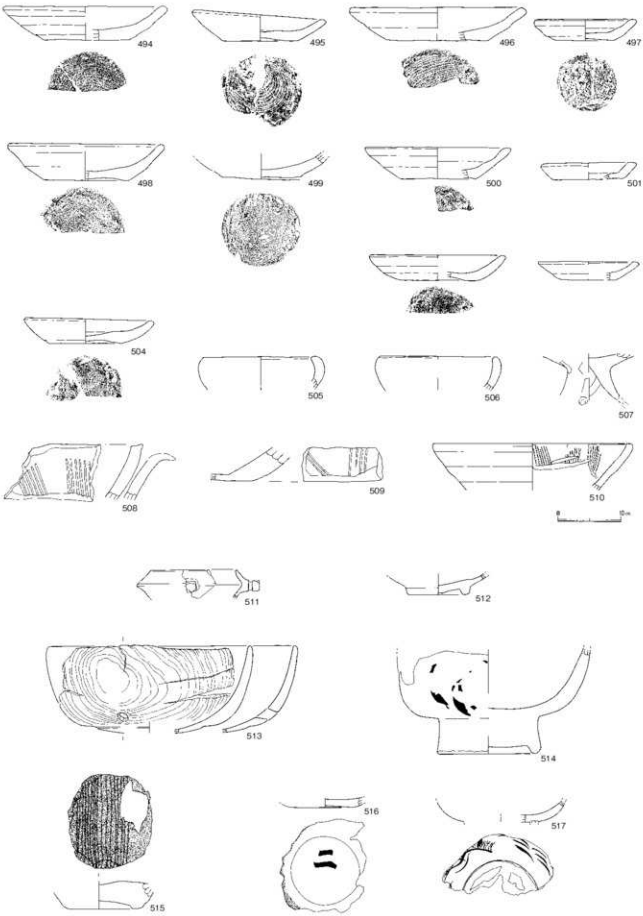
第 59 図　出土遺物（東北上層）実測図



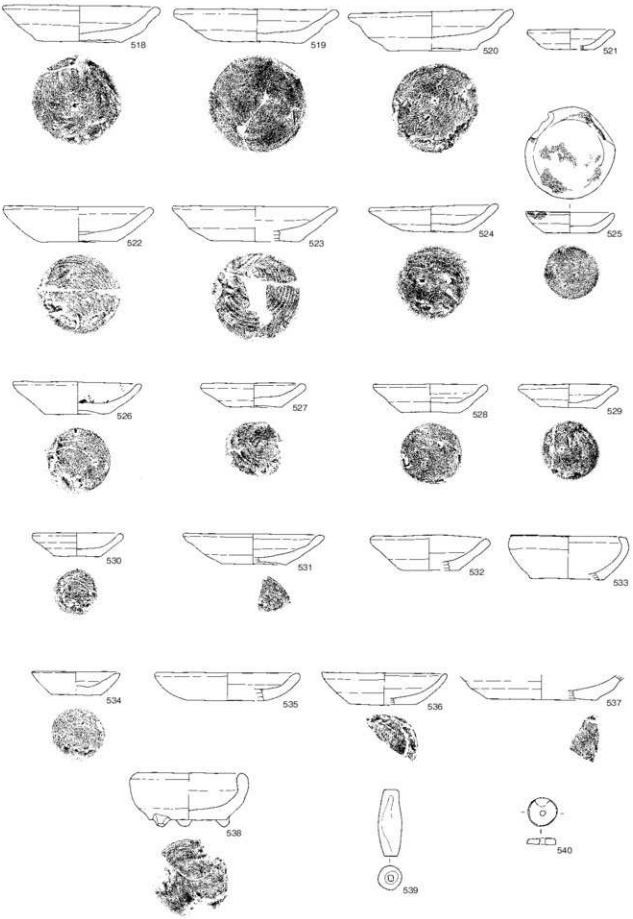
第 60 図　出土遺物（東北）実測図



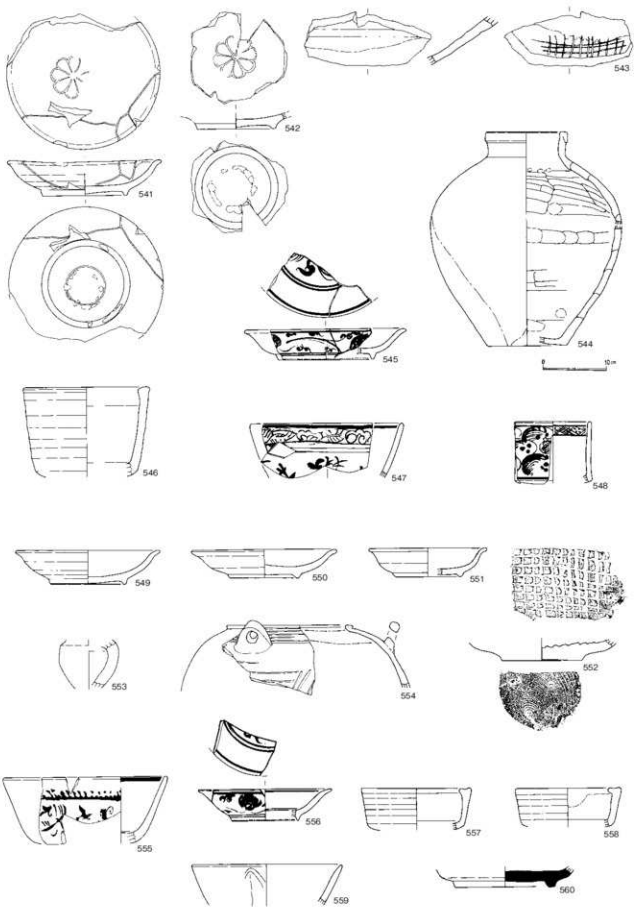
第 61 図　出土遺物（東南下層）実測図



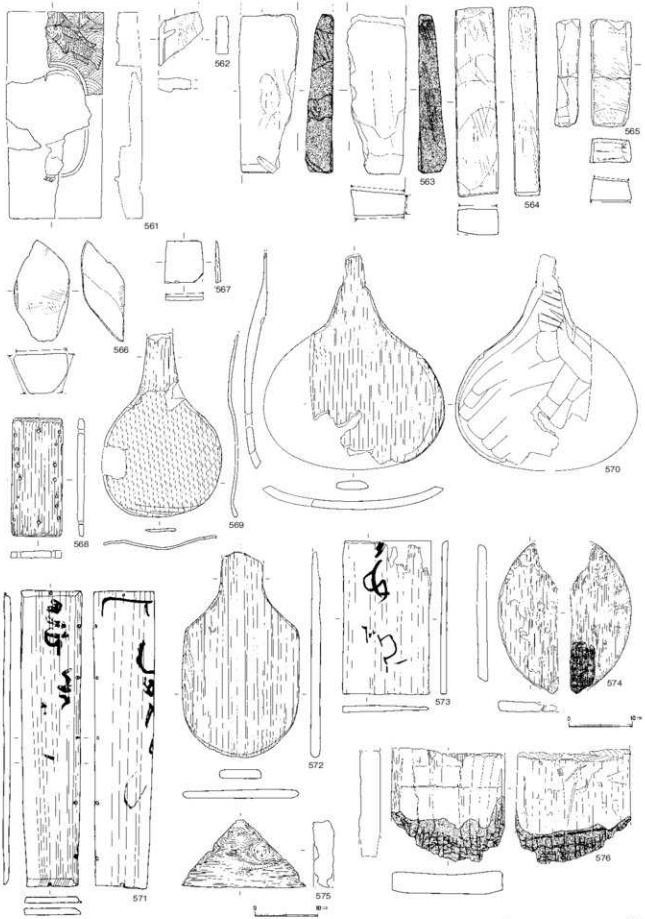
第 62 図　出土遺物（東南下層）実測図



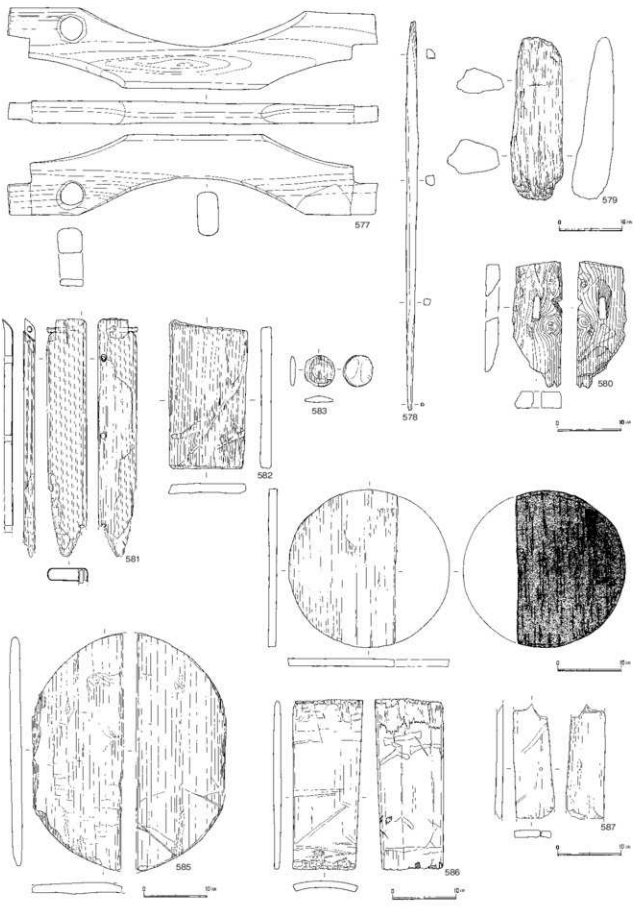
第 63 図　出土遺物（東南中層上位）



第 64 図　出土遺物（東南中層中位・下層）実測図

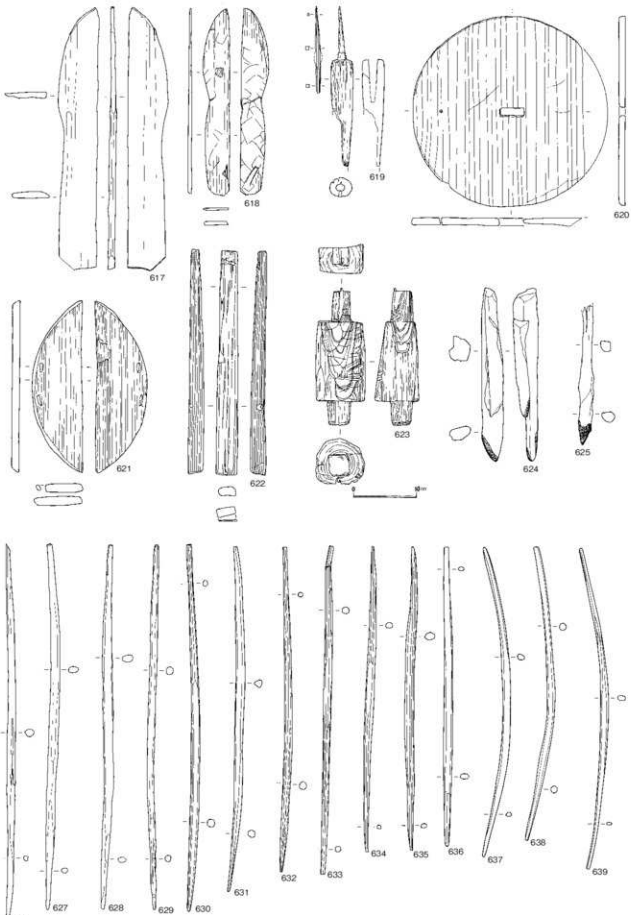


第 65 図　出土遺物（東南下層）実測図

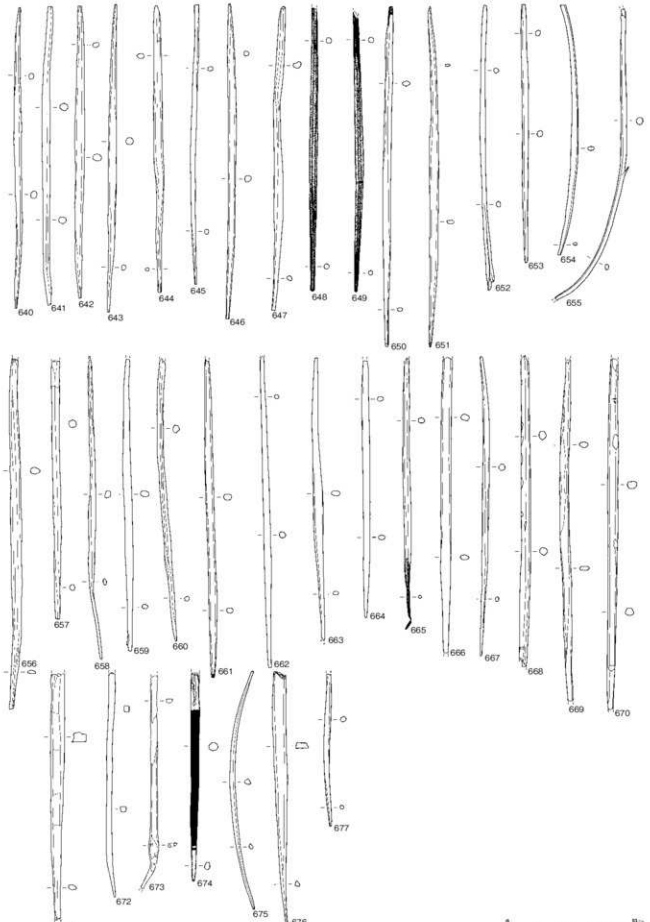


第66図　出土遺物（東南下層）実測図

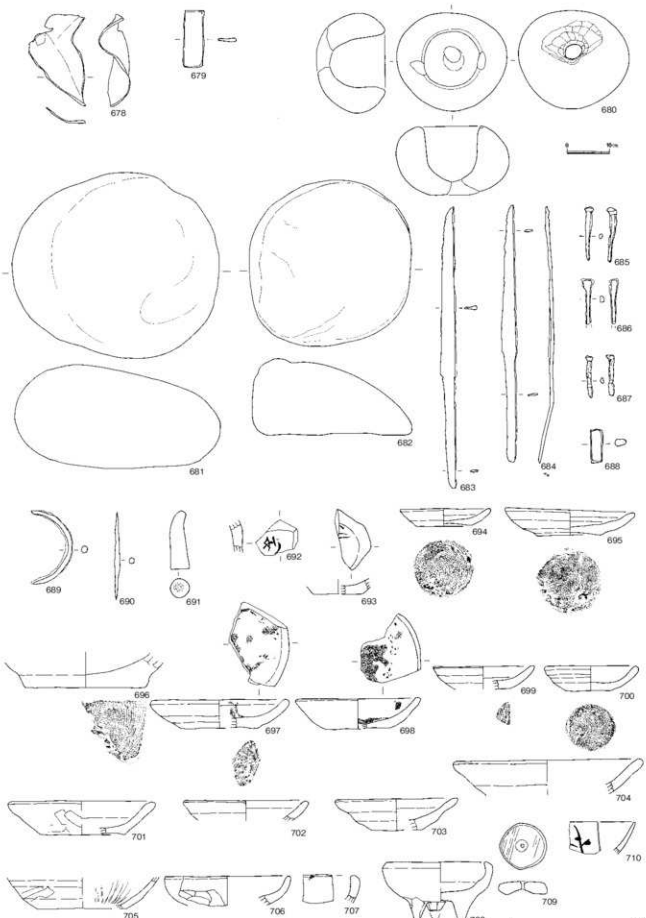
第67図　出土遺物（東南下層・中層）実測図



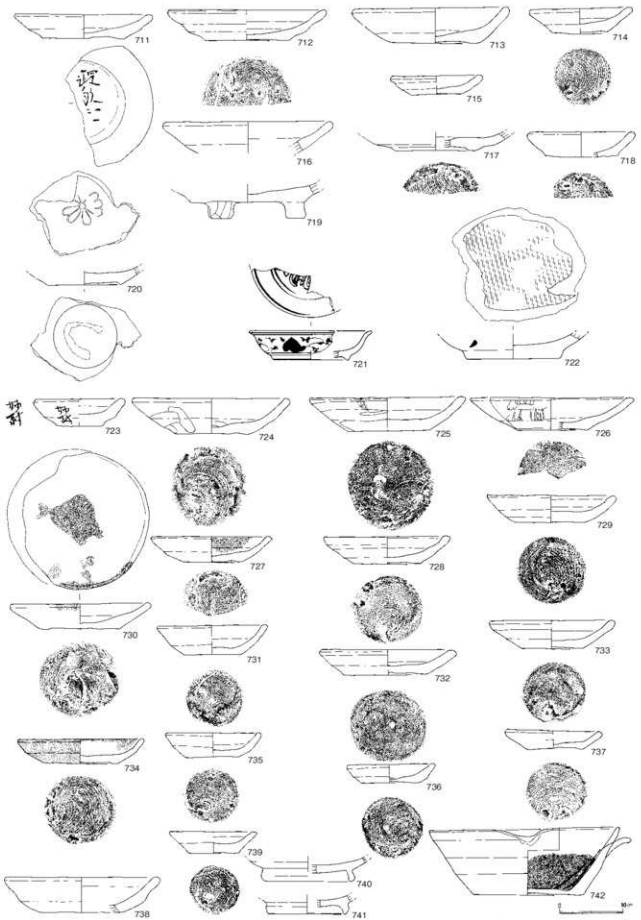
第 68 図　出土遺物（東南中層）実測図



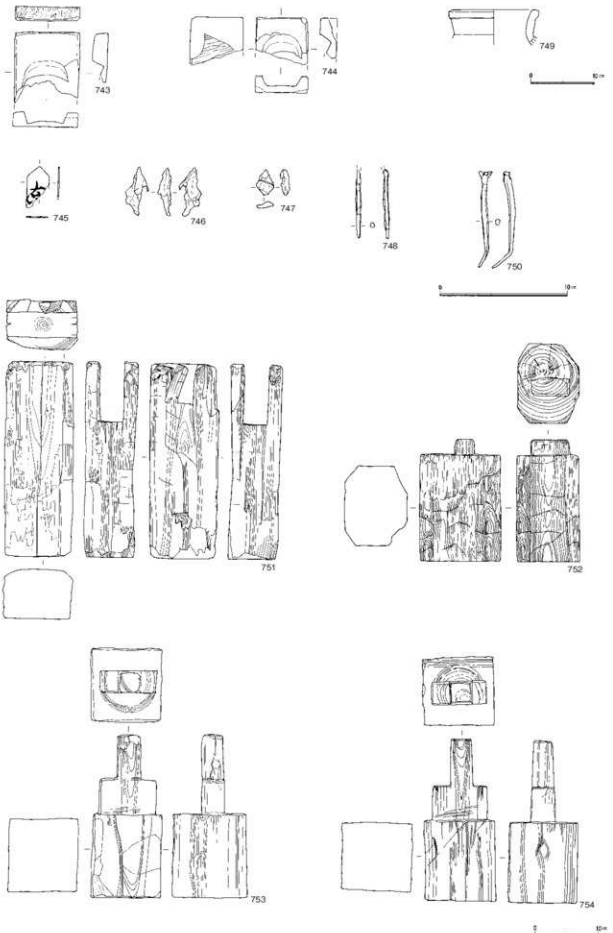
第 69 図　出土遺物（東南中層）実測図



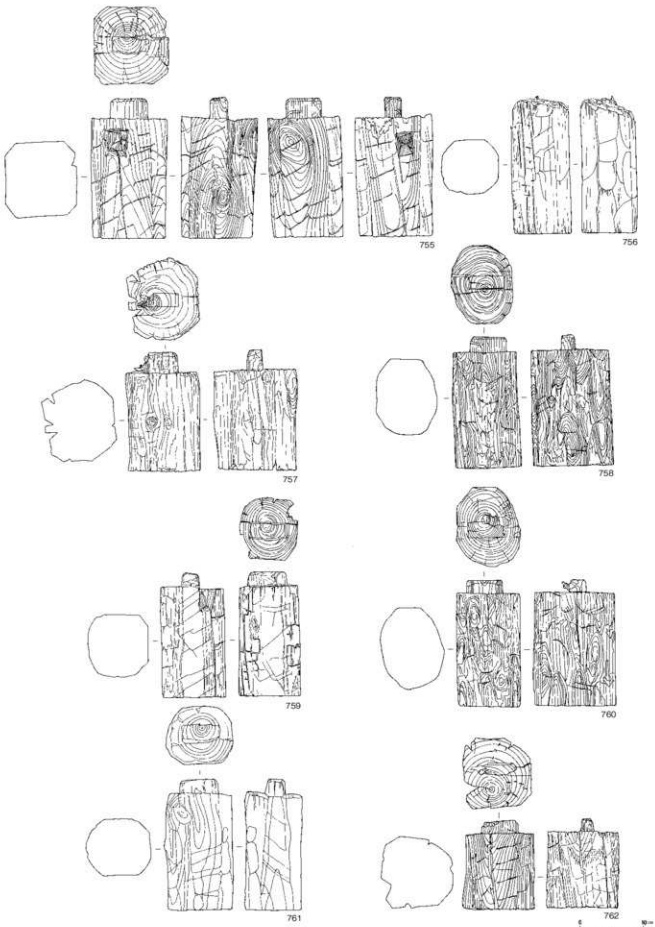
第70図　出土遺物（東南中層）実測図



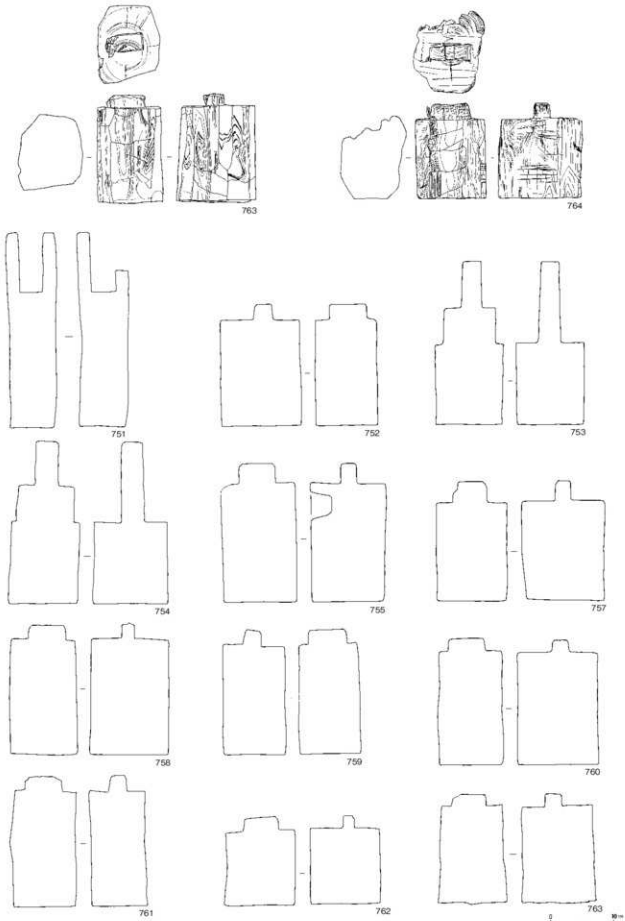
第 71 図　出土遺物（主屋下層・上層）実測図



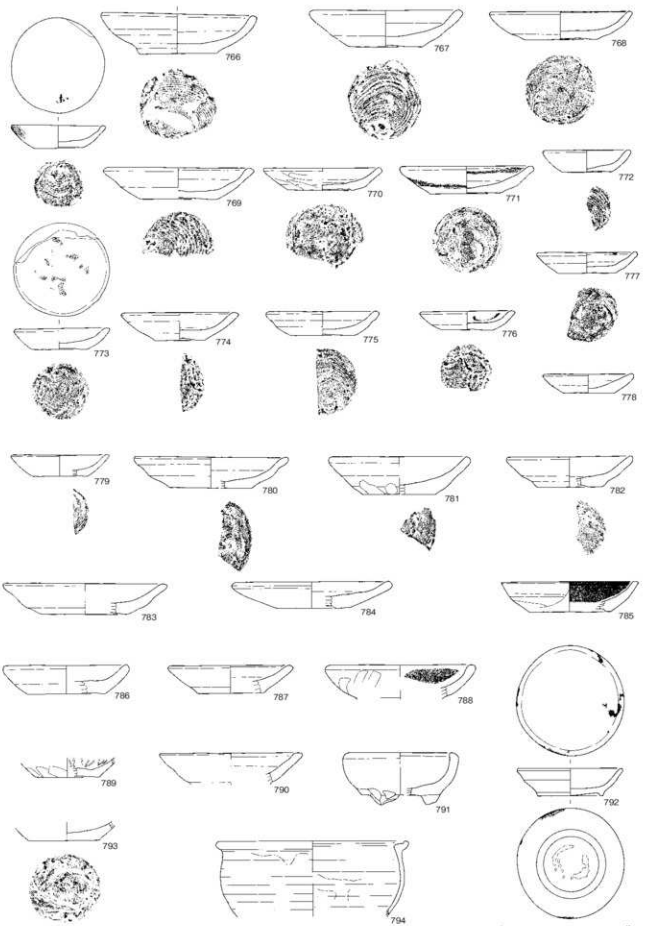
第 72 図　出土遺物（主屋下層・上層）実測図



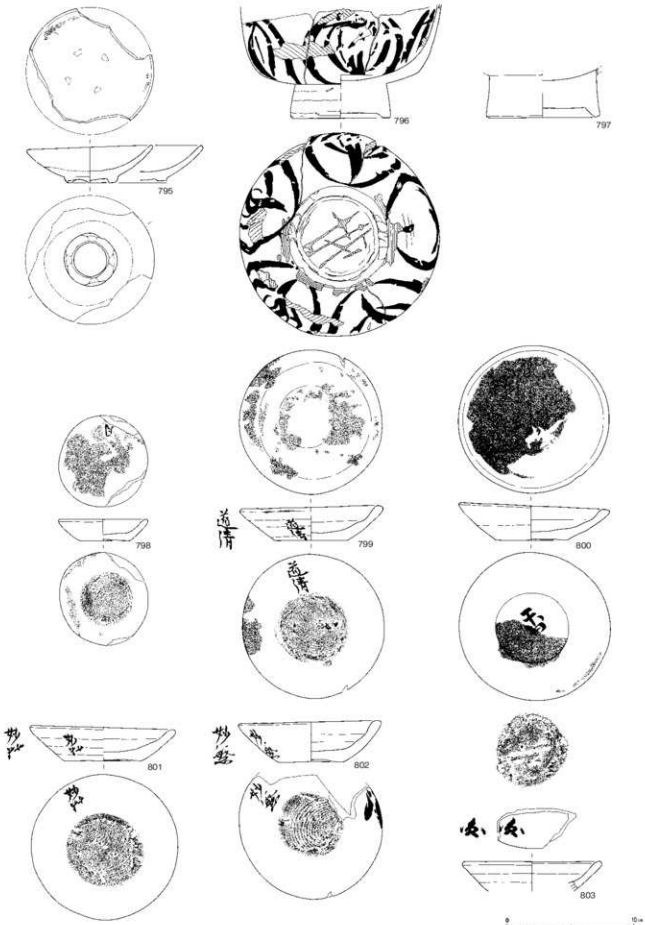
第 73 図　出土遺物（主屋上層）実測図



第 74 図　出土遺物（主屋一括・東断面）実測図

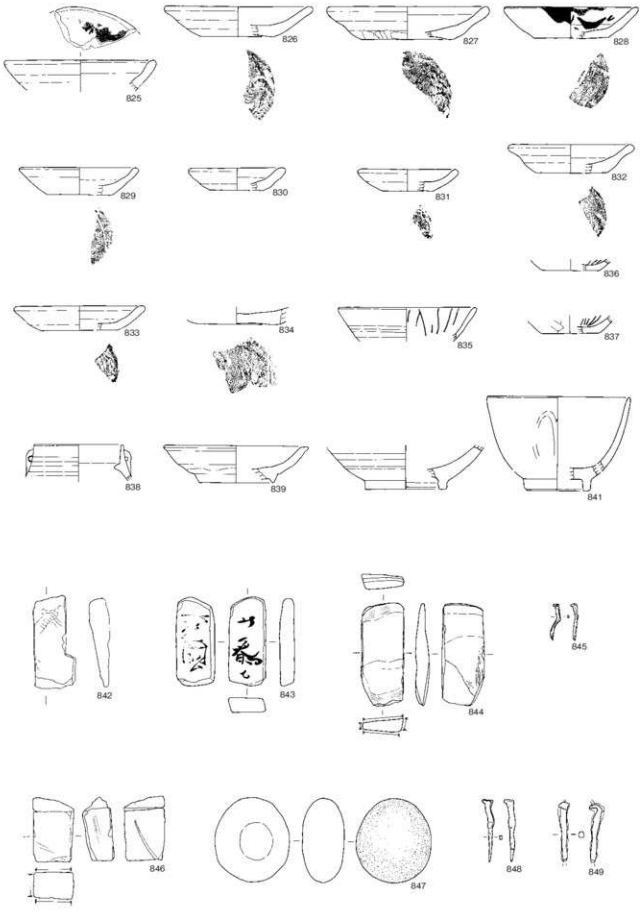


第 75 図　出土遺物（西地区下層）実測図

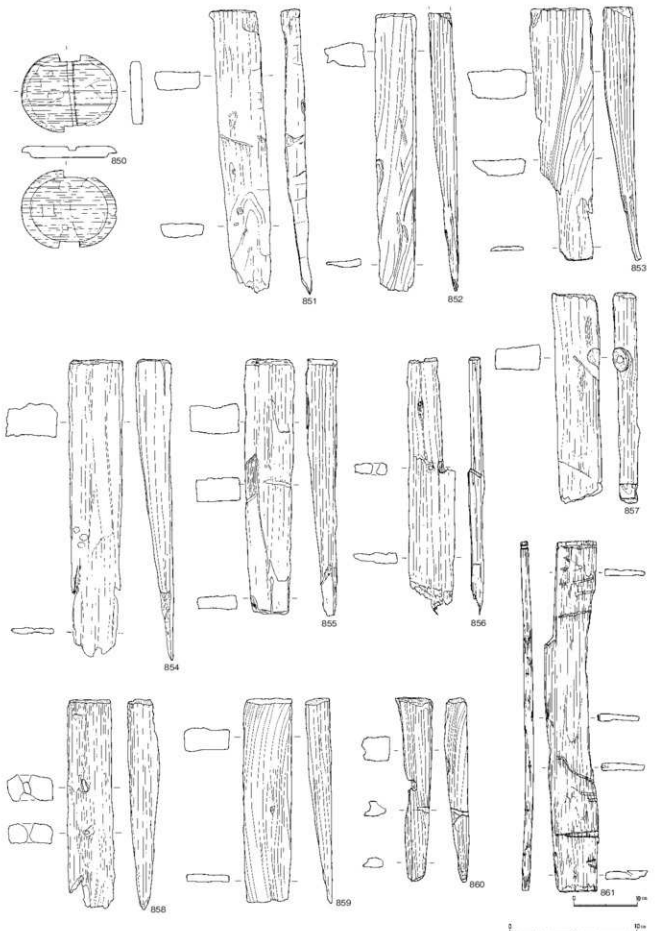


第 76 図　出土遺物（西地区下層・中層）実測図

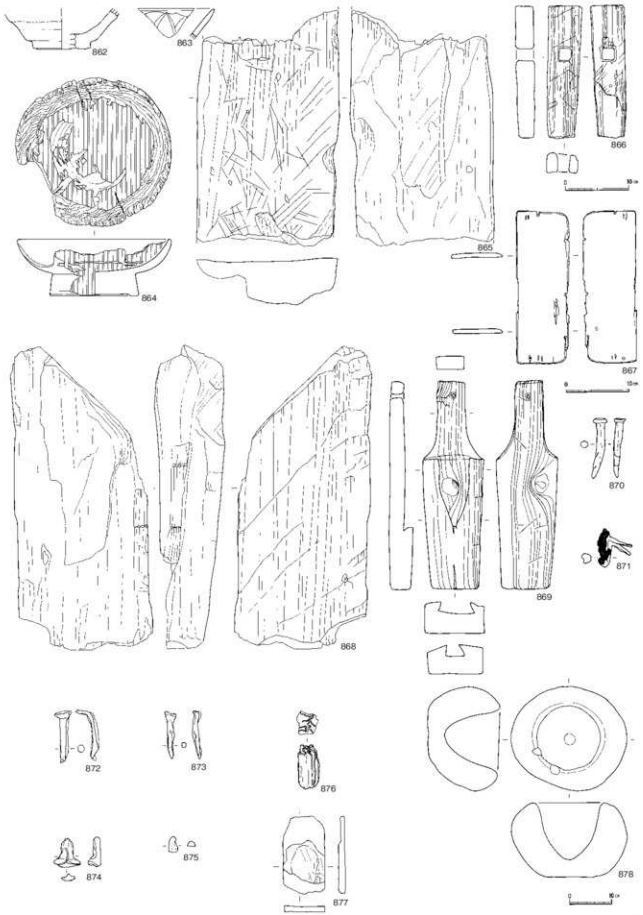
第 77 図　出土遺物（西地区中層）実測図



第 78 図　出土遺物（西地区中層）実測図



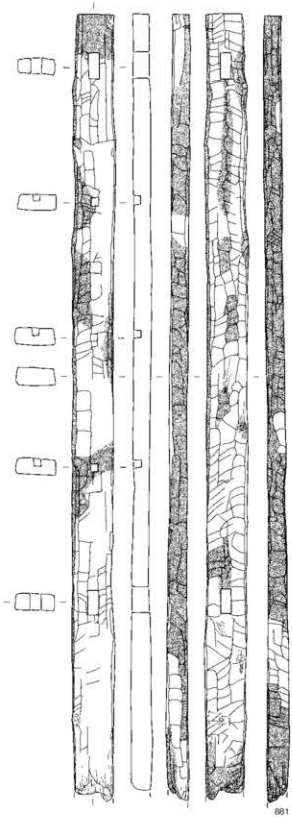
第 79 図　出土遺物（西地区）実測図

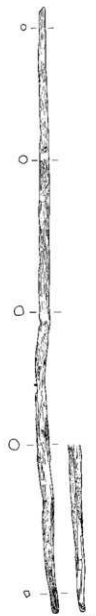


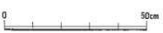
第 80 図　出土遺物（東地区）実測図

第 81 図　建築関連木製品（東北中層）実測図

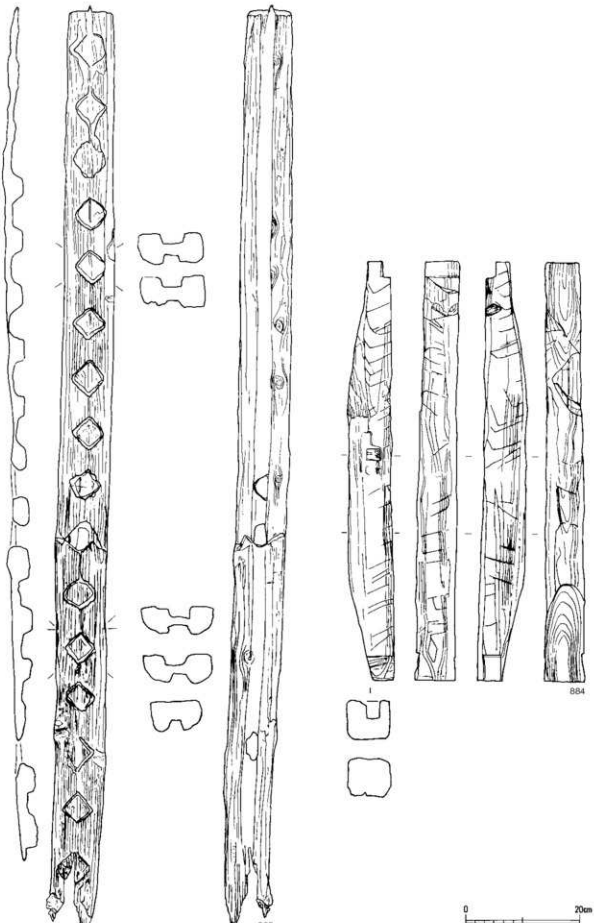
第 82 図　建築関連木製品（主屋連絡口）実測図



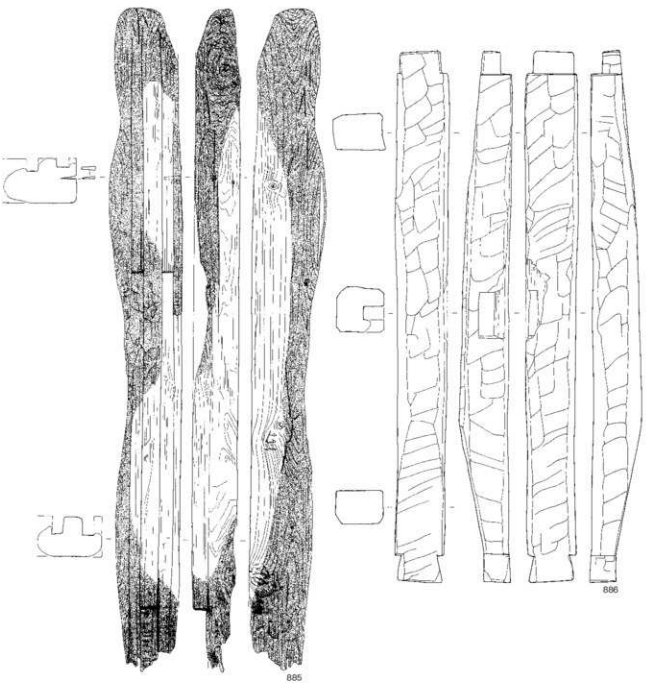




第 83 図

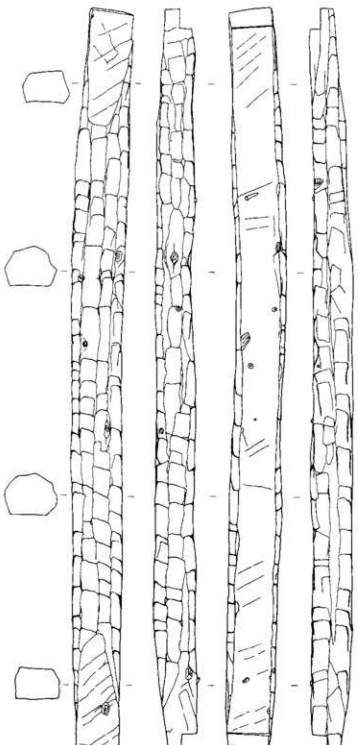


第 84 図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図



第 85 図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図

第 86 図　建築関連木製品（主屋・南西隅遺構）実測図

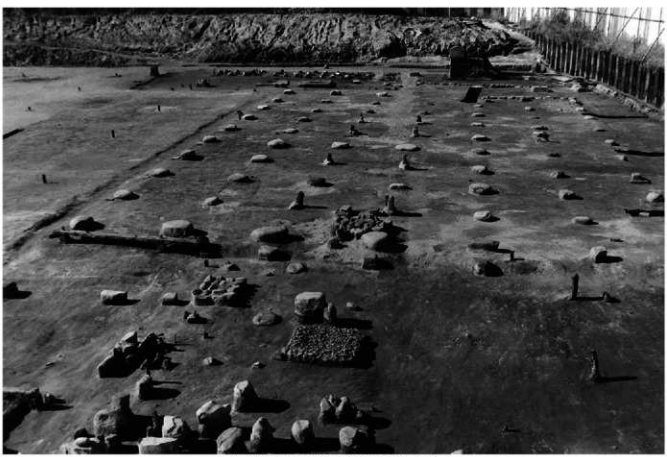


第 87 図　建築関連木製品（南西隅遺構）実測図

小井川(3年次)第Ⅲ期全景

小井川(3年次)第Ⅲ期全景(西方より)

小井川(3年次)第Ⅱ期全景とⅢ期壕



小井川(3年次)第Ⅲ期全景(東方より)

第Ⅱ期　1号溝

第Ⅱ期　1号礎石建物(西方より)

第Ⅱ期　1号礎石建物(北方より)

第Ⅱ期　1号礎石建物(南方より)

第Ⅲ期　西附属屋(下層)竹柵検出状況

(手前)・東北附属屋・(右上)1号礎石建物

東附属屋

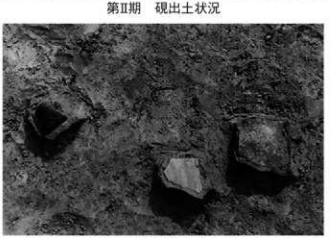
図版4

1号礎石建物・遺物出土状況

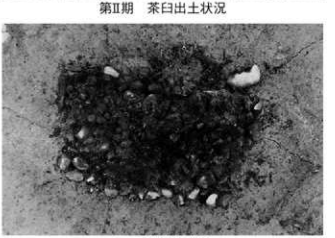
第Ⅱ期　茶臼出土状況

第Ⅱ期　硯出土状況

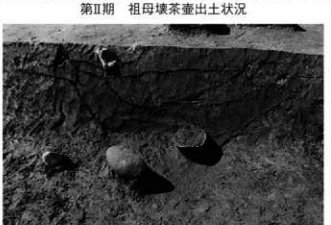
第Ⅱ期　茶臼出土状況



第Ⅱ期　祖母壊茶壷出土状況



東4号墓検出状況



東1号墓検出状況

第Ⅱ期　五輪塔・部材出土状況

第Ⅲ期　遺構検出作業風景

第Ⅲ期　建物群検出状況

第Ⅲ期　雨落溝,礎石列

第Ⅲ期　主屋検出状況（東部より）

雨落ち溝断面

第Ⅲ期　西附属屋

西附属屋・中央礎石（五輪塔部材）

図版6

第Ⅲ期　池状遺構

池状遺構西端と五輪塔部材出土状況

池状遺構と東側壕

東側壕と五輪塔部材出土状況

第Ⅲ期　西側壕（南方より）

西側壕（北方より）

東地区　遺物出土状況

東地区　遺物出土状況

池状遺構西側・橋

池状遺構

同上

池状遺構・五輪塔・部材出土状況

池南端・樋状遺構出土状況

樋状遺構（西上より）

図版8

第Ⅲ期　主屋基壇断面（南北トレンチ）

第Ⅲ期　主屋基壇断面

主屋・礎石断面

主屋・床束出土状況

主屋・床束出土状況

建築部材出土状況

主屋・東部石組

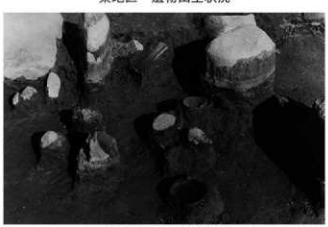
主屋・縁束出土状況

東北部　遺物出土状況

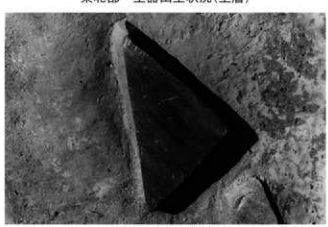
東地区　五輪部材出土状況

東地区　遺物出土状況

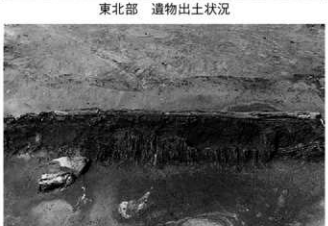
東北部　土器出土状況（上層）



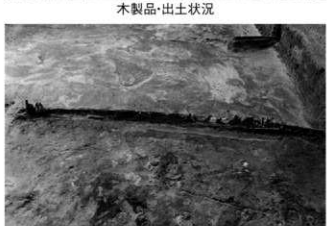
東北部　遺物出土状況



木製品・出土状況

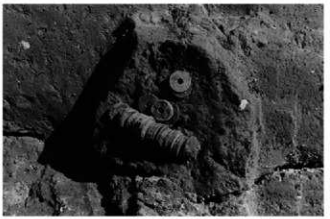


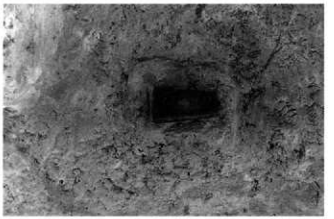
東附属屋・関連遺構



東附属屋・関連遺構

図版10


銭・出土状況

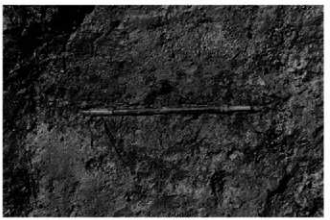

硯・出土状況

箸出土状況

イノシシ牙・出土状況

刀子・出土状況

毛抜き・出土状況


箸・出土状況

刀子・土器出土状況

木製品･出土状況

東附属屋関連遺構

木器･出土状況

切匙･出土状況

錐･出土状況

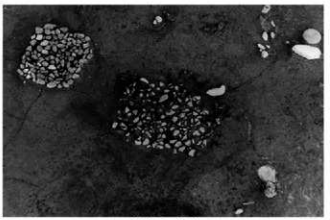
網代･出土状況

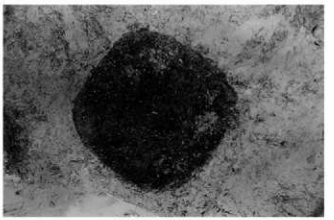
文字経石? 出土状況

東地区　南端･遺物出土状況

東2号墓・完堀状況

東2号墓・検出状況


東地区・墓群


東3号墓・検出状況

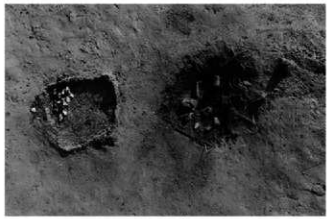
東3号墓・完堀状況

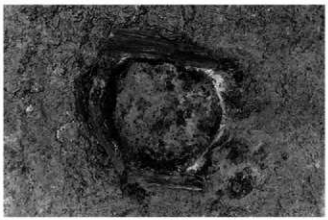
東4号墓・完堀状況

東5号墓・完堀状況

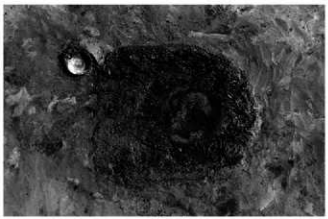
1号炉　出土状況

西4号 墓


西4号 墓


西3号 墓

西3号 墓(底部)


西1号 墓

西1号 墓

西2号 墓

西2号 墓(底部)

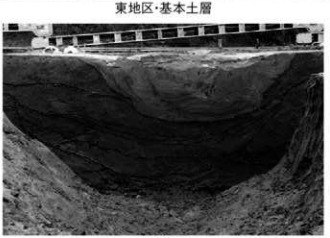
図版14

西南土層

東地区・南端基本土層

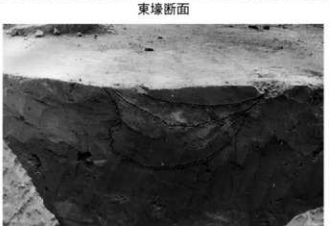
東地区・基本土層

東壕断面



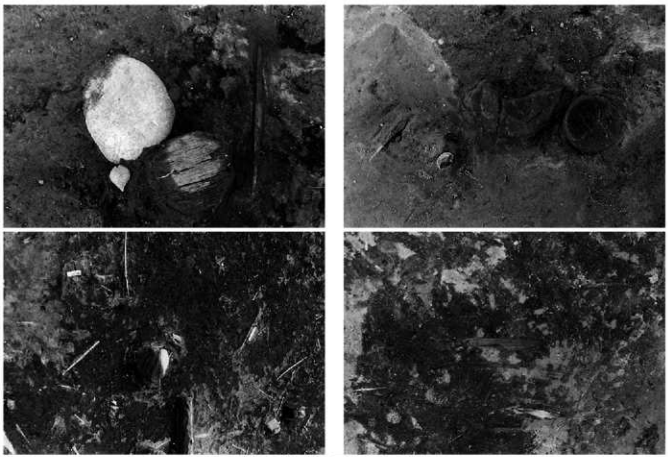
東壕断面

西壕断面

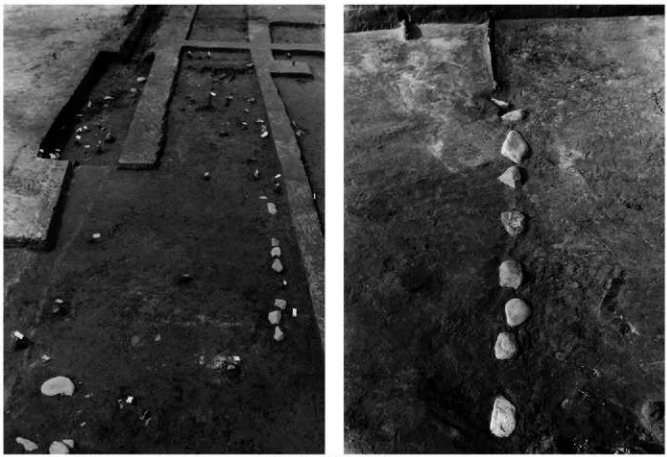


1号溝断面

西壕・下部 土師器 出土状況



東地区・第Ⅲ期上面 遺物出土状況



第Ⅲ期　石列出土状況

図版16

001

002

005

003

009

010

006

007

014

出土遺物(石製品): 各数字は、遺物番号を示す。

011

012

013

015

456

878

016

018

019

021

023

024

026

027

出土遺物(石製品)

028

029

032

033

031

037

038

040

043

044

047

048

056

058

083

084

089

094

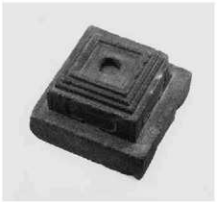
096

出土遺物(石製品)

108

109

110



111

112

113

114

117

119

120

121

出土遺物(石製品)

290

291

292

293

294

295

296

299

305

306

326

331

332

333

337

339

340

341

342

343

344

345

367

370

出土遺物（土器）

334

322

323

324

325

327

328

329

371

372

373

472

475

476

477

出土遺物(土器)

478

479

482

483

487

489

497

518

519

520

522

524

525

526

528

529

534

539

538

712

719

724

725

727

出土遺物（土器）

728

729

730

731

732

733

734

735

736

737

739

767

723

765

791

798

799

800

出土遺物(土器)

770

771

807

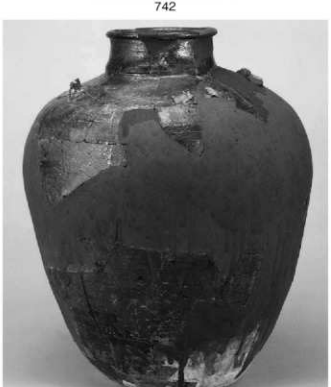
801

802

804

742

317


316

544

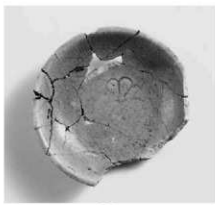
出土遺物(土器・陶磁器)

312

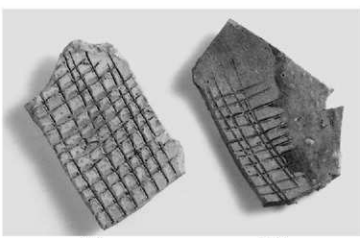
315

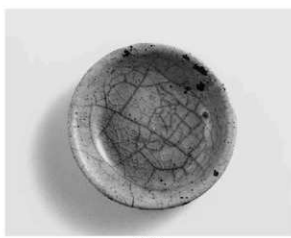
378

380


541

546


552 543


792

795

1号礎石建物・一括

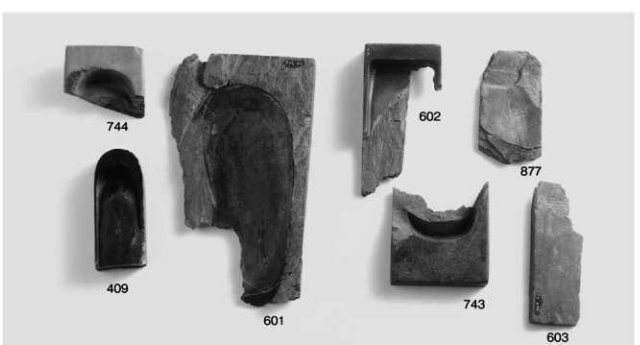
出土遺物(陶磁器)

561

407

408

410

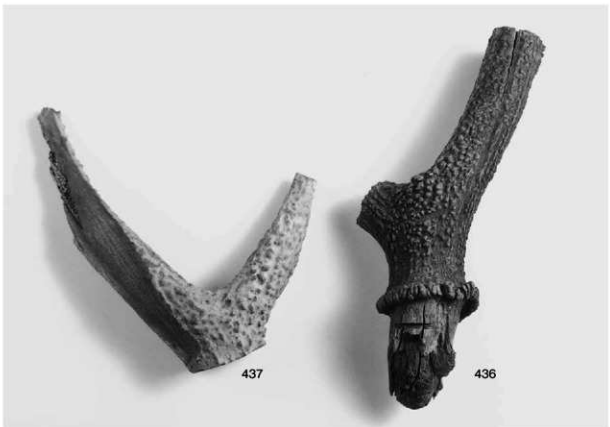


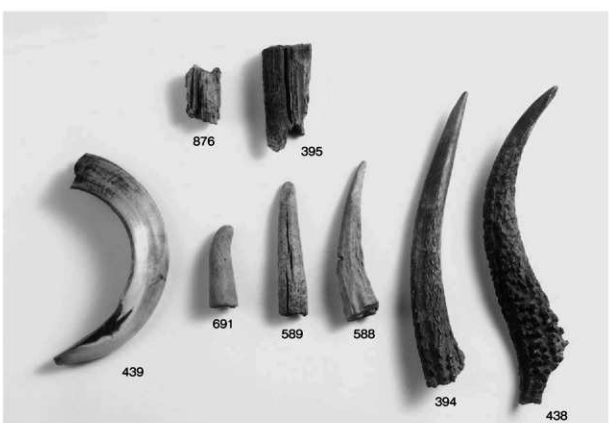
出土遺物(硯)

東北　砥石集合

東南　砥石集合

出土遺物(砥石)





出土遺物（獣角等）

817

796

514

569

570

572

392

649

674

621

428

850

867

580

429

434

出土遺物(木制品)

432

617

618

393

575

751

759

756

761

752

760

764

709

東一括

773

708

出土遺物(木制品)

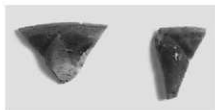
819

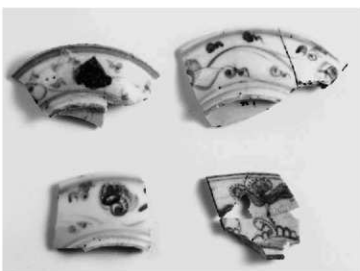
307

495

486

809


南西壕底部


東造成地区

西一括

815

東造成地区一括

出土遺物(陶磁器)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	こいかわいせき
書　　名	小井川遺跡Ⅲ
副 書 名	新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査報告書
巻　　次	（全1冊）
シ リ ー ズ 名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第255集
著 者 名	小林広和・北川　洋
編 集 機 関	山梨県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒400-1508 山梨県甲府市下曽根町923 TEL055-266-3016
発 行 者	山梨県教育委員会・山梨県土木部
発 行 日	2008年3月17日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（新）	東経（新）	調査期間	調査面積	調査原因
こいかわいせき 小井川遺跡	やまなしけん 山梨県 ちゅうおうし 中央市 ふせちない 布施地内	19385		35° 36′ 6″	138° 31′ 42″	2005年6月2日～ 2006年3月16日		新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小井川遺跡	荘園	鎌倉時代		五輪石塔・部材	
	寺院	室町時代～ 戦国時代	礎石建物、礎石建物を中心とした附属屋および濠	石塔類、硯、建築部材、木製品、漆器、陶磁器、土器	

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書　第 255 集

2008年3月11日印刷
2008年3月17日発行

小井川遺跡Ⅲ

― 新山梨環状道路建設工事に伴う発掘調査報告書 ―

編　集　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055-266-3016
発　行　山梨県教育委員会
山梨県土木部
印　刷　株式会社アド井上